



Solaris 8 のインストール (上級編)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part Number 816-3472-11
2002 年 3 月

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョーベイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2JumpStart、Solaris Web Start、Power Management は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 8 Advanced Installation Guide

Part No: 816-2411-10

Revision A



目次

- はじめに 15
- 1. **Solaris** のインストールおよびアップグレードの計画 21
- 2. **Solaris** のインストールおよびアップグレードの計画の概要 23
 - 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード 24
 - 初期インストールかアップグレードか 25
 - 初期インストール 25
 - アップグレード 26
 - システム要件 28
 - メモリー要件 28
 - Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件 28
 - ネットワークからインストールするか DVD または CD を使ってインストールするか 30
 - DVD メディアの使用 31
 - IA: Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) と PXE へのアクセス 31
- 3. **Solaris** インストール方法の選択 33
 - Solaris Web Start 33
 - Solaris 8 対話式インストールプログラム 34
 - カスタム JumpStart 35

	フラッシュインストール機能	35
	SPARC: ファクトリ JumpStart	36
4.	ディスク容量の割り当てに関する指針	37
	ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項	37
	ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量	38
5.	Solaris のインストールおよびアップグレードの準備	41
6.	インストールやアップグレードの前に収集すべき情報	43
	インストール用のチェックリスト	43
	インストール用のワークシート	44
	アップグレード用のチェックリスト	50
	アップグレード用のワークシート	51
7.	システム構成情報の事前設定	57
	システム構成情報を事前設定することの利点	57
	システム構成情報の事前設定方法	58
	sysidcfg ファイルによる事前設定	60
	sysidcfg ファイルの構文規則	60
	sysidcfg ファイルキーワード	61
	▼ sysidcfg 構成ファイルを作成する方法	66
	ネームサービスによる事前設定	67
	▼ NIS を使ってロケールを事前設定する方法	68
	▼ NIS+ を使ってロケールを事前設定する方法	70
	SPARC: 電源管理情報の事前設定	71
8.	Solaris オペレーティング環境のアップグレード	73
	アップグレード	73
	カスタム JumpStart によるアップグレード	75
	ディスク容量の再配置を使用するアップグレード	75
	アップグレード前のシステムのバックアップ	76
	Solaris 8 Update リリースへのアップグレード	76

- ▼ analyze_patches スクリプトを実行する方法 77
- ▼ パッチアナライザの出力の見方 78
- 9. ネットワーク上でインストールする準備 81
- 10. ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備 (概要) 83
 - ネットワークインストールの計画 83
 - ネットワークインストールに必要なサーバー 83
 - DHCP によるネットワークインストールパラメータの指定 86
- 11. ネットワークで **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用) 89
 - 作業マップ: ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用) 89
 - DVD メディアによるインストールサーバーの作成 90
 - ▼ SPARC または IA DVD メディアを使用して SPARC インストールサーバーを作成する方法 91
 - ▼ SPARC または IA DVD メディアを使用して IA インストールサーバーを作成する方法 94
 - DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成 96
 - ▼ DVD イメージを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する方法 97
 - ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定 99
 - ▼ ネットワーク上でインストールするシステムを設定する方法 (DVD メディアの add_install_client を使用) 99
- 12. ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールするための準備 (CD メディアを使用) 105
 - 作業マップ: ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備 105
 - CD メディアによる SPARC インストールサーバーの作成 106
 - ▼ CD メディアを使用してインストールサーバーを作成する方法 107
 - CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する 111
 - ▼ CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する方法 112
 - ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定 115
 - ▼ add_install_client を使用してネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する 116

- 13. ネットワークを利用して Solaris ソフトウェアをインストールするための準備 121
- 14. Solaris Web Start の使用 123
 - Solaris Web Start の実行方法 123
 - SPARC: Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード 124
 - SPARC: 作業マップ: Solaris Web Start インストールの実行 124
 - ▼ SPARC: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法 126
 - IA: Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード 128
 - IA: 作業マップ: Solaris Web Start インストールの実行 129
 - ▼ IA: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法 130
 - Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード後に必要な作業 137
 - ▼ アップグレード後にローカル変更を復元する方法 137
 - ▼ Kiosk の保存およびアクセスする方法 138
- 15. Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用 139
 - Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行方法 139
 - SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード 140
 - SPARC: 作業マップ: 対話式インストールの実行 140
 - ▼ SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法 141
 - IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード 143
 - IA: 作業マップ: 対話式インストールの実行 143
 - ▼ IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法 144
 - Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業 149
 - ▼ アップグレード後にローカル変更を復元する方法 150
- 16. フラッシュインストール機能 151
- 17. フラッシュの概要と計画 153

フラッシュの概要	153
フラッシュインストールの計画	154
マスターシステムへのインストールの設計	154
フラッシュアーカイブの作成の計画	157
フラッシュアーカイブのインストールの計画	158
18. フラッシュアーカイブの作成	161
作業マップ: フラッシュアーカイブを作成する作業マップ	161
フラッシュアーカイブ作成のための作業	162
▼ マスターシステムにインストールする方法	162
▼ フラッシュアーカイブを作成する方法	162
19. フラッシュアーカイブのインストール	165
Solaris Web Start によるフラッシュアーカイブのインストール	165
▼ Solaris Web Start を使用してフラッシュアーカイブをインストールする方法	166
Solaris 8 対話式インストールプログラムによるフラッシュアーカイブのインストール	167
▼ Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してフラッシュアーカイブをインストールする方法	167
カスタム JumpStart インストールによるフラッシュアーカイブのインストール	169
▼ カスタム JumpStart インストールを使用してフラッシュアーカイブをインストールする方法	169
フラッシュのカスタム JumpStart プログラムファイルの例	170
20. フラッシュに関するリファレンス情報	173
フラッシュアーカイブのセクション	173
フラッシュのキーワード	174
一般的なキーワード	174
identification セクションのキーワード	175
フラッシュのコマンド	176
flarcreate	176
flar	179

- 21. カスタム **JumpStart** インストール 183
- 22. カスタム **JumpStart** の概要 185
 - カスタム **JumpStart** とは 185
 - JumpStart** プログラムが Solaris ソフトウェアをインストールする方法 187
- 23. カスタム **JumpStart** インストールの準備 191
 - 作業マップ: カスタム **JumpStart** インストールの準備 191
 - ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成 193
 - ▼ **JumpStart** ディレクトリをサーバー上に作成する方法 194
 - ▼ すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法 196
 - スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成 198
 - ▼ SPARC: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法 199
 - ▼ IA: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法 202
 - rules ファイルの作成 205
 - rules ファイルの構文 206
 - ▼ rules ファイルを作成する方法 206
 - rules ファイルの例 208
 - プロファイルの作成 210
 - プロファイルの構文 210
 - ▼ プロファイルを作成する方法 211
 - プロファイルの例 211
 - プロファイルのテスト 215
 - ▼ 一時的な Solaris 8 環境を作成してプロファイル进行测试する方法 215
 - ▼ プロファイル进行测试する方法 216
 - プロファイルテストの例 219
 - rules ファイルの妥当性を検査する 220
 - ▼ rules ファイルの妥当性を検査する方法 221
- 24. カスタム **JumpStart** オプション機能の使用 223
 - begin スクリプトの作成 223

	begin スクリプトに関する注意事項	224
	begin スクリプトによる動的プロファイルの作成	224
	finish スクリプトの作成	225
	finish スクリプトに関する注意事項	226
▼	finish スクリプトでファイルを追加する方法	226
	finish スクリプトによるパッケージとパッチの追加	227
	finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ	228
	finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定	229
	finish スクリプトを使用して Web Start インストールプログラムでソフトウェアをインストールする	230
	圧縮された構成ファイルの作成	231
▼	圧縮された構成ファイルを作成する方法	231
	圧縮された構成ファイルの例	232
	ディスク構成ファイルの作成	232
▼	SPARC: ディスク構成ファイルを作成する方法	233
	SPARC: ディスク構成ファイルの例	234
▼	IA: ディスク構成ファイルを作成する方法	235
	IA: ディスク構成ファイルの例	237
	サイト固有のインストールプログラムの使用	239
25.	カスタムルールおよびプローブキーワードの作成方法	241
	プローブキーワード	241
	custom_probes ファイルの作成	242
	custom_probes ファイルの構文	242
	custom_probes の関数名の構文	243
▼	custom_probes ファイルを作成する方法	243
	custom_probes ファイルとキーワードの例	244
	custom_probes ファイルの妥当性検査	246
▼	custom_probes ファイルを妥当性検査する方法	246

- 26. **カスタム JumpStart インストールの実行 249**
 - SPARC: カスタム JumpStart インストールの実行 249
 - SPARC: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定 249
 - ▼ SPARC: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法 251
 - IA: カスタム JumpStart インストールの実行 253
 - IA: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定 253
 - ▼ IA: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法 255
- 27. **カスタム JumpStart による Solaris ソフトウェアのインストール例 261**
 - サイトの設定例 262
 - インストールサーバーの作成 263
 - マーケティングシステム用のブートサーバーの作成 265
 - JumpStart ディレクトリの作成 265
 - JumpStart ディレクトリの共有 266
 - SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成 266
 - IA: マーケティンググループのプロファイルの作成 267
 - rules ファイルの更新 268
 - rules ファイルの妥当性を検査する 268
 - SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定 269
 - IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定 270
 - SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール 271
 - IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール 271
- 28. **カスタム JumpStart に関するリファレンス情報 273**
 - ルールキーワードと値の説明 273
 - プロファイルキーワードと値 279

	プロファイルキーワードの一覧	279
	プロファイルキーワードの説明と例	281
	カスタム JumpStart の環境変数	308
	プローブキーワードと値	312
29.	Solaris ソフトウェアに関するリファレンス情報	315
30.	Solaris 8 メディアの構成	317
	SPARC: Solaris 8 メディア	317
	SPARC: Solaris 8 メディアのディレクトリ構造	319
	SPARC: Solaris 8 DVD (SPARC) のディレクトリ構造	319
	SPARC: Solaris 8 INSTALLATION CD のディレクトリ構造	320
	SPARC: Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) のディレクトリ構造	320
	IA: Solaris 8 メディア	322
	IA: Solaris 8 メディアのディレクトリ構造	324
	IA: Solaris 8 DVD (Intel) ディレクトリの構造	324
	IA: Solaris 8 INSTALLATION CD のディレクトリ構造	325
	IA: Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) のディレクトリ構造	326
	Solaris 8 DOCUMENTATION CD の構造	328
	Solaris 8 LANGUAGES CD のディレクトリ構造	329
31.	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ	331
32.	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ	363
33.	Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ	375
34.	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ	415
35.	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ	435
36.	Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ	443
37.	プラットフォーム名とグループ	481
38.	言語とロケールの値	485
A.	問題発生時の解決方法	493
	ネットワークインストールの設定	493

システムのブート	494
エラーメッセージ	494
一般的な問題	496
ネットワーク上のシステムのブート	498
エラーメッセージ	498
一般的な問題	502
Solaris 8 のインストール (初期インストール)	503
Solaris 8 のインストール (アップグレード)	506
エラーメッセージ	506
一般的な問題	506
B. Solaris 8 をインストールした後のソフトウェアの追加と削除	511
Solaris Web Start プログラムによるソフトウェアの追加	512
▼ Solaris Web Start プログラムを使用してソフトウェアを追加する方法	513
Solaris Product Registry によるソフトウェアの追加と削除	514
目的	514
Solaris Product Registry の使い方	515
▼ インストール済み製品の情報を表示する方法	517
▼ インストール済み製品の整合性を検査する方法	518
▼ Solaris Product Registry を使ってソフトウェアをインストールする方法	518
▼ 製品をアンインストールする方法	520
Admintool によるパッケージの追加と削除	520
▼ Admintool でパッケージを追加する方法	521
▼ Admintool でパッケージを削除する方法	526
pkgadd と pkgrm によるパッケージの追加と削除	529
▼ pkgadd でパッケージを追加する方法	529
▼ pkgrm でパッケージを削除する方法	530
C. リモートの DVD-ROM と CD-ROM によるインストールまたはアップグレード	533

SPARC: Solaris Web Start を使用してリモート DVD-ROM または CD-ROM からインストールまたはアップグレードする 533

▼ リモート DVD-ROM と CD-ROM を使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 534

用語集 539

索引 551

はじめに

本書『Solaris のインストール (上級編)』では、SPARC™ および IA (Intel Architecture) ベースの、ネットワークに接続されたシステムとネットワークに接続されていないシステムの両方に、Solaris 8 オペレーティング環境をインストールおよびアップグレードする方法を説明します。

Solaris オペレーティング環境は、SPARC と IA の 2 種類のハードウェア (プラットフォーム) で動作します。また、Solaris オペレーティング環境は、64 ビットと 32 ビットの 2 種類のアドレス空間で動作します。特別な章、節、注、リスト、図、表、例、またはコード例でない限り、このマニュアルの情報は両方のプラットフォームおよびアドレス空間に適用されます。

このマニュアルには、システムハードウェアや周辺装置を設定する方法は記載されていません。

注 - このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、AMD、Cyrix および Transmeta が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。さらに、このマニュアルでは、IA はプラットフォームアーキテクチャ全体を意味します。ただし、製品名には「Intel Platform Edition」と表記されます。

注 - このマニュアルでは、「Solaris 8 INSTALLATION CD」という名前は、Solaris 8 INSTALLATION (Multilingual) CD と Solaris 8 INSTALLATION CD の両方を意味します。

対象読者

このマニュアルは、Solaris オペレーティング環境のインストールを担当するシステム管理者を対象としています。このマニュアルには、次の 2 種類の情報が含まれています。

- ネットワーク環境で複数の Solaris マシンを管理するエンタープライズシステム管理者向けの上級 Solaris インストール情報
- Solaris のインストールやアップグレードをとくとき行うシステム管理者向けの基本 Solaris インストール情報

関連情報

表 P-1 に、Solaris ソフトウェアをインストールする際に参考となる関連情報の一覧を示します。

表 P-1 関連情報

プラットフォーム	関連マニュアル	説明
	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』	システムファイルのバックアップ方法が解説されています。
SPARC	『Solaris 8 ご使用にあたって (SPARC 版)』	Solaris リリースに関する、バグ、既知の問題、サポートが中止されたソフトウェア、パッチなどが解説されています。
	『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』	サポートされるハードウェア情報を記載します。
IA	『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』	デバイスの構成情報を記載します。
	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』	サポートされるハードウェア情報を記載します。
	『Solaris 8 ご使用にあたって (Intel 版)』	Solaris リリースに関する、バグ、既知の問題、サポートが中止されたソフトウェア、パッチなどが解説されています。

Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 Fatbrain.com から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com™ では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
[]	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。

Solaris のインストールおよびアップグレードの計画

以下の章では、Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードの計画について説明します。

第 2 章	インストールやアップグレードを行う前に決定すべき項目について説明します。
第 3 章	Solaris をインストールするさまざまな方法について詳しく説明します。インストール環境にとってどの方法が最適であるかを判断する際の参考になります。
第 4 章	Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードの際に必要なディスク容量を計画するための指針を示します。

Solaris のインストールおよびアップグレードの計画の概要

この章では、Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードを行う前に決定すべき項目について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 24 ページの「作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」
- 25 ページの「初期インストールかアップグレードか」
- 28 ページの「システム要件」
- 30 ページの「ネットワークからインストールするか DVD または CD を使ってインストールするか」
- 31 ページの「DVD メディアの使用」
- 31 ページの「IA: Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) と PXE へのアクセス」

注 - このマニュアルではスライスという用語を使用しますが、一部の Solaris のマニュアルとプログラムでは、スライスをパーティションと呼んでいる場合があります。混同を避けるため、このマニュアルでは、Intel 版 Solaris でのみサポートされる fdisk パーティションと、スライスまたはパーティションと呼ばれる Solaris fdisk パーティション内の分割とを区別しています。

作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストール またはアップグレード

次の作業マップは、Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードに必要な作業の概要を示したものです。インストールしようとする環境にとって最も効率的なインストールを行うためにどの項目を決定する必要があるかを、この作業マップから判断してください。

表 2-1 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード

作業	説明	参照先
初期インストールかアップグレードかを選択する	初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。	25 ページの「初期インストールかアップグレードか」
システム要件を検討する	インストールまたはアップグレードの最小要件をシステムが満たしているかどうかを判断します。	28 ページの「システム要件」
インストール方法を選択する	Solaris オペレーティング環境では、インストールやアップグレードをいくつかの方法で行うことができます。インストール環境に最も適した方法を選択してください。	第 3 章
ディスク容量の計画をたてて割り当てる	インストールする Solaris オペレーティング環境のコンポーネントに必要なディスク容量をシステムに割り当てます。	第 4 章
インストール媒体を選択する	Solaris ソフトウェアのインストールは、ローカル媒体から行うこともネットワークから行うこともできます。インストール環境に最も適したインストール媒体を選択してください。	30 ページの「ネットワークからインストールするか DVD または CD を使ってインストールするか」
システム情報を収集する	チェックリストやワークシートを使って、インストールやアップグレードに必要なすべての情報を収集します。	第 6 章
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	インストールやアップグレードの際に情報を入力する手間を省くために、システム構成情報を事前に設定しておくことができます。	第 7 章

表 2-1 作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード 続く

作業	説明	参照先
(省略可能) Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする準備を行う	Solaris ソフトウェアをネットワークからインストールする場合は、インストールサーバーを作成し、必要に応じてブートサーバーを作成し、ネットワーク上でインストールできるようにシステムを設定します。	第 12 章
(アップグレードのみ) アップグレード前に必要な作業を行う	システムのバックアップをとり、アップグレード時にディスク容量の再配置が行われるかどうかを判断し、Solaris Update リリースによって上書きされる可能性があるパッチを検索します。	第 8 章
インストールまたはアップグレードを行う	選択した Solaris インストール方法を使って Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行います。	インストールの詳細な手順を説明している章

初期インストールかアップグレードか

まず、初期インストールを行うのかアップグレードを行うのかを選択する必要があります。アップグレードを選択する場合は、Solaris オペレーティング環境がすでにシステム上で動作している必要があります。

初期インストール

初期インストールでは、システムのディスクが Solaris オペレーティング環境の新しいバージョンで上書きされます。システム上で Solaris オペレーティング環境がまだ動作していない場合は、初期インストールを行う必要があります。

システム上で Solaris オペレーティング環境がすでに動作している場合でも、初期インストールを行うことができます。ローカルに行なった変更を維持したい場合は、インストールを行う前にローカル変更のバックアップをとり、インストールが終わった後でローカル変更を復元する必要があります。

初期インストールは、Solaris のどのインストール方法を使っても実行できます。Solaris のインストール方法については、第 3 章を参照してください。

アップグレード

アップグレードでは、システムのディスクにある既存のファイルと Solaris オペレーティング環境の新しいバージョンがマージされます。アップグレードでは、既存の Solaris オペレーティング環境に対して行なった変更はできるだけ保存されます。

アップグレードできるシステムは、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、または Solaris 7 ソフトウェアが動作しているものです。Solaris 8 が動作しているシステムは、Solaris 8 Update リリースにアップグレードできます。システムで動作している Solaris のバージョンを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ uname -a
```

Solaris オペレーティング環境のアップグレードでは、次のインストール方法を使用できます。

注 - ディスクレスクライアントをアップグレードする場合は、smosservice patch コマンドを使用する必要があります。詳細は、『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』または smosservice (1M) のマニュアルページを参照してください。

表 2-2 SPARC: Solaris のアップグレード方法

現在の Solaris オペレーティング環境	Solaris のアップグレード方法
Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8	<ul style="list-style-type: none">■ Solaris™ Web Start プログラム■ Solaris 8 対話式インストールプログラム■ カスタム JumpStart™

表 2-3 IA: Solaris のアップグレード方法

現在の Solaris オペレーティング環境	Solaris のアップグレード方法
Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7	DVD メディアまたはネットインストールイメージからのインストール: ■ Solaris Web Start プログラム ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart CD メディアからのインストール: ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart
Solaris 8	DVD/CD メディアまたはネットインストールイメージからのインストール: ■ Solaris Web Start プログラム ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart

システムのソフトウェアグループを、アップグレード時に別のソフトウェアグループに変更することはできません。たとえば、システムに エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループがインストールされている場合には、開発者システムサポートソフトウェアグループにアップグレードするオプションはありません。ただし、アップグレード中に、インストール済みのソフトウェアグループに属していないソフトウェアをシステムに追加することはできます。

すでに Solaris 8 オペレーティング環境を実行していて、システムに個別のパッチがインストールされている場合、Solaris 8 Update リリースへのアップグレードを行うと、パッチは次のようになります。

- Solaris 8 Update リリースの一部として組み込まれているパッチは自動的に再適用されます。これらのパッチをバックアウトすることはできません。
- システムにすでにインストールされているパッチのうち、Solaris 8 Update リリースに組み込まれていないパッチは削除されます。

パッチアナライザを使用すれば、Solaris 8 Update リリースにアップグレードしたときに、これらのパッチのうちどれが削除されるかを確認することができます。パッチアナライザの詳しい使い方については、76 ページの「Solaris 8 Update リリースへのアップグレード」を参照してください。

システム要件

Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードに必要な要件をシステムが満たしているかどうかを確認してください。

メモリー要件

Solaris オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードするには、128M バイト以上のメモリーを用意することをお勧めします。DVD メディアを使用してインストールする場合は最低 96M バイト、CD メディアを使用してインストールする場合は最低 64M バイトのメモリーが必要です。

注・オプションのインストール機能の中には、メモリーが十分でないとは有効にできないものもあります。たとえば、メモリーが 96M バイトで、DVD からインストールする場合、Solaris Web Start GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) ではなく、Solaris Web Start コマンド行インターフェースを使用してインストールすることになります。

Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件

Solaris 8 INSTALLATION CD 上の Solaris Web Start プログラムを使う場合は、SPARC スライスと IA fdisk パーティションに特殊な要件が適用されます。DVD またはネットイメージからインストールする場合は、Solaris Web Start プログラムにこれらの要件はありません。

表 2-4 Solaris 8 INSTALLATION CD の要件

プラットフォーム	要件
アップグレードに伴うスライスイヤ件	<p>Solaris 8 INSTALLATION CD と Solaris Web Start プログラムを使ってアップグレードを行うためには、ファイルが保存されていないスライスがディスク上になければなりません。望ましいスライスは swap スライスですが、/etc/vfstab にリストされているアップグレード対象のルートスライスのどれにも属していないスライスであれば、どのスライスでもかまいません。このスライスの推奨サイズは 512 M バイトです。</p>
IA:fdisk のパーティション要件	<p>Solaris 8 INSTALLATION CD を使う場合は、Solaris Web Start プログラムはインストールまたはアップグレードのためにシステムディスク上に 2 つの fdisk パーティションを必要とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris fdisk パーティション <p>通常の Solaris fdisk パーティションです。システム上に Solaris fdisk パーティションがない場合は、その作成を求めるプロンプトが Solaris Web Start から出されます。</p> <p>注意 - 既存の fdisk パーティションのサイズを変更すると、そのパーティションにあるすべてのデータが自動的に削除されます。Solaris fdisk パーティションを作成する場合は、データのバックアップをとってください。</p> ■ x86BOOT fdisk パーティション <p>IA システムをミニルートから起動するための、10M バイトの fdisk パーティションです。ミニルートは、Solaris fdisk パーティションに新たに作成されるスワップスライスに置かれます。</p> <p>注意 - x86BOOT fdisk パーティションを手動で作成しないでください。</p> <p>Solaris Web Start は、Solaris fdisk パーティションを分割し、10M バイトの x86BOOT fdisk パーティションを作成します。このように x86BOOT fdisk パーティションの作成をインストールプログラムに任せることによって、既存の fdisk パーティションを変更してしまう危険が防止されます。</p>

表 2-4 Solaris 8 INSTALLATION CD の要件 続く

プラットフォーム	要件
IA システムのアップグレードに関する制限事項	<p>Solaris 8 INSTALLATION CD を使用する場合は、Solaris Web Start プログラムを使用して Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 オペレーティング環境から Solaris 8 にアップグレードすることは不可能です。Solaris 8 INSTALLATION CD では、以前の Solaris リリースでは作成されなかった 10 M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です。アップグレードするには、Solaris 8 DVD かネットワークインストールイメージの Solaris Web Start プログラムを使用するか、あるいは Solaris 8 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart を使用する必要があります。</p>
IA システムの LBA 要件	<p>システムが 1024 シリンダの制限を超えてブートできない場合は、Solaris 8 INSTALLATION CD は使用しないでください。LBA (Logical block addressing) を利用すると、この制限を超えるマシンのブートや、複数の Solaris ディスクスライスに渡るブートが可能になります。システムの BIOS およびデフォルトブートディスクの SCSI ドライバが LBA をサポートする場合は、Solaris 8 INSTALLATION CD を使用してください。</p> <p>LBA がサポートされているかどうかを調べるには、次のコマンドを使用します。</p> <pre data-bbox="456 730 764 753"># prtconf -pv grep -i lba</pre> <p>デフォルトブートディスクの BIOS および SCSI ドライバが LBA をサポートしている場合は、次のメッセージが出力されます。</p> <pre data-bbox="456 852 626 875">lba-access-ok:</pre> <p>デフォルトブートディスクの SCSI ドライバが LBA をサポートしていない場合は、次のメッセージが出力されます。</p> <pre data-bbox="456 961 667 984">no-bef-lba-access</pre> <p>デフォルトブートディスクの BIOS と SCSI ドライバが LBA をサポートしない場合は、Solaris 8 DVD やネットインストールイメージなどのインストール手段でインストールまたはアップグレードを行なってください。</p>

ネットワークからインストールするか DVD または CD を使ってインストールするか

DVD-ROM または CD-ROM ドライブにアクセスできるシステムへのインストールまたはアップグレードができるように、Solaris ソフトウェアは DVD または CD メディアで配布されます。

システムにローカルの DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブがない場合や、Solaris をインストールするために各ローカルドライブごとにディスクを挿入したくない場合は、リモートの DVD イメージまたは CD イメージからインストールするようにシステムを設定できます。

ネットワークからインストールする場合は、どの Solaris インストール方法でも使用できます。ただし、フラッシュインストール機能やカスタム JumpStart インストールを使ってネットワークからインストールを行うと、大規模の企業におけるインストールプロセスの一元化と自動化が可能になります。各インストール方法の詳細は、第 3 章を参照してください。

ネットワークから Solaris ソフトウェアをインストールする場合は、初期設定が必要です。ネットワークからインストールする場合の準備については、第 12 章を参照してください。

DVD メディアの使用

DVD メディアを使用している場合に `ok` プロンプトで `boot dvdrom` コマンドを使用すると、システムは DVD-ROM ドライブからブートしません。`ok` プロンプトでブートを求められた場合は、常に次のコマンドを入力してください。

```
ok boot cdrom
```

IA: Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) と PXE へのアクセス

Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) は、さまざまなハードウェア構成作業とブート作業を行うためのプログラムです。このプログラムを使用して、DVD、CD、ネットインストールイメージ、またはフロッピーディスク上のソフトウェアコピーからブートできます。Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) は、次の方法でアクセスします。

- Solaris 8 DVD、Solaris 8 INSTALLATION CD、または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD からブートする。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートしている必要があります。

- PXE (Pre-boot eXecution Environment) を使用してネットワークからブートする。
PXE を使用すると、ブート用フロッピーディスクを使用せずにネットワークから直接システムをブートできます。この場合、システムが PXE をサポートしている必要があります。システムが PXE を使用するように設定するには、システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの構成設定ツールを使用します。
- Solaris Device Configuration Assistant フロッピーディスクからブートする。

注 - このソフトウェアは、http://soldc.sun.com/support/drivers/dca_diskettes の「Solaris Developer Connection」からフロッピーディスクにダウンロードしてコピーできます。

Solaris インストール方法の選択

この章では、Solaris をインストールする方法について説明します。Solaris オペレーティング環境では、インストールやアップグレードをいくつかの方法で行うことができます。それぞれのインストール方法には、特定のインストール要件やインストール環境を意図したさまざまな機能があります。したがって、インストール環境に最も適した方法を選択してください。

- 33 ページの「Solaris Web Start」
- 34 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラム」
- 35 ページの「カスタム JumpStart」
- 35 ページの「フラッシュインストール機能」
- 36 ページの「SPARC: ファクトリ JumpStart」

Solaris Web Start

Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれる Solaris Web Start インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) でも、コマンド行インターフェース (CLI) でも起動できます。Solaris Web Start では、Solaris ソフトウェアや追加ソフトウェアのインストールやアップグレードに必要な手順がステップごとに示されます。システム管理者は、デフォルトオプションを使ってインストールすることも、カスタマイズオプションを使って必要なソフトウェアだけをインストールすることもできます。

Solaris Web Start では、Solaris オペレーティング環境や UNIX の初心者であっても、インストールの際に先に進んだり前に戻って必要な変更を簡単に行うことができます。インストール作業は複数の画面で構成され、各画面ではシステム構成情報を入力するように指示されます。

Solaris Web Start プログラムでは構成情報を入力する必要があるため、ユーザーはインストールプログラムと対話方式で処理を進める必要があります。したがって、システムによってはインストールやアップグレードを行う際には、このインストール方法が最適であるとは限りません。状況に応じて、カスタム JumpStart またはフラッシュインストール機能を使用してください。

詳細は、第 14 章を参照してください。

Solaris 8 対話式インストールプログラム

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれる Solaris 8 対話式インストールプログラムは、GUI でも CLI でも起動できます。Solaris 8 対話式インストールプログラムでは、Solaris 8 ソフトウェアのインストールやアップグレードに必要な手順がステップごとに示されます。このインストール方法は、64M バイト以上のメモリーがあり、国際ロケールを使用している場合に便利です。

Solaris 8 対話式インストールプログラムは、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールするだけです。このプログラムは、サードパーティアップグレードやネットワーク上でダウンロードできるソフトウェアなどを認識できません。したがって、Solaris オペレーティング環境をインストールした後にサードパーティアプリケーションをインストールする必要があります。また、インストール時にはシステム構成情報を入力するように求められます。このため、複数のシステムにインストールする場合は、Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールは最適とは言えません。サードパーティアプリケーションのインストールには Solaris Web Start プログラムを使用できます。多数のシステムを対象としたバッチインストールには、カスタム JumpStart かフラッシュインストール機能を使用してください。

詳細は、第 15 章を参照してください。

カスタム JumpStart

カスタム JumpStart では、あらかじめ作成したプロファイルを使って、複数のシステムのインストールやアップグレードを自動的にかつ同時に行うことができます。プロファイルには、どのようにソフトウェアをインストールするかを定義します。さらに、インストール前とインストール後に実行する作業を、シェルスクリプトを使用して指定することができます。カスタム JumpStart は、指定されたプロファイルとスクリプトに従ってシステムのインストールやアップグレードを行います。

Solaris オペレーティング環境とシェルに関する知識を持っていて、複数のシステムをインストールする必要がある場合には、カスタム JumpStart が最適であるかもしれません。

インストールするシステムが 2、3 台だけの場合には、このインストール方法が最適であるとは限りません。カスタム JumpStart インストールの準備に時間がかかるため、このインストール方法が時間の節約にならない可能性があるからです。

詳細は、第 23 章を参照してください。

フラッシュインストール機能

フラッシュインストール機能では、マスターシステムにインストールする構成を使用して、多数のシステムにインストールすることができます。それには、マスターシステムのインストールと構成を行なったあとに、マスターシステムからフラッシュアーカイブを作成する必要があります。フラッシュアーカイブは、必要に応じていくつでも作成できます。それぞれのシステムにインストールする際に、使用するフラッシュアーカイブを選択します。このインストール方法では、同じソフトウェアと構成を持つ多数のシステムを効率的にインストールできます。

フラッシュアーカイブを使用しない Solaris インストール方法では、各 Solaris パッケージが個別にインストールされます。パッケージベースのインストールではパッケージごとにパッケージマップの更新が必要になるため、時間がかかります。フラッシュアーカイブによるインストールは、個々の Solaris パッケージをインストールする場合よりもずっと早く終わります。

フラッシュアーカイブを使用するインストールは、どの Solaris インストール方法でも指定できます。Solaris Web Start と Solaris 8 対話式インストールプログラムで

は、インストールするフラッシュアーカイブを選択するように指示されます。カスタム JumpStart では、インストールするフラッシュアーカイブをプロファイルに指定します。

複数のシステムに多くの異なる構成でインストールしたい場合には、システムごとにフラッシュアーカイブが必要になります。フラッシュアーカイブはファイルサイズが大きいため、大量のディスク容量が必要です。さらに、フラッシュアーカイブをいったん作成したら、アーカイブを変更することはできません。多数の異なるインストール構成が必要であったり、インストール構成を変更する柔軟性を残しておきたい場合には、カスタム JumpStart インストールを使用することを検討してください。

詳細は、第 17 章を参照してください。

SPARC: ファクトリ JumpStart

ファクトリ JumpStart インストールでは、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を CD-ROM ドライブに挿入して、システムの電源を入れるだけで、新しい SPARC システムに Solaris ソフトウェアを自動的にインストールできます。その際、システムの機種とディスクサイズにもとづいてデフォルトのプロファイルが選択されます。システムにどのソフトウェアコンポーネントをインストールするかは、このプロファイルで決まります。システム構成情報を入力するように求められることはなく、インストールするソフトウェアを選択することはできません。

SPARC ベースの新しいシステムには、このインストール方法を使用する場合に欠かせない JumpStart ブートイメージがあらかじめインストールされています。これより古い SPARC ベースシステムの場合は、`re-preinstall(1M)` コマンドを使用すれば、JumpStart ブートイメージをシステムにインストールできます。IA ベースのシステムでは、ファクトリ JumpStart インストールを使用することはできません。

ディスク容量の割り当てに関する指針

この章では、Solaris オペレーティング環境のインストールやアップグレードに伴うディスク容量の計画に関して一般的な指針を説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 37 ページの「ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項」
- 38 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」

ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項

Solaris 8 ソフトウェアをインストールする前にディスク容量の計画をたてて、システムに十分なディスク容量があるかどうかを判断することができます。必要なディスク容量が事前にわかれば、Solaris 8 ソフトウェアを実際にインストールする前にディスクを増設しておくことができます。アップグレードを行う場合は、75 ページの「ディスク容量の再配置を使用するアップグレード」を参照してください。

ディスク容量の計画のたて方は、ユーザーによって異なります。ディスク容量の計画にあたっては、次の一般的な事項を考慮に入れてください。

- 中国語、日本語、韓国語など、インストールする言語を追加するごとにディスク容量を増やします。
- 印刷やメールをサポートする場合は、`/var` ファイルシステムのディスク容量を増やします。
- クラッシュダンプ機能 `savecore(1M)` を使用する場合は、`/var` ファイルシステムの容量を物理メモリー分倍増します。

- サーバーがほかのシステム上のユーザーに対してホームディレクトリファイルシステムを提供する場合は、サーバーのディスク容量を増やします。ホームディレクトリは、通常デフォルトで `/export` ファイルシステムにあります。
- スワップ領域に 512 M バイト以上を割り当てます。
- インストールする Solaris ソフトウェアグループ用にディスク容量を割り当てます。ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量は表 4-1 のとおりです。ディスク容量を計画する際には、選択したソフトウェアグループから個々のソフトウェアパッケージを個別に追加したり削除したりできることを覚えておいてください。
- 作成するファイルシステムの数をもっと抑えます。Solaris インストール方法では、デフォルトでルート(/)と `swap` だけが作成されます。OS サービスのためにディスク容量が割り当てられたときは、`/export` ディレクトリも作成されます。ファイルシステムを割り当てる場合には、将来の Solaris バージョンにアップグレードするときのために、現在必要な容量よりも 30% 多く割り当ててください。新しい Solaris リリースにアップグレードするたびに、直前のリリースに比べておよそ 10% のディスク容量が追加で必要になります。ファイルシステムごとに 30% のディスク容量を追加しておくことによって、システムのパーティション分割が必要になる前に数回の Solaris アップグレードが可能です。
- 追加ソフトウェアやサードパーティソフトウェア用にディスク容量を増やします。

ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

Solaris ソフトウェアグループは Solaris パッケージの集まりです。それぞれのソフトウェアグループには、異なる機能やハードウェアドライバのサポートが含まれています。したがって、システムでどの機能を実行するかを考慮して、インストールするソフトウェアグループを選択する必要があります。

- 「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループ—ネットワークに接続された Solaris システムと共通デスクトップ環境 (CDE) の起動と実行に必要な最小限のコードが含まれています。
- 「開発者システムサポート」ソフトウェアグループ—エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループに、ソフトウェア開発のサポートが追加されたものです。ソフトウェア開発のサポートとして、ライブラリ、インクルードファイ

ル、マニュアルページ、プログラミングツールなどが追加されています。ただし、コンパイラは含まれていません。

- 「全体ディストリビューション」ソフトウェアグループ- 開発者システムサポートソフトウェアグループに、サーバーに必要なソフトウェアが追加されたものです。
- 「全体ディストリビューションと OEM サポート」ソフトウェアグループ- 全体ディストリビューションソフトウェアグループに、ハードウェアドライバが追加されたものです。これには、インストール時にシステムに存在していないハードウェアのドライバも含まれます。

Solaris ソフトウェアのインストール時には、選択した Solaris ソフトウェアグループに対してパッケージを追加したり、削除したりすることができます。追加や削除するパッケージを選択する際には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。

次の表に、各 Solaris ソフトウェアグループごとに、推奨するディスク容量を示します。

注 - スワップ領域は、推奨ディスク容量に含まれています。

表 4-1 ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

ソフトウェアグループ	推奨ディスク容量
全体ディストリビューションと OEM サポート	2.4 G バイト
全体ディストリビューション	2.3 G バイト
開発者システムサポート	1.9 G バイト
エンドユーザーシステムサポート	1.6 G バイト

Solaris のインストールおよびアップグレードの準備

以下の章では、Solaris オペレーティング環境のインストールおよびアップグレードを行うための準備について説明します。

第 6 章	Solaris のインストールを始める前にどのようなシステム情報を取得すべきかを説明します。
第 7 章	Solaris のインストールに必要なシステム構成情報を <code>sysidcfg</code> ファイルを使って事前設定する方法を説明します。
第 8 章	Solaris オペレーティング環境をアップグレードする前に必要な作業について説明します。

インストールやアップグレードの前に収集すべき情報

この章では、システムのインストールやアップグレードを行う前に収集すべきすべての情報が列挙されたチェックリストとワークシートについて説明します。

- 43 ページの「インストール用のチェックリスト」
- 44 ページの「インストール用のワークシート」
- 50 ページの「アップグレード用のチェックリスト」
- 51 ページの「アップグレード用のワークシート」

インストール用のチェックリスト

Solaris オペレーティング環境をインストールするための準備では、次のチェックリストを使用します。

- `tip(1)` 接続を使用して Solaris ソフトウェアをシステムにインストールする場合は、ウィンドウ表示が少なくとも横 80 桁、縦 24 行あることを確認します。
`stty(1)` コマンドを使うと、`tip` ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。
- システムがネットワークに接続されている場合は、Ethernet コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。

- Solaris 8 INSTALLATION CD 内の Solaris Web Start プログラムを使用してインストールする場合は、28 ページの「Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件」で説明されている要件を確認します。
- ディスク容量が十分あることを確認します。詳細は、第 4 章を参照してください。
- DVD メディアを使用していて、ok プロンプトで `boot dvdrom` コマンドを使用する場合は、システムは DVD-ROM ドライブからブートしません。ok プロンプトからのブートを求められた場合は、常に次のコマンドを入力してください。**boot cdrom**
- 『Solaris 8 ご使用にあたって』やベンダーのリリースノートを参照して、使用するソフトウェアが新しい Solaris リリースでもサポートされていることを確認します。
- 『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』を参照して、使用するハードウェアがサポートされていることを確認します。
- システムに添付されている資料を参照して、使用するシステムやデバイスが Solaris リリースでサポートされていることを確認します。

インストール用のワークシート

Solaris オペレーティング環境のインストールに必要な情報を収集する際に、次のワークシートを使用します。ただし、ワークシートに記載されているすべての情報を収集する必要はありません。使用するシステムに関連する情報だけを収集してください。

注 - ネットワークに接続されないスタンドアロンシステムをインストールする場合は、網掛けの部分を無視してください。

表 6-1 インストール用ワークシート

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
ネットワーク	このシステムはネットワークに接続されていますか。	はい/いいえ
ホスト名	選択したこのシステムのホスト名	
DHCP	このシステムでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使ってネットワークインタフェースを構成しますか。	はい/いいえ
IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、このシステムの IP アドレスを指定します。 例: 129.200.9.1	
サブネット	DHCP を使用しない場合、このシステムはサブネットの一部ですか。 「はい」の場合は、サブネットのネットマスクを指定します。 例: 255.255.0.0	はい/いいえ
IPv6	このマシンで IPv6 を使用可能にしますか。	はい/いいえ
Kerberos	このマシンに Kerberos セキュリティを構成しますか。 「はい」の場合は、次の情報を収集します。 デフォルトのレルム: 管理サーバー: 一次 KDC: (省略可能) 追加 KDC:	はい/いいえ
ネームサービス	このシステムではどのネームサービスを使用しますか。	NIS+/NIS/DNS/LDAP/使用しない
ドメイン名	このシステムでネームサービスを使用する場合は、システムが属するドメインの名前を指定します。	

表 6-1 インストール用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
NIS+ および NIS	<p>ネームサーバーを指定しますか、それともインストールプログラムにネームサーバーの検索を任せますか。</p> <p>ネームサーバーを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">サーバーのホスト名:</p> <p style="text-align: center;">サーバーの IP アドレス:</p>	指定/検索:
DNS	<p>DNS サーバーの IP アドレスを指定します。DNS サーバーの IP アドレスを少なくとも 1 つ最大 3 つまで指定します。</p> <p style="text-align: center;">サーバーの IP アドレス:</p> <p>DNS 検索を行うときに検索するドメインのリストを入力できます。</p> <p style="text-align: center;">検索ドメイン: 検索ドメイン: 検索ドメイン:</p>	
LDAP	<p>LDAP プロファイルに関する次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">プロファイル名:</p> <p style="text-align: center;">プロファイルサーバーのホスト名:</p> <p style="text-align: center;">プロファイルサーバーの IP アドレス:</p>	

表 6-1 インストール用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
デフォルトルート	<p>デフォルトルート (ゲートウェイ) を指定しますか、それとも Solaris Web Start にデフォルトルートの検索を任せますか。</p> <p>デフォルトルートを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">ルーターの IP アドレス:</p> <p>Solaris 8 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart インストールを使用する場合は、デフォルトルートは sysidcfg ファイルでのみ指定できます。</p>	指定/検索
時間帯	デフォルトの時間帯をどのように指定しますか。	地域 GMT との時間差 時間帯ファイル
電源管理システム (電源管理システムをサポートする SPARC システムの場合のみ)	電源管理システムを使用しますか。	はい/いいえ
プロキシサーバーの構成 (Solaris Web Start の場合のみ)	<p>インターネットに直接接続できますか、それともインターネットへのアクセスにプロキシサーバーを経由する必要がありますか。</p> <p>プロキシサーバーを使用する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">ホスト: ポート:</p>	直接接続/プロキシサーバー
ロケール	どの地域のサポートをインストールしますか。	

表 6-1 インストール用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
ソフトウェアグループ	どの Solaris ソフトウェアグループをインストールしますか。	全体ディストリビューションと OEM サポート 全体ディストリビューション 開発者システムサポート エンドユーザーシステムサポート コアシステムサポート
自動リブートまたは CD/DVD の取り出し	ソフトウェアをインストールした後に自動的にリブートしますか。 ソフトウェアをインストールした後に CD/DVD を自動的に取り出しますか。	はい/いいえ はい/いいえ
カスタムパッケージ選択	インストールする Solaris ソフトウェアグループに対してソフトウェアパッケージの追加や削除を行いますか。 <hr/> 注 - パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。 <hr/>	
64 ビット (SPARC システムの場合のみ)	64 ビットアプリケーションのサポートをインストールしますか。	はい/いいえ
ディスクの選択	Solaris ソフトウェアをどのディスクにインストールしますか。 例: c0t0d0	

アップグレード用のチェックリスト

Solaris オペレーティング環境をアップグレードするための準備では、次のチェックリストを使用します。

- `tip(1)` 接続を使用して Solaris ソフトウェアをアップグレードする場合は、ウィンドウ表示が少なくとも横 80 桁、縦 24 行あることを確認します。

`stty(1)` コマンドを使うと、`tip` ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。
- システムがネットワークに接続されている場合は、Ethernet コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。
- Solaris 8 INSTALLATION CD に入っている Solaris Web Start プログラムを使用する場合は、ディスクに 512M バイトのスライスが存在することを確認します。詳細 (IA システムの要件など) は、28 ページの「Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件」を参照してください。DVD またはインストールイメージからインストールする場合は、これらの要件は適用されません。
- ディスク容量が十分あることを確認します。詳細は、第 4 章を参照してください。
- DVD メディアを使用していて `ok` プロンプトで `boot dvdrom` コマンドを使用する場合は、システムは DVD-ROM ドライブからブートしません。`ok` プロンプトからブートするように求められた場合は、常に次のコマンドを入力してください。`boot cdrom`
- 『Solaris 8 ご使用にあたって』やベンダーのリリースノートを参照して、使用するソフトウェアが新しい Solaris リリースでもサポートされていることを確認します。
- 『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』を参照して、使用するハードウェアがサポートされていることを確認します。
- システムに添付されている資料を参照して、使用するシステムやデバイスが Solaris リリースでサポートされていることを確認します。
- ベンダーやサードパーティのソフトウェア資料を参照して、アップグレードに関するその他の情報を入手します。
- 使用可能なパッチで必要なパッチがあるかを確認します。最新のパッチリストは <http://sunsolve.sun.com> から入手できます。

- Prestoserve ソフトウェアがシステムに存在するかを確認します。init 0 コマンドを使ってシステムをシャットダウンしてからアップグレードプロセスを開始すると、データが失われる恐れがあります。シャットダウンについての説明は、Prestoserve の資料を参照してください。
- IA: Linux オペレーティングシステムを使用している場合は、Solaris fdisk パーティションと Linux swap パーティションの識別子が同じ (0x83) になります。この問題を解決するには、次のいずれかを行う必要があります。
 - メモリーが十分にある場合は swap パーティションをまったく使用しない。
 - Linux swap パーティションを別のドライブに置く。
 - 保存したい Linux データを記憶媒体にバックアップし、Solaris オペレーティング環境をインストールした後に、Linux をインストールし直す。



注意 - Solaris オペレーティング環境の後に Linux をインストールする場合、Linux swap パーティション (実際には、Solaris fdisk パーティション) を swap ファイルとしてフォーマットするかどうかを Linux インストールプログラムから尋ねられたら、フォーマットしないを選択してください。

アップグレード用のワークシート

Solaris オペレーティング環境のアップグレードに必要な情報を収集する際には、次のワークシートを使用します。ただし、ワークシートに記載されているすべての情報を収集する必要はありません。使用するシステムに関連する情報だけを収集してください。アップグレードをネットワークを使用して行う場合は、インストールプログラムが現在のシステム構成から情報を取得します。

ホスト名や IP アドレスのような、システムの基本的な識別情報は変更できません。インストールプログラムによってシステムの基本的な識別情報を入力するように求められる場合がありますが、元の値を入力する必要があります。Solaris Web Start プログラムを使用してアップグレードする場合は、値をどれか変更しようとするアップグレードは失敗します。

注 - ネットワークに接続されないスタンドアロンシステムをインストールする場合は、網掛けの部分を見逃してください。

表 6-2 アップグレード用ワークシート

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
ネットワーク	このシステムはネットワークに接続されていますか。	はい/いいえ
ホスト名	選択したこのシステムのホスト名	
DHCP	このシステムでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使ってネットワークインタフェースを構成しますか。	はい/いいえ
IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、このシステムの IP アドレスを指定します。 例: 129.200.9.1	
サブネット	DHCP を使用しない場合、このシステムはサブネットの一部ですか。 「はい」の場合は、サブネットのネットマスクを指定します。 例: 255.255.0.0	はい/いいえ
IPv6	このマシンで IPv6 を使用可能にしますか。	はい/いいえ
Kerberos	このマシンに Kerberos セキュリティを構成しますか。 「はい」の場合は、次の情報を収集します。 デフォルトのレルム: 管理サーバー: 一次 KDC: (省略可能) 追加 KDC:	はい/いいえ
ネームサービス	このシステムではどのネームサービスを使用しますか。	NIS+/NIS/DNS/LDAP/使用しない
ドメイン名	このシステムでネームサービスを使用する場合は、システムが属するドメインの名前を指定します。	

表 6-2 アップグレード用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
NIS+ および NIS	<p>ネームサーバーを指定しますか、それともインストールプログラムにネームサーバーの検索を任せますか。</p> <p>ネームサーバーを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">サーバーのホスト名:</p> <p style="text-align: center;">サーバーの IP アドレス:</p>	指定/検索:
DNS	<p>DNS サーバーの IP アドレスを指定します。DNS サーバーの IP アドレスを少なくとも 1 つ、最大 3 つまで指定します。</p> <p style="text-align: center;">サーバーの IP アドレス:</p> <p>DNS 検索を行うときに検索するドメインのリストを入力できます。</p> <p style="text-align: center;">検索ドメイン:</p>	
LDAP	<p>LDAP プロファイルに関する次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">プロファイル名:</p> <p style="text-align: center;">プロファイルサーバーのホスト名:</p> <p style="text-align: center;">プロファイルサーバーの IP アドレス:</p>	

表 6-2 アップグレード用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
デフォルトルート	<p>デフォルトルート (ゲートウェイ) を指定しますか、それとも Solaris Web Start にデフォルトルートの検索を任せますか。</p> <p>デフォルトルートを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: center;">ルーターの IP アドレス:</p> <p>Solaris 8 対話式インストールプログラムまたはカスタム JumpStart インストールを使用する場合は、デフォルトルートは <code>sysidcfg</code> ファイルでのみ指定できます。</p>	指定/検索:
時間帯	デフォルトの時間帯をどのように指定しますか。	地域 GMT との時間差 時間帯ファイル
電源管理システム (電源管理システムをサポートする SPARC システムの場合のみ)	電源管理システムを使用しますか。	はい/いいえ
プロキシサーバーの構成 (Solaris Web Start の場合のみ)	<p>インターネットに直接接続できますか、それともインターネットへのアクセスにプロキシサーバーを経由する必要がありますか。</p> <p>プロキシサーバーを使用する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">ホスト: ポート:</p>	直接接続/プロキシサーバー
ロケール	どの地域のサポートをインストールしますか。	

表 6-2 アップグレード用ワークシート 続く

アップグレードに必要な情報	説明/例	答を記入する
自動的なりブートまたは CD/DVD 取り出し	<p>ソフトウェアをインストールした後に自動的にリブートしますか。</p> <p>ソフトウェアをインストールした後に CD/DVD を自動的に取り出しますか。</p>	<p>はい/いいえ</p> <p>はい/いいえ</p>
カスタムパッケージ選択	<p>インストールする Solaris ソフトウェアグループに対してソフトウェアパッケージの追加や削除を行いますか。</p> <hr/> <p>注 - パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。</p> <hr/>	
64 ビット (SPARC システムの場合のみ)	64 ビットアプリケーションのサポートをインストールしますか。	Yes/No

システム構成情報の事前設定

この章では、システム構成情報の事前設定について説明します。事前に設定を行うと、Solaris オペレーティング環境をインストールする際に、システム構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されません。この章では、さらに、電源管理システム情報の事前設定についても説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 57 ページの「システム構成情報を事前設定することの利点」
- 58 ページの「システム構成情報の事前設定方法」
- 60 ページの「sysidcfg ファイルによる事前設定」
- 67 ページの「ネームサービスによる事前設定」
- 71 ページの「SPARC: 電源管理情報の事前設定」

システム構成情報を事前設定することの利点

どのインストール方法でも、周辺機器、ホスト名、IP (インターネットプロトコル) アドレス、ネームサービスなどのシステム構成情報が必要です。インストールプログラムは、構成情報の入力を求める前に、まず `sysidcfg` ファイルの情報を調べ、次にネームサービスデータベースの情報を調べます。

Solaris Web Start プログラム、Solaris 8 対話式インストールプログラム、およびカスタム JumpStart インストールプログラムは、事前設定されたシステム構成情報を検出すると、その情報の入力を求めることはありません。たとえば、複数のシステムに Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合、インストールのたびに時間帯を入力しないようにするには、時間帯を `sysidcfg` ファイル中またはネームサービ

データベース中に指定します。そうすれば、Solaris 8 ソフトウェアのインストールで時間帯の入力は求められません。

システム構成情報の事前設定方法

システム構成情報を事前設定するには、2つの方法があります。システム構成情報は以下の場所に設定できます。

- `sysidcfg` ファイル (リモートシステム上またはフロッピーディスク)
- 自分のサイトで使用しているネームサービスデータベース

注 **[SPARC]** - SPARC ベースシステムの場合は、ネームサービスデータベースを編集することによってシステム構成情報の事前設定を行います。

表 7-1 を使って、システム構成情報を事前設定するための方法を決定してください。

表 7-1 システム構成情報を事前設定するための方法

事前設定できるシステム構成情報	プラットフォーム	<code>sysidcfg</code> ファイルでの事前設定の可否	ネームサービスでの事前設定の可否
ネームサービス	SPARC/IA	可能	可能
ドメイン名	SPARC/IA	可能	不可
ネームサーバー	SPARC/IA	可能	不可
ネットワークインタフェース	SPARC/IA	可能	不可
ホスト名	SPARC/IA	可能 ¹	可能
IP アドレス	SPARC/IA	可能 ¹	可能
ネットマスク	SPARC/IA	可能	不可
DHCP	SPARC/IA	可能	不可
IPv6	SPARC/IA	可能	不可

表 7-1 システム構成情報を事前設定するための方法 続く

事前設定できるシステム構成情報	プラット フォーム	sysidcfg ファイルでの 事前設定の可否	ネームサービスでの事前 設定の可否
デフォルトルート	SPARC/IA	可能	不可
root パスワード	SPARC/IA	可能	不可
セキュリティポリシー	SPARC/IA	可能	不可
インストールプログラムとデスクト ップで表示する言語 (ロケール)	SPARC/IA	可能	NIS または NIS+ の場 合、可能 DNS または LDAP の場 合、不可
端末タイプ	SPARC/IA	可能	不可
時間帯	SPARC/IA	可能	可能
日付と時刻	SPARC/IA	Yes	可能
モニタータイプ	IA	Yes	不可
キーボード言語、キーボード配置	IA	可能	不可
グラフィックスカード、カラー深度、 表示解像度、画面サイズ	IA	可能	不可
ポインティングデバイス、ボタン数、 IRQ レベル	IA	可能	不可
電源管理システム ²	SPARC	不可	不可

1. この情報はシステムに固有なため、各システム用に異なる sysidcfg ファイルを作成するよりも、ネームサーバーを編集してください。
2. このシステム構成情報は、sysidcfg ファイルまたはネームサービスでは事前設定できません。詳細は、71 ページの「SPARC: 電源管理情報の事前設定」を参照してください。

sysidcfg ファイルによる事前設定

sysidcfg ファイルに一連のキーワードを指定すると、システムを事前設定できます。表 7-2 は、これらのキーワードを示しています。

異なる構成情報を必要とするシステムごとに、固有の sysidcfg ファイルを作成する必要があります。すべてのシステムに同じ時間帯を割り当てる場合は、同じ sysidcfg ファイルを使用して、一連のシステムに時間帯を事前設定することができます。ただし、これらの各システムに異なる root (スーパーユーザー) パスワードを事前設定する場合は、各システムに固有の sysidcfg ファイルを作成する必要があります。

sysidcfg ファイルは、次のどちらかに置くことができます。

- NFS ファイルシステム - sysidcfg ファイルを共有 NFS ファイルシステムに置く場合は、システムがネットワーク上でインストールできるように設定する際に `add_install_client(1M)` コマンドの `-p` オプションを指定して、Solaris 8 ソフトウェアのインストール時に sysidcfg ファイルが検索される場所を指定する必要があります。
- UFS フロッピーディスクまたは PCFS フロッピーディスク - sysidcfg ファイルをフロッピーディスクのルート (/) ディレクトリに置きます。

注 - カスタム JumpStart インストールを行なっていて、フロッピーディスク上の sysidcfg ファイルを使用したい場合は、プロファイルフロッピーディスク上に sysidcfg ファイルを置く必要があります。プロファイルフロッピーディスクを作成するには、198 ページの「スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成」を参照してください。

注 - 1 つのディレクトリまたはフロッピーディスクには、1 つの sysidcfg ファイルだけを入れることができます。複数の sysidcfg ファイルを作成する場合は、各ファイルを異なるディレクトリまたは異なるフロッピーディスクに置く必要があります。

sysidcfg ファイルの構文規則

sysidcfg ファイルで使用するキーワードには、非依存型と依存型の 2 種類があります。依存型キーワードは、非依存型キーワード内でのみ固有であることが保証さ

れています。依存型キーワードは、対応する非依存型キーワードによって識別される場合にのみ存在します。

次の例では、`name_service` が非依存型キーワードであり、`domain_name` と `name_server` が依存型キーワードです。

```
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
name_server=connor(129.152.112.3)}
```

構文規則	例
非依存型キーワードは任意の順序で指定可能	<code>pointer=MS-S</code> <code>display=ati {size=15-inch}</code>
キーワードは大文字と小文字のどちらでもよい	<code>TIMEZONE=US/Central</code> <code>terminal=PC Console</code>
関連する非依存型キーワードを結合するには、すべての依存型キーワードを中括弧 {} で囲む	<code>name_service=NIS</code> <code>{domain_name=marquee.central.sun.com</code> <code>name_server=connor(129.152.112.3)}</code>
値は単一引用符 (') または二重引用符 (") で囲んで指定可能	<code>network_interface='none'</code>
キーワードは 1 回だけ指定可能。キーワードを複数回指定した場合は最初のキーワードだけが有効	<code>network_interface=none</code> <code>network_interface=1e0</code>

sysidcfg ファイルキーワード

表 7-2 に、`sysidcfg` ファイルで使用できるキーワードを示します。

表 7-2 sysidcfg キーワード

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値
ネームサービス、ドメイン名、ネームサーバー	SPARC/IA	name_service=NIS, NIS+, DNS, LDAP, NONE	
		NIS と NIS+ 用オプション: {domain_name=domain_name name_server= hostname(ip_address)}	name_service=NIS {domain_name=west.arp.com name_server=timber(129.221.2.1)}
		DNS 用オプション ン:{domain_name= domain_name name_server=ip_address ,ip_address, ip_address (最大 3 個) search=domain_name , domain_name, domain_name, domain_name, domain_name, domain_name (最大 6 個、合計の長さが 250 文字以下)}	name_service=DNS {domain_name=west.arp.com name_server=10.0.1.10,10.0.1.20 search=arp.com,east.arp.com}
		LDAP 用オプション ン:{domain_name=domain_name profile=profile_name profile_server=ip_address}	name_service=LDAP {domain_name=west.arp.com profile=default profile_server=129.221.2.1}

注 - name_service は 1 つの値だけを選択します。必要に応じて、domain_name と name_server キーワードのどちらか一方または両方を設定するか、あるいはどちらも含めません。どちらのキーワードも使用しない場合、中括弧 {} は省略します。

表 7-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値
ネットワークインタフェース、ホスト名、IP アドレス、ネットマスク、DHCP、IPv6	SPARC/IA	<p>network_interface=NONE, PRIMARY, <i>value</i></p> <p>値の説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NONE はネットワークを無効にします。 ■ PRIMARY は、システム上に存在するインタフェースの中で最初に稼動する非ループバックインタフェースです。順序は“ifconfig”の場合と同様に、稼動しているインタフェースが存在しない場合には最初の非ループバックインタフェースが使用されることとなります。非ループバックインタフェースが見つからない場合は、システムはNON-NETWORKED に設定されます。 ■ <i>value</i> には、le0 や hme0 などのインタフェースを指定します。 <p>DHCP を使用する場合、次のように指定する。 {dhcp protocol_ipv6=yes_or_no}</p>	<pre>network_interface=primary {dhcp protocol_ipv6=yes}</pre>

表 7-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値
		DHCP を使用しない場合、次のように指定する。 <pre>{hostname=host_name ip_address=ip_address netmask=netmask protocol_ipv6=yes_or_no}</pre>	<pre>network_interface=le0 {hostname=feron default_route=129.146.88.1 ip_address=129.146.88.210 netmask=255.255.0.0 protocol_ipv6=no}</pre> <p>注 - network_interface は、1 つの値だけを選択します。必要に応じて、hostname、ip_address、netmask キーワードのどれかを組み合わせて設定するか、あるいはどれも設定しません。どのキーワードも使用しない場合、中括弧 {} は省略します。</p> <p>注 - DHCP を使用しない場合、protocol_ipv6 と default_route は指定する必要がありません。ただし、JumpStart インストールの場合、この時点で protocol_ipv6 を指定する必要があります。指定がないと、後で対話方式で入力を要求されます。</p>
root パスワード	SPARC/IA	root_password=root_password	/etc/shadow にある暗号化された文字列
セキュリティポリシー	SPARC/IA	security_policy=kerberos, NONE Kerberos 用オプション: <pre>{default_realm=FQDN admin_server=FQDN kdc=FQDN1, FQDN2, FQDN3}</pre> FQDN は完全修飾ドメイン名です。	<pre>security_policy=kerberos {default_realm=Yoursite.COM admin_server=krbadmin.Yoursite.COM kdc=kdc1.Yoursite.COM, kdc2.Yoursite.COM}</pre> <p>注 - 最大 3 つの鍵発行センター (KDC) をリストできます。少なくとも 1 つは必須です。</p>
インストールプログラムとデスクトップで表示する言語	SPARC/IA	system_locale=locale	有効なロケール値が、/usr/lib/locale ディレクトリまたは第 38 章にある。

表 7-2 sysidcfg キーワード 続く

構成情報	プラットフォーム	キーワード	使用例または設定値
端末タイプ	SPARC/ IA	<code>terminal=terminal_type</code>	有効な端末値が <code>/usr/share/lib/terminfo</code> ディレクトリ のサブディレクトリにある。
時間帯	SPARC/ IA	<code>timezone=timezone</code>	有効な時間帯値が <code>/usr/share/lib/zoneinfo</code> ディレクトリ のサブディレクトリとファイルにある。 時間帯値は <code>/usr/share/lib/zoneinfo</code> ディレクトリからの相対パス名です。た とえば、米国の山岳部標準時の時間値は US/Mountain です。日本の時間帯値は Japan です。また、有効な Olson 時間帯 も指定できます。
日付と時刻	SPARC/ IA	<code>timeserver=localhost, hostname, ip_addr</code>	<code>localhost</code> を指定した場合は、そのシス テムの時刻が正しいものと見なされま す。ネームサービスを実行していなく て、あるシステムの <code>hostname</code> または <code>ip_addr</code> を指定した場合は、そのシステム の時刻を使って時刻が設定されます。
モニタータイ プ	IA	<code>monitor=monitor_type</code>	インストールしたいシステム上で <code>kdmconfig -d filename</code> を実行すると、そ の出力が <code>sysidcfg</code> ファイルに追加されま す。
キーボード言 語、キーボー ド配置	IA	<code>keyboard=keyboard_language {layout=value}</code>	インストールしたいシステム上で <code>kdmconfig -d filename</code> を実行すると、そ の出力が <code>sysidcfg</code> ファイルに追加されま す。
グラフィック スカード、カ ラー深度、表 示解像度、画 面サイズ	IA	<code>display=graphics_card {size=screen_size depth=color_depth resolution=screen_resolution}</code>	インストールしたいシステム上で <code>kdmconfig -d filename</code> を実行すると、そ の出力が <code>sysidcfg</code> ファイルに追加されま す。
ポインティン グデバイス、 ボタン数、IRQ レベル	IA	<code>pointer=pointing_device {nbuttons=number_buttons irq=value}</code>	インストールしたいシステム上で <code>kdmconfig -d filename</code> を実行すると、そ の出力が <code>sysidcfg</code> ファイルに追加されま す。

▼ sysidcfg 構成ファイルを作成する方法

1. テキストエディタを使って `sysidcfg` という名前のファイルを作成します。
2. 必要な `sysidcfg` のキーワードを入力します。
3. `sysidcfg` ファイルを保存します。

注 - 複数の `sysidcfg` ファイルを作成する場合は、それぞれのファイルを別々のディレクトリまたは別々のフロッピーディスクに保存する必要があります。

4. クライアントから次のファイルシステムまたはディレクトリを介して `sysidcfg` ファイルにアクセスできるようにします。
 - 共有 NFS ファイルシステム。システムがネットワーク上でインストールできるように設定する際に、`add_install_client(1M)` の `-p` オプションで指定します。
 - UFS フロッピーディスクまたは PCFS フロッピーディスクのルート(/)ディレクトリ

SPARC: sysidcfg ファイルの例

一連の SPARC システムのための `sysidcfg` ファイルの例を次に示します。これらのシステムのホスト名、IP アドレス、およびネットマスクは、ネームサービスを編集することにより、すでに事前設定されています。このファイルにはすべてのシステム構成情報が事前設定されているので、カスタム JumpStart プロファイルを使ってカスタム JumpStart インストールを実行できます。

```
system_locale=en_US
timezone=US/Central
terminal=sun-cmd
timeserver=localhost
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
                  name_server=connor(129.152.112.3)}
root_password=m4QPOWNY
```

IA: sysidcfg ファイルの例

一連の IA システムで、キーボード、グラフィックスカード、ポインティングデバイスがすべて同じ場合の sysidcfg ファイルの例を次に示します。これらのデバイス情報 (keyboard、display、pointer) は、kdmconfig(1M) -d コマンドを実行して取得したものです。この例では、Solaris インストールプログラムで使用される言語 (system_locale) を選択するプロンプトがインストール前に表示されます。

```
keyboard=ATKBD {layout=US-English}
display=ati {size=15-inch}
pointer=MS-S
timezone=US/Central
timeserver=connor
terminal=ibm-pc
name_service=NIS {domain_name=marquee.central.sun.com
                  name_server=connor(129.152.112.3)}
root_password=URFUni9
```

ネームサービスによる事前設定

次の表は、システム構成情報を事前設定するために編集および入力を行う必要があるネームサービスデータベースの概要を示したものです。

事前設定するシステム情報	ネームサービスデータベース
ホスト名と IP アドレス	hosts
日付と時刻	hosts。インストール対象のシステムに日付と時刻を提供するシステムのホスト名で timehost というホストの別名を持つマシンを使用する。
時間帯	timezone
ネットマスク	netmasks

DNS や LDAP のネームサービスでは、システムのロケールを事前設定することはできません。NIS や NIS+ のネームサービスを使用する場合は、そのネームサービスの手順に従ってシステムのロケールを事前設定してください。

- 68 ページの「NIS を使ってロケールを事前設定する方法」
- 70 ページの「NIS+ を使ってロケールを事前設定する方法」

▼ NIS を使ってロケールを事前設定する方法

1. ネームサーバー上でスーパーユーザーになります。
2. /var/yp/Makefile ファイルを編集して、ローカルマップを追加します。
 - a. エントリの後に、以下を追加します。

```
locale.time: $(DIR)/locale
    -@if [ -f $(DIR)/locale ]; then \
        sed -e "/^#/d" -e s/#.*$$// $(DIR)/locale \
        | awk '{for (i = 2; i<=NF; i++) print $$i, $$0}' \
        | $(MAKEDBM) - $(YPDBDIR)/$(DOM)/locale.byname; \
        touch locale.time; \
        echo "updated locale"; \
        if [ ! $(NOPUSH) ]; then \
            $(YPPUSH) locale.byname; \
            echo "pushed locale"; \
        else \
            ; \
        fi \
    else \
        echo "couldn't find $(DIR)/locale"; \
    fi
```

- b. 文字列 all: を検索し、変数リストの最後に locale という語を挿入します。

```
all: passwd group hosts ethers networks rpc services protocols \
netgroup bootparams aliases publickey netid netmasks c2secure \
timezone auto.master auto.home locale
```

- c. 文字列 locale: locale.time をファイルの後方にある同じようなエントリの最後に追加します。

```
passwd: passwd.time
group: group.time
hosts: hosts.time
ethers: ethers.time
networks: networks.time
rpc: rpc.time
services: services.time
protocols: protocols.time
netgroup: netgroup.time
bootparams: bootparams.time
aliases: aliases.time
publickey: publickey.time
netid: netid.time
passwd.adjunct: passwd.adjunct.time
group.adjunct: group.adjunct.time
netmasks: netmasks.time
timezone: timezone.time
auto.master: auto.master.time
auto.home: auto.home.time
locale: locale.time
```

d. ファイルを保存します。

3. /etc/locale というファイルを作成し、ドメインまたは特定のシステムに対して1つのエントリを作成します。

```
locale domain_name
```

または

```
locale system_name
```

注 - 使用できるロケール値のリストについては、第 38 章を参照。

たとえば次の行は、worknet.com ドメインに対してデフォルト言語として日本語を指定しています。

```
ja worknet.com
```

たとえば次の行は、sherlock というシステムに対してデフォルトロケールとして日本語を指定しています。

```
ja charlie
```

注 - ロケールは、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に入っています。

4. マップを作成します。

```
# cd /var/yp; make
```

これでドメインまたは locale マップで個別に指定したシステムは、デフォルトのロケールを使用するように設定されました。ここで指定したデフォルトのロケールは、インストール時に使用されるとともに、システムのリブート後のデスクトップでも使用されます。

▼ NIS+ を使ってロケールを事前設定する方法

この手順は、NIS+ ドメインが設定されていると仮定しています。NIS+ ドメインの設定方法は、『Solaris ネーミングの管理』で説明しています。

1. ネームサーバーに、スーパーユーザーまたは **NIS+ admin** グループのユーザーとしてログインします。
2. locale テーブルを作成します。

```
# nistbladm -D access=og=rmcd,nw=r -c locale_tbl name=SI,nogw=locale=,nogw= comment=,nogw= locale.org_dir.'nisdefaults -d'
```

3. locale に必要なエントリを追加します。

```
# nistbladm -a name=name locale=locale comment=comment
locale.org_dir.'nisdefaults -d'
```

このコマンド行では：

- *name* はドメイン名または特定のシステム名。これはデフォルトロケールを事前設定する対象となる。
- *locale* はシステムにインストールし、システムのリブート後にデスクトップ表示で使用するロケール。使用できるロケール値のリストについては、第 38 章を参照。
- *comment* はコメントフィールド。複数の単語を使ったコメントは、前後を二重引用符で囲むこと。

注 - ロケールは、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に入っています。

これでドメインまたは locale テーブルで個別に指定したシステムは、デフォルトロケールを使用するように設定されました。ここで指定したデフォルトロケールは、インストール時に使用されるとともに、システムのリブート後のデスクトップでも使用されます。

SPARC: 電源管理情報の事前設定

Solaris の電源管理ソフトウェアを使用すると、システムが 30 分間アイドル状態になると自動的にシステム状態を保存し電源を切ることができます。sun4u SPARC システム (および EPA の省電力 (Energy Star) ガイドラインのバージョン 2 に準拠したすべてのシステム) に Solaris ソフトウェアをインストールするときは、デフォルトで電源管理ソフトウェアもインストールされ、インストール後のリブート時に、この電源管理ソフトウェアを有効または無効にするかを尋ねられます。

対話式インストールを実行している場合は、電源管理情報を事前設定してプロンプトを回避する方法はありません。カスタム JumpStart インストールでは、finish スクリプトを使ってシステムに /autoshtutdown または /noautoshtutdown ファイル

を作成することで、電源管理情報を事前設定できます。システムのリブート時に、/autoshtutdown は電源管理ソフトウェアを有効にし、/noautoshtutdown ファイルは電源管理ソフトウェアを無効にします。

たとえば、**finish** スクリプトに次の行を入れておくと電源管理ソフトウェアが有効になり、システムリブート後にプロンプトが表示されないようにすることができます。

```
touch /a/autoshtutdown
```

finish スクリプトの詳細は、225 ページの「**finish** スクリプトの作成」を参照してください。

Solaris オペレーティング環境のアップグレード

この章では、Solaris オペレーティング環境をアップグレードする前に行う必要がある作業についての情報や手順を説明します。

- 73 ページの「アップグレード」
- 75 ページの「カスタム JumpStart によるアップグレード」
- 75 ページの「ディスク容量の再配置を使用するアップグレード」
- 76 ページの「アップグレード前のシステムのバックアップ」
- 76 ページの「Solaris 8 Update リリースへのアップグレード」

アップグレード

アップグレードでは、システムのディスクにある既存のファイルと Solaris オペレーティング環境の新しいバージョンがマージされます。アップグレードでは、既存の Solaris オペレーティング環境に対して行なった変更はできるだけ保存されます。

アップグレードできるシステムは、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、または Solaris 7 ソフトウェアが動作しているものです。Solaris 8 が動作しているシステムは、Solaris 8 Update リリースにアップグレードできます。システムで動作している Solaris のバージョンを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ uname -a
```

Solaris オペレーティング環境のアップグレードでは、次のインストール方法を使用できます。

注 - ディスクレスクライアントをアップグレードする場合は、`smosservice patch` コマンドを使用する必要があります。詳細は、『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』または `smosservice(1M)` のマニュアルページを参照してください。

表 8-1 SPARC: Solaris のアップグレード方法

現在の Solaris オペレーティング環境	Solaris のアップグレード方法
Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8	<ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris Web Start プログラム ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart

表 8-2 IA: Solaris のアップグレード方法

現在の Solaris オペレーティング環境	Solaris のアップグレード方法
Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7	DVD メディアまたはネットインストールイメージからのインストール: <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris Web Start プログラム ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart CD メディアからのインストール: <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart
Solaris 8	DVD/CD メディアまたはネットインストールイメージからのインストール: <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris Web Start プログラム ■ Solaris 8 対話式インストールプログラム ■ カスタム JumpStart

システムのソフトウェアグループを、アップグレード時に別のソフトウェアグループに変更することはできません。たとえば、システムに エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループがインストールされている場合には、開発者システムサポートソフトウェアグループにアップグレードするオプションはありません。た

だし、アップグレード中に、インストール済みのソフトウェアグループに属していないソフトウェアをシステムに追加することはできません。

カスタム JumpStart によるアップグレード

カスタム JumpStart インストールを使用してアップグレードを行う場合は、カスタム JumpStart プロファイルに `install_type upgrade` を指定する必要があります。

さらに、実際にアップグレードを行う前に、システムの現在のディスク構成およびシステムに現在インストールされているソフトウェアに対して、カスタム JumpStart プロファイルが目的どおりのことを実行しようとしているかを確認する必要があります。プロファイルをテストするには、アップグレードするシステムで `pfinstall -D` コマンドを使用します。ディスク構成ファイルを使用してアップグレード用プロファイルをテストすることはできません。アップグレード用プロファイルのテストについての詳細は、215 ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

ディスク容量の再配置を使用するアップグレード

Solaris 8 対話式インストールプログラムや Solaris Web Start のアップグレードオプションには、アップグレードに十分なディスク容量が現在のファイルシステム上にない場合、ディスク容量を再配置する機能があります。自動再配置機能が、アップグレードが成功するようにディスク容量を再配置します。

Solaris Web Start の自動配置機能がディスク容量をどのように再配置するかを決定できない場合は、Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してアップグレードを行う必要があります。

Solaris 8 対話式インストールプログラムの自動配置機能が、ディスク容量をどのように再配置するかを決定できない場合は、移動または変更してもよいファイルシステムを指定してから再び自動配置機能を実行します。

カスタム JumpStart によるアップグレードでアップグレード用プロファイルを作成する際に、ディスク容量が問題になることがあります。現在のファイルシステムに十分なディスク容量がない場合は、`backup_media` と `layout_constraint` キーワードを使用してディスク容量を再配置することができます。`backup_media`

と `layout_constraint` キーワードの使用例については、例 23-5 を参照してください。

アップグレード前のシステムのバックアップ

Solaris オペレーティング環境のアップグレードを行う前に既存システムのバックアップを行う必要があります。ファイルシステムをテープなどの取り外し可能媒体にコピーすれば、データの損失や損傷、破壊などを防止できます。システムのバックアップ手順についての詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

Solaris 8 Update リリースへのアップグレード

すでに Solaris 8 オペレーティング環境を実行していて、システムに個別のパッチがインストールされている場合、Solaris 8 Update リリースへのアップグレードを行うと、パッチは次のようになります。

- Solaris 8 Update リリースの一部として組み込まれているパッチは自動的に再適用されます。これらのパッチをバックアウトすることはできません。
- システムにすでにインストールされているパッチのうち、Solaris 8 Update リリースに組み込まれていないパッチは削除されます。

パッチアナライザを使用すれば、Solaris 8 Update リリースにアップグレードしたときに、これらのパッチのうちどれが削除されるかを確認することができます。パッチアナライザの使い方は、インストール方法によって異なります。

- Solaris Web Start を使用してアップグレードする場合は、「パッチの解析 (Patch Analyzer)」画面が表示されるので「はい (Yes)」を選択して解析を実行します。
- Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してアップグレードする場合は、「パッチの解析 (Patch Analysis)」画面で「解析 (Analyze)」を選択して解析を実行します。

- カスタム JumpStart インストールを使用してアップグレードする場合は、`analyze_patches` スクリプトを実行して解析を実行します。詳細は、77 ページの「`analyze_patches` スクリプトを実行する方法」を参照してください。

パッチ解析結果の見方については、78 ページの「パッチアナライザの出力の見方」を参照してください。

▼ `analyze_patches` スクリプトを実行する方法

注 - `analyze_patches` スクリプトを実行するには、NFS またはローカルにマウントされた媒体上のスクリプトによって、インストールされた既存のシステム、および Solaris 8 DVD、Solaris 8 SOFTWARE CD、またはネットワーク上のイメージにアクセスできる必要があります。

1. Misc ディレクトリに移動します。

- SPARC: イメージが、ローカルにマウントされた媒体上にある場合は、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/sol_8_Update_sparc/s0/Solaris_8/Misc
```

ここで、`Update` は実際の Update 識別子です (600、1000、u4 など)。

- IA: イメージが、ローカルにマウントされた媒体上にある場合は、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/sol_8_Update_ia/s2/Solaris_8/Misc
```

ここで、`Update` は実際の Update 識別子です (600、1000、u4 など)。

- イメージが NFS ファイルシステムにある場合は、次のように入力します。

```
# cd /NFS_mount_directory/Solaris_8/Misc
```

2. `analyze_patches` スクリプトを実行します。

```
# ./analyze_patches [-R rootdir] [-N netdir] [-D databasedir]
```

-R <i>rootdir</i>	<i>rootdir</i> は、インストールされたシステムのルートです。デフォルトで / に設定されます。
-N <i>netdir</i>	<i>netdir</i> は、インストールされる OS イメージのルートへのパスです。デフォルトは /cdrom/cdrom0 です。つまり、 <i>netdir</i> は、Solaris_8 ディレクトリを含むディレクトリへのパスです。 <i>patch_analyzer</i> を NFS マウントポイントから実行する場合は、このオプションが必要です。
-D <i>datbasedir</i>	スクリプトを OS イメージの Misc ディレクトリ以外のディレクトリから起動すると、パッチ解析に使用するデータベースを検索できません。したがって、-D オプションでこのデータベースへのパスを指定します。このデータベースがないと、スクリプトは正しく動作しません。このデータベースは、OS イメージの Solaris_8/Misc/database にあります。

▼ パッチアナライザの出力の見方

解析を実行したら、次の手順で出力を検討します。

1. パッチアナライザの出力を確認します。

パッチアナライザからは、ほかのパッチによって削除、ダウングレード、置き換えられ削除されるパッチのリストが出力されます。パッチの置き換えは、パッチアップグレードと同等のものです。置き換えられるパッチは削除され、新しいパッチによってその修正が適用されます。パッチ解析の結果、次のようなメッセージが表示されます。

```
Patch 105644-03 will be removed.
Patch 105925 will be downgraded from -02 to -01.
Patch 105776-01 will be accumulated/obsoleted by patch 105181-05.
```

パッチアナライザからリストが出力されない場合は、システムにすでにインストールされているパッチに対する処理は何も行われません。

2. パッチの置き換えや削除が適切かどうかを判断します。

- 適切な場合は、システムをアップグレードします。
- 適切でない場合は、システムのアップグレードを中止します。

Solaris 8 Maintenance Update を使用すれば、パッチだけをシステムに適用することができます。

注 - Solaris 8 Maintenance Update については、ご購入先にお問い合わせください。パッチの適用手順については、『Solaris 8 Maintenance Update ご使用にあたって』を参照してください。

ネットワーク上でインストールする準備

以下の章では、DVD メディアや CD メディアを利用するのではなくネットワークを使用して Solaris ソフトウェアをインストールする場合のシステム設定の方法を説明します。

第 10 章	インストールサーバーから Solaris ソフトウェアをインストールする方法の概要と計画について説明します。
第 11 章	DVD メディアからインストールサーバーに Solaris ソフトウェアをコピーする手順を説明します。
第 12 章	CD メディアからインストールサーバーに Solaris ソフトウェアをコピーする手順を説明します。
第 13 章	ネットワークインストールを設定するコマンドについて説明します。

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (概要)

この章では、DVD または CD メディアからではなくネットワークから Solaris ソフトウェアをインストールする場合にネットワークとシステムをどのように設定する必要があるかを説明します。

ネットワークインストールの計画

この節では、ネットワークからインストールを行う前に認識しておくべき事柄を説明します。ネットワークインストールを利用すると、Solaris 8 ディスクイメージへのアクセス権を持つインストールサーバーと呼ばれるシステムから、ネットワーク上のほかのシステムに Solaris ソフトウェアをインストールできます。その場合には、まず Solaris 8 DVD または CD メディアの内容をインストールサーバーのハードディスクにコピーする必要があります。これで、任意の Solaris インストール方法を使用して Solaris ソフトウェアをネットワーク上でインストールできます。

ネットワークインストールに必要なサーバー

ネットワーク上で Solaris オペレーティング環境をインストールするには、次のサーバーがネットワーク上に存在する必要があります。

- インストールサーバー – Solaris 8 ディスクイメージ (CD イメージまたは DVD イメージ) が格納された、ネットワークに接続されたシステム。このシステムからネットワーク上の別のシステムに Solaris 8 をインストールできます。インストー

ルサーバーを作成するには、以下のメディアの1つからイメージをコピーします。

- Solaris 8 DVD
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD からイメージをコピーした後に、必要に応じて Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 8 INSTALLATION CD、および Solaris 8 LANGUAGES CD からイメージをコピーすることもできます。

1 台のインストールサーバーで、異なる Solaris リリースや異なるプラットフォームに対して別々のディスクイメージを提供できます。それには、提供する複数のイメージをインストールサーバーのハードディスクにコピーする必要があります。たとえば、1 台のインストールサーバーに SPARC プラットフォームと IA プラットフォームのディスクイメージを格納できます。

インストールサーバーの作成についての詳細は、次に示す節のどれかを参照してください。

- 91 ページの「SPARC または IA DVD メディアを使用して SPARC インストールサーバーを作成する方法」
 - 94 ページの「SPARC または IA DVD メディアを使用して IA インストールサーバーを作成する方法」
 - 107 ページの「CD メディアを使用してインストールサーバーを作成する方法」
-
- ブートサーバー - ネットワーク上でインストールされるシステムをブートするためのシステム。ブートサーバーとインストールサーバーは、通常は同じシステムです。しかし、Solaris 8 ソフトウェアをインストールする予定のシステムがインストールサーバーとは異なるサブネット上に存在する場合で、DHCP を使用していないときは、そのサブネットにブートサーバーが存在しなければなりません。

注 - DHCP を使用する場合は、ブートサーバーを個別に作成する必要はありません。詳細は、86 ページの「DHCP によるネットワークインストールパラメータの指定」を参照してください。

1 台のブートサーバーで、複数のリリースの Solaris ブートソフトウェア (異なるプラットフォームの Solaris 8 ブートソフトウェアも含む) を提供できます。たとえば、SPARC ブートサーバーは、SPARC システムに Solaris 8 のブートソフ

トウェアを提供できます。同時に IA システムに Solaris 8 のブートソフトウェアを提供することもできます。

ブートサーバーの作成についての詳細は、次に示す節のいずれかを参照してください。

- 96 ページの「DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成」
- 111 ページの「CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する」
- (省略可能) ネームサーバー - 分散ネットワークデータベース (NIS+ や LDAP など) を管理するシステム。これには、同じネットワーク上のユーザーやほかのシステムの情報が含まれています。

ネームサーバーの詳しい作成方法については、『Solaris ネーミングの管理』を参照してください。

注 - インストールサーバーとネームサーバーは、同じシステムであっても別のシステムであってもかまいません。

図 10-1 は、ネットワークインストールに使用される一般的なサーバー構成を示したものです。

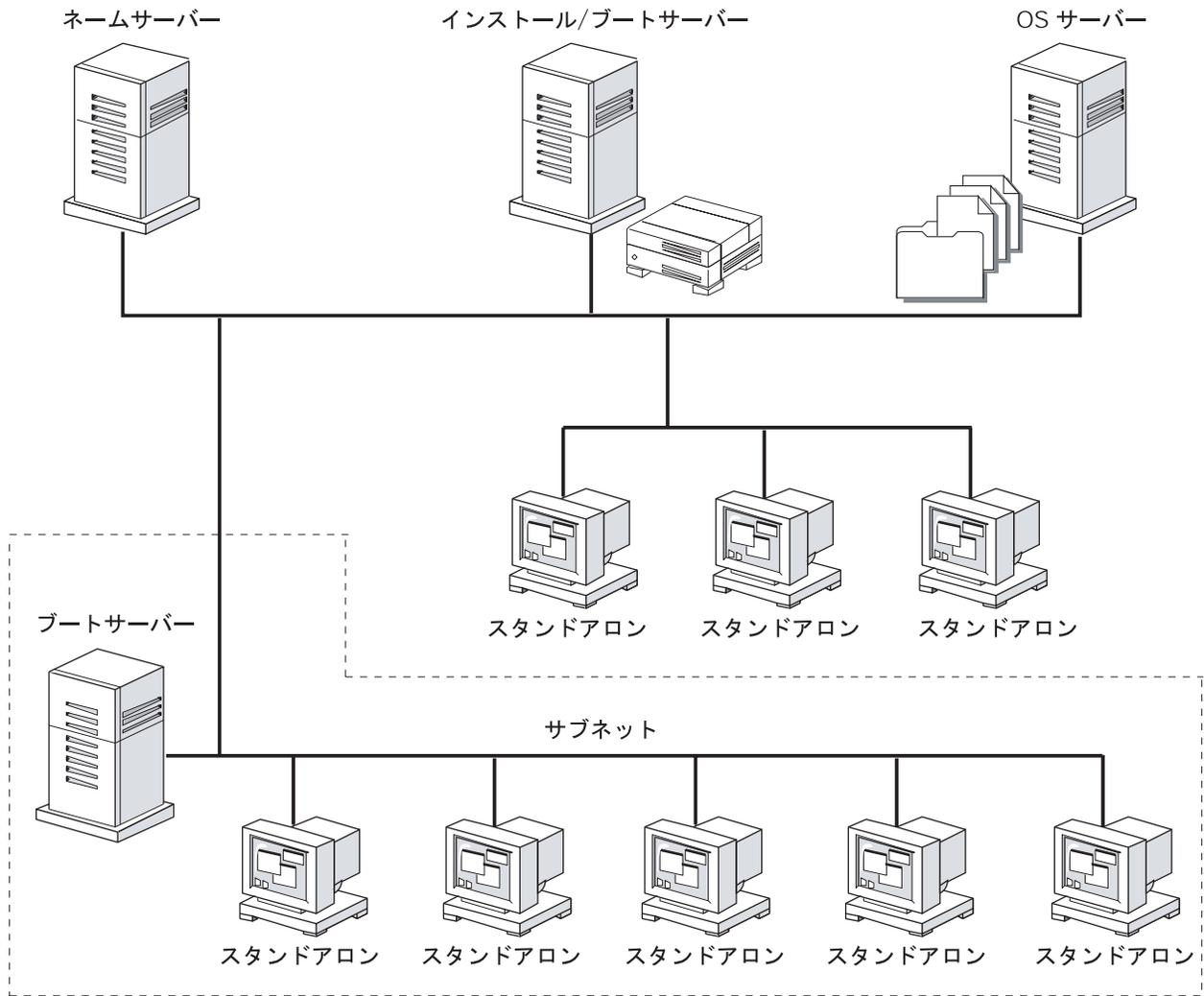


図 10-1 ネットワークインストールサーバー

DHCP によるネットワークインストールパラメータの指定

DHCP を使用する場合は、個別のブートサーバーを作成する必要はありません。インストールサーバーを作成し終わったところで、`add_install_client` コマンドを使用してネットワークにクライアントを追加します。`add_install_client` コマンドの `-d` オプションを指定すると、DHCP を使用してネットワークから Solaris

をインストールできるようにクライアントシステムを設定できます。DHCP は、インストールに必要なネットワークパラメータを提供します。インストールパラメータ用の DHCP オプションについての詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 3 巻)』を参照してください。

ネットワークで Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用)

この章では、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備として DVD メディアを使用してネットワークとシステムを設定する方法を説明します。ネットワークインストールを使用すると、Solaris 8 CD イメージまたは DVD イメージにアクセスできるシステム (インストールサーバーと呼ばれる) から、ネットワーク上のほかのシステムに Solaris ソフトウェアをインストールできます。その場合には、まず Solaris 8 DVD メディアの内容をインストールサーバーのハードディスクにコピーする必要があります。これで、任意の Solaris インストール方法を使用して Solaris ソフトウェアをネットワーク上でインストールできます。この章の内容は次のとおりです。

- 89 ページの「作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用)」
- 90 ページの「DVD メディアによるインストールサーバーの作成」
- 96 ページの「DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成」
- 99 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」

作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用)

表 11-1 ネットワークで Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (DVD メディアを使用)

作業	説明	参照先
インストールサーバーを作成する	setup_install_server(1M) コマンドを使用して Solaris 8 DVD をインストールサーバーのハードディスクにコピーします。	90 ページの「DVD メディアによるインストールサーバーの作成」
(省略可能) ブートサーバーを作成する	インストールサーバーと異なるサブネット上にあるシステムをネットワーク上でインストールする場合で、DHCP を使用しないときは、システムをブートするためのブートサーバーをサブネット上に作成する必要があります。	96 ページの「DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成」
ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	ネットワーク上で Solaris 8 ソフトウェアがインストールできるように個々のシステムを設定します。インストールする各システムには、インストールサーバー、ブートサーバー、および構成情報が置かれているネットワーク上の場所を認識させる必要があります。	99 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」

DVD メディアによるインストールサーバーの作成

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールするためには、インストールサーバーを作成する必要があります。インストールするシステムがインストールサーバーと同じサブネットに存在しておらず、DHCP を使用しないという場合は、次のいずれかを実施する必要があります。

- サブネットごとにブートサーバーを作成する。
- サブネットごとにインストールサーバーを作成する。ただし、この方法では、より多くのディスク容量が必要です。

▼ SPARC または IA DVD メディアを使用して SPARC インストールサーバーを作成する方法

注 [SPARC] - SunOS 4.1.x システムをインストールサーバーとして使用することはできません。

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにメディアを管理する方法については、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. インストールサーバーとして使用する **SPARC** システムでスーパーユーザーになります。

このシステムには DVD-ROM ドライブが必要です。さらに、システムは、このサイトのネットワークに接続されネームサービスに登録されている必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムのネームサービスは、NIS、NIS+、DNS、LDAP のいずれかでなければなりません。ネームサービスを使用しない場合は、サイトのポリシーに従ってシステムの情報を分散する必要があります。

2. システムのドライブに **Solaris 8 DVD** を挿入します。
3. ブートイメージをコピーするディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

install_dir_path

DVD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

4. **Solaris 8 DVD** をインストールサーバーのハードディスクにインストールするかどうかを決定します。

- インストールする場合は、このまま継続します。
 - インストールしない場合は、92 ページの手順 8 へ進みます。
5. マウントされたディスクの Tools ディレクトリへ移動します。

- SPARC DVD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
```

- IA DVD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
```

6. `setup_install_server` コマンドを使用して、ドライブ内のディスクをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

install_dir_path

DVD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

注 - `setup_install_server` コマンドは、Solaris 8 ソフトウェアのディスクイメージをコピーする十分なディスク容量があるかどうかを調べます。利用できるディスク容量を調べるには、`df -k1` コマンドを使用します。

7. **Solaris 8 DVD** を取り出します。
8. `setup_install_server` によって作成されたネットインストールイメージ上のミニルート (`Solaris_8/Tools/Boot`) にあるファイルにパッチを適用するか決定します。
- パッチを適用しない場合は、このまま継続します。
 - 適用する場合は、`patchadd -C` コマンドを使用して、ミニルートにあるファイルにパッチを適用します。
9. ブートサーバーを作成する必要があるかどうかを判断します。

- インストールサーバーがインストールするシステムと同じサブネット上にあるか、あるいは DHCP を使用している場合は、ブートサーバーを作成する必要はありません。99 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」へ進みます。
- インストールサーバーがインストールするシステムと同じサブネット上に存在せず、DHCP を使用していない場合は、ブートサーバーを作成する必要があります。ブートサーバーの作成方法については、96 ページの「DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成」を参照してください。

例 11-1 SPARC: SPARC DVD を使用して SPARC インストールサーバーを作成する
次に、インストールサーバーの `/export/home/s8dvdsparc` ディレクトリに
Solaris 8 DVD をコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示します。

```
# mkdir -p /export/home/s8dvdsparc
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server /export/home/s8dvdsparc
```

例 11-2 SPARC: IA DVD を使用して SPARC インストールサーバーを作成する
次に、Solaris 8 DVD をインストールサーバの `/export/home/s8dvdia` ディレク
トりにコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示します。

```
# mkdir -p /export/home/s8dvdia
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server /export/home/s8dvdia
```

▼ SPARC または IA DVD メディアを使用して IA インストールサーバーを作成する方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにメディアを管理する方法については、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. インストールサーバーとして使用する IA システムでスーパーユーザーになります。

このシステムには DVD-ROM ドライブが必要です。さらに、システムは、このサイトのネットワークに接続されネームサービスに登録されている必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムのネームサービスは、NIS、NIS+、DNS、LDAP のいずれかでなければなりません。ネームサービスを使用しない場合は、サイトのポリシーに従ってシステムの情報を分散する必要があります。

2. システムのドライブに **Solaris 8 DVD** を挿入します。
3. ブートイメージをコピーするディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

`install_dir_path` DVD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

4. **Solaris 8 DVD** をインストールサーバーのハードディスクにコピーするかどうかを決定します。
 - コピーする場合は、このまま継続します。
 - コピーしない場合は、95 ページの手順 8 へ進みます。
5. マウントされたディスクの `Tools` ディレクトリに移動します。

- IA DVD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
```

- SPARC DVD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
```

6. `setup_install_server` コマンドを使用して、ドライブ内のディスクをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

`install_dir_path` DVD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

注 - `setup_install_server` コマンドは、Solaris 8 ソフトウェアディスクイメージをコピーする十分なディスク容量があるかどうかを示します。利用できるディスク容量を調べるには、`df -k1` コマンドを使用します。

7. **Solaris 8 DVD** を取り出します。
8. `setup_install_server` によって作成されたネットインストールイメージ上のミニルート (`Solaris_8/Tools/Boot`) にあるファイルにパッチを適用するか決定します。
 - パッチを適用しない場合は、このまま継続します。
 - 適用する場合は、`patchadd -C` コマンドを使用して、ミニルートにあるファイルにパッチを適用します。
9. ブートサーバーを作成する必要があるかどうかを判断します。
 - インストールサーバーがインストールするシステムと同じサブネット上にあるか、あるいは DHCP を使用している場合は、ブートサーバーを作成する必要はありません。99 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」へ進みます。

- インストールサーバーがインストールするシステムと同じサブネット上に存在せず、DHCP を使用していない場合は、ブートサーバーを作成する必要があります。ブートサーバーの作成方法については、96 ページの「DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成」を参照してください。

例 11-3 IA DVD を使用して IA インストールサーバーを作成する

次に、インストールサーバーの `/export/home/s8dvdsparc` ディレクトリに Solaris 8 DVD をコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示します。

```
# mkdir -p /export/home/s8dvdsparc
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server /export/home/s8dvdsparc
```

例 11-4 SPARC DVD を使用して IA インストールサーバーを作成する

次に、インストールサーバーの `/export/home/s8dvdia` ディレクトリに Solaris 8 DVD をコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示します。

```
# mkdir -p /export/home/s8dvdia
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server /export/home/s8dvdia
```

DVD イメージによるサブネット上でのブートサーバーの作成

ネットワーク上の任意のインストールサーバーから、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールできます。DHCP を示す `-d` オプションを指定して `add_install_client` コマンドを実行する場合は、ブートサーバーを作成する必要はありません。DHCP は、インストールに必要なインストールパラメータを提供します。しかし、システムがほかのサブネット上のインストールサーバーを使用する必要があり、DHCP を使用しないという場合、そのシステムはそれ自体のサブネット上に別のブートサーバーを持つ必要があります。ブートサーバーには、ネットワー

ク上でシステムをブートするために必要なブートソフトウェアが含まれています。一方、インストールサーバーは Solaris ソフトウェアのインストールを行います。

▼ DVD イメージを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにメディアを管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. サブネット内でブートサーバーとして使用するシステムにログインし、スーパーユーザーになります。

システムには、リモート Solaris 8 ディスクイメージへのアクセス権がなければなりません。ネームサービスを使用する場合、システムのネームサービスは、NIS、NIS+、DNS、LDAP のいずれかでなければなりません。ネームサービスを使用しない場合は、サイトのポリシーに従ってシステムの情報を分散する必要があります。

2. NFS サーバー上のイメージから **Solaris 8 DVD** をマウントします。

```
# mount -F nfs -o ro,anon=0 server_name:path /mnt
```

server_name: path ホスト名と、ディスクイメージの絶対パスを指定します。

3. マウントしたディスクイメージのディレクトリに移動します。

```
# cd /mnt
```

4. 次のように入力して、**Solaris 8 DVD** イメージの Tools ディレクトリに移動します。

```
# cd Solaris_8/Tools
```

5. ブートソフトウェアをブートサーバーにコピーします。

```
# ./setup_install_server -b boot_dir_path
```

-b システムをブートサーバーとして設定することを示します。

boot_dir_path ブートソフトウェアをコピーするディレクトリを指定します。

注 - setup_install_server コマンドは、Solaris 8 ソフトウェアのディスクイメージをコピーする十分なディスク容量があるかどうかを調べます。利用できるディスク容量を調べるには、df -k1 コマンドを使用します。

以上の操作で、ネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する用意が整います。99 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。

例 11-5 SPARC: サブネット上にブートサーバーを作成する

次の例は、ブートサーバーをサブネット上に作成する方法を示したものです。これらのコマンドを実行すると、ブートソフトウェアが Solaris 8 DVD イメージからシステムのローカルディスク上の /export/home/s8dvdsparc にコピーされます。

```
# mount -F nfs -o ro,anon=0 crystal:/export/home/s8dvdsparc /mnt
# cd /mnt
# cd Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server -b /export/home/s8dvdsparc
```

この例では、コマンドを実行する前に各ディスクがドライブに挿入され、自動的にマウントされるものとします。コマンドを実行すると、ディスクが取り出されます。

ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定

インストールサーバーとブートサーバー (必要な場合) を作成したあと、ネットワーク上でインストールする各システムを設定する必要があります。インストールするシステムが、次の情報にアクセスできなければなりません。

- インストールサーバー
- ブートサーバー (必要な場合)
- `sysidcfg` ファイル (`sysidcfg` ファイルを使用してシステム構成情報を事前設定する場合)
- ネームサーバー (ネームサービスを使用してシステム構成情報を事前設定する場合)
- プロファイルサーバー上の `JumpStart` ディレクトリにあるプロファイル (カスタム `JumpStart` インストールを使用する場合)

ネットワークを使用してインストールする場合、システムはこの情報を `/etc` ファイルの `bootparams` データベース、NIS、NIS+、DNS、または LDAP のネームサービスから取得します。したがって、ネットワークからインストールされる各システムのネームサービスにこの情報を追加しておく必要があります。この情報を追加するには、`add_install_client` コマンドを使用します。

注 - `/etc` ファイルを使用してネットワークインストール情報を保存する場合、その情報はインストールサーバーまたはブートサーバー (ブートサーバーが必要な場合) 上に存在する必要があります。

▼ ネットワーク上でインストールするシステムを設定する方法 (DVD メディアの `add_install_client` を使用)

ネットワーク上でインストールするシステムを設定するには、`add_install_client (1M)` コマンドを使用します。ブートサーバーが必要な場合、このコマンドはインストールサーバーとインストールサーバー上で実行する必要があります。

注 - `add_install_client` コマンドは `/etc` ファイルだけを更新します。

この手順では、*host1* はインストールサーバー、*host2* はブートサーバーを表します。

1. インストールサーバー (*host1*) で、スーパーユーザーになります。
2. **NIS** または **NIS+** ネームサービスを使用する場合は、インストールされるシステムに関して次の情報が `/etc` ファイル内のネームサービスに追加されていることを確認します。
 - ホスト名
 - IP アドレス
 - Ethernet アドレス
3. インストールサーバーの **Solaris 8 DVD** イメージ上の `Tools` ディレクトリに移動します。

```
host1# cd Solaris_8/Tools
```

4. `add_install_client` コマンドを使用して、ネットワーク上でインストールされるシステムを設定します。

```
host1# ./add_install_client [-d] [-c server:jumpstart_dir_path] \  
[-p server:path] client_name platform_group
```

<code>-d</code>	クライアントが DHCP を使用してネットワークインストールパラメータを取得することを指定します。 IA クライアントの場合、このオプションを指定し、PXE ネットワークブートを使用してネットワークからシステムをブートしてください。
<code>-c server:jumpstart_dir_path</code>	カスタム JumpStart インストールの JumpStart ディレクトリを指定します。server には JumpStart ディレクトリがあるサーバーのホスト名を、jumpstart_dir_path には JumpStart ディレクトリへの絶対パスをそれぞれ指定します。
<code>-p server:path</code>	システムの構成情報を事前設定するための sysidcfg ファイルを指定します。server は、このファイルを含んでいるサーバーの有効なホスト名または IP アドレスです。path は、sysidcfg ファイルの絶対パスです。
<code>client_name</code>	ネットワーク上でインストールされるシステムのホスト名 (インストールサーバーのホスト名ではない)。このコマンドが機能するためには、ホストがネームサービスに登録されている必要があります。
<code>platform_group</code>	インストールするシステムのプラットフォームグループ。詳細は、第 37 章を参照してください。

- ブートサーバー上でこのコマンドを実行する必要があるかどうかを決定します。
 - ブートサーバーが必要でない場合は、操作は以上で完了です。
 - ブートサーバーが必要な場合、このまま継続します。
- ブートサーバー (*host2*) でスーパーユーザーになります。
- ブートサーバーのブートディレクトリで、**Solaris 8 DVD** イメージ上の `Tools` ディレクトリに移動します。

```
host2# cd Solaris_8/Tools
```

- `add_install_client` コマンドを使用し、システムがブートサーバーからブートし、ネットワークからインストールされるように設定します。

```
host2# ./add_install_client [-d] [-c server:jumpstart_dir_path] \  
-s install_server:install_dir_path [-p server:path] client_name platform_group
```

- d** クライアントが DHCP を使用してネットワークインストールパラメータを取得することを指定します。
IA クライアントの場合、このオプションを指定し、PXE ネットワークブートを使用してネットワークからシステムをブートしてください。
- c server:jumpstart_dir_path** カスタム JumpStart インストールの JumpStart ディレクトリを指定します。server には JumpStart ディレクトリがあるサーバーのホスト名を、jumpstart_dir_path には JumpStart ディレクトリの絶対パスをそれぞれ指定します。
- s install_server:install_dir_path** インストールサーバーを指定します。このオプションは、add_install_client をブートサーバーで使用するときだけ必要となります。
install_server は、インストールサーバーのホスト名です。install_dir_path は、Solaris 8 DVD イメージの絶対パス名です。
- p server:path** システムの構成情報を事前設定するための sysidcfg ファイルを指定します。server は、このファイルを含んでいるサーバーの有効なホスト名または IP アドレスです。path は、sysidcfg ファイルの絶対パスです。
- client_name** ネットワーク上でインストールされるシステムのホスト名 (インストールサーバーのホスト名ではない)。このコマンドが機能するためには、クライアントがネームサービスに登録されている必要があります。
- platform_group** インストールするシステムのプラットフォームグループ。詳細は、第 37 章を参照してください。

例 11-6 SPARC: ネットワーク上でインストールされるように SPARC システムを設定する (add_install_client を使用)

次に、ネットワーク上でインストールされるように、basil という名前の Ultra™ 5 システムを追加する方法を示します。このシステムはブートサーバーが必要なため、コマンドはインストールサーバー上で実行され、ブートサーバー上で再度実行されます。-s オプションを使用して、install_server1 という名前のインストールサーバー (export/home/s8dvdsparc に Solaris 8 SPARC 版 DVD イメージを持っている) を指定しています。

```
host1# cd /export/install/boot/Solaris_8/Tools
host1# ./add_install_client basil sun4u
host2# cd /export/install/boot/Solaris_8/Tools
host2# ./add_install_client -s install_server1:/export/home/s8dvdsparc basil sun4u
```

例 11-7 x86: ネットワーク上でインストールされるように IA システムを設定する (add_install_client を使用)

次に、IA システムのブートとインストールが DHCP プロトコルを使用してネットワークから行われるように設定する方法を示します。-d オプションは、クライアントが構成に DHCP プロトコルを使用することを指定するために使用されます。PXE ネットワークブートを使用する場合は、DHCP プロトコルを使用する必要があります。DHCP クラス名 SUNW.i86pc は、このコマンドが単一のクライアントだけでなくすべての Solaris IA ネットワークに適用されることを意味します。-s オプションは、install_server1 という名前のインストールサーバーからクライアントがインストールされることを指定するために使用します (このサーバーの /export/home/s8dvdia には Solaris 8 Intel 版 DVD イメージが入っている)。

```
# cd /export/boot/Solaris_8/Tools
# ./add_install_client -d -s install_server1:/export/home/s8dvdia SUNW.i86pc i86pc
```


ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールするための準備 (CD メディアを使用)

この章では、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備として CD メディアを使用してネットワークとシステムを設定する方法を説明します。ネットワークインストールを使用すれば、Solaris 8 ディスク イメージにアクセスできるシステム (インストールサーバーと呼ばれます) から、ネットワーク上のほかのシステムに Solaris ソフトウェアをインストールすることができます。ユーザーは、まず CD メディアの内容をインストールサーバーのハードディスクにコピーする必要があります。これで、任意の Solaris インストール方法を使用して Solaris ソフトウェアをネットワーク上でインストールできます。この章の内容は次のとおりです。

- 105 ページの「作業マップ: ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」
- 106 ページの「CD メディアによる SPARC インストールサーバーの作成」
- 111 ページの「CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する」
- 115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」

作業マップ: ネットワーク上で **Solaris** ソフトウェアをインストールする準備

表 12-1 ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備 (作業マップ)

作業	説明	参照先
インストールサーバーを作成する	<p>setup_install_server(1M) コマンドを使用して Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD をインストールサーバーのハードディスクにコピーします。</p> <p>次に、add_to_install_server(1M) コマンドを使用して Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と Solaris 8 LANGUAGES CD をインストールサーバーのハードディスクに追加します。</p> <p>さらに、modify_install_server(1M) コマンドを使用してネットワークインストールイメージに Solaris Web Start ユーザーインタフェースソフトウェアを追加します。</p>	106 ページの「CD メディアによる SPARC インストールサーバーの作成」
(省略可能) ブートサーバーを作成する	<p>インストールサーバーと異なるサブネット上にあるシステムをネットワーク上でインストールする場合、DHCP を使用しないときは、システムをブートするためのブートサーバーをサブネット上に作成する必要があります。</p>	111 ページの「CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する」
ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	<p>ネットワーク上で Solaris 8 ソフトウェアがインストールできるように個々のシステムを設定します。インストールする各システムは、インストールサーバー、ブートサーバー、構成情報が配置されているネットワーク上の位置を認識する必要があります。</p>	115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」

CD メディアによる SPARC インストールサーバーの作成

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールするためには、インストールサーバーを作成する必要があります。インストールする予定のシステムがインストールサーバーと同じサブネット上に存在しておらず、DHCP を使用しない場合は、以下の作業のどちらかを実施する必要があります。

- サブネットごとにブートサーバーを作成する。
- サブネットごとにインストールサーバーを作成する。ただし、この方法には、より多くのディスク容量が必要です。

▼ CD メディアを使用してインストールサーバーを作成する方法

注 [SPARC] - SunOS 4.1.x システムは、インストールサーバーとしては使用できません。

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでメディアを管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『*System Administration Guide: Basic Administration*』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. インストールサーバーとして使用するシステムでスーパーユーザーになります。このシステムには **CD-ROM** ドライブが必要です。
さらに、システムは、このサイトのネットワークに接続されネームサービスに登録されている必要があります。ネームサービスを使用する場合、システムのネームサービスは、NIS、NIS+、DNS、LDAP のいずれかでなければなりません。ネームサービスを使用しない場合は、サイトのポリシーに従ってシステムの情報を分散する必要があります。
2. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** をシステムのドライブに挿入します。
3. ブートイメージ用のディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p install_dir_path
```

`install_dir_path` CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

4. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** および **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** をインストールサーバーのハードディスクにコピーするかどうかを決めます。
 - コピーする場合は、このまま続きます。
 - コピーしない場合は、110 ページの手順 19 へ進みます。

5. マウントされたディスクの **Tools** ディレクトリへ移動します。

- SPARC 版 CD の場合

```
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
```

- Intel 版 CD の場合

```
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
```

6. **setup_install_server** コマンドを使用して、ドライブ内のディスクをインストールサーバーのハードディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server install_dir_path
```

install_dir_path CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

注 - **setup_install_server** コマンドは、Solaris 8 ソフトウェアのディスクイメージをコピーする十分なディスク容量があるかどうかを示します。利用できるディスク容量を調べるには、**df -k1** コマンドを使用します。

7. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** を取り出します。
8. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。
9. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_8/Tools
```

10. **add_to_install_server** コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** をインストールサーバーのハードディスクに追加します。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

install_dir_path CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

11. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** を取り出します。
12. **Solaris 8 LANGUAGES CD** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。
13. マウントされた **CD** の **Tools** ディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Tools
```

14. `add_to_install_server` コマンドを使用して、**CD-ROM** ドライブ内の **CD** をインストールサーバーのハードディスクに追加します。

```
# ./add_to_install_server install_dir_path
```

install_dir_path CD イメージをコピーするディレクトリを指定します。

15. ユーザーが **Solaris Web Start** を使用してシステムをブートし、ネットワーク上で **Solaris 8** ソフトウェアをインストールできるように
 - しない場合は、**Solaris 8 LANGUAGES CD** を取り出して110 ページの手順 19 へ進みます。
 - する場合は、**Solaris 8 LANGUAGES CD** を取り出して継続します。
16. **Solaris 8 INSTALLATION CD** をシステムの **CD-ROM** ドライブに挿入します。

17. マウントされた **CD** の `modify_install_server` を含むディレクトリに移動します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/s0
```

18. `modify_install_server` コマンドを使用して、**Solaris Web Start** インタフェースソフトウェアをインストールサーバーに追加します。

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールするための準備 (CD メディアを使用) 109

```
# ./modify_install_server -p install_dir_path installer_miniroot_path
```

-p 既存イメージのミニルートを `install_dir_path/Solaris_8/Tools/Boot.orig` に保存します。

`install_dir_path` Solaris Web Start インタフェースをコピーするディレクトリを指定します。

`installer_miniroot_path` Solaris Web Start インタフェースのコピー元になる CD 上のディレクトリを指定します。

19. `setup_install_server` によって作成されたネットインストールイメージ上のミニルート (`Solaris_8/Tools/Boot`) にあるファイルにパッチを

- 適用しない場合は、このまま継続します。
- 適用する場合は、`patchadd -C` コマンドを使用して、ミニルートにあるファイルにパッチを適用します。

20. ブートサーバーを作成する必要があるかどうかを判断します。

- インストールサーバーがインストールするシステムと同じサブネット上にある場合、あるいは DHCP を使用する場合は、ブートサーバーを作成する必要はありません。115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」へ進みます。
- インストールされるシステムと同じサブネット上にインストールサーバーが存在しない場合で、DHCP を使用しないときは、ブートサーバーを作成する必要があります。ブートサーバーを作成する方法については、112 ページの「CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する方法」を参照してください。

例 12-1 SPARC: SPARC CD メディアを使用して SPARC インストールサーバーを作成する次の例は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)、および Solaris 8 INSTALLATION (Multilingual) CD (SPARC) をインストールサーバーの `/export/install` ディレクトリにコピーしてインストールサーバーを作成する方法を示しています。

```
# mkdir -p /export/install
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
```

```
# ./setup_install_server /export/install
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris_8/Tools
# ./add_to_install_server /export/install
# cd /cdrom/cdrom0/Tools
# ./add_to_install_server /export/install
# cd /cdrom/cdrom0/s0
# ./modify_install_server /export/install /cdrom/cdrom0/s2
```

この例では、各コマンドを実行する前に各 CD がドライブに挿入され、自動的にマウントされるものとします。各コマンドを実行すると、CD が取り出されます。

CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する

ネットワーク上の任意のインストールサーバーから、ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールできます。DHCP 用の `-d` オプションを指定して `add_install_client` コマンドを使用する場合は、ブートサーバーを作成する必要がありません。DHCP は、インストールに必要なインストールパラメータを提供します。しかし、別のサブネット上のインストールサーバーを使用する必要があり、DHCP を使用しないシステムは、それ自体のサブネット上に個別のブートサーバーを持つ必要があります。ブートサーバーには、ネットワーク上でシステムをブートするために必要なブートソフトウェアが含まれています。一方、インストールサーバーは Solaris ソフトウェアのインストールを行います。

▼ CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでメディアを管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. サブネット内でブートサーバーとして使用するシステムにログインし、スーパーユーザーになります。

システムには、ローカル CD-ROM ドライブが付属しているか、あるいはリモートの Solaris 8 ディスクイメージに対するアクセス権がなければなりません。ネームサービスを使用する場合、システムのネームサービスは、NIS、NIS+、DNS、LDAP のいずれかでなければなりません。ネームサービスを使用しない場合は、サイトのポリシーに従ってシステムの情報を分散する必要があります。

2. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** をドライブからマウントするか、**NFS** サーバーにあるイメージからマウントするかを決めます。

- ドライブからディスクをマウントしたい場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を挿入します。
- NFS サーバー上のイメージからディスクをマウントしたい場合は、以下の手順に従ってください。

1. Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージをマウントします。

```
# mount -F nfs -o ro server_name:path /mnt
```

`server_name: path` ディスクイメージのホスト名と絶対パスです。

2. マウントしたディスクイメージのディレクトリに移動します。

```
# cd /mnt
```

3. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** イメージの `Tools` ディレクトリに移動します。

```
# cd Solaris_8/Tools
```

4. ブートソフトウェアをブートサーバーにコピーします。

```
# ./setup_install_server -b boot_dir_path
```

`-b` システムをブートサーバーとして設定することを指定します。

`boot_dir_path` ブートソフトウェアをコピーするディレクトリを指定します。

注 - `setup_install_server` コマンドは、イメージをコピーする十分なディスク容量があるかどうかを示します。利用できるディスク容量を調べるには、`df -k1` コマンドを使用します。

5. **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** を取り出します。
6. **Solaris 8 INSTALLATION CD** をシステムのドライブに挿入します。
7. マウントされた **CD** の `modify_install_server` を含むディレクトリに移動します。

SPARC CD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s0
```

IA CD メディアの場合:

```
# cd /cdrom/cdrom0/s2
```

8. `modify_install_server` コマンドを使用して、**Solaris Web Start** インタフェースソフトウェアをインストールサーバーにコピーします。

ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールするための準備 (CD メディアを使用) 113

```
# ./modify_install_server install_dir_path installer_miniroot_path
```

install_dir_path Solaris Web Start インストールをコピーするディレクトリを指定します。

installer_miniroot_path Solaris Web Start インタフェースのコピー元となる CD 上のディレクトリを指定します。

以上の操作が終わると、ネットワーク上でインストールするためのシステム設定が行えるようになります。115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。

例 12-2 SPARC: SPARC CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する
次の例は、ブートサーバーをサブネット上に作成する方法を示したものです。次のコマンドを実行すると、ブートソフトウェアが Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージからシステムのローカルディスク (/export/install/boot) にコピーされます。また、インストールサーバーに Solaris Web Start インタフェースソフトウェアがコピーされます。

```
# mount -F nfs -o ro crystal:/export/install/boot /mnt
# cd /mnt
# cd /cdrom/cdrom0/s0/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server -b /export/install/boot
# cd /cdrom/cdrom0/s0
# ./modify_install_server /export/install/boot /cdrom/cdrom0/s1
```

この例では、各コマンドを実行する前に各ディスクがドライブに挿入され、自動的にマウントされるものとします。ディスクは、コマンドの実行後に取り出されます。

例 12-3 IA: IA CD メディアを使用してサブネット上にブートサーバーを作成する
次の例は、ブートサーバーをサブネット上に作成する方法を示したものです。次のコマンドを実行すると、ブートソフトウェアが Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージからシステムのローカルディスク (/export/install/boot) にコピーされます。また、インストールサーバーに対して Solaris Web Start インタフェースソフトウェアのコピーも行われます。

```
# mount -F nfs -o ro crystal:/export/install/boot /mnt
# cd /mnt
# cd /cdrom/cdrom0/s2/Solaris_8/Tools
# ./setup_install_server -b /export/install/boot
# cd /cdrom/cdrom0/s2
# ./modify_install_server /export/install/boot /cdrom/cdrom0/s0
```

この例では、各コマンドを実行する前に各ディスクがドライブに挿入され、自動的にマウントされるものとします。ディスクは、コマンドの実行後に取り出されます。

ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定

インストールサーバーとブートサーバー (必要な場合) を作成したら、ネットワーク上でインストールするために各システムを設定する必要があります。インストールするシステムが、次の情報にアクセスできなければなりません。

- インストールサーバー
- ブートサーバー (必要な場合)
- sysidcfg ファイル (sysidcfg ファイルを使用してシステム構成情報を事前設定する場合)
- ネームサーバー (ネームサーバーを使用してシステム構成情報を事前設定する場合)
- プロファイルサーバー上の JumpStart ディレクトリ内にあるプロファイル (カスタム JumpStart インストールを使用する場合)

ネットワークを使用してインストールする場合、システムはこの情報を /etc ファイルの bootparams データベース、NIS、NIS+、DNS、または LDAP のネームサービスから取得します。したがって、ネットワークからインストールされる各システムのネームサービスにこの情報を追加しておく必要があります。この情報を追加するには、add_install_client コマンドを使用します。

注 - /etc ファイルを使用してネットワークインストール情報を保存する場合、その情報はインストールサーバーまたはブートサーバー (ブートサーバーが必要な場合) 上に存在する必要があります。

▼ `add_install_client` を使用してネットワーク上でインストールするためにシステムを設定する

ネットワーク上でインストールするシステムを設定するには、`add_install_client(1M)` コマンドを使用します。ブートサーバーが必要な場合、このコマンドをインストールサーバーとブートサーバーで実行する必要があります。

注 - `add_install_client` コマンドは `/etc` ファイルだけを更新します。

この手順では、*install server* はインストールサーバー、*boot server* はブートサーバーを表します。

1. インストールサーバーで、スーパーユーザーになります。
2. **NIS** または **NIS+** ネームサービスを使用する場合は、インストールされるシステムに関して次の情報が `/etc` ファイル内のネームサービスに追加されていることを確認します。
 - ホスト名
 - IP アドレス
 - Ethernet アドレス
3. インストールサーバー上の **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** イメージの `Tools` ディレクトリに移動します。

```
install server# cd Solaris_8/Tools
```

4. `add_install_client` コマンドを使用して、ネットワーク上でインストールされるシステムを設定します。

```
install server# ./add_install_client [-d] [-c server:jumpstart_dir_path] \  
[-p server:path] client_name platform_group
```

<code>-d</code>	ネットワークインストールパラメータを取得するためにクライアントが DHCP を使用することを指定します。 IA クライアントの場合、PXE ネットワークブートを使用してネットワークからシステムをブートするためにこのオプションを指定してください。
<code>-c server:jumpstart_dir_path</code>	カスタム JumpStart インストールの JumpStart ディレクトリを指定します。server には JumpStart ディレクトリがあるサーバーのホスト名を、jumpstart_dir_path には JumpStart ディレクトリの絶対パスをそれぞれ指定します。
<code>-p server:path</code>	システムの構成情報を事前設定するための sysidcfg ファイルを指定します。server は、このファイルを含んでいるサーバーの有効なホスト名または IP アドレスです。path は、sysidcfg ファイルの絶対パスです。
<code>client_name</code>	ネットワーク上でインストールされるシステムのホスト名 (インストールサーバーのホスト名ではない)。このコマンドが機能するためには、クライアントがネームサービスに登録されている必要があります。
<code>platform_group</code>	インストールするシステムのプラットフォームグループ。プラットフォームグループの詳細は、第 37 章を参照してください。

- ブートサーバー上でコマンドを実行する必要があるかどうかを決定します。
 - 不要であれば、この作業はここで終了します。
 - 必要であれば、このまま継続します。
- ブートサーバー上で、スーパーユーザーになります。
- ブートサーバーのブートディレクトリで、**Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** イメージ上の `Tools` ディレクトリに移動します。

```
Boot server# cd Solaris_8/Tools
```

- `add_install_client` コマンドを使用して、ブートサーバーからの起動とネットワーク上でのインストールが行われるようにシステムを設定します。

```
boot server# ./add_install_client [-d] [-c server:jumpstart_dir_path] /
-s install_server:install_dir_path [-p server:path] client_name platform_group
```

- d** クライアントが DHCP を使用してネットワークインストールパラメータを取得することを指定します。
IA クライアントの場合、PXE ネットワークブートを使用してネットワークからシステムをブートするためにこのオプションを指定してください。
- c server:jumpstart_dir_path** カスタム JumpStart インストールの JumpStart ディレクトリを指定します。server には JumpStart ディレクトリがあるサーバーのホスト名を、jumpstart_dir_path には JumpStart ディレクトリの絶対パスをそれぞれ指定します。
- s install_server:install_dir_path** インストールサーバーを指定する。このオプションは、add_install_client をブートサーバーで使用するときだけ必要となります。
install_server は、インストールサーバーのホスト名です。install_dir_path は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージの絶対パス名です。
- p server:path** システムの構成情報を事前設定するための sysidcfg ファイルを指定します。server は、このファイルを含んでいるサーバーの有効なホスト名または IP アドレスです。path は、sysidcfg ファイルの絶対パスです。
- client_name** ネットワーク上でインストールされるシステムの名前 (インストールサーバーのホスト名ではない)。このコマンドが機能するためには、クライアントがネームサービスに登録されている必要があります。
- platform_group** インストールするシステムのプラットフォームグループ。プラットフォームグループの詳細は、第 37 章を参照してください。

例 12-4 SPARC: `add_install_client` を使用してネットワーク上でインストールするために SPARC システムを追加する

次に、ネットワークでインストールされるように `basil (Ultra™ 5)` という名前のシステムを追加する例を示します。システムはブートサーバーを必要とするため、コマンドはインストールサーバーで実行され、ブートサーバーで再び実行されます。`-s` オプションを使用して、`install_server1` という名前のインストールサーバー (`export/home/s8cdsparc1` に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージを持っている) を指定しています。

```
install_server# cd /export/install/boot/Solaris_8/Tools
install_server# ./add_install_client basil sun4u
boot_server# cd /export/install/boot/Solaris_8/Tools
boot_server# ./add_install_client -s install_server1:/export/home/s8cdsparc basil sun4u
```

例 12-5 x86: ネットワーク上でインストールするように IA システムを設定する (`add_install_client` を使用)

次に、DHCP プロトコルを使用してネットワーク上でブートとインストールが行われるように IA システムを設定する方法を示します。`-d` オプションは、クライアントが構成のために DHCP プロトコルを使用することを指定します。PXE ネットワークブートを使用する場合は、DHCP プロトコルを使用する必要があります。DHCP クラス名 `SUNW.i86pc` は、単一のクライアントだけでなくすべての Solaris IA ネットワークブートクライアントにこのコマンドが適用されることを示します。`-s` オプションは、クライアントが `install_server1` という名前のインストールサーバー (`/export/home/s8cdia` に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (Intel) CD イメージが入っている) からインストールされることを示すために使用されます。

```
install_server# cd /export/boot/Solaris_8/Tools
install_server# ./add_install_client -d -s install_server1:/export/home/s8cdia SUNW.\ >>
i86pc i86pc
```


ネットワークを利用して Solaris ソフトウェアをインストールするための準備

この章では、ネットワークインストール用の設定を行うときに使用できるコマンドを示します。

表 13-1 ネットワークインストールコマンド

コマンド	プラットフォーム	説明
<code>add_install_client</code>	SPARC/ IA	システムがネットワーク上でインストールできるように、システムについてのネットワークインストール情報をインストールサーバーまたはブートサーバーの <code>/etc</code> ファイルに追加するコマンド
<code>setup_install_server</code>	SPARC/ IA	Solaris 8 DVD または CD をインストールサーバーのローカルディスクにコピーするか、ブートソフトウェアをブートサーバーにコピーするスクリプト。詳細は、 <code>setup_install_server(1M)</code> のマニュアルページを参照
(CD メディアのみ) <code>add_to_install_server</code>	SPARC/ IA	CD 上のプロダクトツリー内の追加パッケージを、既存のインストールサーバー上のローカルディスクにコピーするスクリプト。詳細は、 <code>add_to_install_server(1M)</code> のマニュアルページを参照

表 13-1 ネットワークインストールコマンド 続く

コマンド	プラットフォーム	説明
(CD メディアのみ) modify_install_server	SPARC/ IA	Solaris Web Start ユーザーインタフェースソフトウェアを、既存のインストールサーバー上の Solaris 8 CD イメージに追加するスクリプト。ユーザーが Solaris Web Start によってシステムをブートし、Solaris 8 ソフトウェアをネットワークからインストールできるようにする。詳細は、modify_install_server(1M) のマニュアルページを参照。64M バイトのメモリーしかないシステムからインストールする場合は、modify_install_server を使用するだけの十分なメモリーを確保できません。
mount	SPARC/ IA	マウントされたファイルシステム (Solaris 8 DVD、Solaris 8 SOFTWARE、Solaris 8 LANGUAGES 上のファイルシステムなど) を表示するコマンド。詳細は、mount(1M) のマニュアルページを参照
uname -i	SPARC/ IA	システムのプラットフォーム名 (SUNW、SPARCstation-5、i86pc など) を調べるコマンド。Solaris ソフトウェアをインストールするには、システムのプラットフォーム名が必要になることがあります。詳細は、uname(1) のマニュアルページを参照
patchadd -C net_install_image	SPARC/ IA	setup_install_server により作成される DVD または CD のネットインストールイメージ上にあるミニルート (Solaris_8/Tools/Boot) にあるファイルにパッチを追加するコマンド。これにより、Solaris インストールコマンドとほかのミニルート固有のコマンドにパッチを適用できる。net_install_image はネットワークインストールイメージの絶対パス名である。詳細は、patchadd(1M) のマニュアルページを参照
reset	SPARC	端末設定とディスプレイを再設定するコマンド。ブートする前に reset を使用すると便利な場合がある。また、ブート時に入出力割り込みに関するエラーメッセージが表示された場合は、L1 または STOP キーと A キーを同時に押し、その後 ok または >PROM プロンプトで reset と入力する。
banner	SPARC	モデル名、Ethernet アドレス、インストールされているメモリーなどのシステム情報を表示させるコマンド。ok または PROM プロンプトでのみ使用可能。

Solaris Web Start の使用

この章では、Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれている Solaris Web Start を使用して、Solaris ソフトウェアのインストールやアップグレードを行う方法について説明します。

注 - Solaris オペレーティング環境をインストールするシステムまたはドメインに直接接続された DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブがない場合は、別のマシンに接続された DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。詳細は、付録 C を参照してください。

この章の内容は、次のとおりです。

- 123 ページの「Solaris Web Start の実行方法」
- 124 ページの「SPARC: Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード」
- 128 ページの「IA: Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード」
- 137 ページの「Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード後に必要な作業」

Solaris Web Start の実行方法

Solaris Web Start は、GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) と CLI (コマンド行インターフェイス) で実行 (IA: Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) を使用する起動を含む) できます。

- GUI – ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびビデオアダプタ、キーボード、モニター、十分なメモリーが必要です。
- CLI – ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。tip(1) 接続で Solaris Web Start を実行すると、CLI インストールを行うことができます。

Solaris Web Start は、システムにビデオアダプタがあることを検出すると自動的に GUI を使用し、検出できないと CLI を使用します。操作手順や設定内容は、GUI も CLI もほとんど同じです。

SPARC: Solaris Web Start によるインストール またはアップグレード

Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれている Solaris Web Start を使用して、Solaris オペレーティング環境を SPARC システムにインストールまたはアップグレードすることができます。

注 - Solaris 8 INSTALLATION CD からインストールする場合は、28 ページの「Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件」で特殊な要件を確認してください。

以下のものが揃っているかを確認します。

- DVD からインストールする場合は、Solaris 8 DVD (SPARC) を使用してください。
- CD メディアからインストールする場合は、以下の CD を使用してください。
 - Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC)
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
 - Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) – 必要に応じて、インストールプログラムがこの CD を挿入するように求めてきます。
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) – 特定の地域の言語をサポートする必要がある場合、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。

SPARC: 作業マップ: Solaris Web Start インストールの実行

表 14-1 作業マップ: Solaris Web Start インストールの実行

作業	説明	参照先
システム要件を確認する	Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードをするための要件をシステムが満たしていることを確認します。	28 ページの「システム要件」
必要な情報を収集する	チェックリストに従ってワークシートに記入しながら、Solaris ソフトウェアのインストールに必要なすべての情報を収集します。	第 6 章
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルやネームサービスを使って、システムのインストール情報(locale など)を事前設定することができます。これによって、インストール時にこの情報を入力するように求められなくなります。	第 7 章
(アップグレードのみ) システムをアップグレードするための準備をする	システムのバックアップをとります。	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの DVD イメージまたは CD イメージをインストールする場合は、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールするように、システムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートし、プロンプトに従って Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードします。	126 ページの「SPARC: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法」
(アップグレードのみ) アップグレード後に必要な作業を行う	アップグレードで失われたローカル変更がある場合は、それを復元します。	137 ページの「アップグレード後にローカル変更を復元する方法」

▼ SPARC: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. **DVD-ROM** ドライブ、**CD-ROM** ドライブ、ネットイメージのどれを使用してソフトウェアをインストールするかを決定します。

- DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブを使用する場合は、Solaris 8 DVD (SPARC) または Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC) を挿入します。
- ネットインストールイメージを使用する場合は、インストールメディアが置かれているディレクトリへ移動します。この場所については、必要に応じてネットワーク管理者に尋ねてください。次に、コマンド例を示します。

```
% cd /net/install-svr/export/s8/sparc
```

2. システムをブートします。

- 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 既存システムのインストールまたはアップグレードを行う場合は、システムをシャットダウンします。
 - ローカル DVD またはローカル CD からブートする場合は、次のように入力します。

```
ok boot cdrom
```

- ネットワーク上のインストールサーバーからブートする場合は、次のように入力します。

```
ok boot net
```

Solaris Web Start インストールが始まります。

3. システム構成の質問に答えます。

- すべてのシステム構成情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力はありません。128 ページの手順 7 へ進みます。

- システム構成情報の事前設定を行っていない場合は、44 ページの「インストール用のワークシート」または 51 ページの「アップグレード用のワークシート」を参照して、システム構成の質問に答えます。

GUI を使用している場合は、システム構成情報の確認が終わると、Solaris Web Start の Kiosk が起動し、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。システムのメモリーが十分でない場合は、Kiosk は表示されません。



Kiosk メニューのリンクは、どれでもクリックできます。

注 - Kiosk によって画面が隠れてしまうことがあります。隠れている画面を表示するには、Kiosk メニューの「Kiosk を奥へ (Send Kiosk to Background)」をクリックします。

Solaris ソフトウェアをインストールした後に Kiosk を使用する場合は、138 ページの「Kiosk の保存およびアクセスする方法」を参照してください。

「インストーラオプション (Installer Questions)」画面が表示されます。

4. システムのリポートとディスクの取り出しを自動的に行うかを決定します。
「Next」をクリックします。
「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。
5. どのメディア (CD、DVD、ネットワーク、HTTP、またはローカルテープ) をインストールに使用するかを指定します。

6. 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。

システムがアップグレード可能かどうかが判定されます。このためには、Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在していなければなりません。Solaris 8 INSTALLATION CD を使用してアップグレードする場合は、512M バイトのスライスが必要です。Solaris Web Start プログラムは、必要条件を確認した上でシステムのアップグレードを実施します。
7. 画面に示される手順に従って、**Solaris** ソフトウェアと追加ソフトウェア (必要な場合) をシステムにインストールします。

Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムのリブートを求める画面が表示されます。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。

 - /var/sadm/system/logs
 - /var/sadm/install/logs
8. アップグレードを行なった場合は、保存されなかったローカル変更があればそれを復元します。詳細は、137 ページの「アップグレード後にローカル変更を復元する方法」を参照してください。

IA: Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード

Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれている Solaris Web Start を使用して、Solaris オペレーティング環境を IA システムにインストールできます。

注 **[IA]** - Solaris Web Start を使って、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 オペレーティング環境を Solaris 8 にアップグレードすることはできません。Solaris Web Start では、以前の Solaris リリースでは作成されなかった 10M バイトの IA ブートパーティションが別に必要です。この場合には、Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用する必要があります。Solaris 8 対話式インストールプログラムについての詳細は、第 15 章を参照してください。

Solaris Web Start を使用して、Solaris 8 リリースを Solaris 8 Update リリースにアップグレードできます。

注 - Solaris 8 INSTALLATION CD からインストールする場合は、28 ページの「Solaris 8 INSTALLATION CD を使用するための要件」で特殊な要件を確認してください。

次のものが揃っていることを確認します。

- DVD からインストールする場合: Solaris 8 DVD (Intel)
- CD メディアからインストールする場合は、以下の CD を使用してください。
 - Solaris 8 INSTALLATION CD (Intel)
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
 - Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) – 必要に応じて、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。
 - Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) – 特定地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。

IA: 作業マップ: Solaris Web Start インストールの実行

表 14-2 IA: 作業マップ : Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード

作業	説明	参照先
システム要件を確認する	Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードをするための要件をシステムが満たしていることを確認します。	28 ページの「システム要件」
必要な情報を収集する	チェックリストに従ってワークシートに記入しながら、Solaris ソフトウェアのインストールに必要なすべての情報を収集します。	第 6 章
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルやネームサービスを使って、システムのインストール情報 (locale など) を事前設定することができます。これによって、インストール時にこの情報を入力するように求められなくなります。	第 7 章
(アップグレードのみ) システムをアップグレードするための準備をする	システムのバックアップをとります。	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 SOFTWARE (Intel) ネットインストールイメージからシステムをインストールするには、インストールサーバーまたはブートサーバーからブートとインストールを行うようにシステムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートし、プロンプトに従って Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードします。	130 ページの「IA: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法」
(アップグレードのみ) アップグレード後に必要な作業を行う	アップグレードで失われたローカル変更がある場合は、それを復元します。	137 ページの「アップグレード後にローカル変更を復元する方法」

▼ IA: Solaris Web Start を使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. **DVD-ROM** ドライブ、**CD-ROM** ドライブ、ネットインストールイメージのどれを使用してソフトウェアをインストールするか決定します。

- DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用する場合は、Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 INSTALLATION CD (Intel) を挿入します。
- ネットインストールイメージを使用する場合は、インストールメディアが置かれているディレクトリに移動します。必要に応じ、ネットワーク管理者に場所を尋ねてください。次にコマンド例を示します。

```
% cd /net/install-svr/export/s8/ia
```

2. システムのブート方法を決定します。

- Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートをサポートするものでなければなりません。
- ネットワークからブートする場合は、PXE (Pre-boot eXecution Environment) ネットワークブートを使用します。この場合、システムが PXE をサポートするものでなければなりません。システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの構成セットアップツールを使用して、システムが PXE を使用できるように設定してください。
- フロッピーディスクからブートする場合は、システムのプロッピーディスクドライブに Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクを挿入します。

注 [IA] - ブートフロッピーディスクソフトウェアは、http://soldc.sun.com/support/drivers/dcs_diskettes の「Solaris Developer Connection」からソフトウェアのダウンロードとコピーを行うことによってアクセスできます。

3. システムをシャットダウンし、電源を切ってからまた入れ直してシステムをブートします。
メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。
4. 「Solaris Device Configuration Assistant」画面が表示されたら、「Continue」を選択します。
「Bus Enumeration」画面に次のメッセージが表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「Scanning Devices」画面が表示され、システムデバイスのスキャンが行われます。スキャンが終了すると、「Identified Devices」画面が表示されます。

5. 変更する必要があるか確認します。

- 変更しない場合は、「Continue」を選択します。

- 変更する場合は、「changes」を選択します。

「Loading」画面に、システムをブートするためにロードされたドライバに関するメッセージが表示されます。数秒後に「Boot Solaris」画面が表示されます。

6. 「Boot Solaris」画面で、「DVD」、「CD」、「Net」、または「Disk」を選択し、「Continue」を選択します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかを検査されます。

注 - Solaris 8 INSTALLATION CD を使用してインストールしている場合は、システムがいくつかの要件を満たしていなければなりません。システムがそれらの要件を満たしていない場合、Solaris 8 DVD またはネットワークインストールイメージに含まれる Solaris Web Start プログラム、Solaris 8 対話式インストールプログラム、またはカスタム JumpStart を使用する必要があります。要件は以下のとおりです。

- デフォルトブートディスクの BIOS および SCSI ドライバが、LBA (Logical Block Addressing) をサポートしている必要があります。
- デフォルトブートディスクに Solaris fdisk パーティションが存在しない場合、作成するようにメッセージが表示されます。パーティションはディスク全体に作成されます。ディスク全体を使って Solaris fdisk パーティションを作成したくない場合は、「いいえ (No)」を選択します。fdisk ユーティリティが起動されますので、手動でディスクをパーティションに分割することができます。
- デフォルトブートディスクに x86BOOT パーティションが存在しない場合は、Solaris Web Start プログラムが Solaris fdisk パーティションの一部を使用して作成してくれます。Solaris fdisk パーティション上にデータが存在していた場合、それらはすべて破棄されます。このパーティションを手動で作成することはできません。プログラムが、x86BOOT パーティションを作成する許可を求めてきます。「いいえ (No)」と答える場合は、ほかのインストール方法を選択する必要があります。
- パーティションの作成、変更、削除は、後でフォーマットパネルを使用して行うことができます。ただし、Solaris fdisk パーティションと x86BOOT パーティションが作成されると、ディスクは凍結され、ディスクの編集は不可能になります。複数のディスクが存在する場合、それらのディスクをフォーマットパネルで編集できます。

Solaris Web Start プログラムは、デフォルトブートディスクの各要件を確認し、見つからなかった構成情報を入力するようにユーザーに要求します。

7. システム構成の質問に答えます。

- システム構成情報をすべて再構成し終わったら、134 ページの手順 8 へ進みます。

- システム構成情報の事前設定を行っていない場合は、44 ページの「インストール用のワークシート」または 51 ページの「アップグレード用のワークシート」を参照して、システム構成の質問に答えます。

数秒後に「The Solaris Installation Program」画面が表示されます。

8. 「**The Solaris Installation Program**」画面で「**Continue**」を選択します。
「kdmconfig – Introduction」画面が表示されます。

9. **GUI** を実行するだけの十分なメモリーがあるかどうかを確認します。

- メモリーが十分な場合は「Continue」を選択します。
- メモリーが十分でない場合は「Bypass」を選択し、CLI を表示させます。

「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示されず。

kdmconfig ユーティリティは、ビデオドライバを検出できないと 640x480 VGA ドライバを選択します。640x480 VGA ドライバでは、Solaris Web Start GUI を表示できないため、Solaris Web Start CLI が使用されます。Solaris Web Start GUI を使用したい場合は、kdmconfig ユーティリティを使って適切なドライバを選択する必要があります。

10. (省略可能) 「**kdmconfig - View and Edit Window System Configuration**」画面の構成情報を確認し、必要な場合は変更します。

kdmconfig ユーティリティは、ビデオドライバを検出できないと 640x480 VGA ドライバを選択します。640x480 VGA ドライバでは、Solaris Web Start GUI を表示できないため、Solaris Web Start CLI が使用されます。Solaris Web Start GUI を使用したい場合は、kdmconfig ユーティリティを使って適切なドライバを選択する必要があります。

11. 構成情報の確認が終わったら、「**No changes needed - Test/Save and Exit**」を選択し、「**Continue**」を選択します。

「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が表示されます。

12. 「**Continue**」を選択します。

画面が再表示され、「kdmconfig Window System Configuration Test palette and pattern」画面が表示されます。

13. ポインタを移動でき、パレット上に示されている色が正しく表示されていることを確認します。
- 色が正しく表示されていない場合は、「No」をクリックするか(可能な場合)、キーボードのいずれかのキーを押すか、「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が自動的に終了するのを待ちます。そして、一連の色が正しく表示され、ポインタを正しく移動できるまで、134 ページの手順 10 から 135 ページの手順 13 を繰り返します。
 - 一連の色が正しく表示されている場合は、「Yes」をクリックします。
「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。
14. システム構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。
「インストーラオプション (Installer Questions)」画面が表示されます。
15. システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。「Next」をクリックします。

注 - PXE を使用してネットワークからブートする場合は、手動リブートを選択してください。システムがそのリブート時にネットワークからブートしないようにする必要があります。ネットワークブートを無効にするには、リブート時にシステムの BIOS 設定ツールかネットワークアダプタの構成セットアップツールを使用してください。

「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。

16. インストールに使用するメディア (DVD、CD、ネットワーク、HTTP、またはローカルテープ) を指定します。
「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。システムのメモリーが十分でない場合は、Kiosk は表示されません。



Kiosk メニューのリンクは、どれでもクリックできます。

注 - Kiosk によって画面が隠れてしまうことがあります。隠れている画面を表示するには、Kiosk メニューの「Kiosk を奥へ (Send Kiosk to Background)」をクリックします。

Solaris ソフトウェアをインストールした後に Kiosk を使用する場合は、138 ページの「Kiosk の保存およびアクセスする方法」を参照してください。

17. 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。

システムがアップグレード可能かどうか判定されます。すでに Solaris ルート (/) ファイルシステムが存在していなければならず、Solaris 8 INSTALLATION CD を使用してアップグレードする場合は、512M バイトのスライスが必要です。必要となる状態が確認され、システムのアップグレードが開始されます。
18. 画面に示される手順に従って、**Solaris** ソフトウェアと追加ソフトウェア (必要な場合) をシステムにインストールします。

Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムのリブートを求める画面が表示されます。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。

 - /var/sadm/system/logs

- /var/sadm/install/logs

19. アップグレードを行なった場合は、保存されなかったローカル変更があればそれを復元します。詳細は、137 ページの「アップグレード後にローカル変更を復元する方法」を参照してください。

Solaris Web Start によるインストールまたはアップグレード後に必要な作業

Solaris オペレーティング環境のインストールまたはアップグレードを終了した後、必要に応じて次の作業を行う必要があります。

▼ アップグレード後にローカル変更を復元する方法

アップグレードを行うと、Solaris Web Start は既存システムに対して行なったローカルなソフトウェア変更と新しい Solaris ソフトウェアをマージします。ただし場合によっては、マージが行われないことがあります。したがって、システムのアップグレードが終了したら、保存されなかったローカル変更を復元しなければならない場合があります。



注意 - 保存されなかったローカル変更を復元しないと、システムがブートされないことがあります。

1. 次のファイルの内容を確認して、**Solaris Web Start** によって保存されなかったローカル変更を復元する必要があるかどうかを判断します。

```
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```

2. 保存されなかったローカル変更があれば、復元します。
3. システムをリブートします。

```
# reboot
```

▼ Kiosk の保存およびアクセスする方法

Solaris ソフトウェアをインストールした後に Kiosk を使用する場合は、「システムに Kiosk を保存 (Save Kiosk on System)」をクリックして、Kiosk をシステムにコピーする必要があります。Kiosk は `/var/sadm/webstart/kiosk` ディレクトリに保存されます。

Solaris ソフトウェアをインストールしシステムをリブートした後に Kiosk にアクセスするには、次の手順に従います。

1. **Netscape Communicator** を使用します。
2. `/var/sadm/webstart/kiosk/index.html` ファイルを開きます。
3. **CDE** のスタイル・マネージャの「ウィンドウ (**Window**)」で「ポイントでウィンドウをアクティブに (**Point In Window To Make Active**)」を選択し、「アクティブにしたウィンドウを手前に (**Raise Window When Made Active**)」の選択を解除します。

Solaris 8 対話式インストールプログラムの使用

この章では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれている Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して Solaris ソフトウェアのインストールやアップグレードを行う方法について説明します。

- 139 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行方法」
- 140 ページの「SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」
- 143 ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」
- 149 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業」

Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行方法

Solaris 8 対話式インストールプログラムは、GUI と CLI で実行 (IA: Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) を使用する起動を含む) できます。

- GUI – ローカルまたはリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、ビデオアダプタ、キーボード、およびモニターが必要です。

- CLI - ローカルまたはリモートの CD-ROM ドライブまたはネットワーク接続、キーボード、およびモニターが必要です。tip(1) 接続で Solaris 8 対話式インストールプログラムを実行すると CLI インストールを行うことができます。

注 - CLI を使用する場合は、Control-U (ページの上方向へ移動) と Control-D (ページの下方向へ移動) を使用してテキスト内をナビゲートしてください。

Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムにビデオアダプタがあることを検出すると自動的に GUI を使用し、検出できないと CLI を使用します。操作手順や設定内容は、GUI も CLI もほとんど同じです。

SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれている Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して、Solaris オペレーティング環境を SPARC システムにインストールまたはアップグレードすることができます。Solaris 8 対話式インストールプログラムでは、追加ソフトウェアをインストールすることはできません。

次の CD を用意してください

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) - 必要に応じて、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。
- Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) - 特定地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。

SPARC: 作業マップ: 対話式インストールの実行

表 15-1 SPARC: 作業マップ: 対話式インストールの実行

作業	説明	参照先
必要な情報を収集する	チェックリストに従ってワークシートに記入しながら、Solaris ソフトウェアのインストールに必要なすべての情報を収集します。	第 6 章
(アップグレードのみ) システムをアップグレードするための準備をする	システムのバックアップをとります。	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルやネームサービスを使って、システムのインストール情報 (locale など) を事前設定することができます。これによって、インストール時にこの情報を入力するように求められなくなります。	第 7 章
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) イメージをインストールする場合は、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールするように、システムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートし、プロンプトに従って Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードします。	141 ページの「SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」
(アップグレードのみ) アップグレード後に必要な作業を行う	アップグレードで失われたローカル変更がある場合は、それを復元します。	149 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業」

▼ SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. **CD-ROM** ドライブとネットイメージのどちらを使用してソフトウェアをインストールするかを決定します。

- CD-ROM ドライブを使用する場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) を挿入します。
- ネットインストールイメージを使用する場合は、インストールメディアが置かれているディレクトリに移動します。必要に応じ、ネットワーク管理者に場所を尋ねてください。以下に、コマンド例を示します。

```
% cd /net/install-svr/export/s8/sparc
```

2. システムをブートします。

- 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
- 既存システムのインストールまたはアップグレードを行う場合は、システムをシャットダウンします。
 - ローカル CD からブートする場合は、次のように入力します。

```
ok boot cdrom
```

- ネットワーク上のインストールサーバーからブートする場合は、次のように入力します。

```
ok boot net
```

Solaris 8 対話式インストールプログラムが始まります。

3. システム構成の質問に答えます。

すべてのシステム構成情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力はありません。

システム構成情報の事前設定を行っていない場合は、44 ページの「インストール用のワークシート」または 51 ページの「アップグレード用のワークシート」を参照して、システム構成の質問に答えます。

4. 画面に示される手順に従って、Solaris ソフトウェアをシステムにインストールします。

Solaris ソフトウェアのインストールが終了した後、システムを自動的にリブートするか、手動でリブートするかをたずねられます。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。

- /var/sadm/system/logs
 - /var/sadm/install/logs
5. アップグレードを行なった場合は、保存されなかったローカル変更があればそれを復元します。詳細は、149 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業」を参照してください。
 6. (省略可能) **Solaris 8 DOCUMENTATION CD** など、追加ソフトウェアをインストールする場合は、付録 B を参照してください。

IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれている Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して、Solaris オペレーティング環境を SPARC システムにインストールまたはアップグレードすることができます。Solaris 8 対話式インストールプログラムでは、追加ソフトウェアをインストールすることはできません。

次の CD を用意してください

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) – 必要に応じて、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) – 特定地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。

IA: 作業マップ: 対話式インストールの実行

表 15-2 IA: 作業マップ: 対話式インストールの実行

作業	説明	参照先
必要な情報を収集する	チェックリストに従ってワークシートに記入しながら、Solaris ソフトウェアのインストールに必要なすべての情報を収集します。	第 6 章
(アップグレードのみ) システムをアップグレードするための準備をする	システムのバックアップをとります。	『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルやネームサービスを使って、システムのインストール情報 (locale など) を事前設定することができます。これによって、インストール時にこの情報を入力するように求められなくなります。	第 7 章
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) イメージをインストールする場合は、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールするように、システムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートし、プロンプトに従って Solaris ソフトウェアをインストールまたはアップグレードします。	144 ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」
(アップグレードのみ) アップグレード後に必要な作業を行う	アップグレードで失われたローカル変更がある場合は、それを復元します。	149 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業」

▼ IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. **CD-ROM** ドライブとネットイメージのどちらを使用してソフトウェアをインストールするかを決定します。
 - CD-ROM ドライブを使用する場合、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (Intel) を挿入します。

- ネットイメージを使用する場合、インストールメディアが置かれているディレクトリへ移動します。必要に応じ、ネットワーク管理者に場所を尋ねてください。次にコマンド例を示します。

```
% cd /net/install-svr/export/s8/ia
```

2. システムのブート方法を決定します。

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (Intel) CD からブートする場合は、CD を挿入します。システムの BIOS は、CD からのブートをサポートするものでなければなりません。
- ネットワークからブートする場合は、PXE (Pre-boot eXecution Environment) ネットワークブートを使用してください。システムは PXE をサポートするものでなければなりません。システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの構成設定ツールを使用して、PXE を使用するようにシステムを設定します。
- フロッピーディスクからブートする場合は、システムのコピーディスクドライブに Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) のフロッピーディスクを挿入します。

注 [IA] - ブートフロッピーディスクソフトウェアのアクセスは、http://soldc.sun.com/support/drivers/dcs_diskettes の「Solaris Developer Connection」からこのソフトウェアをフロッピーディスクにダウンロードしてコピーすることによって行えます。

3. システムをシャットダウンし、電源を切ってからまた入れ直してシステムをブートします。

メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) からブートした場合は、次のメッセージが表示されます。

```
SunOS - Intel Platform Edition Primary Boot Subsystem, vsn 2.0
```

続いて、次のようなメッセージが表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

(続く)

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

- PXE ネットワークブートを使用してネットワーク上でブートする場合は、次のメディアが表示されます。

```
Solaris network boot...
```

続いて、次のような情報が表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00

Solaris Intel Platform Edition Booting System

Running Configuration Assistant...
```

- Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクを使用してブートした場合、次のメッセージが表示されます。

```
Solaris Boot Sector                               Version 1
```

続いて、次のようなメッセージが表示されます。

```
Solaris for x86 - FCS DCB                          Version 1.242

loading /solaris/boot.bin
```

画面が再表示され、次のようなメッセージが表示されます。

```
SunOS Secondary Boot version 3.00
```

```
Solaris Intel Platform Edition Booting System
```

```
Running Configuration Assistant...
```

4. 「**Solaris Device Configuration Assistant**」画面が表示されたら、「**Continue**」を選択します。
「**Bus Enumeration**」画面に次のメッセージが表示されます。

```
Determining bus types and gathering hardware configuration data ...
```

「**Scanning Devices**」画面が表示され、システムデバイスのスキャンが行われます。スキャンが終了すると、「**Identified Devices**」画面が表示されます。

5. 変更する必要があるか確認します。
 - 変更しない場合は、「**Continue**」を選択します。
 - 変更する場合は、「**changes**」を選択します。「**Loading**」画面に、システムをブートするためにロードされたドライバに関するメッセージが表示されます。数秒後に「**Boot Solaris**」画面が表示されます。
6. 「**Boot Solaris**」画面で「**CD**」、「**Net**」、または「**Disk**」を選択し、「**Continue**」を選択します。
デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかを検査されます。
7. システム構成の質問に答えます。
 - すべてのシステム構成情報をあらかじめ構成してある場合は、147 ページの手順 8へ進みます。
 - システム構成情報の事前設定を行っていない場合は、44 ページの「インストール用のワークシート」または 51 ページの「アップグレード用のワークシート」を参照して、システム構成の質問に答えます。数秒後に「**The Solaris Installation Program**」画面が表示されます。
8. 「**Continue**」を選択します。

「kdmconfig – Introduction」画面が表示されます。

9. 「Continue」を選択します。

「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面が表示されます。

10. (省略可能) 「kdmconfig - View and Edit Window System Configuration」画面の構成情報を確認し、必要な場合は変更します。

11. 構成情報の確認が終わったら、「No changes needed - Test/Save and Exit」を選択し、「Continue」を選択します。

「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が表示されます。

12. 「Continue」を選択します。

画面が再表示され、「kdmconfig Window System Configuration Test palette and pattern」画面が表示されます。

13. ポインタを移動でき、パレット上に示されている色が正しく表示されていることを確認します。

- 色が正しく表示されていない場合は、「No」をクリックするか(可能な場合)、キーボードのいずれかのキーを押すか、「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が自動的に終了するのを待ちます。そして、一連の色が正しく表示され、ポインタを正しく移動できるまで、148 ページの手順 10 から 148 ページの手順 13 を繰り返します。
- 一連の色が正しく表示されている場合は、「Yes」をクリックします。

Solaris 8 対話式インストールプログラムが始まります。

14. システム構成の質問に答えます。

- すべてのシステム構成情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力はありません。
- システム構成情報の事前設定を行っていない場合は、44 ページの「インストール用のワークシート」または 51 ページの「アップグレード用のワークシート」を参照して、システム構成の質問に答えます。

15. システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかを決定します。

注 - PXE を使用してネットワークからブートする場合は、手動リブートを選択してください。システムがその起動時にネットワークからブートしないように設定する必要があります。ネットワークブートを無効にするには、リブート時にシステムの BIOS 設定ツールかネットワークアダプタの構成設定ツールを使用してください。

16. 指示にしたがって **Solaris** ソフトウェアをインストールします。

Solaris ソフトウェアのインストールが終了した後、システムを自動的にリブートするか、手動でリブートするかを尋ねられます。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。

- /var/sadm/system/logs
- /var/sadm/install/logs

17. アップグレードを行なった場合は、保存されなかったローカル変更があればそれを復元します。詳細は、149 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業」を参照してください。

18. (省略可能) **Solaris 8 DOCUMENTATION CD** など、追加ソフトウェアをインストールする場合は、付録 B を参照してください。

Solaris 8 対話式インストールプログラムによるアップグレード後に必要な作業

アップグレードを行うと、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、既存システムに対して行なったローカルなソフトウェア変更と新しい Solaris ソフトウェアをマージします。ただし場合によっては、マージが行われないことがあります。したがって、システムのアップグレードが終了したら、保存されなかったローカル変更を復元しなければならない場合があります。



注意 - 保存されなかったローカル変更を復元しないと、システムがブートされないことがあります。

▼ アップグレード後にローカル変更を復元する方法

1. 次のファイルの内容を確認して、**Solaris 8** 対話式インストールプログラムによって保存されなかったローカル変更を復元する必要があるかどうかを判断します。

```
/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup
```

2. 保存されなかったローカル変更があれば、復元します。
3. システムをリブートします。

```
# reboot
```

フラッシュインストール機能

ここでは、フラッシュアーカイブを作成する方法と、フラッシュアーカイブを使用して複数のシステムに Solaris オペレーティング環境をインストールする方法について説明します。

第 17 章	フラッシュ (Flash) アーカイブの作成とインストールの概要と計画について説明します。
第 18 章	フラッシュアーカイブの作成手順を説明します。
第 19 章	フラッシュアーカイブを使用してシステムをインストールする手順を説明します。
第 20 章	<code>flarcreate</code> と <code>flar</code> コマンドの構文およびオプションについて説明します。また、フラッシュアーカイブ情報のキーワードについても説明します。

フラッシュの概要と計画

この章では、フラッシュインストール機能の概要を述べるとともに、使用している環境におけるフラッシュインストールの計画に必要な情報を記載します。

- 153 ページの「フラッシュの概要」
- 154 ページの「フラッシュインストールの計画」

フラッシュの概要

フラッシュインストール機能を使用すると、マスターシステムと呼ばれるシステム上の Solaris オペレーティング環境のアーカイブを作成し、このアーカイブをクローンシステムと呼ばれる多数のシステムに複製できます。フラッシュインストールによるクローンシステムへのインストールは、以下の 3 つのプロセスで行います。

1. マスターシステムへのインストール - システムを 1 台選択し、Solaris の任意のインストール方法で Solaris オペレーティング環境およびその他のソフトウェアをインストールします。
2. フラッシュアーカイブの作成 - フラッシュアーカイブには、マスターシステム上のすべてのファイルのコピーが含まれます。
3. フラッシュアーカイブのクローンシステムへのインストール - システムにフラッシュアーカイブをインストールすると、アーカイブのすべてのファイルがそのシステムにインストールされます。新しくインストールされたシステムのインストール構成は、オリジナルのマスターシステムとまったく同じになります (このため、クローンシステムと呼ばれます)。

注 - フラッシュインストール機能を使用して Solaris オペレーティング環境が稼働しているシステムをアップグレードすることはできません。行えるのは初期インストールだけです。

フラッシュインストールの計画

フラッシュアーカイブの作成とインストールを行う前に、システムに Solaris オペレーティング環境をどのようにインストールするかについていくつか決定しておくべきことがあります。

マスターシステムへのインストールの設計

フラッシュインストールの最初の作業は、各クローンシステムで行いたい構成と同じ構成でマスターシステムにインストールすることです。マスターシステムへの Solaris オペレーティング環境のインストール (部分インストールまたは全インストール) は、Solaris の任意のインストール方法で行うことができます。このインストールの完了後、ソフトウェアの追加または削除、構成ファイルの変更を行います。

マスターシステムとクローンシステムとで、カーネルアーキテクチャを同じにする必要があります。たとえば、アーキテクチャが sun4u であるクローンシステムへインストールするには、同じ sun4u のアーキテクチャを持つマスターシステムから作成されたフラッシュアーカイブしか使用できません。

各クローンシステムで行いたい特別な構成がある場合は、その構成をマスターシステムにインストールする必要があります。マスターシステムへのインストールの設計は、次の要素で決まります。

- クローンシステムにインストールしたいソフトウェア
- マスターシステムとクローンシステムに接続されている周辺装置
- マスターシステムとクローンシステムのアーキテクチャ

マスターシステムのカスタマイズ

Solaris の任意のインストール方法でマスターシステムに Solaris オペレーティング環境をインストールした後、必要に応じてソフトウェアの追加や削除、およびシステム構成情報の変更を行います。

- ソフトウェアの削除 - クローンシステムにインストールする必要がないソフトウェアを削除することができます。マスターシステムにインストールされているソフトウェアのリストを表示するには、**Solaris Product Registry** を使用します。手順の詳細は、517 ページの「インストール済み製品の情報を表示する方法」を参照してください。
- ソフトウェアの追加 - Solaris リリースに含まれているソフトウェア、および Solaris オペレーティング環境の一部として提供されないソフトウェアをインストールできます。マスターシステムにインストールされたすべてのソフトウェアはフラッシュアーカイブに含まれ、クローンシステムにインストールされます。
- 構成ファイルの変更 - マスターシステム上の構成ファイルを変更できます。たとえば、`/etc/inet/inetd.conf` ファイルを変更することにより、システムが実行するデーモンを制限できます。加えられた変更はすべてフラッシュアーカイブの一部として保存され、クローンシステムにインストールされます。

注 - クローンシステムにフラッシュアーカイブをインストールした後、ホスト固有のファイルがいくつか削除され、クローンマシン用として作成し直されます。インストールプログラムは、`sys-unconfig(1M)` コマンドと `sysidtool(1M)` プログラムを使用して、ホスト固有のネットワーク構成ファイルを削除して再作成します。再作成されるファイルは、`/etc/hosts`、`/etc/defaultrouter`、`/etc/defaultdomain` などです。

SPARC および IA システム用のアーカイブの作成

フラッシュインストールを使用して SPARC システムと IA システムの両方に Solaris ソフトウェアをインストールしたい場合は、それぞれのプラットフォーム用のフラッシュアーカイブを個別に作成する必要があります。SPARC システムにインストールするには、SPARC マスターシステムから作成されたフラッシュアーカイブを使用します。IA マスターシステムにインストールするには、IA マスターシステムから作成されたフラッシュアーカイブを使用します。

マスターシステムに存在しない周辺装置のサポート

クローンシステムとは異なる周辺装置を持つマスターシステムにインストールする場合があります。コアシステムサポート (Core) ソフトウェアグループ、エンドユーザーシステムサポート (End User) ソフトウェアグループ、開発者システムサポート (Developer) ソフトウェアグループ、または全体ディストリビューション (Entire) ソフトウェアグループをマスターシステムにインストールした場合、マスターシステムがサポートするのはインストール時にマスターシステムに接続されていた周辺装置だけです。

たとえば、cg6 フレームバッファを持つマスターシステムに全体ディストリビューション (Entire) ソフトウェアグループをインストールした場合、このインストールでは cg6 フレームバッファのサポートしか含まれていません。したがって、このシステムから作成したアーカイブは、cg6 フレームバッファを持つか、フレームバッファを持たないクローンシステムにしかインストールできません。このアーカイブを使用して Elite3D フレームバッファを持つクローンシステムにインストールしても、Elite3D は使用できません。これは、必要なドライバがインストールされないためです。

マスターシステムに存在しない周辺装置が、クローンシステムには存在するという場合があります。マスターシステムにデバイスが存在しなくても、マスターシステムにこれらの周辺装置のサポートをインストールできます。このマスターシステムから作成するフラッシュアーカイブには、クローンシステム上の周辺装置に対するサポートが含まれます。

マスターシステムとは異なる周辺装置を持つクローンシステムにインストールする予定がある場合には、以下の方法のどれかを使用してマスターシステムにこれらの周辺装置のサポートをインストールすることができます。

- 全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループをインストールする: 全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループは、利用できる最大のソフトウェアグループであり、Solaris オペレーティング環境のすべてのパッケージが含まれています。マスターシステムに全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループをインストールすると、マスターシステムには Solaris リリースに含まれるすべてのドライバが含まれることになります。全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループをインストールしたマスターシステムから作成されるフラッシュアーカイブは、インストールした Solaris オペレーティング環境のリリースがサポートする周辺装置を持つクローンシステムで機能します。

全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループをマスターシステムにインストールすると、ほかの周辺装置構成との互換性を保つことができます。しかし、全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループには、1G バイトを超えるディスク容量が必要です。クローンシステムの中には、全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire plus OEM) ソフトウェアグループのインストールに必要な容量を確保できないものもあるでしょう。

- パッケージを選択してインストールする: マスターシステムにインストールする際に、マスターシステムとクローンシステムに必要なパッケージを追加インストールできます。特定のパッケージを選択することにより、マスターシステムまたはクローンシステムに存在することが明らかな周辺装置のサポートだけをインストールすることができます。

フラッシュアーカイブの作成の計画

マスターシステムへのインストールの完了後、フラッシュインストールの次の作業として、フラッシュアーカイブを作成します。マスターシステム上のすべてのファイルは、さまざまな識別情報と共にフラッシュアーカイブにコピーされます。フラッシュアーカイブは、マルチユーザーモードまたはシングルユーザーモードでマスターシステムが稼働している間に作成できます。フラッシュアーカイブは、次のメディアのうちの 1 つからブートした後でも作成できます。

- Solaris 8 DVD
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD
- Solaris 8 SOFTWARE CD と Solaris 8 LANGUAGES CD のイメージ

アーカイブは、システムができるだけ静的な状態である時に作成してください。

アーカイブ識別情報

フラッシュアーカイブには、クローンシステムにインストールされるマスターシステムからの実際のファイルに加えて、アーカイブ識別情報が含まれます。フラッシュアーカイブの名前はユーザーが指定する必要があります。アーカイブについて指定できる情報には、次のものが含まれます。

- アーカイブの作者
- アーカイブの作成日
- アーカイブを作成したマスターシステムの名前

指定できるアーカイブ識別情報の完全なリストは、175 ページの「identification セクションのキーワード」を参照してください。

アーカイブについての情報を検出するには、`flar` コマンドを使用してください。手順の詳細は、175 ページの「identification セクションのキーワード」を参照してください。

フラッシュアーカイブの保存先

フラッシュアーカイブを作成した後、そのアーカイブをマスターシステムのハードディスクまたはテープに保存できます。保存後は、任意のファイルシステムまたは媒体へそのアーカイブをコピーできます。

- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- HTTP サーバー
- テープ
- CD, DVD
- フロッピーディスク
- インストールしたいクローンシステムのローカルドライブ

アーカイブの圧縮

フラッシュアーカイブを作成する際は、`compress(1)` ユーティリティを使用して、そのアーカイブが圧縮ファイルとして保存されるように指定することができます。圧縮されたアーカイブはディスク容量が少なくすみ、ネットワークを介してアーカイブをインストールする場合の負荷も減ります。

フラッシュアーカイブのインストールの計画

フラッシュインストールの最後の作業は、クローンシステムへのフラッシュアーカイブのインストールです。

フラッシュアーカイブのインストール方法の決定

クローンシステムへのフラッシュアーカイブのインストールには、次のインストール方法を使用できます。

Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれている Solaris Web Start の CLI では、以下の媒体に格納されているフラッシュアーカイブのインストールが可能です。

- ディスク (DVD または CD)
- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- HTTP サーバー
- ローカルテープ

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれている対話式 (CUI) インストールプログラムの CLI では、以下の媒体に格納されているフラッシュアーカイブのインストールが可能です。

- HTTP サーバー
- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- ローカルファイル
- ローカルテープ
- CD を含むローカルデバイス

カスタム JumpStart インストールプログラムでは、以下の媒体に格納されているフラッシュアーカイブのインストールが可能です。

- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- HTTP サーバー
- ローカルテープ
- ローカルデバイス (DVD または CD)
- ローカルファイル

階層化されたフラッシュアーカイブのインストール

フラッシュ (Flash) インストール機能では、フラッシュアーカイブを階層化する機能を提供します。さまざまな方法でインストールするための、部分的なフラッシュアーカイブを作成することができます。

たとえば、1 つ目に Solaris オペレーティング環境が入ったアーカイブ、2 つ目に Web サーバーの実行に必要なファイルが入ったアーカイブ、3 つ目にネットワークファイルシステム (NFS) サーバー用のファイルが入ったアーカイブを作成します。こうすれば、1 つ目と 2 つ目のアーカイブをインストールして Web サーバーのク

ローンシステムを作成できます。1つ目と3つ目のアーカイブをほかのシステムにインストールして、ネットワークファイルシステム (NFS) サーバーを作成することもできます。

階層化されたアーカイブを使用すれば、フラッシュインストールの柔軟性を高めながら、フラッシュアーカイブの保存に必要なディスク容量を減らすことができます。階層化されたアーカイブをクローンシステムにインストールする際は、それらのアーカイブの1つに Solaris オペレーティング環境が含まれている必要があります。

注 - 階層化されたフラッシュアーカイブを使用してクローンシステムに Solaris オペレーティング環境と追加ソフトウェアを別々にインストールする場合、Solaris パッケージのデータベースには追加ソフトウェアは登録されません。

フラッシュアーカイブの作成

この章では、フラッシュアーカイブを作成する手順を説明します。

- 161 ページの「作業マップ：フラッシュアーカイブを作成する作業マップ」
- 162 ページの「フラッシュアーカイブ作成のための作業」

作業マップ：フラッシュアーカイブを作成する作業マップ

表 18-1 作業マップ：フラッシュアーカイブを作成する作業マップ

作業	説明	参照先
マスターマシンへの、選択した構成でのインストール	ニーズに合った構成を決定し、Solaris の任意のインストール方法を使用してマスターマシンにインストールする。	第 2 章
フラッシュアーカイブの作成	flarcreate コマンドを使用してアーカイブを作成する。	162 ページの「フラッシュアーカイブを作成する方法」

フラッシュアーカイブ作成のための作業

この節では、マスターシステムにインストールし、その後そのマスターシステムからフラッシュアーカイブを作成する手順を説明します。

▼ マスターシステムにインストールする方法

マスターシステムには、クローンシステムで行いたい構成と同じ構成でインストールします。マスターシステムへの Solaris オペレーティング環境のインストールは、既存の Solaris インストール方法のどの方法でも使用できます。

1. インストールしたいシステム構成を決定します。
2. いずれかの **Solaris** のインストール方法を使用して、マスターシステムに **Solaris** オペレーティング環境をインストールします。インストール方法については、第 2 章を参照してください。
3. マスターシステムを次のいずれかの方法でカスタマイズします。
 - ソフトウェアを削除する
 - ソフトウェアを追加する
 - 構成ファイルを変更する
 - クローンシステム上にある周辺装置のためのサポートを追加する

▼ フラッシュアーカイブを作成する方法

マスターシステムにインストールした後で、クローンシステムへのインストールに使用するフラッシュアーカイブを作成します。

1. マスターシステムをブートし、できるだけ静的な状態で稼働させます。

可能であれば、システムをシングルユーザーモードで実行してください。これが不可能な場合、アーカイブしたいアプリケーションおよび大量のオペレーティングシステムリソースを必要とするアプリケーションを停止します。

フラッシュアーカイブの作成は、マスターシステムがマルチユーザーモードまたはシングルユーザーモードで稼働している間、あるいは次に示すメディアの 1 つからブートする間に行うことができます。

- Solaris 8 DVD

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD
 - Solaris 8 SOFTWARE CD と Solaris 8 LANGUAGES CD のイメージ
2. flarcreate コマンドを使用して、アーカイブを作成します。

```
# flarcreate -n name options path/filename
```

このコマンド行では：

- *name* は、ユーザーがアーカイブに付ける名前です。指定する *name* は、`content_name` キーワードの値になります。
- *path* は、アーカイブファイルを保存するディレクトリへのパスです。このパスを指定しない場合、`flarcreate` はアーカイブファイルを現在のディレクトリに保存します。
- *filename* は、アーカイブファイルの名前です。

コマンド行オプションのリストは、176 ページの「`flarcreate`」を参照してください。

アーカイブの作成が正常に完了すると、`flarcreate` コマンドは終了コード 0 を返します。アーカイブの作成が失敗すると、`flarcreate` コマンドは 0 以外の終了コードを返します。

フラッシュアーカイブのインストール

この章では、フラッシュアーカイブをクローンシステムにインストールする手順を説明します。フラッシュアーカイブは、任意の Solaris のインストール方法でインストールできます。

- 165 ページの「Solaris Web Start によるフラッシュアーカイブのインストール」
- 167 ページの「Solaris 8 対話式インストールプログラムによるフラッシュアーカイブのインストール」
- 169 ページの「カスタム JumpStart インストールによるフラッシュアーカイブのインストール」

Solaris Web Start によるフラッシュアーカイブのインストール

この節では、Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD に含まれている Solaris Web Start を使用して、以下の媒体に格納されているフラッシュアーカイブをインストールする手順を説明します。

- ディスク (DVD または CD)
- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- HTTP サーバー
- ローカルテープ

▼ Solaris Web Start を使用してフラッシュアーカイブをインストールする方法

1. 第 14 章 に記述されている手順に従って、**Solaris Web Start** インストールを開始します。
2. 「媒体の指定 (**Specify Media**)」画面で、フラッシュアーカイブのロケーションを選択します。
選択された媒体に応じて、Solaris Web Start が続行するためのプロンプトを表示します。
3. プロンプトに従って次の情報を入力します。

選択された媒体	プロンプト
DVD または CD	フラッシュアーカイブを含むディスクを挿入してください。
ネットワークファイルシステム	フラッシュアーカイブを含むネットワークファイルシステムへのパスを指定してください。アーカイブのファイル名を入力することもできます。
HTTP	フラッシュアーカイブにアクセスするための URL とプロキシ情報を指定してください。
ローカルテープ	フラッシュアーカイブを含むローカルテープデバイスとテープ上の位置を指定してください。

DVD、CD、または NFS サーバーに格納されたアーカイブのインストールを選択した場合は、「フラッシュアーカイブの選択 (Select Flash Archives)」画面が表示されます。

4. **DVD**、**CD**、または **NFS** サーバーに格納されたアーカイブについては、「フラッシュアーカイブの選択 (**Select Flash Archives**)」画面で、インストールするフラッシュアーカイブを選択します (1 つでも複数でも可)。
5. 「フラッシュアーカイブの一覧 (**Flash Archives Summary**)」画面で選択されたアーカイブを確認し、「次へ (**Next**)」をクリックします。
6. 「追加するフラッシュアーカイブ (**Additional Flash Archives**)」画面で、別のアーカイブを含む媒体を指定して、階層化されたフラッシュアーカイブのイン

ストールを選択することができます。アーカイブをそれ以上インストールしない場合は、「なし - アーカイブの選択が完了しました (None)」を選択し、「次へ (Next)」をクリックしてインストールを続けます。

Solaris 8 対話式インストールプログラムによる フラッシュアーカイブのインストール

この節では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれる Solaris 8 対話式インストールプログラムの CLI を使用して、以下に格納されているフラッシュアーカイブをインストールする手順を説明します。

- HTTP サーバー
- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- ローカルファイル
- ローカルテープ
- CD を含むローカルデバイス

▼ Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用して フラッシュアーカイブをインストールする方法

1. **Solaris 8 対話式インストールプログラムの CLI を開始します (GUI ではなく、CLI を使用する必要があります)。**
 - SPARC: Solaris 8 対話式インストールプログラムの CLI を開始するには、`-w` 引数を指定してシステムをブートします。
 - CD からブートする場合:

```
ok boot cdrom - w
```
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージからブートする場合:

```
ok boot net - w
```
 - IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムの CLI を開始するには、次の手順を使用します。

1. 144 ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」に従ってシステムをブートし、Solaris 8 対話式インストールプログラムを開始します。
 2. 「kdmconfig - Introduction」画面が表示されたら、F4 キー (Bypass) を選択し、kdmconfig テストを省略し、インストールを開始します。
2. 「Flash Archive Retrieval Method」画面で、フラッシュアーカイブのロケーションを選択します。
- 選択された媒体に応じて、Solaris 8 Solaris Web Start インストールが進行するためのプロンプトが表示されます。
3. プロンプトに従って次の情報を入力します。

選択された媒体	プロンプト
HTTP	フラッシュアーカイブへのアクセスに必要な URL とプロキシ情報を指定してください。
ネットワークファイルシステム	フラッシュアーカイブを含むネットワークファイルシステムのパスを指定してください。アーカイブのファイル名を入力することもできます。
ローカルファイル	フラッシュアーカイブを含むローカルファイルシステムのパスを指定してください。
ローカルテープ	フラッシュアーカイブを含むローカルテープデバイスとテープ上の位置を指定してください。
ローカルデバイス	フラッシュアーカイブを含むローカルデバイスとパス、ファイルシステムのタイプを指定してください。

4. 「Flash Archive Selection」画面で、「New」を選択すると、階層化されたフラッシュアーカイブのインストールを選択することができます。アーカイブをそれ以上インストールしない場合は、インストールを完了させるために「Continue」を選択します。

注 - キャラクターベース (CLI) の対話式インストールでは、デフォルトロケールに日本語ロケールを指定しても、インストール画面の表示言語は英語になります。

カスタム **JumpStart** インストールによるフラッシュアーカイブのインストール

この節では、カスタム **JumpStart** インストールを使用して、フラッシュアーカイブをインストールする手順を説明します。

- ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー
- HTTP サーバー
- ローカルテープ
- ローカルドライブ (DVD、CD など)
- ローカルファイル

▼ カスタム **JumpStart** インストールを使用してフラッシュアーカイブをインストールする方法

1. インストールサーバーで、カスタム **JumpStart** の `rules` ファイルを作成します。
カスタム **JumpStart** ファイルの作成手順の詳細は、第 23 章を参照してください。
2. インストールサーバーで、カスタム **JumpStart** のプロファイルを作成します。
 - a. `install_type` プロファイルキーワードの値を、`flash_install` と設定します。
 - b. 新しい `archive_location` プロファイルキーワードを使用して、フラッシュアーカイブへのパスを追加します。
`archive_location` プロファイルキーワードの詳細は、281 ページの「`archive_location` プロファイルキーワード」を参照してください。
 - c. ファイルシステム構成を指定します。
フラッシュアーカイブの抽出プロセスでは、パーティションの自動配置はサポートされません。
 - d. (省略可能) クローンシステムに階層化されたフラッシュアーカイブをインストールしたい場合は、インストールしたいアーカイブごとに `archive_location` 行を指定してください。

注 - 第 23 章に記載されているカスタム **JumpStart** のプロファイルキーワードのリストの中で、フラッシュアーカイブをインストールする時に有効なキーワードは、以下のもののみです。

- `fdisk` (IA のみ)
 - `filesys - filesys` プロファイルキーワードに値 `auto` は設定できません。
 - `install_type` (必須)
 - `partitioning - partitioning` プロファイルキーワードに、値 `explicit` または `existing` のみ設定できます。
-

3. インストールサーバーで、フラッシュアーカイブをインストールするクライアントを追加します。
手順の詳細は115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。
4. クローンシステムへのカスタム **JumpStart** インストールを実行します。
手順の詳細は、第 26 章を参照してください。

フラッシュのカスタム **JumpStart** プログラムファイルの例

次に、カスタム **JumpStart** インストールを使用してフラッシュアーカイブをインストールするために利用できるプロファイル例を示します。

次のプロファイル例は、カスタム **JumpStart** プログラムが HTTP サーバーからフラッシュアーカイブを取り出すことを示しています。

例 19-1 HTTP サーバーからフラッシュアーカイブをインストールする

```
install_type flash_install
archive_location http installserver /flasharchive/solaris8archive
partitioning explicit
filesys c0t1d0s0 4000 /
filesys c0t1d0s1 512 swap
filesys c0t1d0s7 free /export/home
```

次のプロファイル例は、カスタム **JumpStart** プログラムが NFS サーバーからフラッシュアーカイブを取り出すことを示しています。

例 19-2 NFS サーバーからフラッシュアーカイブをインストールする

```
install_type flash_install
archive_location nfs installserver:/export/solaris/flasharchive/solaris8archive
partitioning explicit
filesystems rootdisk.s0 6000 /
filesystems rootdisk.s1 512 swap
filesystems rootdisk.s7 free /export/home
```


フラッシュに関するリファレンス情報

フラッシュインストール機能では、フラッシュアーカイブの管理および制御のためのツールを提供します。アーカイブを作成後、アーカイブ情報を抽出する、1つのアーカイブを複数のセクションに分割する、複数のアーカイブセクションを結合するなどの作業が行えます。

- 173 ページの「フラッシュアーカイブのセクション」
- 174 ページの「フラッシュのキーワード」
- 176 ページの「フラッシュのコマンド」

フラッシュアーカイブのセクション

フラッシュアーカイブには、少なくとも 3 つのセクションが含まれます。これらのセクションは、アーカイブ識別情報と、クローンシステムにインストールされるマスターシステムからコピーされた実際のファイルから構成されています。

1. **cookie** セクション - フラッシュアーカイブの先頭には、ファイルをフラッシュアーカイブとして識別する **cookie** が含まれます。アーカイブが有効であるためには、この **cookie** が存在する必要があります。
2. **identification** セクション - 2 つ目のセクションには、アーカイブについての識別情報を示す値が指定されたキーワードが含まれます。
3. **ユーザー定義のセクション** - **identification** セクションの後には、ユーザーがセクションを定義して挿入できます。フラッシュアーカイブは、ユーザーが挿入したセクションは処理しません。ユーザー定義のセクションは、行単位で作成し、復

帰改行 (ASCII 0x0a) 文字で終了させる必要があります。個々の行の長さに制限はありません。ユーザー定義のセクションにバイナリデータを含める場合は、base64 またはそれに類似したアルゴリズムを使用してコード化する必要があります。

ユーザー定義のセクションの名前は「X」で始める必要がありますが、その後には改行、等号、空文字、フォワードスラッシュ (/) 以外の任意の文字を続けることができます。たとえば、X-department はユーザー定義のセクション名として有効です。

4. **archive** セクション - archive セクションには、マスターシステムから保存されたファイルが含まれます。

フラッシュのキーワード

キーワードと値は1つの等号で区切られ、1行に1キーワードを指定します。個々の行の長さに制限はありません。キーワードは、大文字と小文字を区別する必要があります。

一般的なキーワード

フラッシュアーカイブの各セクションの初めと終わりは、`section_begin` と `section_end` キーワードで定義されます。`section_begin` と `section_end` キーワードの値を以下の表に示します。

表 20-1 `section_begin` と `section_end` キーワードの値

アーカイブのセクション	<code>section_begin</code> と <code>section_end</code> キーワードの値
cookie セクション	cookie
identification セクション	identification
ユーザー定義のセクション	<i>section_name</i>
archive セクション	archive

identification セクションのキーワード

この節では、identification セクションで使用されるキーワードと、これらに定義できる値について説明します。

次の表は、アーカイブについて記述するキーワードを説明しています。

表 20-2 identification セクションのキーワード

キーワード	値の定義
content_name (必須)	フラッシュアーカイブの展開ユーティリティは、content_name キーワードの値を使用してアーカイブを識別します。この値は、256 文字以内で指定する必要があります。 content_name キーワードの値は、アーカイブの選択と抽出プロセスの間ユーザーに提示されることがあるため、この値にアーカイブの機能と目的を記述すると便利です。
creation_date	creation_date キーワードの値は、アーカイブが作成された日時を示す、テキスト形式のタイムスタンプです。値は、YYYYMMDDhhmmss 形式にしてください。たとえば、20000131221409 は、2000 年 1 月 31 日、22 時 14 分 09 秒を示します。作成日を指定しない場合、デフォルトの日付がグリニッジ標準時 (GMT) で設定されます。
creation_master	creation_master キーワードの値は、アーカイブの作成に使用したマスターシステムの名前です。creation_master に値を指定しない場合、flarcreate には uname -n が出力するシステム名が設定されます。
content_type	content_type キーワードの値は、アーカイブのカテゴリを指定するために定義します。フラッシュアーカイブの展開ユーティリティは、展開中に content_type キーワードの値を表示します。
content_description	content_description キーワードの値は、アーカイブの内容を記述するために定義します。このキーワードの値の長さには制限はありません。

表 20-2 identification セクションのキーワード 続く

キーワード	値の定義
content_author	content_author キーワードの値は、アーカイブの作成者を示すために定義します。作成者のフルネームと電子メールアドレスを含めることをお勧めします。
content_architectures	content_architectures キーワードの値は、アーカイブがサポートするカーネルアーキテクチャをコンマで区切って指定したリストです。フラッシュアーカイブを作成すると、このアーカイブによって content_architectures キーワードの値が生成されます。 アーカイブにこのキーワードが含まれる場合、フラッシュアーカイブ展開ユーティリティは、アーカイブがサポートするアーキテクチャのリストに照らしてクローンシステムのカーネルアーキテクチャの検証を行います。アーカイブがクローンシステムのカーネルアーキテクチャをサポートしていない場合、展開は失敗します。このキーワードが存在しない場合、展開ユーティリティはクローンシステムのアーキテクチャの検証を行いません。

フラッシュアーカイブで定義されるキーワードに加えて、ユーザー自身でもキーワードを定義できます。フラッシュアーカイブはユーザー定義のキーワードを無視しますが、identification セクションを処理しユーザー定義のキーワードを使用するスクリプトまたはプログラムを提供できます。ユーザー定義のキーワードの名前は「X」で始まる必要がありますが、改行、等号、空文字以外の任意の文字を含むことができます。たとえば、X-department はユーザー定義のキーワードとして有効です。

フラッシュのコマンド

フラッシュのコマンドは、フラッシュアーカイブの作成と管理に使用します。

flarcreate

flarcreate コマンドは、マスターシステムからフラッシュアーカイブを作成するために使用します。このコマンドは、マスターシステムがマルチユーザーモードまたはシングルユーザーモードで稼働している時に使用できます。また、flarcreate は、マスターシステムが Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD からブートしている時、あるいは Solaris 8 SOFTWARE CD

および Solaris 8 LANGUAGES CD のネットイメージからブートしている時にも使用できます。フラッシュアーカイブを作成する時は、マスターシステムはできるだけ静的な状態にしておく必要があります。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
flarcreate -n name [-R root] [-S] [-H] [-c] [-x exclude] [-t [-p posn][[-b blocksize]]
[-i date] [-m [-u section [-d dir]] [-f file_list] [-F] [-U key=val] ][-a author] [-e
descr:-E desc r_file] [-T type]
```

このコマンド行で、*path* は、アーカイブファイルを保存するディレクトリです。*filename* は、アーカイブファイルの名前です。パスを指定しない場合、*flarcreate* はアーカイブファイルを現在のディレクトリに保存します。

表 20-3 flarcreate のコマンド行オプション

オプション	説明
必須オプション	
-n <i>name</i>	このオプションの値は、アーカイブの名前です。指定する <i>name</i> は、 <i>content_name</i> キーワードの値になります。
圧縮用のオプション	
-c	<i>compress</i> (1) を使用してアーカイブを圧縮します。
ディレクトリとサイズを指定するオプション	
-R <i>root</i>	<i>root</i> のファイルシステムツリーからアーカイブを作成します。このオプションを指定しない場合、 <i>flarcreate</i> は / ファイルシステムからアーカイブを作成します。
-S	アーカイブにサイズ情報を含めません。
-x <i>exclude</i>	ディレクトリ <i>exclude</i> をアーカイブの対象外にします。ファイルシステムとして -R <i>root</i> を指定すると、ディレクトリ <i>exclude</i> へのパスは <i>root</i> からの相対パスとみなされます。
-H	ハッシュ識別子を生成しません。
ユーザー定義のセクションで使用されるオプション	
-u <i>section</i>	ユーザー定義のセクションを含めます。ユーザー定義のセクションを複数含めるには、セクション名を空白で区切ったリストにします。

表 20-3 flarcreate のコマンド行オプション 続く

オプション	説明
-d <i>dir</i>	<i>dir</i> から、-u で指定したセクションを取り出します。
テープアーカイブで使用されるオプション	
-t	テープデバイス上にアーカイブを作成します。 <i>filename</i> 引数は、テープデバイスの名前です。
-p <i>posn</i>	-t オプションとの併用でのみ使用できます。flarcreate がアーカイブを格納するための、テープデバイス上の位置を指定します。このオプションを指定しない場合、flarcreate はテープの現在の位置にアーカイブを配置します。
-b <i>blocksize</i>	flarcreate がアーカイブの作成時に使用するブロックサイズを指定します。ブロックサイズを指定しない場合、flarcreate はデフォルトのブロックサイズ 64k を使用します。
ファイルを指定するためのオプション	
-f <i>file_list</i>	<i>file_list</i> に示されるファイルをアーカイブに追加します。 <i>file_list</i> ファイルでは、1 ファイルを 1 行で表す必要があります。各ファイルへのパスは、代替ルートディレクトリからの相対パスまたは絶対パスです。 <i>file_list</i> の値として [-] を指定すると、ファイルのリストとして stdin の出力が使用されます。[-] を指定すると、アーカイブのサイズは計算されません。
-F	<i>file_list</i> に示されるファイルだけを使ってアーカイブを作成します。
アーカイブ識別のためのオプション	
-U <i>key=val</i>	identification セクションに、ユーザー定義のキーワードと値を含めます。
-i <i>date</i>	<i>date</i> は、creation_date キーワードの値として使用されます。 <i>date</i> を指定しない場合、flarcreate は現在のシステム日時を使用します。

表 20-3 flarcreate のコマンド行オプション 続く

オプション	説明
-m <i>master</i>	<i>master</i> は、 <code>creation_master</code> キーワードのアーカイブを作成したマスターシステムの名前として使用されます。 <i>master</i> を指定しない場合、 <code>flarcreate</code> は <code>uname -n</code> が出力するシステム名を使用します。
-e <i>descr</i>	<i>descr</i> は、 <code>content_description</code> キーワードの値として使用されます。 <code>-E</code> オプションを使用する場合はこのオプションを使用できません。
-E <i>descr_file</i>	ファイル <i>descr_file</i> から <code>content_description</code> キーワードの値を取得します。 <code>-e</code> オプションを使用する場合はこのオプションを使用できません。
-a <i>author</i>	<i>author</i> は、 <code>identification</code> セクション内の <code>content_author</code> キーワードの値として使用されます。作成者を指定しない場合、 <code>flarcreate</code> は <code>identification</code> セクションの <code>content_author</code> キーワードを含めません。
-T <i>type</i>	<i>type</i> は、 <code>content_type</code> キーワードの値として使用されます。タイプを指定しない場合、 <code>flarcreate</code> は <code>content_type</code> キーワードを含めません。

flar

`flar` コマンドは、アーカイブの管理に使用します。このコマンドで行うことができる作業は以下のとおりです。

- 179 ページの「アーカイブからの情報の抽出」
- 180 ページの「アーカイブの分割」
- 181 ページの「アーカイブの結合」

アーカイブからの情報の抽出

作成済みのアーカイブについての情報を取得するには、`-i` または `info` オプションを指定して `flar` コマンドを使用します。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
flar -i:info [- l] [-k keyword] [- t [-p posn] [- b blocksize]] filename
```

表 20-4 flar -i (flar info) のコマンド行オプション

オプション	説明
-k <i>keyword</i>	キーワード <i>keyword</i> の値のみを返します。
-l	アーカイブセクション内のすべてのファイルをリスト表示します。

アーカイブの分割

フラッシュアーカイブを複数のセクションに分割するには、-s または split オプションを指定して flar コマンドを使用します。flar コマンドは、現在のディレクトリまたは指定されたディレクトリ内に各セクションを個々のファイルに分けてコピーします。ファイルには、セクション名からとった名前が付けられます。たとえば、cookie セクションは、cookie と名付けられたファイルに保存されます。flar コマンドでは、1つのセクションだけを保存するように指定できます。このコマンドの構文は次のとおりです。

```
flar -s:split[- d dir] [-u section] [-f archive] [-S section] [-t [-p posn] [-b blocksize]] filename
```

表 20-5 flar -s (flar split) のコマンド行オプション

オプション	説明
-d <i>dir</i>	コピーするセクションを、現在のディレクトリからではなく <i>dir</i> から取得します。
-u <i>section</i>	このオプションを使用しない場合、flar は現在のディレクトリ内のすべてのセクションをコピーします。このオプションを使用した場合、flar は cookie セクション、identification セクション、archive セクション、および <i>section</i> セクションをコピーします。1つのセクション名を指定することも、あるいは空白で区切って複数のセクション名を指定することも可能です。

表 20-5 flar -s (flar split) のコマンド行オプション 続く

オプション	説明
-f archive	アーカイブセクションを、archive という名前のファイルに入れるのではなく、archive というディレクトリに抽出します。
-S section	アーカイブから section と名付けられたセクションだけをコピーします。

アーカイブの結合

個々のセクションからフラッシュアーカイブを作成するには、-c または combine オプションを指定して、flar コマンドを使用します。各セクションは、セクション名を名前に持つ個々のファイル内にあると見なされます。少なくとも、cookie (cookie セクション)、identification (identification セクション)、および archive (archive セクション) の 3 つのファイルが存在する必要があります。archive がディレクトリである場合、flar コマンドは、結合されたアーカイブに含める前に、cpio を使用してこれをアーカイブします。identification セクションにアーカイブの圧縮が指定されている場合、flar は新しく結合されたアーカイブのコンテンツを圧縮します。

```
flar -c:combine [-d dir] [-u section] [-t [-p posn] [-b blocksize]] filename
```

注 - どのセクションについても検証は何も行われません。特に、identification セクション内のどのフィールドについても、検証や更新は行われません。

表 20-6 flar -c (flar combine) のコマンド行オプション

オプション	説明
-d dir	結合するセクションを、現在のディレクトリからではなく dir から取得します。
-u section	このオプションを指定しない場合、flar は現在のディレクトリ内のすべてのセクションを結合します。このオプションを使用した場合、flar は cookie セクション、identification セクション、archive セクション、および section セクションのみを結合します。1 つのセクション名を指定することも、あるいは空白で区切って複数のセクション名を指定することも可能です。

表 20-6 flar -c (flar combine) のコマンド行オプション 続く

カスタム JumpStart インストール

以下の章では、カスタム JumpStart インストールのための準備や実行手順について説明します。

第 22 章	カスタム JumpStart インストールの紹介と概要を示します。
第 23 章	各サイトでカスタム JumpStart インストールを使用して Solaris 8 ソフトウェアをインストールするために必要な準備の手順について説明します。
第 24 章	カスタム JumpStart インストールツールで実行するスクリプトを作成するときに使用できるオプション機能について説明します。
第 25 章	独自のカスタムルールとカスタムプロンプトを作成するための情報と手順を説明します。
第 26 章	SPARC ベースシステムまたは IA ベースシステムにおけるカスタム JumpStart インストールの実行方法を説明します。これらの手順は、Solaris 8 ソフトウェアをインストールしようとするシステム上で実行してください。
第 27 章	SPARC ベースシステムと IA ベースシステムにおいてカスタム JumpStart インストールによって Solaris ソフトウェアの設定とインストールを行う例を示します。
第 28 章	rules ファイル、プロファイル、begin スクリプト、および finish スクリプトで使用できるキーワードと値を示します。

カスタム JumpStart の概要

この章では、カスタム JumpStart のインストール処理について紹介し、全体の概要を示します。

- 185 ページの「カスタム JumpStart とは」
- 187 ページの「JumpStart プログラムが Solaris ソフトウェアをインストールする方法」

カスタム JumpStart とは

カスタム JumpStart は、あらかじめ作成したプロファイルを使って、複数のシステムのインストールやアップグレードを自動的にかつ同時に行うことができるコマンド行インタフェースです。プロファイルには、どのようにソフトウェアをインストールするかを定義します。さらに、インストール前とインストール後に実行する作業を、シェルスクリプトを使用して指定することができます。システムのインストールまたはアップグレードにどのプロファイルとスクリプトを使用するかをユーザーが選択すると、それらの選択にもとづいて処理が行われます。また、`sysidcfg` ファイルを使用して構成情報を指定することにより、カスタム JumpStart インストールを完全に自動化することも可能です。

以下に、1 例を挙げてカスタム JumpStart の処理を説明します。この事例では、システムは次のパラメータを指定して設定する必要があるとします。

- 100 台の新しいシステムに Solaris をインストールする。

- 100 台の新しい SPARC システムのうち 70 台はエンジニアリング部が所有し、そのシステムは「開発者」Solaris オペレーティング環境ソフトウェアグループでスタンドアロンシステムとしてインストールしなければならない。
- 100 台の新しい IA (Intel アーキテクチャ) システムのうち 30 台はマーケティング部が所有し、そのシステムは「エンドユーザー」Solaris オペレーティング環境ソフトウェアグループでスタンドアロンシステムとしてインストールしなければならない。

まず、システム管理者はシステムグループごとに `rules` ファイルとプロファイルを作成する必要があります。`rules` ファイルは、Solaris ソフトウェアをインストールするシステムグループごと (または 1 つのシステム) のルールが入ったテキストファイルです。各ルールは 1 つ以上のシステム属性にもとづいてシステムグループを識別し、各グループをプロファイルにリンクします。

プロファイルは、グループ内の各システムに Solaris ソフトウェアがどのようにインストールされるかを定義するテキストファイルです。`rules` ファイルとプロファイルは、JumpStart ディレクトリに置かれている必要があります。

この例の場合、システム管理者は 2 つの異なるルールで `rules` ファイルを作成します。1 つはエンジニアリンググループ用のルールで、もう 1 つはマーケティンググループ用のルールです。ルールごとに、システムのプラットフォームグループを使用して、グループを区別できます。エンジニアリンググループは SPARC システムを持っていて、マーケティンググループは IA システムを持っています。

各ルールには、適切なプロファイルへのリンクも含まれています。たとえば、エンジニアリンググループ用のルールでは、エンジニアリンググループ用に作成した `eng_profile` というプロファイルへのリンクを追加します。マーケティンググループ用のルールでは、マーケティンググループ用に作成した `market_profile` というプロファイルへのリンクを追加します。

`rules` ファイルとプロファイルは、フロッピーディスクまたはサーバー上に保存できます。

- プロファイルフロッピーディスクは、カスタム JumpStart インストールを、ネットワークに接続されていないスタンドアロンシステムで実行するときが必要です。
- プロファイルサーバーは、カスタム JumpStart インストールを、サーバーにアクセスできるネットワークに接続されたシステムで実行するときを使用します。

rules ファイルとプロファイルを作成した後、check スクリプトを使用して、これらのファイルの妥当性を検査する必要があります。check スクリプトが正常に動作する場合、rules.ok ファイルが作成されます。rules.ok は rules ファイルの生成バージョンであり、JumpStart プログラムによって Solaris ソフトウェアのインストールに使用されます。

JumpStart プログラムが Solaris ソフトウェアをインストールする方法

rules ファイルとプロファイルの検証が終わると、カスタム JumpStart インストールを開始できます。JumpStart プログラムは、rules.ok ファイルを読み取ります。続いて、Solaris ソフトウェアがインストールされるシステムに一致するシステム属性を持つ最初のルールを検索します。一致するルールが見つかったら、JumpStart プログラムはそのルール内に指定されているプロファイルを使用してシステムに Solaris ソフトウェアをインストールします。

図 22-1 は、ネットワークに接続されていないスタンドアロン型のシステムでカスタム JumpStart インストールがどのように行われるかを示しています。この例では、システム管理者は Pete のシステムでカスタム JumpStart インストールを開始しています。JumpStart プログラムは、システムのフロッピーディスクドライブに挿入されているフロッピーディスク上の rules ファイルにアクセスし、rule 2 をシステムに対応付けます。rule 2 には、JumpStart プログラムが Pete のプロファイルを使用して Solaris ソフトウェアをインストールするように指定されています。JumpStart プログラムは、Pete のプロファイルを読み取り、このプロファイル内に指定されている指示にもとづいて Solaris ソフトウェアをインストールします。

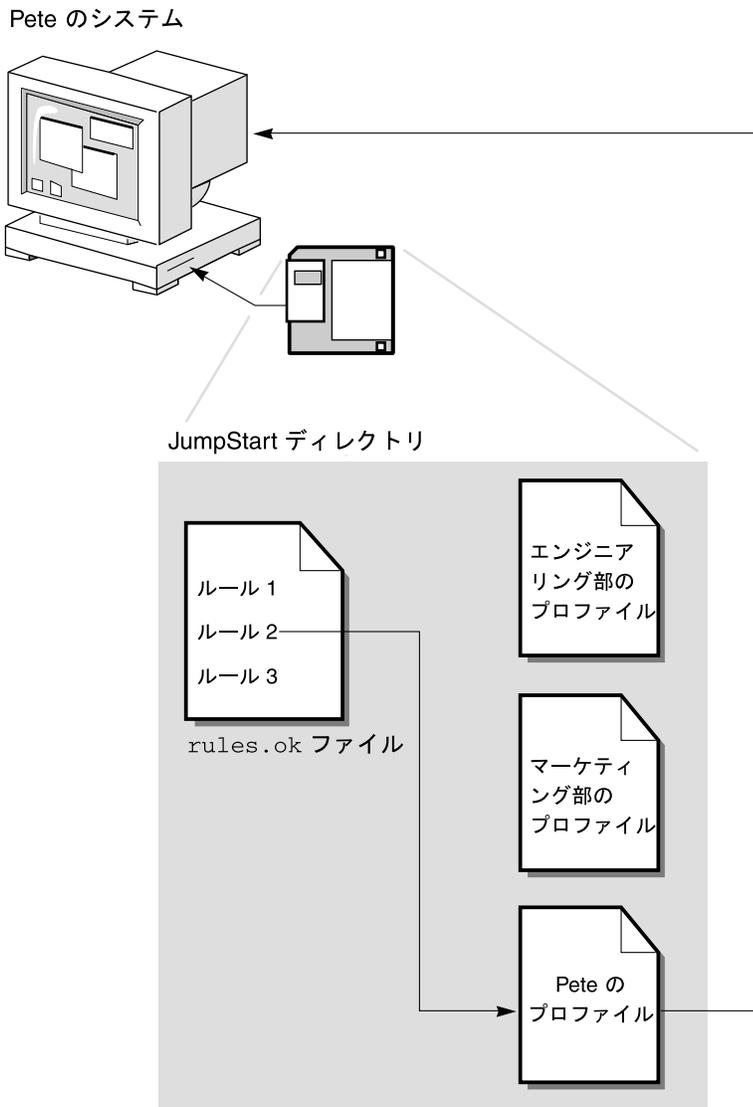


図 22-1 カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されていないシステムの例

図 22-2 は、ネットワーク上の複数のシステムが存在する場合にカスタム JumpStart インストールがどのように行われるかを示しています。すでに個別のプロファイルが設定され、1 台のサーバーにまとめて保存されています。システム管理者は、エンジニアリング部のシステムの中の 1 台でカスタム JumpStart インストールを開始します。JumpStart プログラムは、サーバー上の JumpStart/ ディレクトリに存在

する rules ファイルにアクセスします。JumpStart プログラムは、エンジニアリング部のシステムを rule 1 に対応付けます。rule 1 には、JumpStart プログラムがエンジニアリング部のプロファイルを使用してSolaris ソフトウェアをインストールするように指定されています。JumpStart はエンジニアリング部のプロファイルを読み取り、このプロファイル内に指定されている指示にもとづいて Solaris ソフトウェアをインストールします。

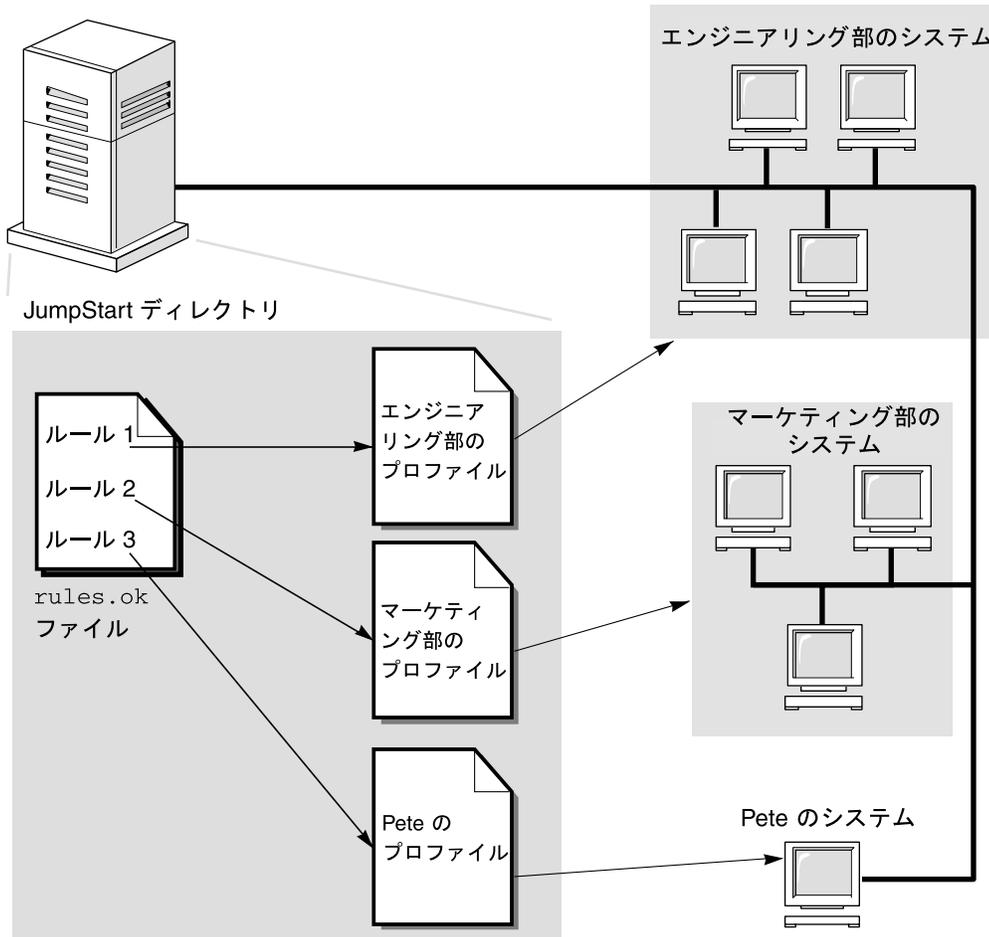


図 22-2 カスタム JumpStart インストールの動作: ネットワークに接続されているシステムの例

図 22-3 は、JumpStart プログラムがカスタム JumpStart ファイルを検索する順番を示しています。

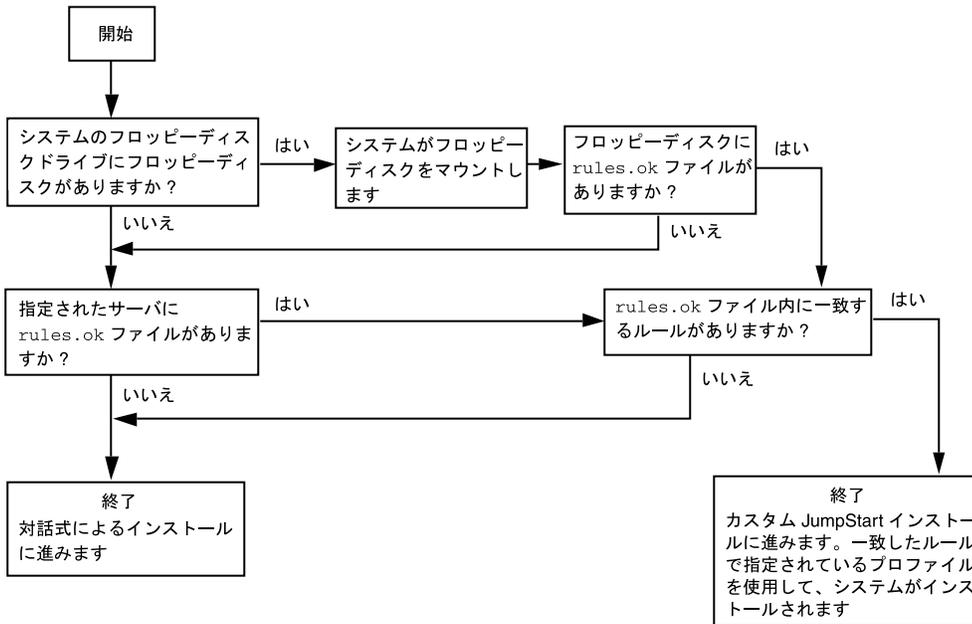


図 22-3 カスタム JumpStart インストール実行時の流れ

カスタム JumpStart インストールの準備

この章では、カスタム JumpStart インストールを使用して、各サイトのシステムに Solaris 8 ソフトウェアをインストールするために必要な準備の手順について説明します。

- 191 ページの「作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備」
- 193 ページの「ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成」
- 198 ページの「スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成」
- 205 ページの「rules ファイルの作成」
- 210 ページの「プロファイルの作成」
- 215 ページの「プロファイルのテスト」
- 220 ページの「rules ファイルの妥当性を検査する」

作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備

表 23-1 作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備

作業	説明	参照先
旧バージョンの Solaris ソフトウェアがシステム上にインストールされている場合は、システムをアップグレードする方法を決定する	システムに以前の Solaris リリースがインストールされている場合は、システムをどのようにアップグレードするかを決める必要があります。システムアップグレードの前と後に実施すべき作業を明確にしておいてください。計画を立てることによって、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなどの作成が容易になります。	第 8 章
JumpStart ディレクトリを作成する	<p>サーバーの場合</p> <p>ネットワーク接続されたシステムに対してカスタマイズ JumpStart インストールを実行する場合は、プロファイルサーバーを作成する必要があります。プロファイルサーバーには、カスタム JumpStart ファイル用の JumpStart ディレクトリが入っています。</p> <p>フロッピーディスクの場合</p> <p>ネットワークに接続されていないシステムに対して JumpStart インストールを実行する場合は、プロファイルフロッピーディスクを作成する必要があります。プロファイルフロッピーディスクには、カスタム JumpStart ファイルが入っています。</p>	<p>193 ページの「ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成」</p> <p>198 ページの「スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成」</p>
ルールを rules ファイルに追加する	各システムグループまたは単一のシステムをどのようにインストールするか決定した後で、インストールする各グループに対してルールを作成します。各ルールは、1 つ以上のシステム属性にもとづいてグループを識別し、それぞれのグループを 1 つのプロファイルにリンクします。	205 ページの「rules ファイルの作成」

表 23-1 作業マップ: カスタム JumpStart インストールの準備 続く

作業	説明	参照先
ルールごとにプロファイルを作成する	プロファイルは、どのように Solaris ソフトウェアをシステムにインストールするか (たとえば、どのソフトウェアグループをインストールするか) を定義するテキストファイルです。すべてのルールはプロファイルを指定して、ルールが一致したときにシステムがどのようにインストールされるかを定義します。通常は、ルールごとに異なるプロファイルを作成しますが、複数のルールで同じプロファイルを使用することも可能です。	210 ページの「プロファイルの作成」
(省略可能) プロファイルをテストする	プロファイルの作成後、 <code>pfinstall(1M)</code> コマンドを使用すれば、プロファイルを使用してシステムをインストールまたはアップグレードする前に、プロファイルをテストできます。	215 ページの「プロファイルのテスト」
<code>rules</code> ファイルの妥当性を検査する	<code>rules.ok</code> ファイルは、 <code>rules</code> ファイルから生成されたファイルで、JumpStart プログラムがプロファイルを使用してインストールするシステムを一致させるために使用されます。 <code>rules</code> ファイルの妥当性を検査するには、 <code>check</code> スクリプトを使用する必要があります。	220 ページの「 <code>rules</code> ファイルの妥当性を検査する」

ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成

ネットワーク上のシステム用にカスタム JumpStart インストールを設定する際は、サーバー上に JumpStart ディレクトリと呼ばれるディレクトリを作成する必要があります。JumpStart ディレクトリには、重要なカスタム JumpStart ファイル (`rules`

ファイル、rules.ok ファイル、プロファイルなど) がすべて置かれます。
JumpStart ディレクトリは、プロファイルサーバーのルート (/) ディレクトリに作成する必要があります。

JumpStart ディレクトリを持つサーバーは、「プロファイルサーバー」と呼びます。プロファイルサーバーは、インストールサーバーまたはブートサーバーと同じにすることも、あるいは異なるサーバーとして独立させることもできます。プロファイルサーバーは、異なるプラットフォームのシステムにもカスタム JumpStart ファイルを提供できます。たとえば、IA サーバーは、SPARC システムと IA システムの両方にカスタム JumpStart ファイルを提供できます。

注 - プロファイルサーバーの作成後、システムがそのサーバーにアクセスできるように設定する必要があります。詳細は、196 ページの「すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法」を参照してください。

▼ JumpStart ディレクトリをサーバー上に作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにディスクを管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. **JumpStart** ディレクトリを作成するサーバーに、スーパーユーザーとしてログインします。
2. サーバーに **JumpStart** ディレクトリを作成します。

```
# mkdir -m 755 jumpstart_dir_path
```

`jumpstart_dir_path` は、JumpStart ディレクトリの絶対パスです。

たとえば、次のコマンドは、ルートファイルシステムに `jumpstart` というディレクトリを作成し、アクセス権を 755 に設定します。

```
# mkdir -m 755 /jumpstart
```

3. /etc/dfs/dfstab ファイルを編集します。次のエントリを追加してください。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 jumpstart_dir_path
```

たとえば、次のエントリは /jumpstart ディレクトリを共有します。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /jumpstart
```

4. shareall と入力して **Enter** を押します。
5. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを **JumpStart** ディレクトリにコピーするかどうか決定します。
- コピーしない場合は、196 ページの手順 8 へ進みます。
 - コピーする場合は、次の表を利用して次に行う作業を決定します。

例のコピー元	実行すべき作業
プラットフォームに対応した Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD	サーバーの CD-ROM ドライブに、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
ローカルディスク上で使用されているプラットフォーム用の Solaris 8 DVD イメージまたは Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージ	Solaris 8 DVD イメージまたは Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 イメージが配置されている場所にディレクトリを移動します。たとえば、次のようにコマンドを入力します。 cd /export/install

6. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを、プロファイルサーバーの **JumpStart** ディレクトリにコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

<i>media_path</i>	ローカルディスク上の CD、DVD、またはイメージのパス。
<i>jumpstart_dir_path</i>	カスタム JumpStart ファイルの例を配置する、プロファイルサーバー上のパス。

たとえば、次のコマンドは、`jumpstart_sample` ディレクトリをプロファイルサーバー上の `/jumpstart` ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/sol_8_sparc/s0/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /jumpstart
```

7. サンプル **JumpStart** ファイルを更新し、それらのファイルがサイトの環境内で動作するようにします。
8. **JumpStart** ディレクトリの所有者が `root` で、そのアクセス権が **755** に設定されていることを確認します。
9. ネットワーク上のシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるように設定します。
詳細は、196 ページの「すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法」を参照してください。

▼ すべてのシステムがプロファイルサーバーにアクセスできるようにする方法

プロファイルサーバーを作成する際に、システムがカスタム JumpStart インストール中にプロファイルサーバーにアクセスできるようにする必要があります。このためには、次の方法があります。

- `add_install_client` コマンド – ネットワークインストールでシステムを追加するたびに、`add_install_client` コマンドの `-c` オプションを使用します。手順の詳細は 115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。
- `boot` コマンド – システムのブート時にプロファイルサーバー上の JumpStart ディレクトリの場所を指定します。カスタム JumpStart 構成ファイルは、圧縮し

て1つのファイルにする必要があります。続いて、NFS サーバー、HTTP サーバー、またはシステムがローカルにアクセスできるメディアに圧縮されたその構成ファイルを保存します。詳細は、231 ページの「圧縮された構成ファイルの作成」を参照してください。

システムをブートしてカスタム JumpStart インストールを開始する場合は、この圧縮ファイルの場所を指定してください。詳細は、SPARC システムについては 251 ページの手順 5 を、IA システムについては 257 ページの手順 8 をそれぞれ参照してください。

- /etc/bootparams ファイル – /etc/bootparams ファイルでワイルドカードを使用します。etc/bootparams ファイルにワイルドカードを追加するには、以下の手順に従ってください。

注 - 以下の手順は、JumpStart ディレクトリをフロッピーディスクに保存する場合と、システムのブート時にプロファイルサーバーの場所を指定する場合は不要です。

この手順は、ネットワークインストール情報が /etc/bootparams ファイルに格納されている場合だけ有効です。ネットワークインストール情報は、次の場所に格納することもできます。

- ネームサービスデータベース – ネットワークインストール情報がネームサービスの bootparams データベースに格納されている場合は、197 ページの手順 3 に示すエントリを bootparams データベースに追加する必要があります。
 - DHCP サーバー – ネットワークインストール情報が DHCP サーバーに格納されている場合は、boot コマンドを使用してカスタム JumpStart が DHCP サーバーを使用するように指定する必要があります。詳細は、SPARC システムについては 251 ページの手順 5 を、IA システムについては 257 ページの手順 8 をそれぞれ参照してください。
1. インストールサーバーまたはブートサーバーにスーパーユーザーとしてログインします。
 2. テキストエディタを使用して /etc/bootparams を開きます。
 3. 次のエントリを追加します。

```
* install_config=server:jumpstart_dir_path
```

*	すべてのシステムにアクセスできるように指定するワイルドカード文字
<i>server</i>	JumpStart ディレクトリがあるプロファイルサーバーのホスト名
<i>jumpstart_dir_path</i>	JumpStart ディレクトリの絶対パス

たとえば、次のエントリはすべてのシステムが、*sherlock* というサーバーにある */jumpstart* ディレクトリにアクセスできるようにします。

```
* install_config=sherlock:/jumpstart
```



注意 - この手順を使用した場合、インストールクライアントを起動したときに次のエラーメッセージが表示されることがあります。

WARNING: getfile: RPC failed: error 5: (RPC Timed out).
このエラーメッセージの詳細は、502 ページの「一般的な問題」を参照してください。

これで、すべてのシステムはプロファイルサーバーにアクセスできるようになりました。

スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成

JumpStart ディレクトリを含むフロッピーディスクは、プロファイルフロッピーディスクと呼ばれます。ネットワークに接続されていないシステムには、プロファイルサーバーへのアクセス権はありません。このため、システムがネットワークに接続されていない場合はフロッピーディスク上に **JumpStart** ディレクトリを作成する必要があります。プロファイルフロッピーディスクを作成するシステムには、フロッピーディスクドライブが必要です。

JumpStart ディレクトリには、重要なカスタム JumpStart ファイル (rules ファイル、rules.ok ファイル、プロファイルなど) がすべて入っています。JumpStart ディレクトリは、プロファイルフロッピーディスクのルート (/) ディレクトリに作成する必要があります。

▼ SPARC: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにフロッピーディスク、CD、および DVD を管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. フロッピーディスクドライブマネージャを持つ **SPARC** システムに、スーパーユーザーとしてログインします。
2. 空のフロッピーディスクまたは上書き可能なディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```

4. フロッピーディスクに **UNIX** ファイルシステム (**UFS**) が含まれているかどうかを確認します。
システム上のファイル /etc/mnttab の内容を調べ、次のようなエントリがないか確認します。

```
/vol/dev/diskette0/scrap /floppy/scrap ufs suid,rw,largefiles,dev=1740008 927147040
```

- このようなエントリが存在する場合は、200 ページの手順 7 へ進みます。
 - エントリが存在しない場合は、次の手順へ進みます。
5. フロッピーディスクをフォーマットします。



注意 - この手順によって、フロッピーディスク上のすべてのデータは上書きされます。

```
# fdformat -U
```

6. フロッピーディスクに **UFS** ファイルシステムを作成します。

```
# newfs /vol/dev/aliases/floppy0
```

7. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを **JumpStart** ディレクトリにコピーするかどうかを決定します。

- コピーしない場合は、201 ページの手順 10 へ進みます。
- コピーする場合は、次の表を利用して次に行う作業を決定します。

例のコピー元	実行すべき作業
Solaris 8 DVD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)	サーバーの CD-ROM ドライブに Solaris 8 DVD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) を挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
ローカルディスク上の Solaris 8 DVD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) のイメージ	Solaris 8 DVD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) イメージの場所にディレクトリを移動させます。コマンド例を示します。Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれているパッケージのリストです。 <code>cd /export/install</code>

8. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを、プロファイルフロッピーディスクのルートディレクトリ (**JumpStart** ディレクトリ) にコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

<i>media_path</i>	ローカルディスク上の CD、DVD、またはイメージのパス。
<i>jumpstart_dir_path</i>	カスタム JumpStart のサンプルファイルを配置するプロファイルフロッピーディスクのパス。

注 - すべてのカスタム JumpStart インストールファイルは、フロッピーディスクのルートディレクトリに置かれている必要があります。

たとえば、次のコマンドは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の `jumpstart_sample` の内容を、プロファイルフロッピーディスク `scrap` のルート (/) ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/sol_8_sparc/s0/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /floppy/scrap
```

9. プロファイルフロッピーディスク上の **JumpStart** ファイルの例を更新して、サイトの環境内で動作するようにします。
10. **JumpStart** ディレクトリの所有者が `root` で、そのアクセス権が **755** に設定されていることを確認します。
11. フロッピーディスクを取り出します。

```
# eject floppy
```

これで、プロファイルフロッピーディスクの作成が完了しました。 `rules` ファイルを更新して、プロファイルフロッピーディスクにプロファイルを作成して、カスタム JumpStart インストールを実行できます。処理を続けるには、205 ページの「`rules` ファイルの作成」へ進んでください。

▼ IA: プロファイルフロッピーディスクを作成する方法

注 - この手順では、システムがボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにフロッピーディスク、CD、および DVD を管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. フロッピーディスクドライブを持つ **SPARC** システムまたは **IA** システムにスーパーユーザーとしてログインします。
2. **Solaris 8 Device Configuration Assistant** (デバイス構成用補助) をフロッピーディスクドライブ (通常はドライブ **A**) に挿入します。このフロッピーディスクは、プロファイルフロッピーディスクとして使用します。

注 **[IA]** - ブートフロッピーディスクソフトウェアは、http://soldc.sun.com/support/drivers/dcs_diskettes の「Solaris Developer Connection」からこのソフトウェアをダウンロードしてフロッピーディスクにコピーすることによってアクセスできるようになります。

3. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```

4. **Solaris 8 Device Configuration Assistant** (デバイス構成用補助) フロッピーディスクイメージをシステムのハードディスクにコピーします。

```
# dd if=/vol/dev/aliases/floppy0 of=boot_image
```

ここで *boot_image* は Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクイメージがコピーされるファイル名です。絶対パス名を指定できません。

たとえば次のコマンドは、ブートフロッピーディスクを boot_save ファイルにコピーします。

```
dd if=/vol/dev/aliases/floppy0 of=boot_save
```

5. 「ファイル・マネージャ (File Manager)」 ウィンドウの「取り出し (Eject Disk)」をクリックするか、コマンド行に eject floppy と入力して、フロッピーディスクを取り出します。
6. 「リムーバブルメディア・マネージャ (Removable Media manager)」画面で「了解 (OK)」をクリックします。
7. **Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助)** を手動で取り出します。
8. 空のフロッピーディスクまたは上書き可能なディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
9. フロッピーディスクをマウントします。

```
# volcheck
```

10. フロッピーディスクをフォーマットします。



注意 - この手順によって、フロッピーディスク上のすべてのデータは上書きされます。

```
# fdformat -d -U
```

11. **Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助)** フロッピーディスクイメージを、システムのハードディスクからフォーマットしたフロッピーディスクにコピーします。

```
# dd if=boot_image of=/vol/dev/aliases/floppy0
```

ここで *boot_image* は、Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) のイメージをコピーするファイル名を示します。絶対パス名を指定できます。

12. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを **JumpStart** ディレクトリにコピーするかどうかを決定します。

- コピーしない場合は、205 ページの手順 15 へ進みます。
- コピーする場合は、次の表を利用して次に行う作業を決定します。

例のコピー元	実行すべき作業
Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)	サーバーの CD-ROM ドライブに、Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を挿入します。 ボリュームマネージャが自動的に CD をマウントします。
ローカルディスク上の Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) のイメージ	Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージが置かれたディレクトリに移動します。入力例を示します。 <code>cd /export/install</code>

13. サンプルのカスタム **JumpStart** ファイルを、プロファイルフロッピーディスクのルートディレクトリ (**JumpStart** ディレクトリ) にコピーします。

```
# cp -r media_path/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* jumpstart_dir_path
```

<i>media_path</i>	ディスク上の CD、DVD、またはイメージのパス。
<i>jumpstart_dir_path</i>	カスタム JumpStart のサンプルファイルを置くプロファイルフロッピーディスクのパス。

注 - プロファイルフロッピーディスクを使用するときは、すべてのカスタム **JumpStart** インストールファイルは、フロッピーディスクのルートディレクトリに置かれている必要があります。

たとえば、次のコマンドは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の *jumpstart_sample* の内容を、プロファイルフロッピーディスク *scrap* のルート (/) ディレクトリにコピーします。

```
cp -r /cdrom/sol_8_ia/s2/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample/* /floppy/scrap
```

14. プロファイルフロッピーディスク上の **JumpStart** ファイルの例を更新して、サイトの環境内で動作するようにします。
15. **JumpStart** ディレクトリの所有者が `root` で、そのアクセス権が **755** に設定されていることを確認します。
16. 「ファイル・マネージャ (**File Manager**)」ウィンドウの「取り出し (**Eject Disk**)」をクリックするか、コマンド行に `eject floppy` と入力して、フロッピーディスクを取り出します。
17. 「リムーバブルメディア・マネージャ (**Removable Media Manager**)」画面で「了解 (**OK**)」をクリックします。
18. フロッピーディスクを手動で取り出します。

これで、プロファイルフロッピーディスクの作成が完了しました。rules ファイルを更新して、プロファイルフロッピーディスクにプロファイルを作成して、カスタム **JumpStart** インストールを実行できます。処理を続けるには、205 ページの「rules ファイルの作成」へ進んでください。

rules ファイルの作成

rules ファイルは、Solaris オペレーティング環境のインストール先となる各システムグループのルールを含むテキストファイルです。各ルールは 1 つ以上のシステム属性をベースとした一連のシステムを識別するとともに、各グループをプロファイルにリンクします。プロファイルは、グループ内の各システムに Solaris ソフトウェアをどのようにインストールするかを示したテキストファイルです。たとえば、次のルールは **JumpStart** プログラムが `basic_prof` プロファイル内の情報を使用し、`i86pc` プラットフォームグループを持つすべてのシステムに対してインストールを実行することを示します。

```
karch i86pc - basic_prof -
```

rules ファイルを使用して、カスタム JumpStart インストールに必要な rules.ok ファイルを作成します。

注 - 198 ページの「スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成」または 193 ページの「ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成」の手順にしたがって JumpStart ディレクトリを設定した場合は、JumpStart ディレクトリに rules ファイルのサンプルがあります。rules ファイルのサンプルには、説明といくつかのルール例があります。サンプルの rules ファイルを利用する場合は、使用しないルール例は必ずコメントにしておいてください。

rules ファイルの構文

rules ファイルは、次のように作成する必要があります。

- ファイルには rules という名前を割り当てる。
- ファイルには 1 つ以上のルールを含める。

rules ファイルには、次の要素を任意に含めることができます。

- コメント

行の # 記号の後に含まれるテキストは、JumpStart によってコメントとして扱われます。行が # 記号で始まる場合は、行全体がコメントとして扱われます。

- 1 行以上の空白行
- 1 つまたは複数の複数行ルール

1 つのルールを新しい行に続けるには、Enter キーを押す直前に、バックslash シュ文字 (\) を含めます。

▼ rules ファイルを作成する方法

1. テキストエディタを使用して rules というテキストファイルを作成するか、あるいは作成済みの **JumpStart** ディレクトリからサンプル rules ファイルを開きます。

2. **Solaris** ソフトウェアのインストール先となるシステムグループごとに 1 つのルールを rules ファイルに追加します。

rules ファイルのキーワードと値の一覧は、273 ページの「ルールキーワードと値の説明」を参照してください。

rules ファイル内のルールは、次の構文に従っている必要があります。

```
[!]rule_keyword rule_value [&& [!]rule_keyword rule_value] ... begin profile finish
```

表 23-2 ルールの構文要素

要素	説明
!	ルールキーワードの前で使用し、否定を示す記号
<i>rule_keyword</i>	これは、ホスト名 (hostname) やメモリーサイズ (memsize) などの一般的なシステム属性を記述する事前定義された字句単位または語。 <i>rule_keyword</i> は、同じ属性を持つシステムを 1 つのプロファイルに対応させるためにルール値と共に使用される。ルールキーワードの一覧は、273 ページの「ルールキーワードと値の説明」を参照してください。
<i>rule_value</i>	対応するルールキーワードに特定のシステム属性を与える値。ルール値の一覧は、273 ページの「ルールキーワードと値の説明」を参照
&&	ルールキーワードとルール値のペアを同じルールで結合する (論理積をとる) ときに使用する記号。カスタム JumpStart インストール時に、システムがルール内のすべてのペアに一致しなければ、ルールの一致は成立しない
<i>begin</i>	インストールが開始する前に実行できるオプションの Bourne シェルスクリプト名。 <i>begin</i> スクリプトがない場合、このフィールドにマイナス記号 (-) を指定する必要がある。 <i>begin</i> スクリプトはすべて、JumpStart ディレクトリになければならない。 <i>begin</i> スクリプトの作成方法の詳細は、223 ページの「 <i>begin</i> スクリプトの作成」を参照

表 23-2 ルールの構文要素 続く

要素	説明
<i>profile</i>	<p>テキストファイル名。システムがルールに一致したとき Solaris ソフトウェアがシステムにどのようにインストールされるかを定義している。プロファイル内の情報は、プロファイルキーワードと、それらに対応するプロファイル値から構成される。すべてのプロファイルは JumpStart ディレクトリになければならない。</p> <hr/> <p>注 - プロファイルフィールドについては、別の使用方法もあります。詳細は、239 ページの「サイト固有のインストールプログラムの使用」と 224 ページの「begin スクリプトによる動的プロファイルの作成」を参照してください。</p>
<i>finish</i>	<p>インストール終了後に実行できるオプションの Bourne シェルスクリプト名。<i>finish</i> スクリプトがない場合、このフィールドにマイナス記号 (-) を指定する必要がある。<i>finish</i> スクリプトはすべて、JumpStart ディレクトリになければならない。</p> <p><i>finish</i> スクリプトの作成方法の詳細は、225 ページの「<i>finish</i> スクリプトの作成」を参照</p>

各ルールには、少なくとも次の要素を含める必要があります。

- キーワード、値、および対応するプロファイル
- *begin* および *finish* フィールド内のマイナス記号 (-) (*begin* および *finish* スクリプトが指定されない場合)

3. *rules* ファイルを **JumpStart** ディレクトリに保存します。

4. *root* が *rules* ファイルを所有していて、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認します。

rules ファイルの例

次のサンプルファイルは、*rules* ファイル内のルールをいくつか示しています。各行には、ルールキーワードとそのキーワードに有効な値があります。JumpStart プログラムは、*rules* ファイルを上から下へ走査します。

ルールキーワードと値を既知のシステムに対応付けることができた場合、JumpStart プログラムは `profile` フィールドに示されているプロファイルによって指定されている Solaris ソフトウェアをインストールします。

例 23-1 rule ファイル

# rule keywords and rule values	begin script	profile	finish script
# -----	-----	-----	-----
hostname eng-1 ¹	-	basic_prof	-
network 192.43.34.0 && !model \ 'SUNW,SPARCstation-20' ²	-	net_prof	-
model SUNW,SPARCstation-LX ³	-	lx_prof	complete
network 193.144.2.0 && karch i86pc ⁴	setup ⁴	IA_prof	done
memsize 16-32 && arch i386 ⁵	-	prog_prof	-
any ⁶ -	-	generic_prof	-

- このルールは、システムのホスト名が `eng-1` の場合に一致します。 `basic_prof` プロファイルは、ルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
- このルールは、システムがサブネット `192.43.34.0` にあって、`SPARCstation™ 20 (SUNW, SPARCstation-20)` ではない場合に一致します。 `net_prof` プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。このルールは、206 ページの「rules ファイルの構文」に説明されているルールラップの例も示しています。
- このルールは、システムが `SPARCstation LX` である場合に一致します。 `lx_prof` プロファイルと `complete` 終了スクリプトは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
- このルールは、システムが `193.144.2.0` にあって、IA ベースのシステムである場合に一致します。 `setup` 開始スクリプト、`IA_prof` プロファイル、および `done` 終了スクリプトは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
- このルールは、システムに `16 ~ 32M` バイトのメモリーがあつて、IA システムである場合に一致します。 `prog_prof` プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするために使用されます。
- このルールは、上記のルールに一致しなかったすべてのシステムに一致します。 `generic_prof` プロファイルは、このルールに一致するシステムに Solaris

ソフトウェアをインストールするために使用されます。any を使用する場合は、この値を常に rules ファイルの最後のファイルとして使用する必要があります。

プロファイルの作成

プロファイルは、システムに Solaris ソフトウェアをインストールする方法を示したテキストファイルです。プロファイルには、インストール要素 (インストールするソフトウェアグループなど) を指定します。各ルールには、システムのインストール方法を示すプロファイルを指定します。プロファイルは、ルールごとに異なるものを作成しても、複数のルールに同じものを使用しても構いません。

プロファイルは、1 つまたは複数のプロファイルキーワードとそれらの値から構成されます。各プロファイルキーワードは、JumpStart プログラムがどのようにしてシステムに Solaris ソフトウェアをインストールするかを制御するコマンドです。たとえば、次のプロファイルキーワードと値は、JumpStart プログラムがシステムをサーバーとしてインクルードすることを指定しています。

```
system_type server
```

注 - 193 ページの「ネットワーク上のシステム用のプロファイルサーバーの作成」または 198 ページの「スタンドアロンシステム用のプロファイルフロッピーディスクの作成」の手順を使用して JumpStart ディレクトリを作成した場合、プロファイルのサンプルが JumpStart ディレクトリにあります。

プロファイルの構文

プロファイルには次の要素を含める必要があります。

- 最初のエントリが install_type プロファイルキーワードであること
- キーワードは 1 行に 1 つだけであること
- アップグレードされるシステムが、アップグレードできるルートファイルシステムを複数持っている場合は、root_device キーワード

プロファイルには以下の要素を含めることができます。

- コメント

行の # 記号の後に含まれるテキストは、JumpStart によってコメントとして扱われます。行が # 記号で始まる場合は、行全体がコメントとして扱われます。

- 1 行以上の空白行

▼ プロファイルを作成する方法

1. テキストエディタを使用してテキストファイルを作成し、わかりやすい名前を付けます。または、作成した **JumpStart** ディレクトリ内のサンプルプロファイルを開きます。

注 - プロファイルの名前は、システムに Solaris ソフトウェアをインストールするためにそのプロファイルをどのように使用するかを示すものにしてください (例: `basic_install`、`eng_profile`、`user_profile`)。

2. プロファイルにプロファイルキーワードと値を追加します。
プロファイルのキーワードと値の一覧は、279 ページの「プロファイルキーワードと値」を参照してください。

注 - プロファイルキーワードとプロファイル値には、大文字と小文字の区別があります。

3. **JumpStart** ディレクトリにプロファイルを保存します。
4. プロファイルの所有権が `root` で、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認します。
5. (省略可能) プロファイルをテストします。
プロファイルのテストに関する情報については、215 ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

プロファイルの例

次のサンプルプロファイルは、さまざまなプロファイルキーワードとプロファイル値を使用して、Solaris ソフトウェアをシステムにどのようにインストールするかを指定する方法を示しています。279 ページの「プロファイルキーワードと値」には、プロファイルキーワードと値の説明を示してあります。

例 23-2 リモートファイルシステムのマウントとパッケージの追加および削除

```
# profile keywords      profile values
# -----
install_type           initial_install1
system_type            standalone2
partitioning           default3
filesys                any 512 swap # specify size of /swap
cluster               SUNWCprog4
package               SUNWman delete5
package               SUNWolman delete
package               SUNWxwman delete
package               SUNWoldem add
package               SUNWxdem add
package               SUNWoldim add
package               SUNWxdim add
```

1. `install_type` キーワードは、すべてのプロファイルに必要です。
2. `system_type` キーワードは、システムをスタンドアロンシステムとしてインストールするように定義します。
3. ファイルシステムスライスは、インストールするソフトウェアごとに `default` 値を使用して決定されます。`swap` は 512M バイトに設定され、値が `any` であるすべてのディスクにインストールされます。標準のマニュアルページは、ネットワーク上のファイルサーバー `s_ref` からマウントされます。
4. 開発者システムサポートソフトウェアグループ (SUNWCprog) がシステムにインストールされます。
5. マニュアルページはリモートからマウントされるため、マニュアルページパッケージはシステムにインストールされません。ただし、OPEN LOOK および X Window System のデモプログラムとイメージが入ったパッケージはシステムにインストールされます。

例 23-3 ファイルシステムのインストール場所の指定

```
# profile keywords      profile values
# -----
install_type           initial_install
system_type            standalone

partitioning           explicit1
filesys                c0t0d0s0 auto /
```

(続く)

filesystem	c0t3d0s1 auto swap
filesystem	any auto ₂ usr
cluster	SUNWCall ²

1. ファイルシステムスライスは、`filesystem` キーワード (`explicit` 値) によって指定します。ルート (/) のサイズは、選択したソフトウェア (値 `auto`) にもとづいて `c0t0d0s0` にインストールされます。`swap` は、必要なサイズに設定された上で `c0t3d0s1` 上にインストールされます。`usr` は、選択したソフトウェア (値 `any`) にもとづきインストールプログラムによってインストール先が決定されません。
2. 全体ディストリビューションソフトウェアグループ (`SUNWCall`) がシステムにインストールされます。

例 23-4 IA: `fdisk` キーワードの使用方法

# profile keywords	profile values
# -----	-----
install_type	initial_install
system_type	standalone
fdisk	c0t0d0 0x04 delete ¹
fdisk	c0t0d0 solaris maxfree ²
cluster	SUNWCall ³
cluster	SUNWCacc delete ⁴

1. タイプ `DOSOS16` (04 16 進) の `fdisk` パーティションはすべて、`c0t0d0` ディスクから削除されます。
2. Solaris `fdisk` パーティションが、`c0t0d0` ディスク上の最大の連続空き領域に作成されます。
3. 全体ディストリビューションソフトウェアグループ (`SUNWCall`) がシステムにインストールされます。
4. システムアカウントユーティリティ (`SUNWCacc`) は、システムにインストールされません。

例 23-5 アップグレード用ディスク容量の再配置

```
# profile keywords      profile values
# -----
install_type            upgrade1

root_device             c0t3d0s22

backup_media            remote_filesystem timber:/export/scratch3
layout_constraint      c0t3d0s2 changeable 1004
layout_constraint      c0t3d0s4 changeable
layout_constraint      c0t3d0s5 movable

package                SUNWbcp delete5
package                SUNWolman add6
package                SUNWxwman add
cluster                SUNWCumux add

locale                  de7
```

1. このプロファイルは、ディスク容量を再配置することによってシステムをアップグレードします。この例では、システム上のファイルシステムのいくつかにアップグレード用の容量が十分でないため、ディスク容量を再配置する必要があります。
2. c0t3d0s2 のルートファイルシステムがアップグレードされます。
3. リモートシステム timber が、ディスク容量の再配置中のデータのバックアップに使用されます。
4. layout_constraint キーワードは、アップグレードのためにディスク領域の再配置を行う時に自動レイアウトが以下のことを実施できることを示します。
 - スライス 2 と 4 を変更する。これらのスライスはほかの場所へ移動が可能であり、サイズも変更できます。
 - スライス 5 を移動する。このスライスはほかの場所へ移動は可能ですが、サイズは同じに保つ必要があります。
5. バイナリ互換パッケージ (SUNWbcp) は、アップグレード後、システムにインストールされません。
6. このコードは、OPEN LOOK と X Window System のマニュアルページと汎用マルチプレクサソフトウェアがまだシステムにインストールされていない場合に、インストールされるようにするものです。すでにシステム上にあるすべてのパッケージが自動的にアップグレードされます。

7. ドイツ語ローカライズパッケージがシステムにインストールされます。

プロファイルのテスト

プロファイルを作成した後で、`pfinstall(1M)` コマンドを使用してプロファイル进行测试します。プロファイルのテストは、実際にプロファイルを使用してシステムのインストールまたはアップグレードを行う前に行なってください。

`pfinstall` が生成するインストール出力を調べることによって、意図するとおりにプロファイルが動作するかを簡単に調べることができます。たとえば、実際にシステムでアップグレードを行う前に、そのシステムが Solaris の新しいリリースにアップグレードするための十分なディスク容量を持っているかどうかをプロファイルで調べることができます。

`pfinstall` を利用すると、以下の要素に対してプロファイル进行测试できます。

- `pfinstall` を実行しているシステムのディスク構成
- その他のディスク構成。ディスクの構造 (ディスクのバイト/セクタ、フラグ、スライスなど) を示すディスク構成ファイルを使用します。ディスク構成ファイルの作成については、232 ページの「ディスク構成ファイルの作成」と 235 ページの「IA: ディスク構成ファイルを作成する方法」を参照してください。

注 - ディスク構成ファイルを使用して、システムのアップグレードに使用するプロファイル进行测试することはできません。代わりに、システムの実際のディスク構成およびシステムに現在インストールされているソフトウェアに対して、プロファイル进行测试する必要があります。

▼ 一時的な Solaris 8 環境を作成してプロファイル进行测试する方法

特定の Solaris リリースでプロファイルを正常かつ正確にテストするには、同じリリースの Solaris 環境内にあるプロファイル进行测试する必要があります。たとえば、Solaris 8 初期インストールプロファイル进行测试する場合は、Solaris 8 を実行しているシステムに対して `pfinstall` コマンドを実行する必要があります。

以下のどちらかの状況でプロファイル进行测试する場合は、一時的なインストール環境を作成する必要があります。

- 旧バージョンの Solaris ソフトウェアを使用しているシステム上で Solaris 8 のアップグレードプロファイル进行测试する場合。
 - Solaris 8 の初期インストールプロファイル进行测试するための Solaris 8 システムをまだインストールしていない場合。
1. 次に示すメディアのいずれか 1 つのイメージからシステムをブートします。
 - Solaris 8 DVD (SPARC)
 - Solaris 8 DVD (Intel)
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
 - Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)

注 - アップグレードプロファイル进行测试したい場合は、アップグレードするシステムをブートしてください。

2. システムを識別するための質問に答えます。
3. **Solaris 8** オペレーティング環境をインストールするプログラムとして **Solaris 8** 対話式インストールプログラムを選択します。
4. 表示される最初の画面を閉じます。
5. シェルから `pfinstall` コマンドを実行します。

▼ プロファイル进行测试する方法

1. プロファイルを作成したシステムと同じプラットフォームタイプ (**SPARC** または **IA**) のシステムであることを確認します。
アップグレードプロファイル进行测试する場合、アップグレードする実際のシステム上のプロファイル进行测试してください。
2. 次の表にもとづいて、次に行うことを決定します。

状態	手順
初期インストールプロファイル进行测试する (Solaris 8 ソフトウェアが動作しているシステムがある場合)	そのシステムでスーパーユーザーになり、217 ページの手順 5 へ進みます。
アップグレードプロファイル进行测试する (初期インストールプロファイル进行测试するための Solaris 8 が動作しているシステムがない場合)	一時的な Solaris 8 環境を作成し、プロファイル进行测试します。詳細は、215 ページの「一時的な Solaris 8 環境を作成してプロファイル进行测试する方法」を参照してください。続いて、217 ページの手順 3へ進みます。

3. 一時的なマウントポイントを作成します。

```
# mkdir /tmp/mnt
```

4. テストしたいプロファイル (1 つ以上) が入ったディレクトリをマウントします。

マウントするメディア	コマンド
リモート NFS ファイルシステムをマウントする (ネットワーク上のシステムの場合)	<code>mount -F nfs server_name:path /tmp/mnt</code>
UFS フォーマットのフロッピーディスクをマウントする	<code>mount -F ufs /dev/diskette /tmp/mnt</code>
PCFS フォーマットのフロッピーディスクをマウントする	<code>mount -F pcfs /dev/diskette /tmp/mnt</code>

5. システムのメモリーサイズを指定してプロファイル进行测试するには、**SYS_MEMSIZE** に使用するメモリーサイズを **M** バイトで設定します。

```
# SYS_MEMSIZE=memory_size
# export SYS_MEMSIZE
```

6. 217 ページの手順 4 でディレクトリを

- マウントした場合は、/tmp/mnt にディレクトリを変更します。

```
# cd /tmp/mnt
```

- マウントしなかった場合は、プロファイルのある場所にディレクトリを変更します。通常は、JumpStart ディレクトリです。

```
# cd jumpstart_dir_path
```

7. pfinstall(1M) コマンドによってプロファイル进行测试します。

```
# /usr/sbin/install.d/pfinstall -D:-d disk_config_file [-c path] profile
```



注意 -d または -D オプションを指定してください。いずれかを指定しないと pfinstall は指定されたプロファイルを使用して Solaris 8 ソフトウェアをインストールします。その結果、システム上のデータがすべて上書きされます。

-D	<p><code>pfinstall</code> は、現在のシステムのディスク構成を使用してプロファイル进行测试します。アップグレードプロファイル进行测试する場合は、<code>-D</code> オプションを使用する必要があります。</p>
-d <i>disk_config_file</i>	<p><code>pfinstall</code> は、ディスク構成ファイル (<i>disk_config_file</i>) を使用してプロファイル进行测试します。<code>pfinstall</code> が動作しているディレクトリに <i>disk_config_file</i> が置かれていない場合は、パスを指定する必要があります。</p> <p>ディスク構成ファイルの作成方法については、232 ページの「ディスク構成ファイルの作成」を参照してください。</p> <hr/> <p>注 - アップグレードプロファイル (<code>install_type upgrade</code>) で <code>-d disk_config_file</code> オプションを使用することはできません。常に、システムのディスク構成に対してアップグレードプロファイル进行测试する必要があります (つまり、<code>-D</code> オプションを使用する必要があります)。</p> <hr/>
-c <i>path</i>	<p>Solaris 8 ソフトウェアイメージのパス。このオプションは、たとえば、システムでボリュームマネージャを使用して Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC または Intel) を各自のプラットフォームにマウントする場合に使用します。</p> <hr/> <p>注 - プラットフォーム対応の Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージからブートした場合は、<code>-c</code> オプションは不要です。DVD または CD イメージは、ブート処理の一環として <code>/cdrom</code> 上にマウントされます。</p> <hr/>
<i>profile</i>	<p>テストするプロファイル名。<i>profile</i> が <code>pfinstall</code> が実行されているディレクトリにない場合は、パスを指定する必要があります。</p>

プロファイルテストの例

次の例は、`pfinstall` を使用して `basic_prof` というプロファイル进行测试する方法を示しています。このテストは、Solaris 8 ソフトウェアがインストールされているシステム上のディスク構成に対して行われます。`basic_prof` プロファイルは、`/jumpstart` ディレクトリにあります。ボリュームマネージャを使用しているので、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) イメージへのパスが指定されています。

```
# cd /jumpstart
# /usr/sbin/install.d/pfinstall -D -c /cdrom/pathname basic_prof
```

次の例は、pfinstall を使用して Solaris 8 システム上の basic_prof というプロファイル进行测试する方法を示しています。535_test ディスク構成ファイルがテストされ、システムメモリーが 64M バイトあるかどうか確認されます。また、この例で pfinstall は、/export/install ディレクトリにある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) のイメージを使用します。

```
# SYS_MEMSIZE=64
# export SYS_MEMSIZE
# /usr/sbin/install.d/pfinstall -d 535_test -c /export/install basic_prof
```

rules ファイルの妥当性を検査する

rules ファイルとプロファイルは、check スクリプトを実行して、これらのファイルが正しく設定されていることを確認してからでないと使用できません。すべてのルールとプロファイルが有効な場合は、rules.ok ファイルが作成されます。このファイルは、カスタム JumpStart インストールソフトウェアがシステムをプロファイルと照合するために必要です。

表 23-3 に check スクリプトの動作を示します。

表 23-3 check スクリプト使用の流れ

手順	説明
1	<p>rules ファイルの構文検査を行う。</p> <p>check は、ルールキーワードが正当かどうか、および各ルールに対して <i>begin</i> フィールド、<i>class</i> フィールド、および <i>finish</i> フィールドが指定されているかどうかを確認する(<i>begin</i> および <i>finish</i> フィールドはファイル名でなくマイナス記号 (-) であることもある)。</p>
2	<p>rules ファイルにエラーがなければ、ルールに指定された各プロファイルの構文検査が行われる。</p>
3	<p>エラーがなければ、check スクリプトは rules ファイルから rules.ok ファイルを作成する。コメントと空白行をすべて削除し、すべてのルールを保持し、終わりに次のコメント行を追加する。</p> <pre># version=2 checksum=num</pre>

▼ rules ファイルの妥当性を検査する方法

1. **check** スクリプトが **JumpStart** ディレクトリにあることを確認します。

注 - check スクリプトは、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD の Solaris_8/Misc/jumpstart_sample ディレクトリにあります。

2. **JumpStart** ディレクトリへ移動します。
3. **check** スクリプトを実行して rules ファイルの妥当性を検査します。

```
$ ./check [-p path -r file_name]
```

<code>-p path</code>	使用しているシステムの <code>check</code> スクリプトではなく Solaris 8 ソフトウェアイメージの <code>check</code> スクリプトを使用して <code>rules</code> を検証します。 <code>path</code> は、ローカルディスク、マウントされた Solaris 8 DVD、または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD 上のイメージです。 システムが以前のバージョンの Solaris を実行している場合、このオプションを使用して、一番新しい <code>check</code> バージョンを実行します。
<code>-r file_name</code>	名前が <code>rules</code> 以外の <code>rules</code> ファイル名を指定します。このオプションを使用すると、 <code>rules</code> ファイルに組み込む前にルールの妥当性を検査できます。

`check` スクリプトを実行すると、`rules` ファイルの有効性と各プロファイルの有効性の検査結果が表示されます。エラーが見つからない場合は、`The custom JumpStart configuration is ok` と表示されます。

4. `root` が `rules.ok` ファイルを所有していて、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認します。

`rules` ファイルの検証が終わると、第 24 章でオプションのカスタム `JumpStart` 機能について参照してください。カスタム `JumpStart` インストールの実行については、第 26 章を参照してください。

カスタム JumpStart オプション機能の使用

この章では、カスタム JumpStart インストールのオプション機能について説明します。

- 223 ページの「begin スクリプトの作成」
- 225 ページの「finish スクリプトの作成」
- 231 ページの「圧縮された構成ファイルの作成」
- 232 ページの「ディスク構成ファイルの作成」
- 239 ページの「サイト固有のインストールプログラムの使用」

注 - この章の手順は、カスタム JumpStart ファイルの提供に使用される SPARC サーバーと IA サーバーの両方（「プロファイルサーバー」と呼ばれる）に利用できます。プロファイルサーバーは、異なるプラットフォームタイプのシステムにカスタム JumpStart ファイルを提供できます。たとえば、SPARC サーバーは、SPARC システムと IA システムの両方に、カスタム JumpStart ファイルを提供できます。

begin スクリプトの作成

「begin スクリプト」とは、ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプトで、rules ファイル内で指定し、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされる前に作業を実行します。begin スクリプトは、カスタム JumpStart インストールで Solaris をインストールするときのみ使用できます。

begin スクリプトは、次のような場合に使用してください。

- 動的プロファイルを作成する
- アップグレード前にファイルのバックアップをとる

begin スクリプトに関する注意事項

- スクリプト内には、初期インストールまたはアップグレードインストール時に /a に対して行われるファイルシステムのマウントを妨げるような記述をしないでください。JumpStart プロファイルが /a にファイルシステムをマウントできない場合は、エラーが発生してインストールは失敗します。
- begin スクリプトの出力は、/var/sadm/begin.log に保存されます。
- root が begin スクリプトを所有していて、そのアクセス権が 644 に設定されていることを確認します。
- begin スクリプト内では、カスタム JumpStart 環境変数を使用できます。環境変数の一覧は、308 ページの「カスタム JumpStart の環境変数」を参照してください。
- begin スクリプトは、JumpStart ディレクトリに保存してください。

begin スクリプトによる動的プロファイルの作成

「動的プロファイル」とは、カスタム JumpStart インストール時に begin スクリプトが動的に作成するプロファイルです。動的プロファイルは、特定のシステムを 1 つのプロファイルに対応させる rules ファイルを設定できない場合に必要となります。たとえば、異なるハードウェア構成要素を持つ同一システムモデル (異なるフレームバッファを持つシステムなど) に対しては動的プロファイルを使用しなければならない場合があります。

動的プロファイルを使用するルールの設定手順は次のとおりです。

- プロファイルの代わりに、プロファイルフィールドに等号(=)を指定します。
- インストール対象のシステムに依存する動的プロファイルを作成する begin スクリプトを begin フィールドに指定します。

システムが、プロファイルフィールドに等号(=)があるルールと一致すると、begin スクリプトは、システムに Solaris ソフトウェアをインストールするのに使用する動的プロファイルを作成します。

次に、毎回同じ動的プロファイルを作成する begin スクリプトの例を示します。もちろん、ルールの評価に応じて異なる動的プロファイルを生成する begin スクリプトも作成できます。

例 24-1 動的プロファイルを作成する begin スクリプト

```
#!/bin/sh
echo "install_type      initial_install"> ${SI_PROFILE}
echo "system_type      standalone">> ${SI_PROFILE}
echo "partitioning     default">> ${SI_PROFILE}
echo "cluster          SUNWCprog">> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWman      delete">> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWolman    delete">> ${SI_PROFILE}
echo "package          SUNWxwman    delete">> ${SI_PROFILE}
```

上記のように **begin** スクリプトは、デフォルトで `/tmp/install.input` に設定されている動的プロファイル名に `SI_PROFILE` 環境変数を使用する必要があります。この動的プロファイルは、デフォルトでは `/tmp/install.input` に設定されます。

注 - **begin** スクリプトを動的プロファイルの作成に使用する場合は、スクリプトにエラーがないことを確認してください。動的プロファイルは、**begin** スクリプトが実行されてから作成されます。このため、**check** スクリプトで動的プロファイルの妥当性は検査されません。

finish スクリプトの作成

「**finish** スクリプト」とは、ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプトで、**rules** ファイル内で指定し、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされた後、システムがリブートする前に作業を実行します。**finish** スクリプトは、カスタム JumpStart インストールで Solaris をインストールするときのみ使用できます。

finish スクリプトは、次のような作業に利用できます。

- ファイルの追加
- パッケージまたはパッチの追加
- ルート環境のカスタマイズ
- システムのルートパスワードの設定
- 追加ソフトウェアのインストール

finish スクリプトに関する注意事項

- Solaris 8 インストールプログラムは、システムのファイルシステムを /a にマウントします。ファイルシステムは、システムがリブートするまで /a にマウントされています。したがって、/a にマウントされている新しくインストールされたファイルシステムの階層にファイルを追加、変更、または削除するように finish スクリプトを作成できます。
- finish スクリプトの出力は、/var/sadm/finish.log に保存されます。
- finish スクリプトの所有者は root、アクセス権は 644 にしてください。
- finish スクリプト内では、カスタム JumpStart 環境変数を使用できます。環境変数の一覧は、308 ページの「カスタム JumpStart の環境変数」を参照してください。
- finish スクリプトは、JumpStart ディレクトリに保存してください。

▼ finish スクリプトでファイルを追加する方法

finish スクリプトにより、JumpStart ディレクトリにあるファイルをインストールされたシステムへ追加できます。これは、SI_CONFIG_DIR 変数で指定されるディレクトリ (デフォルトは /tmp/install_config) に JumpStart ディレクトリがマウントされるためです。

注 - インストールされたシステムにすでに存在するファイルに、JumpStart ディレクトリからファイルをコピーして、ファイルを置換することもできます。

1. インストールされたシステムに追加するすべてのファイルを **JumpStart** ディレクトリにコピーします。
2. 新しくインストールされたファイルシステムの階層にコピーしたいファイルの **finish** スクリプトごとに次の行を挿入します。

```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/file_name /a/path_name
```

たとえば、自分のサイトのすべてのユーザーを対象に開発された特別なアプリケーション `site_prog` があると仮定します。`site_prog` のコピーを JumpStart ディレクトリに置いた場合、finish スクリプト内の次の行は JumpStart ディレクトリからシステムの /usr/bin ディレクトリに `site_prog` をコピーします。

```
cp ${SI_CONFIG_DIR}/site_prog /a/usr/bin
```

finish スクリプトによるパッケージとパッチの追加

finish スクリプトを作成すると、Solaris ソフトウェアをシステムにインストールした後に、パッケージやパッチを自動的に追加できます。finish スクリプトを使用してパッケージを追加すると時間を節約できるだけでなく、サイトのさまざまなシステムにパッケージおよびパッチをインストールする上での整合性を維持できます。

pkgadd(1M) コマンドや patchadd(1M) コマンドを finish スクリプトで使用するときは、-R オプションを使用して、/a をルートパスとして指定する必要があります。

例 24-2 はパッケージを追加する finish スクリプトの例を示します。

例 24-2 finish スクリプトでパッケージを追加する

```
#!/bin/sh

BASE=/a
MNT=/a/mnt
ADMIN_FILE=/a/tmp/admin

mkdir ${MNT}
mount -f nfs sherlock:/export/package ${MNT}1
cat>${ADMIN_FILE} <<DONT_ASK2
mail=root
instance=overwrite
partial=nocheck
runlevel=nocheck
idepend=nocheck
rdepend=nocheck
space=ask
setuid=nocheck
conflict=nocheck
action=nocheck
basedir=default
DONT_ASK

/usr/sbin/pkgadd -a ${ADMIN_FILE} -d ${MNT} -R ${BASE} SUNWxyz3
umount ${MNT}
rmdir ${MNT}
```

1. インストールするパッケージを含むサーバー上にディレクトリをマウントします。
2. 一時的なパッケージ管理ファイル `admin` を作成し、パッケージのインストール時に `pkgadd(1M)` コマンドがチェックも質問の表示も行わないようにします。この一時的なパッケージ管理ファイルは、パッケージの追加時に自動インストールを実施するために使用してください。
3. `-a` オプション (パッケージ管理ファイルを指定) と `-R` オプション (ルートパスを指定) を使用してパッケージを追加します。

注 - 以前は `finish` スクリプト環境では、`pkgadd` コマンドや `patchadd` コマンドとともに `chroot(1M)` コマンドが使用されていました。しかし、一部のパッケージやパッチには `-R` オプションが正しく動作しないものがあります。このような状況では、`chroot` コマンドを実行する前に `/a` ルートパスにダミーの `/etc/mnttab` ファイルを作成する必要があります。

`/etc/mnttab` ダミーファイルを作成するには、次の行を `finish` スクリプトに追加します。

```
cp /etc/mnttab /a/etc/mnttab
```

finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ

`finish` スクリプトを使って、システムにインストールされたファイルのカスタマイズができます。たとえば、例 24-3 の `finish` スクリプトは、ルートディレクトリ内の `.cshrc` ファイルに情報を追加することによって、ルート環境をカスタマイズします。

例 24-3 finish スクリプトによるルート環境のカスタマイズ

```
#!/bin/sh
#
# Customize root's environment
#
echo "***adding customizations in /.cshrc"
test -f a/.cshrc || {
cat>> a/.cshrc <<EOF
set history=100 savehist=200 filec ignoreeof prompt="\$user@`uname -n`> "
alias cp cp -i
alias mv mv -i
alias rm rm -i
```

(続く)

```
alias ls ls -FC
alias h history
alias c clear
unset autologout
EOF
}
```

finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定

Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされると、そのシステムはリブートします。ブートプロセス終了前に、システムはルートパスワードを入力するように求められます。パスワードを入力するまで、システムはブート処理を終了できません。

set_root_pw という finish スクリプトは、auto_install_sample ディレクトリに保存されます。この finish スクリプトは、プロンプトを表示することなく root パスワードを自動的に設定する方法を示します。例 24-4 に set_root_pw を示します。

例 24-4 finish スクリプトによるシステムのルートパスワードの設定

```
#!/bin/sh
#
#      @(#)set_root_pw 1.4 93/12/23 SMI
#
# This is an example Bourne shell script to be run after installation.
# It sets the system's root password to the entry defined in PASSWD.
# The encrypted password is obtained from an existing root password entry
# in /etc/shadow from an installed machine.

echo "setting password for root"

# set the root password
PASSWD=gK05IBkSF42lw
#create a temporary input file1
cp /a/etc/shadow /a/etc/shadow.orig2

mv /a/etc/shadow /a/etc/shadow.orig
nawk -F: '{
    if ( $1 == "root" )3
        printf"%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s\n", $1,passwd, $3, $4, $5, $6, $7, $8, $9
    else
        printf"%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s:%s\n", $1, $2, $3, $4, $5, $6, $7, $8, $9
```

(続く)

```

    }' passwd="$PASSWD" /a/etc/shadow.orig> /a/etc/shadow
#remove the temporary file
rm -f /a/etc/shadow.orig
# set the flag so sysidroot won't prompt for the root password
sed -e 's/0 # root/1 # root/' ${SI_SYS_STATE}> /tmp/state.$$
mv /tmp/state.$$ ${SI_SYS_STATE}

```

1. PASSWD 変数に、システムの /etc/shadow ファイルの既存のエントリから取得した暗号化されたルートパスワードを設定します。
2. /a/etc/shadow の一時入力ファイルを作成します。
3. \$PASSWD をパスワードフィールドとして使用して、新しくインストールしたシステム用の /etc/shadow ファイルにあるルートエントリを変更します。
4. 一時的な /a/etc/shadow ファイルを削除します。
5. 状態ファイルのエントリを 0 から 1 へ変更します。これによりユーザーはルートパスワードの入力を求められません。この状態ファイルには、SI_SYS_STATE 変数 (現在の値は /a/etc/.sysIDtool.state) を使用してアクセスします。この値の変更によってスクリプトで問題が発生することを防ぐには、必ず \$SI_SYS_STATE を使用してこのファイルを参照してください。ここに示されている sed コマンドでは、0 と 1 の後にタブ文字が入っています。

注 - finish スクリプトを使用してシステムのルートパスワードを設定した場合は、finish スクリプト内の暗号化されたパスワードからルートパスワードを解読されないように対策を講じてください。

finish スクリプトを使用して Web Start インストールプログラムでソフトウェアをインストールする

finish スクリプトを使用すると、Solaris オペレーティング環境のインストールに続いてさらにソフトウェアをインストールできます。一部のソフトウェアプログラムは、インストール時に情報入力を求めるプロンプトを表示する Solaris Web Start プログラムでインストールできます。自動インストールを行うには、`-nodisplay` または `-noconsole` オプションを指定して Solaris Web Start プログラムを実行します。

表 24-1 Solaris Web Start オプション

オプション	説明
<code>-nodisplay</code>	GUI を使用せずにインストーラを実行します。 <code>-locales</code> オプションによってインストールが変更された場合を除き、デフォルトの製品インストールを使用してください。
<code>-noconsole</code>	対話形式のテキストコンソールデバイスを介さずにインストールを実行します。UNIX スクリプトで <code>-nodisplay</code> と共に使用すると便利です。

圧縮された構成ファイルの作成

`add_install_client` コマンドを使用してカスタム **JumpStart** 構成ファイルの場所を指定する代わりに、システムのブート時に構成ファイルの場所を指定することができます。ただし、`boot` コマンドに指定できるファイル名は 1 つだけです。したがって、すべてのカスタム **JumpStart** 構成ファイルを 1 つのファイルに圧縮する必要があります。圧縮された構成ファイルの形式は、次のいずれかにしてください。

- `tar`
- `compress` で圧縮された `tar`
- `zip`
- `bzip` で圧縮された `tar`

▼ 圧縮された構成ファイルを作成する方法

1. プロファイルサーバー上の **JumpStart** ディレクトリに移動します。

```
# cd jumpstart_dir_path
```

2. 圧縮ツールを使って、すべてのカスタム **JumpStart** 構成ファイルを 1 つのファイルに圧縮します。

注 - 圧縮構成ファイルに相対パスを含めないでください。カスタム JumpStart 構成ファイルは、圧縮されたファイルと同じディレクトリに置かれている必要があります。

圧縮された構成ファイルには、次のファイルが含まれている必要があります。

- プロファイル
- rules
- rules.ok

圧縮された構成ファイルに、さらに sysidcfg ファイルを入れることもできます。

3. 圧縮された構成ファイルを **NFS** サーバー、**HTTP** サーバー、またはローカルハードディスク上に保存します。

圧縮された構成ファイルの例

次の例は、tar コマンドを使って、圧縮された構成ファイルを config.tar という名前で作成します。カスタム JumpStart 構成ファイルはすべて /jumpstart ディレクトリにあります。

例 24-5 圧縮された構成ファイルの作成

```
# cd /jumpstart
# tar -cvf config.tar *
a profile 1K
a rules 1K
a rules.ok 1K
a sysidcfg 1K
```

ディスク構成ファイルの作成

この節では、単一ディスク構成ファイルまたは複数ディスク構成ファイルを作成する方法について説明します。ディスク構成ファイルを作成すると、単一のシステム

から `pfinstall(1M)` を使用して、異なるディスク構成に対してプロファイル进行测试できます。

▼ SPARC: ディスク構成ファイルを作成する方法

1. テストするディスクを持つ **SPARC** システムを決定します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 単一ディスク構成ファイルを作成するには、`prtvtoc(1M)` コマンドの出力をファイルに保存します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/device_name>disk_config_file
```

`/dev/rdisk/device_name`

システムのディスクのデバイス名。`device_name` は、`cwtxdys2` または `cxdys2` の形式にしてください。

`disk_config_file`

ディスク構成ファイルの名前

4. 複数のディスクに **Solaris** ソフトウェアをインストールするテストを
 - 実行しない場合は、作業はここで終了です。
 - 実行する場合は、各ディスク構成ファイルを結合し、その出力を新しいファイルに保存します。

```
# cat disk_file1 disk_file2>multi_disk_config
```

新しいファイルは、次の例に示すように複数ディスク構成ファイルになります。

```
# cat 104_disk2 104_disk3 104_disk5>multi_disk_test
```

5. 前の手順で作成した複数のディスク構成ファイルにおいて、ディスクデバイス名のターゲット番号がそれぞれ
 - 固有である場合は、ここで作業は終了です。
 - 固有でない場合は、テキストエディタでファイルを開き、ターゲット番号を固有のものにします。

たとえば、次に示すように、異なるディスクデバイス名について同じターゲット番号 (t0) がファイルに含まれているとします。

```
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map
...
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map
```

この場合は次のように、2 番目のターゲット番号を t2 に設定します。

```
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map
...
* /dev/rdsk/c0t2d0s2 partition map
```

SPARC: ディスク構成ファイルの例

次の例では、104M バイトのディスクを持つ SPARC システムで、単一ディスク構成ファイル 04_test を作成します。

例 24-6 SPARC: ディスク構成ファイルの作成

prtvtoc コマンドの出力を 104_test という単一ディスク構成ファイルに保存します。

```
# prtvtoc /dev/rdsk/c0t3d0s2>104_test
```

104_test ファイルは、次のようになります。

```
* /dev/rdsk/c0t3d0s2 partition map
*
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   72 sectors/track
*   14 tracks/cylinder
* 1008 sectors/cylinder
* 2038 cylinders*   2036 accessible cylinders
* Flags:
*   1: unmountable
*  10: read-only
*
*                               First   Sector   Last
```

(続く)

* Partition	Tag	Flags	Sector	Count	Sector	Mount Directory
1	2	00	0	164304	164303	/
2	5	00	0	2052288	2052287	
3	0	00	164304	823536	987839	/disk2/b298
5	0	00	987840	614880	1602719	/install/298/sparc/work
7	0	00	1602720	449568	2052287	/space

これで SPARC システム用のディスク構成ファイルの作成が終了しました。ディスク構成ファイルを使用してプロファイルをテストする詳細は、215 ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

▼ IA: ディスク構成ファイルを作成する方法

1. テストするディスクを持つ **IA** システムを決定します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 単一ディスク構成ファイルを作成するには、`fdisk(1M)` コマンドの出力をファイルに保存します。

```
# fdisk -R -W disk_config_file-h /dev/rdisk/device_name
```

disk_config_file

ディスク構成ファイルの名前

/dev/rdisk/device_name

ディスク全体の `fdisk` レイアウトのデバイス名。*device_name* は `cwtxdyp0` または `cxdyp0` の形式にしてください。

4. `prtvtoc(1M)` コマンドの出力をディスク構成ファイルに追加します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/device_name >>disk_config
```

/dev/rdisk/device_name

システムのディスクのデバイス名。*device_name* は、*cwtxy s2* または *cxd ys2* の形式にしてください。

disk_config

ディスク構成ファイルの名前

5. 複数のディスクに **Solaris** ソフトウェアをインストールするテストを

- 実行しない場合は、ここで終了です。
- 実行する場合は、各ディスク構成ファイルを結合し、その出力を新しいファイルに保存します。

```
# cat disk_file1 disk_file2>multi_disk_config
```

新しいファイルは、次に示すように複数ディスク構成ファイルになります。

```
# cat 104_disk2 104_disk3 104_disk5>multi_disk_test
```

6. 前の手順で作成した複数のディスク構成ファイルにおいて、ディスクデバイス名のターゲット番号がそれぞれ

- 固有である場合は、ここで作業は終了です。
- 固有でない場合は、テキストエディタでファイルを開き、ターゲット番号を固有のものにします。

たとえば、次に示すように、異なるディスクデバイス名について同じターゲット番号 (t0) がファイルに含まれているとします。

```
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map  
...  
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map
```

この場合は次のように、2番目のターゲット番号を t2 に設定します。

```
* /dev/rdsk/c0t0d0s2 partition map  
...  
* /dev/rdsk/c0t2d0s2 partition map
```

IA: ディスク構成ファイルの例

次の例では、500M バイトのディスクを持つ IA システムで、単一ディスク構成ファイル 500_test を作成します。

例 24-7 IA: ディスク構成ファイルの作成

最初に、fdisk コマンドの出力を 500_test という名前のファイルに保存します。

```
# fdisk -R -W 500_test -h /dev/rdisk/c0t0d0p0
```

この 500_test ファイルの内容は次のとおりです。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0p0 default fdisk table
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* HBA Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* systid:
* 1:  DOSOS12
* 2:  PCIXOS
* 4:  DOSOS16
* 5:  EXTDOS
* 6:  DOSBIG
* 86: DOSDATA
* 98: OTHEROS
* 99: UNIXOS
* 130: SUNIXOS
*
* Id  Act  Bhead Bsect  Bcyl  Ehead  Esect  Ecyl  Rsect  Numsect
130  128  44    3      0     46    30    1001 1410   2050140
```

次に、prtvtoc コマンドの出力を 500_test ファイルに追加します。

```
# prtvtoc /dev/rdisk/c0t0d0s2>>500_test
```

これで 500_test ファイルは、完全なディスク構成ファイルになりました。

```
* /dev/rdisk/c0t0d0p0 default fdisk table
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* HBA Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1455 cylinders
*
* systid:
* 1:  DOSOS12
* 2:  PCIXOS
* 4:  DOSOS16
* 5:  EXTDOS
* 6:  DOSBIG
* 86: DOSDATA
* 98: OTHEROS
* 99: UNIXOS
* 130: SUNIXOS
*
* Id  Act  Bhead  Bsect  Bcyl  Ehead  Esec  Ecyl  Rsect  Numsect
130  128  44     3     0     46     30    1001  1410   2050140
*/dev/rdisk/c0t0d0s2 partition map
*
* Dimensions:
*   512 bytes/sector
*   94 sectors/track
*   15 tracks/cylinder
*   1110 sectors/cylinder
*   1454 cylinders
*   1452 accessible cylinders
*
* Flags:
* 1: unmountable
* 10: read-only
*
* Partition  Tag  Flags      First  Sector  Last
* Partition  Tag  Flags      Sector  Count  Sector  Mount Directory
2           5     01        1410   2045910 2047319
7           6     00        4230   2043090 2047319  /space
8           1     01         0     1410    1409
9           9     01        1410    2820   422987
```

これで IA システム用のディスク構成ファイルの作成が終了しました。ディスク構成ファイルを使用してプロファイル进行测试する詳細は、215 ページの「プロファイルのテスト」を参照してください。

サイト固有のインストールプログラムの使用

`begin` スクリプトと `finish` スクリプトを使用すると、独自のインストールプログラムにより Solaris ソフトウェアをインストールできます。

プロファイルフィールドにマイナス記号 (-) が指定されているときには、`begin` スクリプトと `finish` スクリプトが、プロファイルや Solaris 8 対話式インストールプログラムの代わりに、システムのインストール方法を制御します。

たとえば次のルールに一致した場合は、`begin` スクリプト `x_install.beg` と `finish` スクリプト `x_install.fin` が、`clover` という名前のシステムに Solaris ソフトウェアをインストールします。

```
hostname clover x_install.beg - x_install.fin
```


カスタムルールおよびプローブキーワードの作成方法

この章では、独自のカスタムルールとプローブキーワードを作成するための情報と手順を示します。

- 241 ページの「プローブキーワード」
- 242 ページの「custom_probes ファイルの作成」
- 246 ページの「custom_probes ファイルの妥当性検査」

プローブキーワード

プローブキーワードを理解するには、まずルールキーワードが何であるかを思い出してください。ルールキーワードは、ホスト名 (`hostname`) やメモリーサイズ (`memsize`) などの一般的なシステム属性を記述する事前定義された字句単位または語です。ルールキーワードとそれに関連する値を使用すると、同じ属性を持つシステムをプロファイルに対応付けることができます。システム属性を対応させるこの方法では、グループ内の各システムに Solaris ソフトウェアをどのようにインストールするかが定義されます。

カスタム JumpStart の環境変数は、`begin` スクリプトおよび `finish` スクリプトで使用しますが、必要に応じて設定します。たとえば、すでにシステムにインストールされているオペレーティングシステムに関する情報を入手できるのは、`installed` ルールキーワードに続いて `SI_INSTALLED` を使用する場合だけです。

場合によっては、システムの照合とプロファイルの実行以外の目的で、この同じ情報を `begin` および `finish` スクリプトで抽出する必要があります。プローブキーワードは、この解決方法となります。プローブキーワードを使用すると、照合条件を設定してプロファイルを実行しなくても、同じ属性情報を抽出できます。

プローブキーワードと値の一覧は、312 ページの「プローブキーワードと値」を参照してください。

custom_probes ファイルの作成

273 ページの「ルールキーワードと値の説明」と 312 ページの「プローブキーワードと値」で説明したルールおよびプローブキーワードでは不十分な場合は、`custom_probes` ファイルを作成して、独自のカスタムルールまたはプローブキーワードを定義できます。

`custom_probes` ファイルは、2 種類のタイプの関数を含む Bourne シェルスクリプトです。`custom_probes` ファイルは、`rules` ファイルを保存したのと同じ `JumpStart` ディレクトリに保存する必要があります。次に、`custom_probes` ファイルに定義できる 2 種類の関数を示します。

- **プローブ** – 必要な情報を収集するかあるいは実際の作業を実行し、定義された対応する `SI_` 環境変数を設定します。プローブ関数はプローブキーワードになります。
- **比較** – 対応するプローブ関数を呼び出してプローブ関数の出力を比較し、キーワードが一致する場合は 0、キーワードが一致しない場合は 1 を返します。比較関数はルールキーワードになります。

custom_probes ファイルの構文

`custom_probes` ファイルには、任意の有効な Bourne シェルコマンド、変数、またはアルゴリズムを含めることができます。

注 - `custom_probes` ファイルで単一の引数を必要とするプローブおよび比較関数を定義できます。`rules` ファイル内で対応するカスタムプローブキーワードを使用する場合、このキーワードの後に続く引数が (\$1 として) 解釈されます。

`rules` ファイル内で対応するカスタムルールキーワードを使用する場合、引数はこのキーワードの後から解釈され、次の `&&` または `begin` スクリプトのどちらか最初に来た方の前で解釈が終了します。

`custom_probes` ファイルは、次の要件を満たす必要があります。

- `custom_probes` という名前を使用する
- 所有者が `root` である
- 実行可能であり、アクセス権が 755 に設定されている
- 少なくとも 1 つのプローブ関数と対応する比較関数を含む

より明確で効果的な構成にするために、最初にすべてのプローブ関数をファイルの一番上に定義してから、比較関数を続けて定義してください。

`custom_probes` の関数名の構文

プローブ関数名は、`probe_` で始める必要があります。比較関数名は、`cmp_` で始める必要があります。

`probe_` で始まる関数は、新しいプローブキーワードを定義します。たとえば、関数 `probe_tcx` は、新しいプローブキーワード `tcx` を定義します。`cmp_` で始まる関数は、新しいルールキーワードを定義します。たとえば、`cmp_tcx` は、新しいルールキーワード `tcx` を定義します。

▼ `custom_probes` ファイルを作成する方法

1. テキストエディタを使用して **Bourne** シェルスクリプトのテキストファイルを作成します。このファイルに `custom_probes` という名前を付けます。
2. `custom_probes` テキストファイルで、プローブ関数と比較関数を定義します。

注 - `custom_probes` ファイルには、引数を必要とするプローブおよび比較関数を定義できます。`rules` ファイル内で対応するカスタムプローブキーワードを使用する場合、このキーワードの後に続く引数は順番に (`$1`、`$2` などとして) 解釈されます。

`rules` ファイル内で対応するカスタムルールキーワードを使用する場合、引数はこのキーワードの後から解釈され、次の `&&` または `begin` スクリプトのどちらか最初に来た方の前で解釈が終了します。

3. `custom_probes` ファイルを **JumpStart** ディレクトリに保存します (`rules` ファイルと同じ)。
4. `root` が `rules` ファイルを所有していて、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認します。

custom_probes ファイルとキーワードの例

プローブ関数と比較関数の例は次のディレクトリにも入っています。

- Solaris ソフトウェアがインストールされたシステムの `/usr/sbin/install.d/chkprobe`
- Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD 上の `/Solaris_8/Tools/Boot/usr/sbin/install.d/chkprobe`

次の `custom_probes` ファイルには、TCX グラフィックスカードがあるかどうかをテストするプローブおよび比較関数が含まれます。

例 25-1 `custom_probes` ファイル

```
#!/bin/sh
#
# custom_probe script to test for the presence of a TCX graphics card.
#
#
# PROBE FUNCTIONS
#
probe_tcx() {
```

(続く)

```

    SI_TCX=`modinfo | grep tcx | nawk '{print $6}'`
    export SI_TCX
}

#
# COMPARISON FUNCTIONS
#
cmp_tcx() {
    probe_tcx

    if [ "X${SI_TCX}" = "X${1}" ]; then
        return 0
    else
        return 1
    fi
}

```

次のサンプル rules ファイルは、前の例で定義されているプローブキーワード (tcx) の使用方法を示しています。TCX グラフィックスカードがシステムにインストールされていて検出されると、profile_tcx が実行されます。そうでない場合は、profile が実行されます。

注 - プローブキーワードは、rules ファイルの先頭または先頭近くに指定してください。これは、そのプローブキーワードに依存する可能性のあるほかのルールキーワードよりも前に読み取られて実行されるようにするためです。

例 25-2 rules ファイルで使用されるカスタムプローブキーワード

```

probe tcx
tcx      tcx      -      profile_tcx    -
any      any      -      profile        -

```

custom_probes ファイルの妥当性検査

プロファイル、rules、および custom_probes ファイルを使用するには、これらのファイルの設定が正しいかどうかを check スクリプトを実行して検査する必要があります。すべてのプロファイル、ルール、およびプローブ関数と比較関数が正しく設定されている場合は、rules.ok ファイルと custom_probes.ok ファイルが作成されます。表 25-1 は、check スクリプトの実行内容を説明しています。

表 25-1 check スクリプトを使用した場合の動作

手順	説明
1	check は、custom_probes ファイルを検索します。
2	ファイルが存在する場合、check は、custom_probes ファイルから custom_probes.ok ファイルを作成して、すべてのコメントとブランク行を削除し、すべての Bourne シェルコマンド、変数、およびアルゴリズムを保存して、次のコメント行を最後に追加します。 # version=2 checksum=num

▼ custom_probes ファイルを妥当性検査する方法

1. **check** スクリプトが **JumpStart** ディレクトリにあることを確認します。

注 - check スクリプトは、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD の Solaris_8/Misc/jumpstart_sample ディレクトリにあります。

2. **JumpStart** ディレクトリに移動します。
3. **check** スクリプトを実行して、rules ファイルおよび custom_probes ファイルの妥当性を検査します。

```
$ ./check [-p path -r file_name]
```

<code>-p path</code>	<p>使用しているシステムの <code>check</code> スクリプトではなく、プラットフォームの Solaris 8 ソフトウェアイメージの <code>check</code> スクリプトを使用して、<code>custom_probes</code> ファイルを妥当性検査します。<code>path</code> は、ローカルディスクか、あるいはマウントされた Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD 上のイメージです。</p> <p>Solaris ソフトウェアの旧バージョンが動作しているシステムでは、最新バージョンの <code>check</code> スクリプトを実行するためにこのオプションを使用します。</p>
<code>-r file_name</code>	<p><code>custom_probes</code> 以外のファイル名を指定します。<code>-r</code> オプションを使用することで、一連の関数を <code>custom_probes</code> ファイル内にまとめる前にそれらの妥当性検査を実施できます。</p>

`check` スクリプトを実行すると、`rules` ファイルおよび `custom_probes` ファイルと各プロファイルの妥当性が表示されます。エラーが検出されないと、“The custom JumpStart configuration is ok”と表示され、JumpStart ディレクトリ内に `rules.ok` ファイルと `custom_probes.ok` ファイルが作成されます。

4. `custom_probes.ok` ファイルが
 - 実行可能な場合は、247 ページの手順 5 へ進みます。
 - 実行可能でない場合は、次のコマンドを入力します。


```
chmod +x custom_probes
```
5. `root` が `custom_probes.ok` ファイルを所有し、そのアクセス権が **644** に設定されていることを確認してください。

カスタム JumpStart インストールの実行

この章では、SPARC システムまたは IA システムでカスタム JumpStart インストールを実行する手順を説明します。これらの手順は、Solaris 8 ソフトウェアをインストールしようとするシステム上で実行してください。

- 251 ページの「SPARC: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」
- 255 ページの「IA: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」

SPARC: カスタム JumpStart インストールの実行

SPARC: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

カスタム JumpStart インストールの実行時に、JumpStart プログラムはインストール対象のシステムと `rules.ok` ファイル内のルールと照合します。この際、最初から順にルールが読み取られ、インストール中のシステムがルールに定義されたすべてのシステム属性に一致するかどうか検査されます。システムがルールと一致すると、JumpStart プログラムによる `rules.ok` ファイルの読み取りが停止して、一致したルールのプロファイルにもとづいてシステムのインストールが開始されます。

表 26-1 SPARC: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照先
システムがサポートされているかを確認する	ハードウェアのマニュアルで、Solaris 8 環境におけるシステムサポートを確認します。	『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』
Solaris ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量がシステムにあるかを確認する	Solaris ソフトウェアのインストールに求められる十分な容量があるかを確認します。	第 4 章
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルまたはネームサービスを使用してシステムのインストール情報をあらかじめ設定できます。システム情報をあらかじめ設定すると、インストール時に情報入力を求めるプロンプトは表示されません。	第 7 章
カスタム JumpStart インストールするようにシステムを準備する	rules ファイルとプロファイルファイルを作成してこれらのファイルを検証します。	第 23 章
(省略可能) カスタム JumpStart のオプション機能を準備する	begin スクリプト、finish スクリプトなどのオプション機能を使用する場合は、それらのスクリプトやファイルを用意します。	第 24 章と第 25 章
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) イメージをインストールする場合は、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールするように、システムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートしてインストールまたはアップグレードを開始します。	251 ページの「SPARC: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」

▼ SPARC: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. システムがネットワークに接続されている場合は、**Ethernet** コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。
2. `tip(1)` ラインで接続されているシステムをインストールする場合は、ウィンドウ表示が横 **80** 桁、縦 **24** 行以上あることを確認します。
`stty(1)` コマンドを使うと、`tip` ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。
3. システムの **DVD-ROM** または **CD-ROM** ドライブを使用して **Solaris 8** ソフトウェアをインストールする場合は、ドライブに **Solaris 8 DVD (SPARC)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)** を挿入します。
4. プロファイルフロッピーディスクを使用する場合は、システムのプロロッピーディスクドライブにプロファイルフロッピーディスクを挿入します。
5. システムをブートします。
 - 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
 - 既存システムのインストールまたはアップグレードを行う場合は、システムをシャットダウンします。ok プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom:net - install [url:ask] [dhcp] [nowin]
```

cdrom	<p>CD または DVD からブートすることを指定します。</p> <p>システムの EEPROM が旧式のものである場合は、cdrom を sd(0,6,2) に置き換えてシステムの CD-ROM または DVD-ROM ドライブからブートしてください。</p>
net	<p>ネットワーク上のインストールサーバーからブートすることを意味します。</p>
url	<p>カスタム JumpStart ファイルの場所を指定します。以下にあるファイルを URL で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ ローカルハードディスク file://jumpstart_dir_path/compressed_filename■ ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー nfs://server_name:IP_address/jumpstart_dir_path/compressed_config_file■ HTTP サーバー http://server_name:IP_address/jumpstart_dir_path/ compressed_config_file&proxy_info <p>sysidcfg ファイルを圧縮構成ファイルに含めた場合は、次の例に示すようにそのファイルを含むサーバーの IP アドレスを指定する必要があります。</p> <p>http://131.141.2.32/jumpstart/config.tar</p> <p>圧縮構成ファイルをファイアウォールで防御された HTTP サーバー上の圧縮構成ファイルに保存した場合は、ブート時に proxy 指示子を使用する必要があります (このファイルが配置されたサーバーの IP アドレスを指定する必要はない)。プロキシサーバーの IP アドレスは次のように指定します。</p> <p>http://www.shadow.com/jumpstart/ config.tar&proxy=131.141.6.151</p>
ask	<p>システムが起動し、ネットワークへの接続が完了すると、インストールプログラムから圧縮構成ファイルの場所を入力するプロンプトが表示されます。</p> <p>Return キーを押してこのプロンプトへの入力を行わないと、インストールプログラムはネットワークパラメータを対話的に構成し、圧縮構成ファイルの場所を尋ねるプロンプトを表示します。Return キーを押してこのプロンプトへの入力を行わないと、Solaris 8 対話式インストールプログラムが開始されます。</p>

dhcp	DHCP サーバーからシステムのブートに必要なネットワークインストール情報を取得します。 dhcp を指定しないと、/etc/bootparams ファイル、またはネームサービスの bootparams データベースが使用されます。
nowin	X Window を起動しません。カスタム JumpStart インストールの実行には、X Window は必要ありません。このため、このオプションを指定すると、インストール時間を短縮できます。

注 **[SPARC]** - ハードウェアおよびシステムコンポーネントがシステムによって検査されて、SPARC システムがブートします。ブートには数分間かかります。

6. sysidcfg ファイルでシステム情報の事前構成を行わなかった場合は、プロンプトが表示された時点でシステム構成についての質問に答えます。
7. 画面の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。
JumpStart プログラムが Solaris ソフトウェアのインストールを終了すると、システムが自動的にリブートします。
インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。
 - /var/sadm/system/logs
 - /var/sadm/install/logs

IA: カスタム JumpStart インストールの実行

IA: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

カスタム JumpStart インストールの際に、JumpStart プログラムはインストール対象のシステムを rules.ok ファイル内のルールに対応付けます。この際、最初から順にルールが読み取られ、インストール中のシステムがルールに定義されたすべてのシステム属性に一致するかどうか検査されます。システムがルールと一致すると同時

に、JumpStart プログラムによる rules.ok ファイルの読み取りが停止して、一致したルールのプロファイルにもとづいてシステムのインストールが開始されます。

表 26-2 x86: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定

作業	説明	参照先
既存のオペレーティングシステムとユーザーデータを保存する必要があるかを決定する	システムにディスク全体を使用している既存のオペレーティングシステムがある場合は、そのシステムと Solaris 8 ソフトウェアを共存させるために既存のオペレーティングシステムを保存する必要があります。この決定により、システムのプロファイル内の fdisk(1M) キーワードをどのように指定するかが決まります。	293 ページの「IA: fdisk プロファイルキーワード」
システムがサポートされているかを確認する	ハードウェアのマニュアルで、Solaris 8 環境におけるシステムサポートを確認します。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』
Solaris ソフトウェアをインストールするための十分なディスク容量がシステムにあるかを確認する	Solaris ソフトウェアのインストールに求められる十分な容量があるかを確認します。	第 4 章
(省略可能) システム構成情報を事前設定する	sysidcfg ファイルまたはネームサービスを使用してシステムのインストール情報をあらかじめ設定できます。システム情報をあらかじめ設定すると、インストール時に情報入力を求めるプロンプトは表示されません。	第 7 章
カスタム JumpStart インストールするようにシステムを準備する	rules ファイルとプロファイルファイルを作成して検証します。	第 23 章
(省略可能) カスタム JumpStart のオプション機能を準備する	begin スクリプト、finish スクリプトなどの機能を使用する場合は、それらのスクリプトまたはファイルの準備を行います。	第 24 章と第 25 章

表 26-2 x86: 作業マップ: カスタム JumpStart インストールのためのシステムの設定 続く

作業	説明	参照先
(省略可能) ネットワーク上でインストールするためのシステムを設定する	リモートの Solaris 8 DVD (Intel) または Solaris SOFTWARE CD (Intel) イメージをインストールする場合は、インストールサーバーまたはブートサーバーからシステムをブートしてインストールするように、システムを設定する必要があります。	第 12 章
インストールまたはアップグレードを行う	システムをブートしてインストールまたはアップグレードを開始します。	255 ページの「IA: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法」

▼ IA: カスタム JumpStart プログラムを使用してインストールまたはアップグレードする方法

1. システムがネットワークに接続されている場合は、**Ethernet** コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。
2. `tip(1)` ラインで接続されているシステムをインストールする場合は、ウィンドウ表示が横 **80** 桁、縦 **24** 行以上あることを確認します。
`stty(1)` コマンドを使うと、`tip` ウィンドウの現在のサイズを調べることができます。
3. プロファイルフロッピーディスクを使用する場合は、システムのフロッピーディスクドライブにそのフロッピーディスクを挿入します。

注 - プロファイルフロッピーディスクには、プロファイル情報だけでなく、Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) のコピーも含まれます。PXE ネットワークブートを利用してネットワークを介してシステムをブートする場合は、フロッピーディスクからではなくネットワークからシステムがブートするようにシステムを構成する必要があります。

4. システムの **DVD-ROM** または **CD-ROM** ドライブを使用して **Solaris 8** ソフトウェアをインストールする場合は、ドライブに **Solaris 8 DVD (Intel)** または **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)** を挿入します。
5. システムのブート方法を決定します。
 - Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD からブートする場合は、そのディスクを挿入します。システムの BIOS は、DVD または CD からのブートをサポートするものでなければなりません。
 - PXE ネットワークブートを使用してネットワークからブートする - システムの BIOS 設定ツールまたはネットワークアダプタの構成セットアップツールを使用して、この機能が有効になっていることを確認します。PXE ネットワークブートを使用するようにシステムを構成する方法については、『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照してください。
 - フロッピーディスクからブートする - 255 ページの手順 3 でドライブに挿入したプロファイルフロッピーディスクを使用するか、あるいはシステムのフロッピーディスクドライブに Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) を挿入します。

注 [IA] - ブートフロッピーディスクソフトウェアは、http://soldc.sun.com/support/drivers/dcs_diskettes の「Solaris Developer Connection」でこのソフトウェアをフロッピーディスクにダウンロードしてコピーすれば使用できます。

6. システムの電源が入っていない場合は、電源を入れます。システムの電源が入っている場合は、システムをリブートします。

Device Configuration Assistant プログラムがシステムのデバイスを調べます。

7. 「**Boot Solaris**」画面が表示されたら、システムをブートするデバイス (「**DVD**」、 「**CD**」、 「**Net**」、または 「**Disk**」) を選択します。
8. プロンプトで、次のどちらかを実行します。

```
Select the type of installation you want to perform:

    1 Solaris Interactive
    2 Custom JumpStart

Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.

If you enter anything else, or if you wait for 30 seconds,
an interactive installation will be started.
```

カスタム JumpStart 方式を選択するには、次のどちらかを行います。

注 - 30 秒以内に「2」またはブートコマンドを入力しないと、Solaris 8 対話式インストールプログラムが開始されます。コマンド行に任意のキーを入力することによって、このタイマーを止めることができます。

- 2 を入力し、Enter キーを押します。
- カスタム JumpStart 構成ファイルの場所を指定するには、次のコマンドを入力します。

```
b install [url:ask] [dhcp] [nowin]
```

<i>url</i>	<p>カスタム JumpStart ファイルの場所を指定します。以下にあるファイルを URL で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカルハードディスク file://jumpstart_dir_path/compressed_config_file ■ ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー nfs://server_name:IP_address/jumpstart_dir_path/compressed_config_file ■ HTTP サーバー http://server_name:IP_address/jumpstart_dir_path/compressed_config_file&proxy_info <p>sysidcfg ファイルを圧縮構成ファイルに含めた場合は、次の例に示すようにそのファイルを含むサーバーの IP アドレスを指定する必要があります。</p> <p>http://131.141.2.32/jumpstart/config.tar</p> <p>圧縮構成ファイルをファイアウォールで防御された HTTP サーバー上の圧縮構成ファイルに保存した場合は、ブート時に proxy 指示子を使用する必要があります (ファイルが配置されたサーバーの IP アドレスを指定する必要はない)。プロキシサーバーの IP アドレスは次のように指定します。</p> <p>http://www.shadow.com/jumpstart/config.tar&proxy=131.141.6.151</p>
<i>ask</i>	<p>システムが起動し、ネットワークへの接続が完了すると、インストールプログラムから圧縮構成ファイルの場所を入力するプロンプトが表示されます。</p> <p>Return キーを押してこのプロンプトへの入力を行わないと、インストールプログラムはネットワークパラメータを対話的に構成し、圧縮構成ファイルの場所を尋ねるプロンプトを表示します。Return キーを押してこのプロンプトへの入力を行わないと、Solaris 8 対話式インストールプログラムが開始されます。</p>
<i>dhcp</i>	<p>DHCP サーバーからシステムのブートに必要なネットワークインストール情報を取得します。</p> <p>dhcp を指定しないと、/etc/bootparams ファイル、またはネームサービスの bootparams データベースが使用されます。</p>
<i>nowin</i>	<p>X Window を起動しません。カスタム JumpStart インストールの実行には、X Window は必要ありません。そのため、このオプションを指定すると、インストール時間を短縮できます。</p>

9. sysidcfg でシステム情報の事前構成を行わなかった場合は、プロンプトが表示された時点でシステム構成についての質問に答えます。

10. 画面の指示に従って、ソフトウェアをインストールします。

JumpStart プログラムが Solaris ソフトウェアのインストールを終了すると、システムが自動的にリブートします。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、次のディレクトリに作成されます。

- /var/sadm/system/logs
- /var/sadm/install/logs

カスタム JumpStart による Solaris ソフトウェアのインストール例

この章では、カスタム JumpStart を使用して SPARC システムと IA システムに Solaris ソフトウェアをインストールするための設定と実際のインストールを行う例を示します。

- 262 ページの「サイトの設定例」
- 263 ページの「インストールサーバーの作成」
- 265 ページの「マーケティングシステム用のブートサーバーの作成」
- 265 ページの「JumpStart ディレクトリの作成」
- 266 ページの「JumpStart ディレクトリの共有」
- 266 ページの「SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成」
- 267 ページの「IA: マーケティンググループのプロファイルの作成」
- 268 ページの「rules ファイルの更新」
- 268 ページの「rules ファイルの妥当性を検査する」
- 269 ページの「SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定」
- 270 ページの「IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定」
- 271 ページの「SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール」
- 271 ページの「IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール」

サイトの設定例

この例で使用するサイトの設定を図 27-1 に示します。

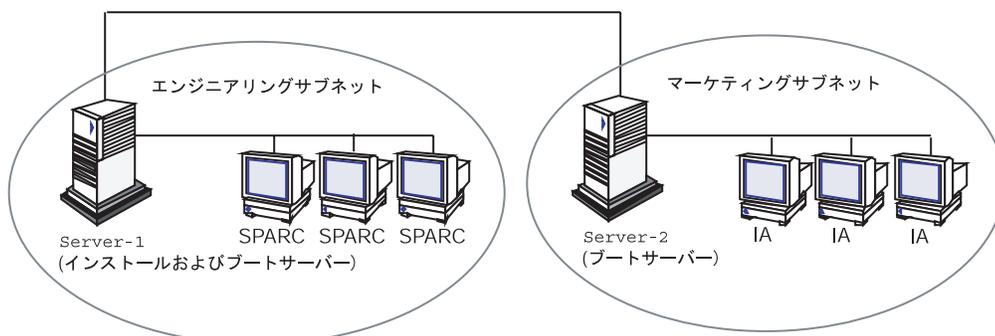


図 27-1 サイトの設定例

この例におけるサイトの状況は次のとおりです。

- **SPARC:** エンジニアリンググループは、それ自身のサブネット上にあります。このグループでは、ソフトウェア開発用に SPARCstation™ システムを使用しています。
- **IA:** マーケティンググループも、それ自身のサブネット上にあります。このグループでは、文書処理、表計算、およびその他のオフィスツールを実行するために IA システムを使用しています。
- このサイトでは NIS を使用しています。システムの Ethernet アドレス、IP アドレス、およびホスト名は NIS マップに事前設定されています。サイトのサブネットマスク、日付と時刻、および地域の情報も NIS マップに事前設定されています。

注 - マーケティングシステムの周辺装置は、`sysidcfg` ファイルに事前設定されています。

- エンジニアリングシステムとマーケティングシステムの両方とも、Solaris 8 ソフトウェアをネットワーク上でインストールします。

インストールサーバーの作成

これらのグループは Solaris ソフトウェアをネットワーク上でインストールする必要があるため、server-1 を両方のグループのインストールサーバーにします。server-1 ローカルディスク (/export/install ディレクトリ内) にイメージをコピーするには、setup_install_server(1M) コマンドを使用します。これらのイメージは、Solaris 8 SOFTWARE CD と Solaris 8 LANGUAGES CD からコピーするか、あるいは Solaris 8 DVD からコピーしてください。

コピー先は、空のディレクトリ (これらの例では sparc_8 と ia_8) でなければなりません。

例 27-1 Solaris 8 CD のコピー

server-1 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# mkdir -p /export/install/sparc_8
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/sparc_8
```

server-1 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./add_to_install_server /export/install/sparc_8
```

server-1 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Tools
server-1# ./add_to_install_server /export/install/sparc_8
```

server-1 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# mkdir -p /export/install/ia_8
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/ia_8
```

server-1 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./add_to_install_server /export/install/ia_8
```

server-1 に接続されている CD-ROM ドライブに Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# cd /CD_mount_point/Tools
server-1# ./add_to_install_server /export/install/ia_8
```

例 27-2 Solaris 8 DVD のコピー

server-1 に接続されている DVD-ROM ドライブに Solaris 8 DVD (SPARC) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# mkdir -p /export/install/sparc_8
server-1# cd /DVD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/sparc_8
```

server-1 に接続されている DVD-ROM ドライブに Solaris 8 DVD (Intel) を挿入し、次のコマンドを入力します。

```
server-1# mkdir -p /export/install/ia_8
server-1# cd /DVD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-1# ./setup_install_server /export/install/ia_8
```

マーケティングシステム用のブートサーバーの作成

システムは、異なるサブネット上のインストールサーバーからはブートできません。したがって、server-2 をマーケティンググループのサブネット上のブートサーバーにします。Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) または Solaris 8 DVD (Intel) から server-2 ローカルディスク (/export/boot ディレクトリ内) にブートソフトウェアをコピーするには、`setup_install_server(1M)` コマンドを使用します。

server-2 の CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) を挿入する場合は、次のコマンドを入力してください。

```
server-2# cd /CD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-2# ./setup_install_server -b /export/boot
```

server-2 の DVD-ROM ドライブに Solaris 8 DVD (Intel) を挿入する場合は、次のコマンドを入力してください。

```
server-2# cd /DVD_mount_point/Solaris_8/Tools
server-2# ./setup_install_server -b /export/boot
```

`setup_install_server` コマンドの `-b` は、`setup_install_server` が /export/boot というディレクトリにブート情報をコピーすることを指定します。

JumpStart ディレクトリの作成

インストールサーバーとブートサーバーの設定が終了したところで、次は server-1 に JumpStart ディレクトリを作成します (ネットワーク上の任意のシステムを利用できます)。このディレクトリには、Solaris ソフトウェアのカスタム JumpStart インス

ツールに必要なファイルが入っています。このディレクトリを設定するには、/export/install にコピーされている Solaris 8 DVD イメージまたは Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージからサンプルディレクトリをコピーします。

```
server-1# mkdir /jumpstart
server-1# cp -r /export/install/sparc_8/Solaris_8/Misc/jumpstart_sample /jumpstart
```

JumpStart ディレクトリの共有

ネットワーク上のシステムが rules ファイルやプロファイルをアクセスできるようにするために、/jumpstart ディレクトリを共有します。このためには、/etc/dfs/dfstab ファイルに次の行を追加します。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /jumpstart
```

次に、コマンド行で shareall コマンドを使用します。

```
server-1# shareall
```

SPARC: エンジニアリンググループのプロファイルの作成

エンジニアリングシステムの場合、eng_prof ファイルを /jumpstart ディレクトリに作成します。eng_prof ファイルのエントリは次のようになっていて、エンジニアリンググループのシステムにインストールされる Solaris 8 ソフトウェアを定義しています。

```
install_type  initial_install1
system_type   standalqne2
partitioning  default3
cluster       SUNWCprog4
fileys        any 512 swap5
```

1. アップグレードではなく、初期インストールによりインストールするよう指定します。
2. エンジニアリングシステムが、スタンドアロンシステムであることを指定します。
3. JumpStart ソフトウェアが、デフォルトのディスクパーティションを使用して、エンジニアリングシステムに Solaris をインストールするよう指定します。
4. 開発者システムサポートソフトウェアグループをインストールするよう指定します。
5. エンジニアリンググループの各システムが、512M バイトのスワップ領域を持つよう指定します。

IA: マーケティンググループのプロファイルの作成

マーケティングシステムの場合、marketing_prof ファイルを /jumpstart ディレクトリに作成します。marketing_prof ファイルのエントリは次のようになっていて、マーケティンググループのシステムにインストールされる Solaris 8 ソフトウェアを定義しています。

```
install_type  initial_install1
system_type   standal2
partitioning  default3
cluster       SUNWCuser4
package       SUNWaudio5
```

1. アップグレードではなく、初期インストールによりインストールするよう指定します。
2. マーケティングシステムが、スタンドアロンであることを指定します。
3. JumpStart ソフトウェアが、デフォルトのディスクパーティションを使用して、マーケティングシステムに Solaris をインストールするよう指定します。
4. エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループをインストールするよう指定します。
5. オーディオツールのデモソフトウェアパッケージを各システムに追加するよう指定します。

rules ファイルの更新

次に、rules ファイルにルールを追加する必要があります。Solaris インストールプログラムは、カスタム JumpStart インストール中、これらのルールを使用して、各システムに正しいインストール (プロファイル) を選択します。

このサイトでは、各部署は独自のサブネットとネットワークアドレスを持っています。エンジニアリング部はサブネット 255.222.43.0 にあり、マーケティング部はサブネット 255.222.44.0 にあります。この情報を使用すれば、エンジニアリングシステムとマーケティングシステムのインストール方法を制御できます。/jumpstart ディレクトリ内の rules ファイルを編集して、サンプルのルールをすべて削除し、次の行をファイルに追加します。

```
network 255.222.43.0 - eng_prof -  
network 255.222.44.0 - marketing_prof -
```

これらのルールは、基本的に、255.222.43.0 ネットワーク上のシステムが eng_prof プロファイルを使用してインストールされることと、255.222.44.0 ネットワーク上のシステムが marketing_prof プロファイルを使用してインストールされることを示しています。

注 - サンプルのルールでは、どのシステムが eng_prof または marketing_prof を使用してインストールされるかをネットワークアドレスを使用して識別できます。この他にも、ホスト名、メモリーサイズ、またはモデルタイプをルールのキーワードとして使用できます。rules ファイルで使用できるキーワードのリストについては、表 28-1 を参照してください。

rules ファイルの妥当性を検査する

rules ファイルとプロファイルを適切に設定した後は、check スクリプトを実行して、これらのファイルを確認します。

```
server-1# cd /jumpstart
server-1# ./check
```

check スクリプトによってエラーが検出されない場合は、rules.ok ファイルが作成されます。

SPARC: ネットワーク上でインストールするためのエンジニアリングシステムの設定

/jumpstart ディレクトリおよび必要なファイルを設定した後は、インストールサーバー (server-1) で add_install_client コマンドを使用して、インストールサーバーから Solaris 8 ソフトウェアをインストールできるようにエンジニアリングシステムを設定します。server-1 は、エンジニアリンググループのサブネットにとってはブートサーバーにも相当します。

```
server-1# cd /export/install/sparc_8/Solaris_8/Tools
server-1# ./add_install_client -c server-1:/jumpstart host-eng1 sun4m
server-1# ./add_install_client -c server-1:/jumpstart host-eng2 sun4m
.
.
.
.
```

add_install_client コマンドで使用されるオプションの意味は次のとおりです。

-c	サーバー (server-1) と JumpStart ディレクトリへのパス (/jumpstart) を指定する
host-eng1	エンジニアリンググループのシステム名
host-eng2	エンジニアリンググループの別のシステム名
sun4m	server-1 をインストールサーバーとして使用するシステムのアーキテクチャを指定する(プラットフォームグループは SPARCstation 5 システム用)

IA: ネットワーク上でインストールするためのマーケティングシステムの設定

次に、ブートサーバー (server-2) で `add_install_client` コマンドを使用して、ブートサーバーからブートして、インストールサーバー (server-1) から Solaris 8 ソフトウェアをインストールするようにマーケティングシステムを設定します。

```
server-2# cd /marketing/boot-dir/Solaris_8/Tools
server-2# ./add_install_client -s server-1:/export/install/ia_8 \
-c server-1:/jumpstart host-mkt1 i86pc
server-2# ./add_install_client -s server-1:/export/install/ia_8 \
-c server-1:/jumpstart host-mkt2 i86pc
server-2# ./add_install_client -d -s server-1:/export/install/ia_8 \
-c server-1:/jumpstart SUNW.i86pc i86pc
.
.
.
```

`add_install_client` コマンドで使用されるオプションの意味は次のとおりです。

<code>-d</code>	ネットワークインストールパラメータの取得にクライアントが DHCP を使用することを指定する。このオプションは PXE ネットワークブートを使用してネットワークからブートするクライアントには必ず指定する必要がありますが、PXE ネットワークブートを使用しないクライアントには省略できる。
<code>-s</code>	インストールサーバー (server-1) と Solaris ソフトウェアへのパス (/export/install/ia_8) を指定する
<code>-c</code>	サーバー (server-1) と JumpStart ディレクトリへのパス (/jumpstart) を指定する
<code>host-mkt1</code>	マーケティンググループのシステム名
<code>host-mkt2</code>	マーケティンググループの別のシステム名

SUNW.i86pc	すべての Solaris IA クライアントの DHCP クラス名。1 回のコマンド実行ですべての Solaris IA DHCP クライアントを構成したい場合は、このクラス名を使用してください。
i86pc	このブートサーバーを使用するシステムのプラットフォームグループを指定する。このプラットフォーム名は IA システムを意味する

SPARC: エンジニアリングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール

サーバーとファイルの設定が完了した後は、各システムの ok (PROM) プロンプトで次の boot コマンドを使用して、エンジニアリングシステムをブートできます。

```
ok boot net - install
```

システムは自動的に Solaris オペレーティング環境をエンジニアリンググループのシステムにインストールします。

IA: マーケティングシステムのブートと Solaris 8 ソフトウェアのインストール

次に示す方法のどれか 1 つを使用してシステムをブートできます。

- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
- Solaris 8 DVD (Intel)
- ネットワーク (PXE ネットワークブートを使用)
- プロファイルフロッピーディスク
- Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助)

Solaris 8 はマーケティンググループのシステムに自動的にインストールされます。

カスタム JumpStart に関するリファレンス 情報

この章では、rules ファイル、プロファイル、および begin/finish スクリプトで使用できるキーワードと値を一覧で示します。

- 273 ページの「ルールキーワードと値の説明」
- 279 ページの「プロファイルキーワードと値」
- 308 ページの「カスタム JumpStart の環境変数」
- 312 ページの「プローブキーワードと値」

ルールキーワードと値の説明

表 28-1 で、rules ファイルで使用できるルールキーワードとルール値について説明します。rules ファイルの作成方法の詳細は、205 ページの「rules ファイルの作成」を参照してください。

表 28-1 ルールキーワードとルール値の説明

ルール キーワード	値	説明
any	マイナス記号 (-)	あらゆるもの。常に一致する。
arch	<i>processor_type</i> <i>processor_type</i> に有効な値: ■ SPARC:sparc ■ IA:i386	システムのプロセッサタイプを照合する。 システムのプロセッサタイプは、uname -p コマンドで調べることができる
disksize	<i>actual_disk_name size_range</i> <i>actual_disk_name</i> - cxytdz 形式 (たとえば、c0t3d0、c0d0) のディスク名または rootdisk。rootdisk を使用する場合、照合するディスクは次の順番で決定される。 ■ SPARC: インストール済みのブートイメージを持つディスク (出荷時に JumpStart がインストールされている新しい SPARC システム) ■ c0t3d0s0 ディスク (存在する場合) ■ 最初に利用可能なディスク (カーネルのブロープ順で検索される) <i>size_range</i> - ディスクのサイズ。M バイト単位の範囲 (x-x) で指定する必要がある	システムのディスクの名前とサイズを照合する (M バイト単位)。 例: disksize c0t3d0 250-300 この例では、JumpStart プログラムは c0t3d0 というシステムディスクの照合を試みる。このディスクは、250 - 300M バイトの情報を保持できる。 例: disksize rootdisk 750-1000 この例では、JumpStart プログラムはまず事前にインストールされたブートイメージが入ったシステムディスクを照合し、続いて c0t3d0s0 ディスク (存在する場合) を照合し、最後に 750M - 1G バイトの情報を保持できるディスクの中で利用可能な最初のディスクを照合する。 注 - <i>size_range</i> を計算するときは、1M バイトが 1,048,576 バイトであることに注意してください。「535M バイト」ディスクと明記されているディスクでも、ディスク空間が 510M バイトしかない場合があります。535,000,000/1,048,576=510 により、JumpStart プログラムは「535M バイト」ディスクを実際には 510M バイトのディスクと見なします。したがって、この「535M バイト」ディスクは 530-550 の <i>size_range</i> には一致しません。

表 28-1 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	値	説明
domainname	<i>actual_domain_name</i>	<p>システムのドメイン名を照合する。ドメイン名でネームサービスが情報を判別する方法を制御する。</p> <p>システムがインストール済みの場合、<code>domainname</code> コマンドによりシステムのドメイン名を表示できる</p>
hostaddress	<i>actual_IP_address</i>	システムの IP アドレスを照合する
hostname	<i>actual_host_name</i>	<p>システムのホスト名を照合する。</p> <p>システムがインストール済みの場合、<code>uname -n</code> コマンドによりシステムのホスト名を表示できる</p>
installed	<p><i>slice version</i></p> <p><i>slice - cwtxdysz</i> 形式 (たとえば、<code>c0t3d0s5</code>) のディスクスライス名、または <code>any</code> か <code>rootdisk</code>。<code>any</code> を使用すると、システムに接続されたどのディスクも照合する (カーネルのブロープ順)。<code>rootdisk</code> を使用する場合、照合するディスクは次の順番で決定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SPARC: インストール済みのブートイメージを持つディスク (出荷時に <code>JumpStart</code> がインストールされている新しい SPARC システム) ■ <code>c0t3d0s0</code> ディスク (存在する場合) ■ 最初に利用可能なディスク (カーネルのブロープ順で検索される) <p><i>version</i> - バージョン名、あるいは <code>any</code> または <code>upgrade</code>。<code>any</code> を使用すると、Solaris または SunOS リリースのどれとでも照合する。<code>upgrade</code> を使用すると、アップグレード可能な Solaris 2.1 以降の互換リリースのどれとでも照合する。</p> <p>Solaris リリースが見つかるがバージョンが不明な場合は、<code>SystemV</code> がバージョンとして返される。</p>	<p>Solaris ソフトウェアの特定バージョンに対応するルートファイルシステムが存在するディスクを照合する。</p> <p>例:</p> <pre>installed c0t3d0s1 Solaris_8</pre> <p>この例では、<code>c0t3d0s1</code> に Solaris 8 のルートファイルシステムを持つシステムを照合している</p>

表 28-1 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	値	説明
karch	<i>actual_platform_group</i> 有効な値は、sun4m、sun4u、i86pc、prep。 システムおよび対応するプラットフォームグループの一覧は、『Solaris 8 Sun ハードウェアマニユアル』に記載されています。	システムのプラットフォームグループを照合する。 システムがインストール済みの場合は、arch -k コマンドまたは uname -m コマンドにより、システムのプラットフォームグループを表示できる
memsize	<i>physical_mem</i> 値は M バイト単位の範囲 (<x-x) または 1 つの M バイト値で指定する	システムの物理メモリーサイズを照合する (M バイト単位)。 例: memsize 16-32 この例では、16M~32M バイトの物理メモリーサイズを持つシステムと照合している。 システムがインストール済みの場合は、prtconf コマンド (2 行目) によりシステムの物理メモリーサイズを表示できる
model	<i>actual_platform_name</i>	システムのプラットフォーム名を照合する。有効なプラットフォーム名については、『Solaris 8 Sun ハードウェアマニユアル』を参照してください。 インストール済みのシステムのプラットフォーム名を見つけるには、uname -i コマンドか prtconf コマンド (5 行目) の出力を使用する。 注 - <i>actual_platform_name</i> にスペースが含まれている場合は、スペースを下線 (_) で置き換える必要があります。 例: SUNW,Sun_4_50

表 28-1 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	値	説明
network	<i>network_num</i>	<p>システムのネットワーク番号を照合する。これは JumpStart プログラムが、システムの IP アドレスとサブネットマスクの論理積をとって判別する。</p> <p>例:</p> <pre>network 193.144.2.8</pre> <p>この例では、IP アドレスが 193.144.2.8 のシステムを照合する (サブネットマスクが 255.255.255.0 の場合)</p>

表 28-1 ルールキーワードとルール値の説明 続く

ルール キーワード	値	説明
osname	Solaris_2.x	<p>システムにすでにインストールされている Solaris のバージョンを照合する。</p> <p>例:</p> <pre>osname Solaris_7</pre> <p>この例では、JumpStart プログラムは Solaris 7 オペレーティング環境がすでにインストールされているシステムを照合する。</p>
probe	<i>probe_keyword</i>	<p>有効なプローブキーワードまたは有効なカスタムプローブキーワード</p> <p>例:</p> <pre>probe disks</pre> <p>この例では、システムのディスクサイズ (メガバイト単位) をカーネル検索順 (例: SPARC システムでは c0t3d0s1、c0t4d0s0) に返し、環境変数 SI_DISKLIST、SI_DISKIZES、SI_NUMDISKS、SI_TOTALDISK を設定する。</p> <hr/> <p>注 - probe キーワードには、属性を照合せず、プロファイルを実行しないという特徴があります。このキーワードは、値を返すだけです。したがって、probe ルールキーワードで、begin スクリプト、プロファイル、および finish スクリプトは指定できません。</p> <hr/> <p>プローブキーワードについては、第 25 章を参照してください。</p>

表 28-2 ルールキーワードとルール値の説明 (続き)

ルール キーワード	値	説明
totaldisk	<p><i>size_range</i></p> <p>値は M バイト単位の範囲 (x-x) で指定する必要がある</p>	<p>システムのディスク空間の全体量 (M バイト単位) を照合する。ディスク空間の全体量には、システムに接続されている使用可能なディスクがすべて含まれる。</p> <p>例:</p> <pre>totaldisk 300-500</pre> <p>この例では、全体として 300M~500M バイトのディスク空間を持つシステムと照合している。</p> <hr/> <p>注 - <i>size_range</i> を計算するときは、1M バイトが 1,048,576 バイトであることに注意してください。「535M バイト」ディスクと明記されているディスクでも、ディスク空間が 510M バイトしかない場合があります。535,000,000/1,048,576=510 により、JumpStart は「535M バイト」ディスクを実際には 510M バイトのディスクと見なします。したがって、この「535M バイト」ディスクは 530-550 の <i>size_range</i> には一致しません。</p>

プロファイルキーワードと値

次の節では、プロファイルで使用できるプロファイルキーワードとプロファイル値を説明します。プロファイル作成の詳細は、210 ページの「プロファイルの作成」を参照してください。

プロファイルキーワードの一覧

表 28-3 を使用すれば、どのキーワードがユーザーのインストールに適しているかを簡単に決定できます。プロファイルキーワードの説明で特に注記されていないかぎり、プロファイルキーワードは初期インストールオプションだけで使用できます。

表 28-3 プロファイルキーワード

プロファイルキーワード	インストール方法				
	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されていない)	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されている) またはサーバー	OS サーバー	アップグレード	ディスク容量の再配置を使用するアップグレード
archive_location	X	X			
backup_media					X
boot_device	X	X	X		
client_arch			X		
client_root			X		
client_swap			X		
cluster (ソフトウェアグループを追加する場合)	X	X	X		
cluster (クラスタを追加または削除する場合)	X	X	X	X	X
dontuse	X	X	X		
fdisk (IA のみ)	X	X	X		
filesystem (リモートファイルシステムをマウントする場合)		X	X		
filesystem (ローカルファイルシステムを作成する場合)	X	X	X		
geo	X	X	X	X	X
install_type	X	X	X	X	X

表 28-3 プロファイルキーワード 続く

プロファイルキーワード	インストール方法				
	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されていない)	スタンドアロンシステム (ネットワークに接続されている) またはサーバー	OS サーバー	アップグレード	ディスク容量の再配置を使用するアップグレード
isa_bits	x	x	x	x	x
layout_constraint					x
locale	x	x	x	x	x
num_clients			x		
package	x	x	x	x	x
partitioning	x	x	x		
root_device	x	x	x	x	x
system_type	x	x	x		
usedisk	x	x	x		

プロファイルキーワードの説明と例

archive_location プロファイルキーワード

```
archive_location retrieval_type location
```

retrieval_type と *location* の値は、フラッシュアーカイブの格納場所によって異なります。*retrieval_type* と *location* に使用できる値や、*archive_location* キーワードの使用例については、次の各項を参照してください。

- 282 ページの「ネットワークファイルシステム (NFS) サーバー」
- 282 ページの「HTTP サーバー」
- 284 ページの「ローカルテープ」
- 285 ページの「ローカルデバイス」
- 286 ページの「ローカルファイル」

ネットワークファイルシステム (**NFS**) サーバー

アーカイブがネットワークファイルシステム (NFS) サーバーに格納されている場合は、`archive_location` プロファイルキーワードに次の構文を使用します。

```
archive_location nfs server_name:/path/filename retry n
```

Valid <i>retrieval_type</i> Values	有効な <i>location</i> 値	説明
nfs	<code>server_name:/path/filename retry n</code>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <code>server_name</code> は、アーカイブが格納されているサーバーの名前です。 ■ <code>path</code> は、指定したサーバーから取得するアーカイブの場所です。このパスに <code>\$HOST</code> を含めると、フラッシュインストールユーティリティは <code>\$HOST</code> をインストール先のクローンシステムの名前に置き換えます。 ■ <code>filename</code> は、フラッシュアーカイブファイルの名前です。 ■ <code>retry n</code> は省略可能なキーワードです。<code>n</code> は、フラッシュユーティリティがアーカイブのマウントを試みる最大回数です。

例:

```
archive_location nfs golden:/archives/usrarchive
```

```
archive_location nfs://golden/archives/usrarchive
```

HTTP サーバー

アーカイブが HTTP サーバーに格納されている場合は、`archive_location` プロファイルキーワードに次の構文を使用します。

```
archive_location http server_name:port path/filename optional_keywords
```

有効な <i>retrieval_type</i> 値	有効な <i>location</i> 値	説明
http	<i>server_name:port path/filename</i> <i>optional_keywords</i>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <i>server_name</i> は、アーカイブが格納されているサーバーの名前です。<i>server_name</i> は、ポート番号でも、実行時に決定されるポート番号を持つ TCP サービスの名前でもかまいません。 ■ <i>port</i> は任意のポートです。ポートを指定しない場合、フラッシュインストールユーティリティはデフォルトの HTTP ポート番号、80 を使用します。 ■ <i>path</i> は、指定したサーバーから取得するアーカイブの場所です。このパスに \$HOST を含めると、フラッシュインストールユーティリティは \$HOST をインストール先のクローンシステムの名前に置き換えます。 ■ <i>filename</i> は、フラッシュアーカイブファイルの名前です。 ■ <i>optional_keywords</i> は、フラッシュアーカイブを HTTP サーバーから読み取るときに使用する省略可能なキーワードです。

表 28-4 *optional_keywords* で使用可能なオプションのキーワード

キーワード	値の定義
<code>auth basic user_name password</code>	<p>アーカイブがパスワード保護された HTTP サーバーに格納されている場合は、その HTTP サーバーへのアクセスに必要なユーザー名とパスワードをプロファイルに含める必要があります。</p> <p>注 - カスタム JumpStart で使用しようとするプロファイルにおいてこの認証方法を使用することは、リスクを伴います。これは、承認されていないユーザーが、パスワードが入ったプロファイルにアクセスできる可能性があるためです。</p>
<code>timeout min</code>	<p><code>timeout</code> キーワードには、HTTP サーバーからのデータ受信を待機する最長の時間を分単位で指定できます。この時間に達すると、接続が切断されて、再接続が行われ、タイムアウトが発生した地点から再開されます。<code>timeout</code> 値として 0 (ゼロ) を指定すると、何も起きないため再接続されません。</p> <p>タイムアウトによる再接続が発生すると、フラッシュインストールユーティリティはアーカイブを取得した最後の位置からインストールの再開を試みます。この位置でのインストールの再開が不可能な場合、アーカイブの初めから再度データの取得が行われ、タイムアウト前に取得されたデータは破棄されます。</p>
<code>proxy host:port</code>	<p><code>proxy</code> キーワードを使用して、プロキシホストとプロキシポートを指定できます。プロキシホストを使用すると、ファイアウォール越しにフラッシュアーカイブを取得できます。<code>proxy</code> キーワードを指定する場合は、プロキシポートを指定する必要があります。</p>

例:

```
archive_location http silver /archives/usrarchive auth basic user1 secret timeout 5
archive_location http silver /archives/usrarchive auth basic user1 secret timeout 5
```

ローカルテープ

アーカイブがテープに格納されている場合は、`archive_location` プロファイルキーワードに次の構文を使用します。

```
archive_location local_tape device position
```

有効な <i>retrieval_type</i> 値	有効な <i>location</i> 値	説明
<i>local_tape</i>	<i>device position</i>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <i>device</i> は、フラッシュアーカイブを格納したテープドライブの名前です。デバイス名が正規のパスである場合は、フラッシュインストールユーティリティはデバイスノードへのパスからアーカイブを取得します。正規のパスでないデバイス名を指定した場合は、フラッシュインストールユーティリティはパスに <code>/dev/rmt/</code> を加えます。 ■ <i>position</i> は、アーカイブを保存したテープドライブ上の位置を示します。位置が指定されないと、フラッシュインストールユーティリティはテープドライブの現在の位置からアーカイブを取得します。<i>position</i> を指定することにより、テープドライブ上でアーカイブの前に開始スクリプトまたは <code>sysidcfg</code> ファイルを配置できます。

例:

```
archive_location local_tape /dev/rmt/0n 5
```

```
archive_location local_tape 0n 5
```

ローカルデバイス

ファイルシステム指向のランダムアクセスデバイス (フロッピーディスクや CD-ROM など) にフラッシュアーカイブを格納した場合は、ローカルデバイスからフラッシュアーカイブを取得できます。`archive_location` プロファイルキーワードには次の構文を使用します。

注 - ローカルテープ用の構文を使用すると、ストリーム指向のデバイス (テープなど) からアーカイブを取得できます。

```
archive_location local_device device path/filename file_system_type
```

有効な <i>retrieval_type</i> 値	有効な <i>location</i> 値	説明
<code>local_device</code>	<code>device path/filename</code> <code>file_system_type</code>	<ul style="list-style-type: none"> ■ <i>device</i> は、フラッシュアーカイブを格納したドライブの名前です。デバイス名が正規のパスである場合は、デバイスは直接マウントされます。正規のパスでないデバイス名を指定すると、フラッシュインストールユーティリティはパスに <code>/dev/dsk/</code> を加えます。 ■ <i>path</i> は、フラッシュアーカイブへのパスです。これは、指定したデバイス上のファイルシステムのルートからの相対パスで指定します。このパスに <code>\$HOST</code> を含めると、フラッシュインストールユーティリティは <code>\$HOST</code> をインストール先のクローンシステムの名前に置き換えます。 ■ <i>filename</i> は、フラッシュアーカイブファイルの名前です。 ■ <i>file_system_type</i> は、デバイス上のファイルシステムのタイプを指定します。ファイルシステムのタイプを指定しない場合、フラッシュインストールユーティリティは、UFS ファイルシステムのマウントを試みず、UFS のマウントに失敗すると、フラッシュインストールユーティリティは HSFS ファイルシステムのマウントを試みます。

例:

UFS ファイルシステムとしてフォーマットされているローカルハードディスクからアーカイブを取得するには、次のコマンドを使用します。

```
archive_location local_device c0t0d0s0 /archives/$HOST
```

HSFS ファイルシステムを持つローカル CD-ROM からアーカイブを取得するには、次のコマンドを使用します。

```
archive_location local_device c0t0d0s0 /archives/usrarchive
```

ローカルファイル

クローンシステムをブートしたミニルートに格納したローカルファイルのアーカイブを取得できます。カスタム **JumpStart** インストールを実施する時に、CD-ROM または NFS ベースのミニルートからシステムをブートします。このミニルートからインストールソフトウェアがロードされ、実行されます。したがって、CD-ROM または NFS ベースのミニルートに格納したフラッシュアーカイブは、ローカルファイル

としてアクセスできます。archive_location プロファイルキーワードには次の構文を使用します。

```
archive_location local_file path/filename
```

有効な <i>retrieval_type</i> 値	有効な <i>location</i> 値	説明
local_file	path/filename	<ul style="list-style-type: none">■ <i>path</i> は、アーカイブの位置です。このパスは、システムを Solaris 8 INSTALLATION CD または Solaris 8 DVD からブートしている間、システムにローカルファイルとしてアクセスできるものでなければなりません。Solaris 8 INSTALLATION CD または Solaris 8 DVD からブートしている間は、システムは /net にアクセスできません。■ <i>filename</i> は、フラッシュアーカイブファイルの名前です。

例:

```
archive_location local_file /archives/usrarchive
```

```
archive_location local_file /archives/usrarchive
```

backup_media プロファイルキーワード

```
backup_media type path
```

注 - backup_media は、ディスク容量の再配置が必要なアップグレードオプションだけで使用できます。

backup_media は、ディスク容量不足のためにアップグレード中にディスク容量の再配置が必要なファイルシステムのバックアップをとるために使用する媒体を定義します。バックアップ用に複数のテープまたはフロッピーディスクが必要な場合は、アップグレード中にテープまたはフロッピーディスクの挿入を求めるプロンプトが表示されます。

有効な <i>type</i> 値	有効な <i>path</i> 値	説明
local_tape	/dev/rmt/ <i>n</i>	アップグレードされるシステムのローカルテープドライブを指定する。 <i>path</i> は、テープドライブのキャラクタ型 (raw) デバイスのパスでなければならない。 <i>n</i> はテープドライブの番号
local_diskette	/dev/rdisketten	アップグレードされるシステムのローカルフロッピーディスクドライブを指定する。 <i>path</i> は、フロッピーディスクドライブのキャラクタ型 (raw) デバイスのパスでなければならない。 <i>n</i> はフロッピーディスクドライブの番号 バックアップに使用するフロッピーディスクはフォーマットされていない
local_filesystem	/dev/dsk/cwtxdysz /file_system	アップグレードされるシステムのローカルファイルシステムを指定する。アップグレードで変更されるローカルファイルシステムは指定できない。 <i>path</i> は、ディスクスライスのブロックデバイスパス (/dev/dsk/c wtx dysz 内の tx は必須ではない) か、/etc/vfstab ファイルによってマウントされたファイルシステムの絶対パスのいずれかである
remote_filesystem	host:/file_system	リモートシステムの NFS ファイルシステムを指定する。 <i>path</i> は、リモートシステム (host) の名前または IP アドレスと、NFS ファイルシステム (file_system) への絶対パスを含まなければならない。NFS ファイルシステムは、読み取り権と書き込み権を持っている必要がある
remote_system	user@host:/directory	リモートシェル (rsh) で到達できるリモートシステム上のディレクトリを指定する。アップグレードされるシステムは、リモートシステムの .rhosts ファイル経由で、リモートシステムにアクセスできなければならない。 <i>path</i> は、リモートシステム (host) の名前と、そのディレクトリ (directory) への絶対パスを含まなければならない。ユーザーログイン (user) を指定しないと、スーパーユーザーとしてログインされる

例:

```
backup_media local_tape /dev/rmt/0
backup_media local_diskette /dev/rdiskette1
backup_media local_filesystem /dev/dsk/c0t3d0s4
```

```
backup_media local_filesystem /export
backup_media remote_filesystem system1:/export/temp
backup_media remote_system user1@system1:/export/temp
```

boot_device プロファイルキーワード

```
boot_device device eeprom
```

`boot_device` には、JumpStart がルート (/) ファイルシステムをインストールするデバイスと、システムのブートデバイスを指定します。

`boot_device` キーワードをプロファイルに指定しない場合、インストール中にデフォルトで次の `boot_device` キーワードが指定されます。`boot_device any update`

device - 以下の値のいずれかを使用して、ブートデバイスにするデバイスを指定します。

- SPARC: `cwtxdysz` または `cxdysz` - JumpStart プログラムがルート (/) ファイルシステムを格納するディスクスライス。たとえば、`c0t0d0s0`。
- IA: `cwtxdy` または `cxdy` - JumpStart プログラムがルート (/) ファイルシステムを格納するディスク。たとえば、`c0t0d0`。
- `existing` - JumpStart プログラムは、システムの既存のブートデバイスにルート (/) ファイルシステムを格納します。
- `any` - JumpStart プログラムは、ルート (/) ファイルシステムを配置する場所を選択します。システムの既存のブートデバイスを使用する場合がありますが、必要であれば異なるブートデバイスを選択します。

eeprom - システムの EEPROM を変更または保存する場合に選択します。

システムの EEPROM を、指定したブートデバイスに変更または保存する場合に選択します。

`preserve` 値を指定する必要があります。

- `update` - JumpStart プログラムは、インストールされるシステムが自動的に指定したブートデバイスからブートするように、システムの EEPROM をそのブートデバイスに変更します。

- `preserve` - システムの EEPROM 中のブートデバイス値は変更されません。システムの EEPROM を変更しないで新しいブートデバイスを指定した場合は、システムが新しいブートデバイスから自動的にブートするように、システムの EEPROM を手作業で変更する必要があります。

注 **[SPARC]** - SPARC システムでは、システムの現在のブートデバイスを変更する場合、`eeprom` の値でもシステムの EEPROM を変更できます。これにより、システムは新しいブートデバイスから自動的にブートできます。

例:

```
boot_device c0t0d0s2 update
```

注 - `boot_device` は、ルートファイルシステムを指定する `filesystem` キーワードと `root_device` キーワード (指定した場合) に一致する必要があります。

client_arch プロファイルキーワード

```
client_arch karch_value ...
```

`client_arch` は、OS サーバーが、それ自体が使用するものとは異なるプラットフォームグループをサポートすることを定義します。`client_arch` を指定しない場合、OS サーバーを使用するどのディスクレスクライアントも、サーバーと同じプラットフォームグループでなくてはなりません。OS サーバーがサポートしてほしいプラットフォームグループごとに指定する必要があります。

`karch_value` に有効な値は、`sun4m`、`sun4u`、および `i86pc` です。プラットフォーム名と各種のシステムの詳細は、『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

注 - `client_arch` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できません。

client_root プロファイルキーワード

```
client_root root_size
```

`client_root` は、各クライアント用に割り当てるルート領域の大きさ (`root_size`、M バイト単位) を定義します。サーバーのプロファイルに `client_root` を指定しないと、インストールソフトウェアは1つのクライアント当たり 15M バイトのルート領域を割り当てます。このクライアント用のルート領域の大きさは、`num_clients` キーワードを組み合わせて、`/export/root` ファイルシステム用に確保する領域の大きさを決定するときに使用されます。

注 - `client_root` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できません。

client_swap プロファイルキーワード

<code>client_swap swap_size</code>

プロファイル内の `client_swap` は、各ディスクレスクライアントに割り当てるスワップ領域の大きさ (`swap_size`、M バイト単位) を定義します。`client_swap` を指定しない場合、512M バイトのスワップ領域がデフォルトで割り当てられます。

例:

```
client_swap 512
```

この例は、各ディスクレスクライアントが 512M バイトのスワップ領域を持つことを定義します。

注 - `client_swap` は、`system_type` に `server` を指定したときだけ使用できません。

cluster プロファイルキーワード (ソフトウェアグループの追加)

<code>cluster group_name</code>

`cluster` は、どのソフトウェアグループをシステムに追加するかを指定します。各ソフトウェアグループの `group_name` 名は次のとおりです。

ソフトウェアグループ	<i>group_name</i>
コアシステムサポート	SUNWCreq
エンドユーザーシステムサポート	SUNWCuser
開発者システムサポート	SUNWCprog
全体ディストリビューション	SUNWCall
全体ディストリビューションと OEM サポート	SUNWCXall

1つのプロファイルに指定できるソフトウェアグループの数は1つだけです。ソフトウェアグループは、ほかの `cluster` エントリおよび `package` エントリよりも前に指定する必要があります。プロファイル内の `cluster` でソフトウェアグループを指定しない場合、デフォルトによりエンドユーザーソフトウェアグループ (SUNWCuser) がシステムにインストールされます。

cluster プロファイルキーワード (クラスタの追加または削除)

```
cluster cluster_name add_delete_switch
```

注 - `cluster` (クラスタの追加または削除) は、初期インストールオプションとアップグレードオプションの両方で使用できます。

`cluster` は、システムにインストールされるソフトウェアグループにクラスタを追加または削除するかを指定します。

`cluster_name` は `SUNWCname` 形式で指定します。インストールが終了したシステムで `Admintool` を起動し、「ブラウズ」メニューから「ソフトウェア」を選択すると、クラスタの詳細情報とクラスタ名を表示できます。

`add_delete_switch` は、オプション `add` または `delete` を示します。このオプションを使用すると、指定したクラスタを追加または削除できます。`add_delete_switch` を指定しないと、デフォルトによって `add` が使用されます。

次に、アップグレード時に `cluster` (クラスタの追加または削除) を使用した場合の動作を示します。

- すでにシステムにあるすべてのクラスタが自動的にアップグレードされます。
- `cluster_name add` を指定したが、`cluster_name` がシステムにインストールされていなかった場合、そのクラスタがインストールされます。
- `cluster_name delete` を指定したが、`cluster_name` がシステムにインストールされていた場合、アップグレードが開始される前にそのパッケージは削除されます。

dontuse プロファイルキーワード

```
dontuse disk_name ...
```

`partitioning default` が指定されると、デフォルトではシステム上のすべての使用可能ディスクが使用されます。dontuse は、JumpStart プログラムに使用させないディスク (1 つ以上) を指定するために使用します。`disk_name` は、`cxydz` または `cydz` の形式 (たとえば、`c0t0d0`) で指定する必要があります。

注 - 1 つのプロファイルで、dontuse キーワードと usedisk キーワードを同時に指定することはできません。

IA: fdisk プロファイルキーワード

```
fdisk disk_name type size
```

fdisk は、IA システムで fdisk パーティションを設定する方法を定義します。fdisk は 2 回以上指定できます。次に、fdisk によって IA システムのパーティション設定を行う際の動作を示します。

- fdisk キーワードを使って (`size` に `delete` か `0` を指定して) 削除しないかぎり、ディスク上のすべての fdisk パーティションが保存されます。また、`size` が `all` の場合は、既存のすべての fdisk パーティションが削除されます。
- ルート (/) ファイルシステムを含む Solaris fdisk パーティションは、そのディスク上でアクティブパーティションとして常に指定されます。

注 [IA] - IA システムは、デフォルトでアクティブパーティションから起動します。

- プロファイルで fdisk キーワードを指定しないと、インストール時にデフォルトで次の fdisk キーワードが指定されます。

```
fdisk all solaris maxfree
```

- `fdisk` エントリは、プロファイルに指定されている順序で処理されます。

disk_name - 次の値を使用して、`fdisk` パーティションを作成または削除する場所を指定します。

- `cxydz` または `cydz` - 特定のディスク。たとえば、`c0t3d0`
- `rootdisk` - システムのルートディスク値を含む変数。307 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」で説明しているように、これは **JumpStart** プログラムで決定されます。
- `all` - 選択されたすべてのディスク

type - 次の値を使用し、指定したディスク上で作成または削除する `fdisk` パーティションのタイプを指定します。

- `solaris` - Solaris `fdisk` パーティション (SUNIXOS `fdisk` タイプ)
- `dosprimary` - 一次 DOS `fdisk` パーティションの別名 (データ DOS 用に拡張または予約されている `fdisk` パーティションの別名ではない)。*size* に値 `delete` を指定して `fdisk` パーティションを削除する場合、`dosprimary` は `DOSHUGE`、`DOSOS12`、および `DOSOS16` `fdisk` タイプの別名になります。`fdisk` パーティションを作成する場合、`dosprimary` は `DOSHUGE` `fdisk` パーティションの別名になります。
- `DDD` - 整数で表す `fdisk` パーティション (有効な値は 1 から 255 までの整数)

注 [IA] - この値は *size* に `delete` を指定した場合のみ指定できます。

- `0xHH` - 16 進数で表す `fdisk` パーティション (有効な値は 01 から FF までの 16 進数)

注 [IA] - この値は *size* に `delete` を指定した場合のみ指定できます。

いくつかの `fdisk` タイプの整数と 16 進数での表し方を次の表に示します。

<code>fdisk</code> タイプ	<i>DDD</i>	<i>HH</i>
DOSOS12	1	01
PCIXOS	2	02

fdisk タイプ	DDD	HH
DOSOS16	4	04
EXTDOS	5	05
DOSHUGE	6	06
DOSDATA	86	56
OTHEROS	98	62
UNIXOS	99	63

size - 次の内から 1 つを指定します。

- *DDD* - サイズが *DDD* (M バイト単位) の fdisk パーティションを、指定したディスク上に作成します。*DDD* は整数で指定する必要があります。JumpStart プログラムは、この数値を一番近いシリンドラの境界に自動的に繰り上げます。値 0 を指定すると、*delete* を指定するのと同じになります。
- *all* - fdisk ディスク全体に 1 つのパーティションを作成します (既存の fdisk パーティションはすべて削除される)。

注 [IA] - 値 *all* を指定できるのは、*type* が *solaris* の場合だけです。

- *maxfree* - 指定したディスク上の最も大きい連続する空き領域に fdisk パーティションを作成します。ディスク上にすでに指定した *type* の fdisk パーティションがあると、その既存の fdisk パーティションを使用します (新しい fdisk パーティションはディスク上に作成されません)。

注 [IA] - ディスクには、空き領域と未使用の fdisk パーティションが 1 つ以上存在しなければなりません。領域が確保されないとインストールは失敗します。値 *maxfree* を指定できるのは、*type* が *solaris* または *dosprimary* の場合だけです。

- *delete* - 指定した *type* のすべての fdisk パーティションを指定したディスク上で削除します。

filesystem プロファイルキーワード (リモートファイルシステムのマウント)

```
filesystem server:path server_address mount_pt_name [mount_options]
```

これらの値を指定して `filesystem` を使用すると、JumpStart プログラムはインストールされているシステムがそのブート時に自動的にリモートファイルシステムをマウントするように設定します。filesystem は 2 回以上指定できます。

例:

```
filesystem sherlock:/export/home/user2 - /home
```

server: - リモートファイルシステムが存在するサーバー名 (後ろにコロンを付けます)

path - リモートファイルシステムのマウントポイント名 (例: `/usr`、`/export/home` など)

server_address - *server:path* で指定するサーバーの IP アドレス。ネットワーク上で実行されているネームサービスがない場合、この値 *server_address* を使用して、サーバーのホスト名と IP アドレスを登録している `/etc/hosts` ファイルを生成できます。サーバーの IP アドレスを指定しない場合は、マイナス記号 (-) を指定してください。たとえば、ネットワーク上で実行中のネームサービスがある場合、サーバーの IP アドレスを指定する必要がありません。

mount_pt_name - リモートファイルシステムをマウントするマウントポイント名

mount_options - 1 つ以上のマウントオプション。これは、`mount (1M)` コマンドの `-o` オプションと同じです。このマウントオプションは、指定された *mount_pt_name* の `/etc/vfstab` エントリに追加されます。

注 - 複数のマウントオプションを指定する場合は、マウントオプションはスペースではなくコンマで区切ってください。例: `ro,quota`

filesystem プロファイルキーワード (ローカルファイルシステムの作成)

```
filesystem slice size [file_system optional_parameters]
```

これらの値を指定して `filesys` を使用すると、JumpStart プログラムによりインストール時にローカルファイルシステムが作成されます。`filesys` は 2 回以上指定できます。

`slice` - 次の中から 1 つを指定します。

- `any` - JumpStart プロファイルは、ファイルシステムを任意のディスクに配置します。

注 - `size` が `existing`、`all`、`free`、`start:size`、または `ignore` の場合は、`any` は指定できません。

- `cwtxdysz` または `cxdysz` - JumpStart プログラムがファイルシステムを配置するディスクスライス。たとえば、`c0t0d0s0` や `c0d0s0`。
- `rootdisk.sn` - システムのルートディスク値が含まれる変数。307 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」に示されているように、この値は JumpStart プログラムが決定します。拡張子 `sn` は、ディスク上の特定のスライスを示します。

`size` - 次の中から 1 つを使用します。

- `num` - ファイルシステムのサイズを `num` (M バイト単位) で設定します。
- `existing` - 既存のファイルシステムの現在のサイズを使用します。

注 - `existing` の値を使用すると、別の `mount_pt_name` として `file_system` を指定することによって、既存のスライス名を変更できます。

- `auto` - 選択したソフトウェアに応じて、ファイルシステムのサイズを自動的に決定します。
- `all` - 指定した `slice` は、そのファイルシステム用にディスク全体を使用します。この値を指定すると、指定したディスク上にほかのファイルシステムは存在できません。
- `free` - ディスク上の残りの未使用領域をファイルシステム用に使用します。

注 - `filesys` の値として `free` を使用する場合は、`filesys` はプロファイルの最後のエントリーにする必要があります。

- `start:size` - ファイルシステムを明示的にパーティションに分割します。`start` はスライスが始まるシリンダであり、`size` はそのスライスのシリンダ数です。

file_system - slice に *any* または *cwtxdysz* を指定しているときに、このオプション値を使用できます。この値を指定しないと *unnamed* がデフォルトで設定されますが、この場合 *optional_parameters* 値を指定できません。次のいずれか 1 つを指定してください。

- *mount_pt_name* - ファイルシステムのマウントポイント名。たとえば /var
- *swap* - 指定した *slice* を *swap* として使用します。
- *overlap* - 指定した *slice* をディスク領域 (VTOC 値は V_BACKUP) を表すものとして定義します。デフォルトでは、スライス 2 はディスク全体を表すオーバーラップスライスです。

注 - *size* に *existing*、*all*、または *start:size* を指定した場合だけ *overlap* を指定できます。

- *unnamed* - 指定した *slice* は *raw* スライスと定義されるので、*slice* にはマウントポイント名がありません。*file_system* を指定しないと、デフォルトで *unnamed* が設定されます。
- *ignore* - 指定した *slice* を使用しないか、JumpStart プログラムで認識しません。このオプションは、インストール時にディスク上の特定のファイルシステムを無視させるために使用できます。JumpStart プログラムは、同じディスク上に同じ名前で新しいファイルシステムを作成します。*ignore* は、*partitioning existing* を指定したときだけ使用できます。

optional_parameters - 次のいずれか 1 つを使用します。

- *preserve* - 指定した *slice* 上のファイルシステムを保存します。

注 - *size* に *existing*、*slice* に *cwtxdysz* を指定した場合だけ *preserve* を指定できます。

- *mount_options* - 1 つ以上のマウントオプション (*mount (1M)* コマンドの *-o* オプションと同じ)。これらのマウントオプションは、指定された *mount_pt_name* の */etc/vfstab* エントリに追加されます。

注 - 複数のマウントオプションを指定する場合は、マウントオプションはスペースではなくコンマで区切ってください。例:*ro,quota*

geo プロファイルキーワード

geo locale

注 - geo は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

geo は、システムにインストールする地域ロケールか、あるいはシステムのアップグレード時に追加する地域ロケールを指定します。locale に指定できる値は、次のとおりです。

値	説明
N_Africa	北アフリカ。エジプトを含む
C_America	中央アメリカ。コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマを含む
N_America	北アメリカ。カナダ、アメリカ合衆国を含む
S_America	南アメリカ。アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラを含む
Asia	アジア。日本、韓国、中華人民共和国、台湾、タイを含む
Ausi	オーストラリア。オーストラリア、ニュージーランドを含む
C_Europe	中央ヨーロッパ。オーストリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、スロヴァキア、スイスを含む
E_Europe	東ヨーロッパ。アルバニア、ボスニア、ブルガリア、クロアチア、エストニア、ラトビア、リトアニア、マケドニア、ルーマニア、ロシア、セルビア、スロヴェニア、トルコを含む
N_Europe	北ヨーロッパ。デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンを含む
S_Europe	南ヨーロッパ。ギリシャ、イタリア、ポルトガル、スペインを含む

値	説明
W_Europe	西ヨーロッパ。ベルギー、フランス、イギリス、アイルランド、オランダを含む
M_East	中近東。イスラエルを含む

上記の各地域ロケールを構成するコンポーネントロケール値の完全なリストは、第 38 章に記載されています。

注・システムに追加する必要がある各ロケールごとに、geo キーワードを指定します。

install_type プロファイルキーワード

<code>install_type initial_install_upgrade_switch</code>
--

`install_type` は、削除してシステムに新しい Solaris オペレーティング環境をインストールするか、または既存の Solaris 環境をアップグレードするかどうかを定義します。

注・`install_type` は必須であり、各プロファイル内で最初のプロファイルキーワードとして指定する必要があります。

`initial_install_upgrade_switch` は、オプションの `initial_install` または `upgrade` を表します。このオプションは、実行するインストールのタイプを指定するために使用します。

`initial_install_upgrade_switch` は必ず指定する必要があります。

注・プロファイルキーワードの中には `initial_install` オプションでしか使用できないものや、`upgrade` オプションでしか使用できないものがあります。

isa_bits プロファイルキーワード

<code>isa_bits bit_switch</code>

`isa_bits` は、64 ビットまたは 32 ビットの Solaris 8 パッケージをインストールするかどうかを指定します。

`bit_switch` は、オプション 64 または 32 を表します。これは、64 ビットまたは 32 ビットのどちらの Solaris 8 パッケージをインストールするかを指定するために使用します。このキーワードをプロファイルに設定しないと、JumpStart プログラムによって、次のものがインストールされます。

- UltraSPARC™ システムの場合は 64 ビットパッケージ
- それ以外のシステムの場合は 32 ビットパッケージ

注 - `isa_bits` キーワードを使用する場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD または Solaris 8 DVD 上の `solaris_8/Misc/jumpstart_sample` ディレクトリの最新の `check` スクリプトを使用する必要があります。

layout_constraint プロファイルキーワード

```
layout_constraint slice constraint [minimum_size]
```

注 - `layout_constraint` は、ディスク容量の再配置が必要なアップグレードオプションだけで使用できます。

`layout_constraint` は、ファイルシステムがディスク容量不足のためにアップグレード中にディスク容量を再配置する必要がある場合に、制約付き自動配置がファイルシステムで行われることを示します。

`layout_constraint` キーワードを指定しないと、次のように配置されます。

- アップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムは、`changeable` とマークされます。
- より多くの容量を必要とするファイルシステムと同じディスク上にあるファイルシステム (`/etc/vfstab` ファイルでマウントされる) も `changeable` とマークされます。
- 残りのファイルシステムは `fixed` とマークされます。これは、自動配置がこれらのファイルシステムを変更できないためです。

1 つ以上の `layout_constraint` キーワードを指定すると、次のように配置されます。

- アップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムは、`changeable` とマークされます。
- `layout_constraint` キーワードを指定したファイルシステムは、指定した制約がマークされます。
- 残りのファイルシステムは、`fixed` とマークされます。

アップグレードにより多くの容量を必要とするファイルシステムの制約は変更できませんが (`changeable` とマークされなければならない)、このようなファイルシステムに `layout_constraint` キーワードを使用すれば、その `minimum_size` 値を変更できます。

注 - 自動配置がディスク容量の再配置を行う際には、より多くのファイルシステム、特にアップグレード用により多くの容量を必要とするファイルシステムと同じディスク上にあるファイルシステムを、`changeable` または `movable` であると選択します。

slice - これは、制約を指定するファイルシステムのディスクスライスです。 `cwtxdysz` または `cxdysz` の形式で指定してください。

constraint - 指定したファイルシステムに対して、次のいずれか 1 つの制約を選択します。

- `changeable` - 自動配置はファイルシステムをほかの場所に移動して、そのサイズを変更できます。この制約は、`/etc/vfstab` ファイルによってマウントされたファイルシステムにしか指定できません。 `minimum_size` 値を指定すれば、ファイルシステムのサイズを変更できます。

ファイルシステムを `changeable` とマークして、`minimum_size` 値を指定しないと、そのファイルシステムの最小サイズは、必要な最小サイズより 10% 大きな値に設定されます。たとえば、ファイルシステムの最小サイズが 100M バイトの場合、変更されるサイズは 110M バイトになります。 `minimum_size` を指定した場合、残りの空き領域 (元のサイズから最小サイズを引いたもの) はほかのファイルシステム用に使用されます。

- `movable` - 自動配置はファイルシステムを (同じディスクまたは異なるディスク上の) ほかのスライスに移動できますが、サイズは変更しません。
- `available` - 自動配置は、ファイルシステムのすべての領域を使用して領域を割り当て直します。ファイルシステムのすべてのデータは失われます。この制約は、`/etc/vfstab` ファイルでマウントされないファイルシステムだけに指定できます。

- `collapse` - 自動配置は、指定したファイルシステムをその親ファイルシステムに移動して閉じこめます。このオプションは、アップグレードの一部としてシステム上のファイルシステム数を減らすために使用できます。たとえば、システムにファイルシステム `/usr` と `/usr/share` が存在する場合、`/usr/share` ファイルシステムを閉じ込めると、このファイルシステムは `/usr` (その親) に移動します。この制約は、`/etc/vfstab` ファイルでマウントされるファイルシステムにしか指定できません。

`minimum_size` - この値は、自動配置がディスク容量を再配置するときに、ファイルシステムに割り当てる最小サイズを指定します (基本的にファイルシステムのサイズを変更する)。まだ割り当てられていない領域が追加される場合、ファイルシステムのサイズは最終的にこの指定した値より大きくなる可能性があります。しかし、指定される値よりサイズが小さくなることはありません。`minimum_size` 値は省略可能です。このオプション値を使用できるのは、ファイルシステムを `changeable` とマークした場合だけです。最小サイズは、ファイルシステムの既存の内容に必要なサイズより小さい値には設定できません。

例:

```
layout_constraint c0t3d0s1 changeable 200  
  
layout_constraint c0d0s4 movable  
  
layout_constraint c0t3d1s3 available  
  
layout_constraint c0t2d0s1 collapse
```

locale プロファイルキーワード

locale <i>locale_name</i>

注 - `locale` は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

`locale` は、指定した `locale_name` に対して、どのロケールパッケージをインストール (アップグレードの場合は追加) するかを指定します。`locale_name` 値は、`$LANG` 環境変数で使用されるのと同じです。有効なロケールの値については、第 38 章を参照してください。

`local` キーワードを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- デフォルトロケールを事前設定している場合は、そのロケールは自動的にインストールされます。`English` 言語パッケージはデフォルトでインストールされます。

- locale キーワードは、システムに追加するロケールごとに指定できます。

num_clients プロファイルキーワード

```
num_clients client_num
```

サーバーがインストールされているときには、各ディスクレスクライアントのルート (/) と swap ファイルシステムにディスク空間が割り当てられます。num_clients は、サーバーがサポートするディスクレスクライアント数 (client_num) を定義します。num_clients を指定しないと、デフォルトで5つのディスクレスクライアントが割り当てられます。

注 - num_clients は、system_type が server として指定されているときだけ使用できます。

package プロファイルキーワード

```
package package_name [add_delete_switch]
```

注 - package は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

package は、システムにインストールするソフトウェアグループにパッケージを追加または削除するかを指定します。

package_name は、SUNWname の形式で指定する必要があります。パッケージとその名前の詳細を表示するには、インストール済みシステムで pkginfo -l コマンドまたは Admintool (「ブラウズ (Browse)」メニューから「ソフトウェア (Software)」を選択) を使用してください。

add_delete_switch は、add または delete オプションを表します。このオプションは、指定のパッケージを追加または削除するかを指定します。add_delete_switch を指定しないと、デフォルトによって add が使用されます。

アップグレードに package を使用すると、次の処理が行われます。

- すでにシステム上にあるすべてのパッケージが自動的にアップグレードされます。

- `package_name add` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていなかった場合は、そのパッケージがインストールされます。
- `package_name delete` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていた場合、アップグレードが開始される前にそのパッケージは削除されます。
- `package_name delete` を指定したが、`package_name` がシステムにインストールされていない場合、インストールするように指定したクラスタの一部にそのパッケージが含まれていると、パッケージはインストールされません。

partitioning プロファイルキーワード

<code>partitioning type</code>

`partitioning` は、インストール時にファイルシステム用にディスクをスライスに分割する方法を定義します。

`type` – 次の中から 1 つを指定します。

- `default` - JumpStart プログラムはディスクを選択して、指定したソフトウェアをインストールするファイルシステムを作成します。ただし、`filesys` キーワードで指定したファイルシステムを除きます。`rootdisk` が最初に選択され、指定したソフトウェアが `rootdisk` に収まらない場合は、さらに別のディスクが使用されます。
- `existing` - JumpStart プログラムは、システムのディスク上にある既存のファイルシステムを使用します。/`/usr`、/`usr/openwin`、/`opt`、/`var` を除く、すべてのファイルシステムが保存されます。JumpStart プログラムは、ファイルシステムのスーパーブロックにある最後のマウントポイントフィールドを使用して、スライスがどのファイルシステムのマウントポイントを表しているかを判断します。

注 - `filesys` プロファイルキーワードと `partitioning existing` を組み合わせる場合、`size` は `existing` である必要があります。

- `explicit` - JumpStart プログラムは、ディスクを使用し、`filesys` キーワードで指定されるファイルシステムを作成します。`filesys` キーワードでルート (`/`) ファイルシステムだけを指定した場合、すべての Solaris ソフトウェアがルートファイルシステムにインストールされます。

注 - `explicit` プロファイル値を使用するときには、`filesys` プロファイル キーワードを使用して、使用するディスクと作成するファイルシステムを指定してください。

プロファイルで `partitioning` を指定しないと、デフォルトで `default` タイプのパーティションが使用されます。

root_device プロファイルキーワード

<code>root_device slice</code>

注 - `root_device` は、初期インストールとアップグレードオプションの両方で使用できます。

`root_device` は、システムのルートディスクを指定します。詳細は、307 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照してください。

システムをアップグレードする場合、`root_device` は指定されるルート (/) ファイルシステムおよびその `/etc/vfstab` ファイルでマウントされるファイルシステムがアップグレードされることを示します。システム上で複数のルートファイルシステムがアップグレードできる場合は、`root_device` を指定する必要があります。`slice` は、`cwtxdysz` または `cxdysz` 形式で指定してください。

例:

```
root_device c0t0d0s2
```

`root_device` キーワードを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- 1 つだけのディスクを持つシステムで `root_device` を指定する場合は、`root_device` とディスクが一致する必要があります。また、ルートファイルシステムを指定する任意の `filesys` キーワードは、`root_device` と一致する必要があります。
- ミラーをアップグレードする場合は、`root_device` に指定される値はミラーの一方でなければなりません。他方のミラーは自動的にアップグレードされます。

システムのルートディスクを決定する方法

システムのルートディスクは、ルート (/) ファイルシステムを含むシステム上のディスクです。プロファイル内では、JumpStart プログラムがシステムのルートディスクを設定するディスク名の代わりに、この `rootdisk` 変数を使用できます。表 28-5 に、JumpStart プログラムがインストール用にシステムのルートディスクを決定する方法を説明しています。

注 - システムのルートディスクサイズが確認されるのは、初期インストール時だけです。アップグレードの場合、システムのルートディスクは変更できません。

表 28-5 JumpStart がシステムのルートディスクを決定する方法 (初期インストールのみ)

手順	動作
1	プロファイル内で <code>root_device</code> キーワードが指定されている場合、JumpStart プログラムは <code>rootdisk</code> をルートデバイスに設定します。
2	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>boot_device</code> キーワードが指定されている場合、JumpStart プログラムは <code>rootdisk</code> をブートデバイスに設定します。
3	プロファイル内で <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>filesystems cwt xdys z size /</code> エントリが指定されている場合、JumpStart プログラムは <code>rootdisk</code> をエントリで指定されたディスクに設定します。
4	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>rootdisk.sn</code> エントリが指定されている場合、JumpStart プログラムはシステムのディスクで、(カーネルのプロープ順で) 指定したスライス上の既存のルートファイルシステムを検索します。ディスクが見つかった場合、JumpStart プログラムは見つかったディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。
5	プロファイル内で、 <code>rootdisk</code> が設定されていなくて、 <code>partitioning existing</code> が指定されている場合、JumpStart プログラムはシステムのディスクで、(カーネルのプロープ順で) 既存のルートファイルシステムを検索します。ルートファイルシステムが見つからなかった場合、あるいは複数のルートファイルシステムが見つかった場合は、エラーが発生します。ルートファイルシステムが見つかった場合、JumpStart プログラムは見つかったディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。
6	プロファイル内で <code>rootdisk</code> が設定されていない場合、JumpStart プログラムは、ルートファイルシステムがインストールされるディスクに <code>rootdisk</code> を設定します。

system_type プロファイルキーワード

```
system_type type_switch
```

system_type は、インストールするシステムのタイプを定義します。

type_switch は、オプション standalone または server を表します。このオプションは、Solaris ソフトウェアをインストールするシステムのタイプを指定するために使用します。system_type をプロファイルに指定しないと、デフォルトによって standalone が使用されます。

usedisk プロファイルキーワード

```
usedisk disk_name ...
```

partitioning default を指定すると、デフォルトではシステム上のすべての使用可能ディスクが使用されます。usedisk プロファイルキーワードには、JumpStart プログラムに使用させる 1 つ以上のディスクを指定します。disk_name は、cxydz または cydz 形式 (たとえば c0t0d0、c0d0s0) で指定します。

プロファイルで usedisk を指定すると、JumpStart プログラムは usedisk キーワードで指定したディスクだけを使用します。

注 - 同じプロファイルに usedisk キーワードと dontuse キーワードを同時に指定することはできません。

カスタム JumpStart の環境変数

begin および finish スクリプトには、環境変数を使用できます。たとえば、begin スクリプトは、ディスクサイズ (SI_DISKSIZE) を抽出し、実際のディスクサイズにもとづいてシステムに特定のパッケージをインストールするかどうかを決定できます。

システムについて収集された情報は、これらの環境変数に格納されます。これらの変数は、通常、rules ファイルに使用するルールキーワードと値によって設定するかどうかが決まります。

たとえば、システムにすでにインストールされているオペレーティングシステムについての情報は、`installed` キーワードの使用後 `SI_INSTALLED` によってしか入手できません

表 28-6 は、これらの変数とその値を説明しています。

表 28-6 インストール環境変数

環境変数	値
<code>CHECK_INPUT</code>	JumpStart ディレクトリ内の <code>rules</code> ファイルへのパス。ファイルは <code>/tmp/install_config/rules</code> にマウントされます。
<code>HOME</code>	インストール時のスーパーユーザーのホームディレクトリ (<code>/tmp/root</code>)
<code>PATH</code>	インストール時のシェル検索パス (<code>/sbin:/usr/sbin/install.d:/usr:/usr/sbin:/usr/bin</code>)
<code>SI_ARCH</code>	インストールクライアントのハードウェアアーキテクチャー。この変数は、 <code>rules</code> ファイルで <code>arch</code> キーワードを使用する場合に設定します。
<code>SI_BEGIN</code>	<code>begin</code> スクリプトを使用している場合は、その名前
<code>SI_CLASS</code>	インストールクライアントをインストールするために使用されるプロファイルの名前
<code>SI_CONFIG_DIR</code>	JumpStart ディレクトリへのパス。ディレクトリは <code>/tmp/install_config</code> にマウントされます。
<code>SI_CONFIG_FILE</code>	JumpStart ディレクトリ内の <code>rules</code> ファイルへのパス。ファイルは <code>/tmp/install_config/rules</code> にマウントされます。
<code>SI_CONFIG_PROG</code>	<code>rules</code> ファイル
<code>SI_CUSTOM_PROBES_FILE</code>	<code>custom_probes.ok</code> ファイル。ここには、独自のルールキーワードやプローブキーワードを定義できます。 <code>custom_probes.ok</code> ファイルを作成すると、これを使用してデフォルトのルールキーワードのリストを拡張できます。デフォルトのルールキーワードについては 273 ページの「ルールキーワードと値の説明」を、デフォルトのプローブキーワードについては 312 ページの「プローブキーワードと値」をそれぞれ参照してください。
<code>SI_DISKLIST</code>	コンマで区切られた、インストールクライアント上のディスク名のリスト。この変数は、 <code>rules</code> ファイルで <code>disksize</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。 <code>SI_DISKLIST</code> および <code>SI_NUMDISKS</code> 変数は、 <code>rootdisk</code> (307 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照) に使用する物理ディスクを判断するために使用します。

表 28-6 インストール環境変数 続く

環境変数	値
SI_DISKSIZES	コマンドで区切られた、インストールクライアント上のディスクサイズのリスト。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_DOMAINNAME	ドメイン名。この変数は、rules ファイルで <code>domainname</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_FINISH	<code>finish</code> スクリプトを使用する場合はその名前
SI_HOSTADDRESS	インストールクライアントの IP アドレス
SI_HOSTID	インストールクライアントの Ethernet アドレス
SI_HOSTNAME	インストールクライアントのホスト名。この変数は、rules ファイルで <code>hostname</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_INSTALLED	特定のオペレーティングシステムが入っているディスクのデバイス名 (Solaris、SunOS、System V など)。この変数は、rules ファイルで <code>installed</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_INST_OS	オペレーティングシステムの名前。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_INST_VER	オペレーティングシステムのバージョン。SI_INST_OS と SI_INST_VER は、SI_INSTALLED の値を決定するために使用します。
SI_KARCH	インストールクライアントのカーネルアーキテクチャー。この変数は、rules ファイルで <code>karch</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_MEMSIZE	インストールクライアントの物理メモリーの量。この変数は、rules ファイルで <code>memsize</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_MODEL	インストールクライアントのモデル名。この変数は、rules ファイルで <code>SI_MODEL</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SI_NETWORK	インストールクライアントのネットワーク番号。この変数は、rules ファイルで <code>network</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。

表 28-6 インストール環境変数 続く

環境変数	値
SI_NUMDISKS	インストールクライアントのディスク数。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。SI_NUMDISKS および SI_DISKLIST 変数は、rootdisk に使用する物理ディスクを決定するために使用します (rootdisk については 307 ページの「システムのルートディスクを決定する方法」を参照)。
SI_OSNAME	Solaris 8 ソフトウェアイメージのオペレーティングシステムリリース。この変数は、たとえば、Solaris 8 DVD または Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージ上のオペレーティングシステムのバージョンにもとづいてシステムに Solaris ソフトウェアをインストールする場合にスクリプト内に指定できます。
SI_PROFILE	マウントされた JumpStart ディレクトリ内のプロファイルへのパス。このパスは <code>/tmp/install_config/profile_name</code> です。派生プロファイルを作成する場合は、SI_PROFILE に <code>/tmp/install.input</code> ファイルが設定されます。
SI_ROOTDISK	論理名 rootdisk によって表されるディスクのデバイス名。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> または <code>installed</code> キーワードを rootdisk に設定した場合に設定します。
SI_ROOTDISKSIZE	論理名 rootdisk によって表されるディスクのサイズ。この変数は、rules ファイルで <code>disksize</code> または <code>installed</code> キーワードを rootdisk に設定した場合に設定します。
SI_SYS_STATE	<code>/a/etc/.sysIDtool.state</code> ファイル。finish スクリプトにこのファイルを指定すれば、システムのリブート時に <code>sysidroot</code> プログラムからスーパーユーザーのパスワードを入力するように求めるプロンプトを表示しないようにすることができます。
SI_TOTALDISK	インストールクライアント上のディスク容量の合計。この変数は、rules ファイルで <code>totaldisk</code> キーワードを使用して照合する場合に設定します。
SHELL	インストール時のデフォルトシェル (<code>/sbin/sh</code>)
TERM	インストールクライアントの端末タイプ
TZ	NIS または NIS+ ネームサービスに指定されているデフォルトの時間帯

プローブキーワードと値

表 28-7 は、各ルールキーワードと対応するプローブキーワードを説明しています。

注 - プrobeキーワードは、rules ファイルの最初、またはその近くに指定してください。

表 28-7 プrobeキーワードの説明

ルール キーワード	対応するプ ロブ キーワード	プローブキーワードの説明
any	なし	
arch	arch	カーネルアーキテクチャー (i386 または SPARC) を判断して SI_ARCH を設定します。
disksize	disks	システムのディスクサイズ (MB) をカーネルprobe順序 (c0t3d0s0、c0t3d0s1、c0t4d0s0) で返し、SI_DISKLIST、SI_DISKSIZE、SI_NUMDISKS、および SI_TOTALDISK を設定します。
domainname	domainname	システムの NIS または NIS+ ドメイン名、あるいは空白を返して、SI_DOMAINNAME を設定します (このキーワードは実際には domainname (1M) の出力を返す)。
hostaddress	hostaddress	システムの IP アドレス (lo0 ではない ifconfig(1M) -a の出力にリストされた最初のアドレス) を返して、SI_HOSTADDRESS を設定します。
hostname	hostname	システムのホスト名 (uname (1) -n からの出力) を返して、SI_HOSTNAME を設定します。
installed	installed	システムにインストールされた Solaris オペレーティング環境のバージョン名を返して、SI_ROOTDISK と SI_INSTALLED を設定します。 JumpStart プログラムで Solaris リリースが検出されたが、バージョンを判別できないという場合、返されるバージョンは SystemV になります。
karch	karch	システムのプラットフォームグループ (i86pc、sun4m、sun4 など) を返し、SI_KARCH を設定します。プラットフォームの一覧は、『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。
memsize	memsize	システム上の物理メモリーのサイズ (MB) を返して、SI_MEMSIZE を設定します。

表 28-7 プロープキーワードの説明 続く

ルール キーワード	対応するブ ロープ キーワード	プロープキーワードの説明
model	model	システムのプラットフォーム名を返して、SI_MODEL を設定します。プラットフォームの一覧は、『Solaris 8 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。
network	network	システムのネットワーク番号を返します。この番号は、JumpStart プログラムによりシステムの IP アドレスとサブネットマスク (lo0 ではない ifconfig (1M) -a の出力にリストされた最初のアドレスから抽出されたもの) の論理積をとって判断されます。network キーワードは SI_NETWORK も設定します。
osname	osname	CD で検出された Solaris オペレーティング環境のバージョンおよびオペレーティングシステム名を返して、SI_OSNAME を設定します。 Solaris リリースは検出されたが、バージョンを判断できないという場合は、返されるバージョンは SystemV になります。
	rootdisk	システムのルートディスクの名前とサイズ (MB) を返して、SI_ROOTDISK を設定します。
totaldisk	totaldisk	システム上のディスク容量の合計 (MB) を返して、SI_TOTALDISK を返します。ディスク容量の合計には、システムに接続された操作可能なディスクすべてが含まれます。

Solaris ソフトウェアに関するリファレンス情報

以下の章には、Solaris 8 DVD、Solaris 8 CD、ロケール、パッケージなどに関するリファレンス情報が記載されています。

第 30 章	Solaris 8 のソフトウェアキットに含まれる主な DVD と CD メディアについて説明します。
第 31 章	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれているパッケージのリストです。
第 32 章	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれているパッケージのリストです。
第 33 章	Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれているパッケージのリストです。
第 34 章	Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれているパッケージのリストです。
第 35 章	Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれているパッケージのリストです。
第 36 章	Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれているパッケージのリストです。

第 37 章

プラットフォーム名およびプラットフォームグループのリストです。

第 38 章

プロファイルの `locale` キーワードやロケールを事前設定する際に使用する値のリストです。

Solaris 8 メディアの構成

この章では、Solaris 8 ソフトウェアのメディアキットに含まれる主な DVD メディアおよび CD メディアについて説明します。

SPARC: Solaris 8 メディア

次に、Solaris 8 *SPARC Platform Edition* ソフトウェアの主な DVD メディアと CD メディアを示します。ユーザーは、英語、その他の言語、およびロケールソフトウェアの DVD または CD が入ったマルチリンガルメディアキットを受け取ります。

表 30-1 SPARC: マルチリンガル版 DVD メディア

DVD タイトル	説明
Solaris 8 DVD (SPARC)	<p>以下のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Solaris 製品および部分ロケールをインストールするためのソフトウェア、ツール、および構成情報■ 一部のサードパーティパブリックドメインソフトウェアのソースコード■ ローカライズされたインタフェースソフトウェアとドキュメント■ 英語、ヨーロッパ言語、アジア言語 (日本語を含む) 用の Solaris マニュアルセット <p>ディレクトリ構造については 図 30-1 を参照してください。</p>

表 30-2 SPARC: マルチリンガル版 CD メディア

CD タイトル	説明
<p>次に示す CD のいずれかが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC) ■ Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (SPARC) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris ソフトウェアをインストールするスクリプトが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-2 を参照してください。 ■ Solaris ソフトウェアおよびすべての部分ローケルをインストールするスクリプトが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-2 を参照してください。
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)	Solaris 製品のインストールに必要なソフトウェア、ツール、および構成情報が入っています。ディレクトリ構造については、図 30-3 を参照してください。
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)	<p>次のものが入っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じてインストールするソフトウェア用のパッケージ。ソフトウェアごとにインストールするかどうかの指示が表示されます。 ■ 一部のサードパーティパブリックドメインソフトウェアのソースコード <p>ディレクトリ構造については、図 30-4 を参照してください。</p> <p>必要があれば、インストールプログラムによってこの CD を求めるプロンプトが表示されます。</p>
Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)	<p>ローカライズされたインタフェースソフトウェアとマニュアルが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-10 を参照してください。</p> <p>特定の地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムによってこの CD を求めるプロンプトが表示されます。</p>
Solaris 8 DOCUMENTATION CD	Solaris マニュアルセットが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-9 を参照してください。

SPARC: Solaris 8 メディアのディレクトリ構造

この節では、各 DVD と CD の上位ディレクトリについて説明します。

SPARC: Solaris 8 DVD (SPARC) のディレクトリ構造

Solaris 8 DVD (SPARC) のディレクトリ構造は以下のとおりです。

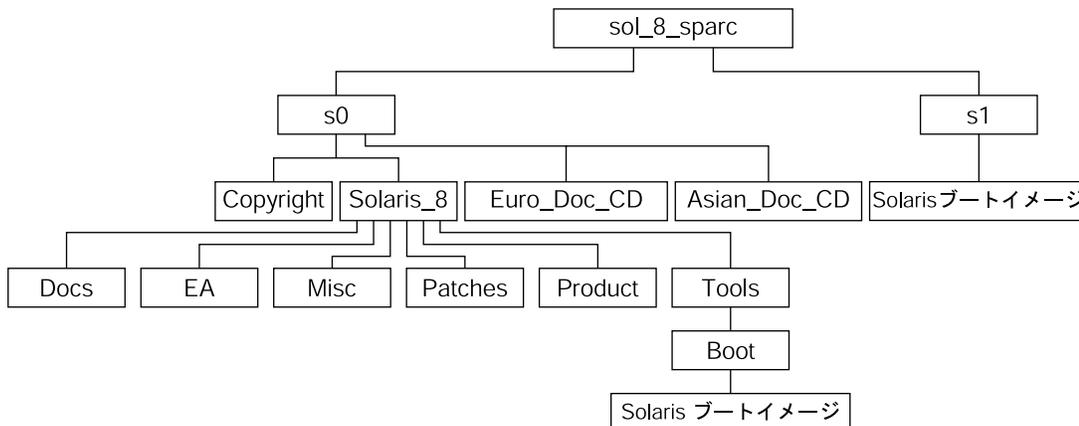


図 30-1 Solaris 8 DVD (SPARC)

- スライス 0 (s0) には、Copyright と次のディレクトリが入っています。Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれているパッケージのリストです。
 - Euro_Doc_CD ディレクトリ – Solaris 8 のマニュアル (ヨーロッパ言語版) のインストールに必要なツールとソフトウェアが入っています。
 - Asian_Doc_CD ディレクトリ – Solaris 8 のマニュアル (アジア言語版) のインストールに必要なツールとソフトウェアが入っています。
 - Solaris_8 ディレクトリ – Solaris 8 ソフトウェア製品のインストールに必要なツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。Solaris_8 ディレクトリには次のサブディレクトリが入っています。
 - Docs – 空のディレクトリ
 - EA – Solaris オペレーティング環境に直接関係のない、予備的な評価ソフトウェアと Solaris 製品

- Misc – JumpStart のソフトウェアとファイル (rules ファイル、check スクリプト、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなど) を含む jumpstart_sample ディレクトリ
 - Patches – このリリースの時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチ
 - Product – Solaris 8 パッケージと制御ファイル
 - Tools – Solaris 8 インストールツール (add_install_client、dial、rm_install_client、setup_install_server)。Tools ディレクトリには、Solaris 8 ミニルートを含む Boot サブディレクトリも入っています。
- スライス 1 (s1) には、Solaris 8 ミニルートが入っています。

SPARC: Solaris 8 INSTALLATION CD のディレクトリ構造

次に、Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (SPARC) または Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC) のディレクトリ構造を示します。

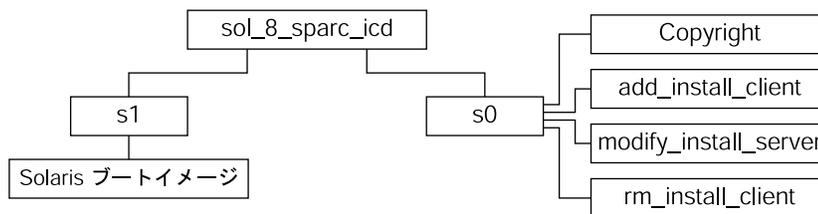


図 30-2 SPARC: Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC)

- スライス 0 (s0) には、Copyright と Solaris ソフトウェアをインストールするスクリプトが入っています。これらのスクリプトには次のものが入っています。
 - add_install_client
 - modify_install_server
 - rm_install_client
- スライス 1 (s1) には、Solaris 8 ミニルートが入っています。

SPARC: Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) のディレクトリ構造

次に、Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) のディレクトリ構造を示します。

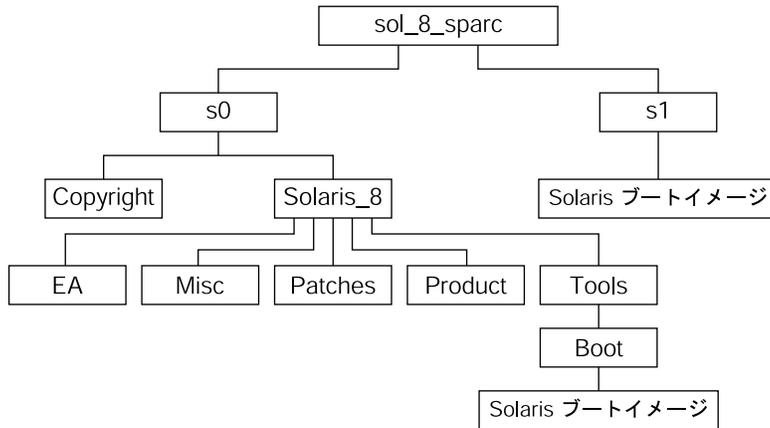


図 30-3 SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)

- スライス 0 (s0) には、Copyright と Solaris_8 ディレクトリが入っています。Solaris_8 ディレクトリには、少なくとも Solaris 8 ソフトウェア製品 (Solaris コアシステムサポート、エンドユーザーシステムサポートのソフトウェアグループなど) をインストールするために必要なすべてのツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。Solaris_8 ディレクトリには、以下のサブディレクトリが含まれます。
 - Docs – 空のディレクトリ
 - EA – Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) の場所を示すテキストファイル
 - Misc – JumpStart のソフトウェアとファイル (rules ファイル、check スクリプト、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなど) を含む jumpstart_sample ディレクトリ
 - Patches – Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の作成時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチ
 - Product – Solaris 8 パッチと制御ファイル
 - Tools – Solaris 8 インストールツール (add_install_client、dial、rm_install_client、setup_install_server など)
- スライス 1 (s1) には、Solaris 8 ミニルートが入っています。

次に、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) のディレクトリ構造を示します。

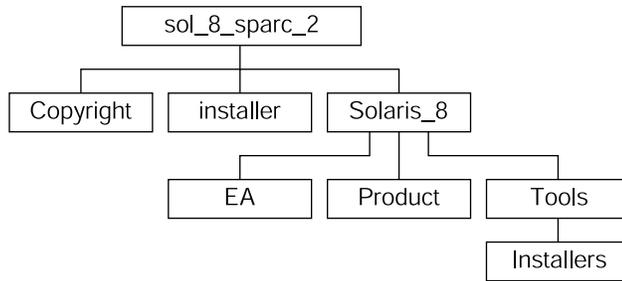


図 30-4 SPARC: Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)

sol_8_sparc_2 ディレクトリには、Copyright、Solaris Web Start installer、および Solaris_8 ディレクトリが入っています。Solaris_8 ディレクトリには、以下のサブディレクトリが入っています。

- EA – Solaris オペレーティング環境に直接関係のない、予備的な評価ソフトウェアと Solaris 製品
- Product – 開発者システムサポート、全体ディストリビューションおよび全体ディストリビューションと OEM サポートのソフトウェアグループ用パッケージ
- Tools – Solaris 8 インストールツール
(add_to_install_server、install_source スクリプトなど)

IA: Solaris 8 メディア

次に、Solaris 8 *Intel Platform Edition* ソフトウェアの主な DVD と CD の内容を示します。製品には、英語、その他の言語、およびロケールソフトウェアの DVD または CD が入ったマルチリンガルのメディアキットが含まれます。

表 30-3 IA: マルチリンガル版の DVD メディア

DVD タイトル	説明
Solaris 8 DVD (Intel)	<p>次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 製品および一部のロケールをインストールするためのソフトウェア、ツール、および構成情報。これには、さまざまな構成作業とブート作業を行う Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれます。 ■ 一部のサードパーティパブリックドメインソフトウェアのソースコード ■ ローカライズされたインタフェースソフトウェアとドキュメント ■ 英語、ヨーロッパ言語、アジア言語 (日本語を含む) 用の Solaris マニュアルセット <p>ディレクトリ構造については、図 30-5 を参照してください。</p>

表 30-4 IA: マルチリンガル版 CD メディアとフロッピーディスク

CD タイトル	説明
<p>次に示す CD のいずれかが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris 8 INSTALLATION CD (Intel) ■ Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (Intel) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris ソフトウェアをインストールするスクリプトが入っています。これには、さまざまな構成作業とブート作業を行う Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれます。ディレクトリ構造については、図 30-6 を参照してください。 ■ Solaris ソフトウェアおよびすべての部分ロケールをインストールするスクリプトが入っています。これには、さまざまな構成作業とブート作業を行う Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれます。ディレクトリ構造については、図 30-6 を参照してください。
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	<p>Solaris 製品をインストールするためのソフトウェア、ツール、および構成情報が含まれます。これには、さまざまな構成作業とブート作業を行う Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれます。ディレクトリ構造については、図 30-7 を参照してください。</p>

CD タイトル	説明
Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)	<p>(オプション) 次のものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必要に応じてインストールするソフトウェア用のパッケージ。ソフトウェアごとにインストールするかどうかの指示が表示されます。 ■ 一部のサードパーティパブリックドメインソフトウェアのソースコード <p>ディレクトリ構造については、図 30-8 を参照してください。</p> <p>必要があれば、インストールプログラムによってこの CD を求めるプロンプトが表示されます。</p>
Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)	<p>ローカライズされたインタフェースソフトウェアおよびマニュアルが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-10 を参照してください。</p> <p>特定の地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムによってこの CD を求めるプロンプトが表示されます。</p>
Solaris 8 DOCUMENTATION CD	<p>英語およびヨーロッパ言語の Solaris マニュアルセットが入っています。ディレクトリ構造については、図 30-9 を参照してください。</p>
Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスク	<p>さまざまな構成作業とブート作業を行う Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれます。</p>

IA: Solaris 8 メディアのディレクトリ構造

この節では、各 DVD と CD の上位ディレクトリについて説明します。

IA: Solaris 8 DVD (Intel) ディレクトリの構造

次に、Solaris 8 DVD (Intel) のディレクトリ構造を示します。

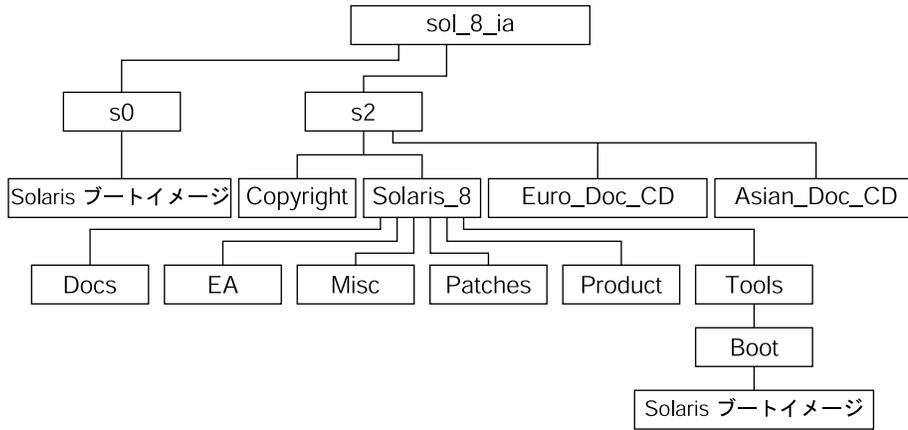


図 30-5 Solaris 8 DVD (Intel)

- スライス 0 (s0) には、Solaris 8 ミニルートが入っています。
- スライス 2 (s2) には、Copyright と次に示すディレクトリが入っています。
 - Euro_Doc_CD ディレクトリ – Solaris 8 のマニュアル (ヨーロッパ言語版) のインストールに必要なツールとソフトウェアが入っています。
 - Asian_Doc_CD ディレクトリ – Solaris 8 のマニュアル (アジア言語版) のインストールに必要なツールとソフトウェアが入っています。
 - Solaris_8 ディレクトリ – Solaris 8 ソフトウェア製品のインストールに必要なツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。Solaris_8 ディレクトリには、次のサブディレクトリが含まれます。
 - Docs – 空のディレクトリ
 - EA – Solaris オペレーティング環境に直接関係のない、予備的な評価ソフトウェアと Solaris 製品
 - Misc – JumpStart のソフトウェアとファイル (rules ファイル、check スクリプト、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなど) を含む jumpstart_sample ディレクトリ
 - Patches – このリリースの時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチ
 - Product – Solaris 8 パッケージと制御ファイル
 - Tools – Solaris 8 インストールツール (add_install_client、dial、rm_install_client、setup_install_server など) このディレクトリには、Solaris 8 ミニルートが入った Boot サブディレクトリも含まれます。

IA: Solaris 8 INSTALLATION CD のディレクトリ構造

次に、Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (Intel) または Solaris 8 INSTALLATION CD (Intel) のディレクトリ構造を示します。

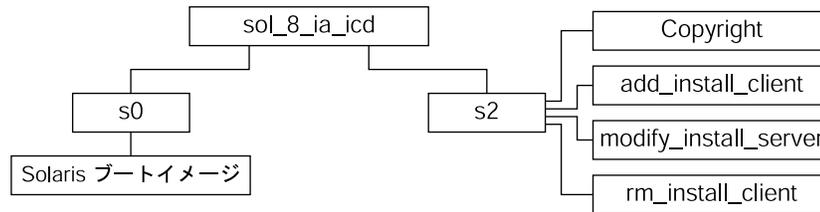


図 30-6 IA: Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (Intel)

- スライス 0 (s0) には、Copyright、および Solaris ソフトウェアをインストールする以下のスクリプトが入っています。
 - add_install_client
 - modify_install_server
 - rm_install_client
- スライス 1 (s1) には、Solaris 8 ミニルートが入っています。

IA: Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) のディレクトリ構造

次に、Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) のディレクトリ構造を示します。

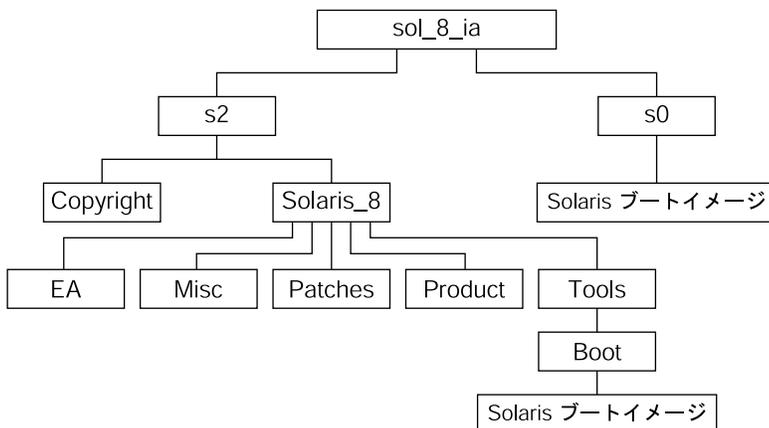


図 30-7 IA: Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)

スライス 0 (s0) には、Copyright と Solaris_8 ディレクトリが入っています。Solaris_8 ディレクトリには、少なくとも Solaris 8 ソフトウェア製品 (Solaris コアシステムサポート、エンドユーザーシステムサポートのソフトウェアグループなど) をインストールするために必要なすべてのツール、ソフトウェア、および構成情報が入っています。Solaris_8 ディレクトリには、以下のサブディレクトリが入っています。

- Docs – 空
- EA – Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) の場所を示すテキストファイル
- Misc – JumpStart のソフトウェアとファイル (rules ファイル、check スクリプト、プロファイル、begin スクリプト、finish スクリプトなど) を含む jumpstart_sample ディレクトリ
- Patches – Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の作成時点で入手可能なすべての Solaris 8 パッチ
- Product – Solaris 8 パッチと制御ファイル
- Tools – Solaris 8 インストールツール (boot ミニルー
ト、add_install_client、dial、rm_install_client、setup_install_server
など)

次に、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) のディレクトリ構造を示します。

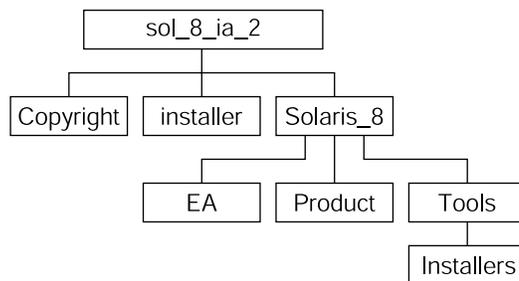


図 30-8 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)

sol_8_ia_2 ディレクトリには、Copyright、Solaris Web Start installer、および Solaris_8 ディレクトリが含まれます。Solaris_8 ディレクトリには次のサブディレクトリが入っています。

- EA – Solaris オペレーティング環境に直接関係のない、予備的な評価ソフトウェアと Solaris 製品
- Product – 開発者システムサポート、全体ディストリビューション、および全体ディストリビューションと OEM サポートのソフトウェアグループ用パッケージ

- Tools – Solaris 8 インストールツール
(`add_to_install_server`、`install_source` など)

Solaris 8 DOCUMENTATION CD の構造

次に、Solaris 8 DOCUMENTATION CD のディレクトリ構造を示します。この構造は、次の CD に当てはまります。

- Solaris 8 DOCUMENTATION CD
- Solaris 8 DOCUMENTATION CD (ヨーロッパ言語版)
- Solaris 8 DOCUMENTATION CD (アジア言語版)

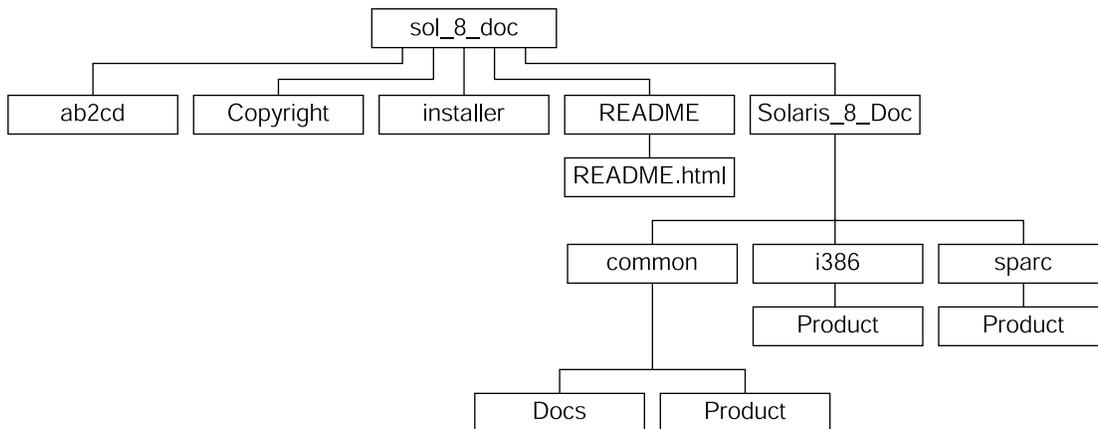


図 30-9 Solaris 8 DOCUMENTATION CD

- `ab2cd` – AnswerBook2 文書サーバーを実行して、CD から直接文書コレクションにアクセスできるようにします。
- `installer` – AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと文書コレクションのインストールに使用できる、ポイント&クリック式のインストールユーティリティです。
- `README` – Solaris 8 DOCUMENTATION CD の内容の概要と、その内容にアクセスしてインストールする方法を説明する各言語版の `README` ファイルが入っています。
- `Solaris_8_Doc` – サブディレクトリ `sparc` および `i386` が含まれます。これらのサブディレクトリにはそれぞれ、SPARC および IA ベースの AnswerBook2 文

書サーバーソフトウェアが含まれます。サブディレクトリ `common` には、AnswerBook2、PDF、および HTML 形式のオンライン文書が入っています。

Solaris 8 LANGUAGES CD のディレクトリ構造

図 30-10 は、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) と Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) のディレクトリ構造を示しています。

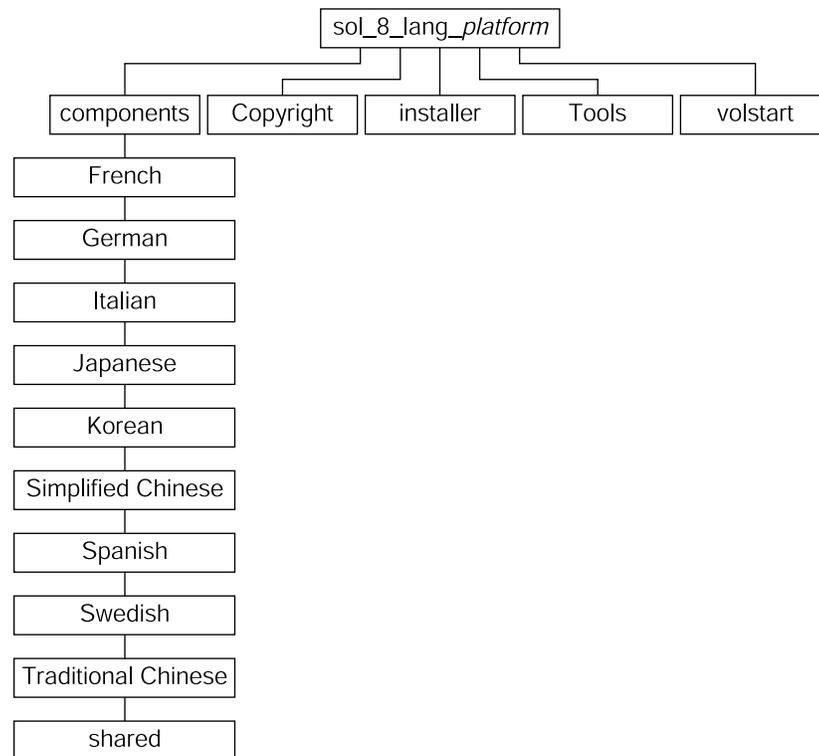


図 30-10 Solaris 8 LANGUAGES CD

スライス 0 (s0) には、`sol_8_lang_platform` ディレクトリが含まれます (`platform` は `sparc` または `ia`)。 `sol_8_lang_platform` ディレクトリには、Solaris の言語ソフトウェアとロケールソフトウェアをインストールする Solaris Web Start インストーラが入っています。デフォルトディレクトリに 9 つの言語をインストールすることも、あるいは特定の言語をインストールすることもできます。 `sol_8_lang_platform` ディレクトリには、次のサブディレクトリが入っています。

- components - ロケールパッケージ (中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、スペイン語、スウェーデン語、繁体字中国語)、およびすべてのロケールで共有されるパッケージが含まれます。
- Copyright - 著作権ページ
- installer - Solaris Web Start インストーラ
- Tools - インストールサーバーを作成するための `add_to_install_server` スクリプト

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
FJSVhea	一般的なソフトウェア開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
FJSVvplr.u	富士通プラットフォームリンク
FJSVvplr.us	富士通プラットフォームリンク
FJSVvplu.u	富士通 usr/platform リンク
FJSVvplu.us	富士通 usr/platform リンク
NSCPcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 のアプリケーションと構成ファイル
NSCPcpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (簡体字) 版
NSCPpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (繁体字) 版

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
NSCPjacom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の日本語 (共通) 版
NSCPkpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の韓国語 版
SMEvplr.u	SME プラットフォームリンク (root)
SMEvplu.u	SME プラットフォームリンク (usr)
SUNW1251f	ロシア語追加ロケールフォント (1251)
SUNW1394x	IEEE 1394 フレームワークおよび OpenHCI ドライバ (64 ビット)
SUNW5dt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5leu	中国語 (繁体字) 環境固有ファイル。中国語 (繁体字) BIG5 言語環境の実行 に必要なパッケージ
SUNW5leux	中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境ユーザーファイル (64 ビット)
SUNW5ttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNW5xmft	中国語/台湾語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォームに必 要なフォントパッケージ
SUNW5xplt	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ
SUNW5plx	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ (64 ビット)
SUNWadmap	システム管理作業の実行に使用するソフトウェア
SUNWadmc	システム管理に使用するコアソフトウェアライブラリ
SUNWadmfw	システムおよびネットワーク管理ライブラリとサービス
SUNWadmj	システム管理ツールに使用する Java ライブラリ
SUNWadmr	システムインストールの初期化用 root プログラムとスクリプト

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWafb.u	UPA Bus Elite3D グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
SUNWafbcbf	UPA Bus Elite3D グラフィックスアクセラレータ用構成ソフトウェア
SUNWafbr	UPA Bus Elite3D グラフィックスアクセラレータ用ブート時デバイス初期化サポート
SUNWafbw	UPA Bus Elite3D グラフィックスアクセラレータ用 X サーバードロード可能モジュール
SUNWafbx.u	UPA Bus Elite3D グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWale	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有する共通ファイル。アジア言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWaled	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有するマニュアルページ
SUNWalex	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有する共通ファイル。アジア言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWami	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWamir	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - 構成ファイル
SUNWamix	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - 64 ビットコアライブラリ
SUNWarrf	アラビア語文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWatfsr	autoFS ファイルシステム用構成と起動ファイル
SUNWatfsu	autoFS ファイルシステム用ユーティリティとデーモン (automountd)
SUNWauadt	オーストララシア CDE サポート
SUNWauaos	オーストララシア OS サポート
SUNWauaow	オーストララシア OW サポート
SUNWauaox	オーストララシア 64 ビット OS サポート

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWauda	SunOS オーディオアプリケーション
SUNWaudd	新しいオーディオドライバアーキテクチャを使用する SunOS オーディオデバイスドライバ
SUNWauddx	新しいオーディオドライバアーキテクチャを使用する SunOS オーディオデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWaudio	オーディオバイナリ
SUNWbcp	SunOS 4.x アプリケーション用バイナリ互換実行環境を提供するユーティリティ
SUNWbzip	bzip 圧縮ユーティリティ
SUNWcamdt	中央アメリカ CDE サポート
SUNWcamos	中央アメリカ OS サポート
SUNWcamow	中央アメリカ OW サポート
SUNWcamox	中央アメリカ 64 ビット OS サポート
SUNWcar.d	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcar.m	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcar.u	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcar.us	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcarx.u	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コア 64 ビットソフトウェア
SUNWcarx.us	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コア 64 ビットソフトウェア
SUNWcdt	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWceudt	中央ヨーロッパ CDE サポート

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWceuos	中央ヨーロッパ OS サポート
SUNWceuow	中央ヨーロッパ OW サポート
SUNWceuox	中央ヨーロッパ 64 ビット OS サポート
SUNWcg6.d	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWcg6.m	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWcg6.u	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWcg6.us	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWcg6x.u	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWcg6x.us	GX フレームバッファ用カーネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWciu8	UTF-8 用中国語 (簡体字) (EUC) iconv モジュール
SUNWciu8x	UTF-8 用中国語 (簡体字) (EUC) iconv モジュール (64 ビット)
SUNWcleu	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcleux	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWcpr.m	保存停止、復元再開パッケージ
SUNWcpr.u	保存停止、復元再開パッケージ
SUNWcpr.us	保存停止、復元再開パッケージ
SUNWcprx.u	保存停止、復元再開パッケージ (64 ビット)
SUNWcprx.us	保存停止、復元再開パッケージ (64 ビット)
SUNWcsd	Solaris の初期ブートに必要な /dev および /devices のコアエントリ
SUNWcs1	特定の命令セットアーキテクチャ用コア共有ライブラリ

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWcslx	特定の命令セットアーキテクチャ用コア 64 ビットライブラリ
SUNWcsr	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWcsu	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWcsxu	特定の命令セットアーキテクチャ用コア 64 ビットソフトウェア
SUNWctlu	CTL ロケール用印刷ユーティリティ
SUNWctpls	言語エンジン用配置インタフェース
SUNWctplx	言語エンジン用 64 ビット配置インタフェース
SUNWcttf	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント
SUNWcudt	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWculeu	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWculex	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル (64 ビット)
SUNWcuplt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcvc.u	ネットワークコンソール
SUNWcvcr.u	ネットワークコンソールデーモンと rc スクリプト
SUNWvcvx.u	ネットワークコンソール (64 ビット)
SUNWcxmft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWcxplt	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWdcsr	ドメイン構成サーバー (Root)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdcsu	ドメイン構成サーバー
SUNWdeis	ドイツ語版インストールソフトウェア
SUNWdespl	スペルチェックエンジン - ドイツ語辞書
SUNWdfb.d	ダムフレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWdfb.m	ダムフレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWdfb.u	ダムフレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWdfb.us	ダムフレームバッファ用カーネルデバイスドライバ
SUNWdoc	マニュアルページなどの文書の開発、表示、生産用ユーティリティとフォント (nroff/troff)
SUNWdrr.u	Sun Enterprise 10000 用動的再構成モジュール
SUNWdrr.us	富士通 PRIMEPOWER 用動的再構成モジュール
SUNWdrrx.u	Sun Enterprise 10000 用動的再構成モジュール (64 ビット)
SUNWdrrx.us	富士通 PRIMEPOWER 用動的再構成モジュール (64 ビット)
SUNWdtbas	CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWdtbax	CDE アプリケーション基本ランタイム環境 (64 ビット)
SUNWdtcor	Solaris デスクトップ /usr/dt ファイルシステムアンカー
SUNWdtct	UTF-8 コード変換ツール
SUNWdtcsm	共通デスクトップ環境 (CDE) 用デーモン
SUNWtdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWtdte	Solaris デスクトップログイン環境
SUNWdtezt	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パフォーマンスメータ、ワークステーション情報

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdthe	CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdthev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdthez	デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWdticn	共通デスクトップ環境 CDE 用アイコン
SUNWdtim	Solaris CDE イメージビューア
SUNWdtjxt	Java エクステンション
SUNWdtlog	デスクトップログイン用システムブート
SUNWdtnsc	CDE 用 Netscape コンポーネント化サポート
SUNWdtrme	共通デスクトップ環境 (CDE) リリースマニュアル
SUNWdtscm	CDE Dtpower スキーム
SUNWdtwm	CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeeudt	東ヨーロッパ CDE サポート
SUNWeeuos	東ヨーロッパ OS サポート
SUNWeeuow	東ヨーロッパ OW サポート
SUNWeeuox	東ヨーロッパ 64 ビット OS サポート
SUNWefclx	組み込み FCode ライブラリ (64 ビット)
SUNWefcr	組み込み FCode インタプリタ (Root)
SUNWefcux	組み込み FCode インタプリタ (64 ビット)
SUNWefcx	組み込み FCode インタプリタドライバ (64 ビット)
SUNWensqr.u	Ensoniq ES1370/1371/1373 オーディオデバイスドライバ (32 ビット)、 (root)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWensqx.u	Ensoniq ES1370/1371/1373 オーディオデバイスドライバ (64 ビット)、(root)
SUNWeridx	Sun RIO 10/100 M バイト Ethernet ドライバ (64 ビット)
SUNWesis	ラテンスペイン語版インストールソフトウェア
SUNWesspl	スペルチェックエンジン - スペイン語辞書
SUNWesu	追加 UNIX システムユーティリティ。awk、bc、cal、compress、diff、dos2unix、last、rup、sort、spell、sum、uniq、および uuencode を含む
SUNWesxu	追加 64 ビット UNIX システムユーティリティ
SUNWeudba	米国英語 UTF-8 版 CDE ベース機能
SUNWeudbd	米国英語/UTF-8 版 CDE Dtbuilder
SUNWeudda	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWeudhr	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudhs	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudis	米国英語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWeudiv	米国英語/UTF-8 版デスクトップイメージツール
SUNWeudlg	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWeudmg	米国英語/UTF-8 版デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeuezt	米国英語/UTF-8 版デスクトップパワーバックアップアプリケーション
SUNWeugrf	sun_eu_greek 文字セット用 X11 フォント
SUNWeuluf	米国英語/UTF-8 環境ユーザーファイル
SUNWeulux	米国英語/UTF-8 環境ユーザーファイル (64 ビット)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWeuodf	米国英語/UTF-8 コア OPEN LOOK デスクトップファイル
SUNWeusru	米国英語/UTF-8 版 Solaris ユーザー登録
SUNWeuxwe	米国英語/UTF-8 X Window System 環境
SUNWfbc	一般フレームバッファ構成ユーティリティ
SUNWfcip	Sun FCIP IP/ARP ファイバチャネルデバイスドライバ
SUNWfcipx	Sun FCIP IP/ARP ファイバチャネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWfcp	Sun FCP SCSI ファイバチャネルデバイスドライバ
SUNWfcpx	Sun FCP SCSI ファイバチャネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWfctl	Fctl モジュールおよび fp デバイスドライバ
SUNWfctlx	Fctl モジュールおよび fp デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWfdl	Adobe PostScript プリンタ用 Solaris デスクトップフォントダウンローダー
SUNWffb.u	UPA Bus Creator グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
SUNWffbcf	UPA Bus Creator グラフィックスアクセラレータ用構成ユーティリティ
SUNWffbw	UPA Bus Creator グラフィックスアクセラレータ用 X サーバーロード可能モジュール
SUNWffbx.u	UPA Bus Creator グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWfns	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWfnstx	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - コアライブラリとユーティリティ (64 ビット)
SUNWfris	フランス語版インストールソフトウェア
SUNWfrspl	スペルチェックエンジン - フランス語辞書

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWfruid	FRU ID 用 prtfru コマンドおよび libfru ライブラリ
SUNWfruip.u	FRU ID プラットフォームデータモジュールおよびアクセスライブラリ
SUNWfruix	FRU ID ライブラリ (64 ビット)
SUNWftpr	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWftpu	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWfwdcu	IEEE 1394 ビデオ会議サポート (64 ビット)
SUNWfwdcx	IEEE 1394 ビデオ会議クラスドライバ (64 ビット)
SUNWgdt	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgleu	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgleux	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル (64 ビット)
SUNWglmr.u	Symbios 875/876 SCSI デバイスドライバ (root)
SUNWglmx.u	Symbios 875/876 SCSI デバイスドライバ (root)
SUNWgsdhx	NIS+ 拡張 Diffie-Hellman 用 GSS-API 64 ビット機構ライブラリ
SUNWgss	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - ユーザー
SUNWgssc	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - 構成
SUNWgssdh	NIS+ 拡張 Diffie-Hellman 用 GSS-API 機構ライブラリ
SUNWgssk	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - カーネル
SUNWgsskx	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - カーネル (64 ビット)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWgssx	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - ユーザー (64 ビット)
SUNWgttf	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント
SUNWgxfnt	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWgxplt	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWgxplx	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ (64 ビット)
SUNWhdt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhiu8	UTF-8 用中国語 (繁体字) iconv モジュール
SUNWhiu8x	UTF-8 用中国語 (繁体字) (EUC) iconv モジュール (64 ビット)
SUNWhler	中国語 (繁体字) 言語環境用ストリームモジュール。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhlerx	中国語 (繁体字) 言語環境用ストリームモジュール。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWhleu	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhleux	中国語 (繁体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWhmd	SunSwift SBus アダプタドライバ
SUNWhmdu	SunSwift SBus アダプタヘッダー
SUNWhmdx	SunSwift SBus アダプタドライバ (64 ビット)
SUNWhttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNWhudt	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWhufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWhuleu	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhulex	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境ユーザーファイル (64 ビット)
SUNWhuplt	中国語 (繁体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhxfnt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWhxplt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWi13cs	X11 ISO-8859-13 コードセットサポート
SUNWi13rf	ISO-8859-13 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi15cs	X11 ISO-8859-15 コードセットサポート
SUNWi15rf	ISO-8859-15 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi1cs	X11 ISO-8859-1 コードセットサポート
SUNWi1of	ISO-8859-1 (Latin-1) オプションフォント
SUNWi2cr.u	I2C デバイス用デバイスドライバ (root、32 ビット)
SUNWi2cs	X11 ISO-8859-2 コードセットサポート
SUNWi2cx.u	I2C デバイス用デバイスドライバ (root、64 ビット)
SUNWi2of	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi2rf	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi4of	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi4rf	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWi5cs	X11 ISO-8859-5 コードセットサポート
SUNWi5of	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi5rf	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi7cs	X11 ISO-8859-7 コードセットサポート
SUNWi7of	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi7rf	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi8rf	ISO-8859-8 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi9cs	X11 ISO-8859-9 コードセットサポート
SUNWi9of	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi9rf	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWidecr.u	UltraAX 用にアップデートされた IDE デバイスドライバ
SUNWidecx.u	UltraAX 用にアップデートされた IDE デバイスドライバ - 64 ビット
SUNWider.u	IDE デバイスドライバ (root)
SUNWidn.u	Sun Enterprise 10000 用ドメイン間ネットワークモジュール
SUNWidnx.u	Sun Enterprise 10000 用ドメイン間ネットワークモジュール (64 ビット)
SUNWifb.u	PCI Bus Sun Expert3D (IFB) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
SUNWifbcf	PCI Bus Sun Expert3D (IFB) グラフィックスアクセラレータ用構成ユーティリティ
SUNWifbr	PCI Bus Sun Expert3D (IFB) グラフィックスアクセラレータ用ブート時デバイス初期化サポート
SUNWifbw	PCI Bus Sun Expert3D (IFB) グラフィックスアクセラレータ用 X サーバードロード可能モジュール

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWifbx.u	PCI Bus Sun Expert3D (IFB) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWifp	QLogic ファイバチャネルファミリ用 Sun FC-AL デバイスドライバ
SUNWifpx	QLogic ファイバチャネルファミリ用 Sun FC-AL デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWigsr.u	IGS グラフィックスカード用カーネルデバイスドライバ (32 ビット)
SUNWigsu	IGS グラフィックスカード用 OpenWindows DDX ドライバとユーティリティ
SUNWigsx.u	IGS グラフィックスカード用カーネル 64 ビットデバイスドライバ
SUNWiimr	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (root)
SUNWiimu	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (usr)
SUNWinst	Sun インストールソフトウェア
SUNWipc	プロセス間通信用にメッセージ、セマフォ、共有メモリーを監視または削除するユーティリティ
SUNWipcx	プロセス間通信用にメッセージ、セマフォ、共有メモリーを監視または削除する 64 ビットユーティリティ
SUNWislcc	東ヨーロッパロケール用 XSH4 変換
SUNWislcx	東ヨーロッパロケール用 64 ビット iconv 変換
SUNWisolc	ISO ラテン文字セット用 XSH4 変換
SUNWisolx	ISO ラテン文字セット用 64 ビット iconv 変換
SUNWitis	イタリア語版インストールソフトウェア
SUNWitspl	スペルチェックエンジン - イタリア語辞書
SUNWj2pi	Java Plug-in 1.2.2 用構成ファイル

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWj2rt	Java Virtual Machine とコアクラスライブラリ
SUNWjc0r	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 root ファイル
SUNWjc0u	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザーファイル
SUNWjcom	スマートカードサポート用 Java 通信 API - Java およびネイティブコード
SUNWjcomx	スマートカードサポート用 Java 通信 API - ネイティブコード (64 ビット)
SUNWjedt	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjeuc	usr 用 Japanese (EUC) Feature Package (JFP) 固有ファイル。EUC 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjeucx	usr 用 Japanese (EUC) Feature Package (JFP) 固有 64 ビットファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjexpl	日本語 (EUC) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjexpx	日本語 (EUC) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア (64 ビット)
SUNWjfpr	Japanese Feature Package (JFP) 用ストリームモジュール。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjfpu	usr 用 Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjfpux	usr 用 Japanese Feature Package (JFP) 固有 64 ビットファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjib	Dallas Semiconductor シリアル iButton OCF カード端末ドライバ
SUNWjiu8	{eucJP PCK} および UTF-8 日本語間でのデータ変換用 iconv モジュール
SUNWjiu8x	{eucJP PCK} および UTF-8 間でのデータ変換用日本語 64 ビット iconv モジュール
SUNWjman	SUNWjfpr および SUNWjfpu 用英文マニュアルページを表示するための Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWjmfpl	JMF プレイヤー
SUNWjpck	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package 固有ファイル。PCK 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjpckx	usr 用 Japanese (PCK) Feature Package 固有 64 ビットファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjpdtd	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpxpl	日本語 (PCK) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjpxpx	日本語 (PCK) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア (64 ビット)
SUNWjsnmp	Solaris Java SNMP API
SUNWju8	Japanese (UTF-8) Feature Package 固有ファイル。日本語 UTF-8 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWju8x	usr 用 Japanese (UTF-8) Feature Package 固有 64 ビットファイル。JFP 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjudtd	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuxpl	日本語 (UTF-8) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjvjit	Java JIT コンパイラ
SUNWjvrt	Java VM ランタイム環境。java、appletviewer、classes.zip を含む
SUNWjxcft	日本語 JISX212 TrueType およびビットマップフォント
SUNWjxmft	日本語 X Window System 最小限必須フォント - gothic medium
SUNWkdt	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkey	各キーの各国語版の意味などのキーボード属性を指定する構成テーブル
SUNWkiu8	UTF-8 用韓国語 (UTF-8) iconv モジュール

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWkiu8x	UTF-8 用韓国語 (UTF-8) iconv モジュール (64 ビット)
SUNWkler	韓国語言語環境に必要なストリームモジュール
SUNWklerx	韓国語言語環境に必要なストリームモジュール (64 ビット)
SUNWkleu	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語の環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkleux	韓国語 (EUC) 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWkmp2r.u	PS/2 キーボードおよびマウスのデバイスドライバ (root、32 ビット)
SUNWkmp2x.u	PS/2 キーボードおよびマウスのデバイスドライバ (root、64 ビット)
SUNWkoi8f	KOI8-R 文字セット用 X11 フォント
SUNWkttf	韓国語 True Type フォント
SUNWkudt	韓国語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkuleu	韓国語 (UTF-8) 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkulex	韓国語 (UTF-8) 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWkuxpl	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkvm.d	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkvm.m	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkvm.u	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkvm.us	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkvmx.u	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWkvmx.us	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkxfnt	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxmft	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxplt	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWlccom	各言語対応共通ファイル
SUNWlcl	ロケール変換ライブラリ
SUNWlclx	ロケール変換ライブラリ (64 ビット)
SUNWlibC	Sun Workshop コンパイラバンドル libC
SUNWlibCf	Sun WorkShop バンドル libC (cfront バージョン)
SUNWlibCx	Sun Workshop バンドル 64 ビット libC
SUNWlibms	Sun WorkShop バンドル共有 libm
SUNWlj3dv	各言語対応 JDK 1.3 開発環境
SUNWlj3rt	各言語対応 JDK 1.3 実行時環境
SUNWllc	IEEE 802.2 Logical Link Control 2 (LLC2) サービスを実装する LLC2 ドライバ
SUNWllcr	LLC2 ドライバ用構成および起動ファイル
SUNWllcx	IEEE 802.2 Logical Link Control 2 (LLC2) サービスを実装する 64 ビットカーネルデバイスドライバ
SUNWlmsx	Sun WorkShop バンドル 64 ビット共有 libm
SUNWloc	各国語対応ユーティリティおよび C ロケール (POSIX デフォルト) 定義
SUNWlocx	各国語対応ユーティリティおよび C ロケール (POSIX デフォルト) 定義 (64 ビット)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWlpmsg	プリンタ警告を転送する ToolTalk プログラム
SUNWluxd.d	Sun Enterprise Network Array sf デバイスドライバ
SUNWluxd.u	Sun Enterprise Network Array sf デバイスドライバ
SUNWluxd.us	Sun Enterprise Network Array sf デバイスドライバ
SUNWluxdx.u	Sun Enterprise Network Array sf デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWluxdx.us	Sun Enterprise Network Array sf デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWluxl	Sun Enterprise Network Array social デバイスドライバ
SUNWluxlx	Sun Enterprise Network Array social デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWluxop	Sun Enterprise Network Array ファームウェアとユーティリティ
SUNWm64.u	M64 グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
SUNWm64.us	M64 グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
SUNWm64cf	PCI Bus M64 グラフィックスアクセラレータ用構成ユーティリティ
SUNWm64w	M64 グラフィックスアクセラレータ用 X サーバーロード可能モジュール
SUNWm64x.u	M64 グラフィックスアクセラレータ (64 ビット) デバイスドライバ
SUNWm64x.us	M64 グラフィックスアクセラレータ (64 ビット) デバイスドライバ
SUNWm64xr.u	Xclaim、Charger および Rage Pro グラフィックスカード用拡張構成
SUNWm64xr.us	Xclaim および Charger グラフィックスカード用拡張構成
SUNWmdi	mpxio モジュールおよび scsi_vhci デバイスドライバ
SUNWmdix	mpxio モジュールおよび scsi_vhci デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWmeadt	中東 CDE サポート

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWmeaos	中東 OS サポート
SUNWmeaow	中東 OW サポート
SUNWmeaox	中東 64 ビット OS サポート
SUNWmfrun	Motif 2.1.1 ライブラリ、ヘッダー、xmbind、およびバインディング
SUNWmgapp	Solaris 管理アプリケーション
SUNWmibii	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 snmp デーモン
SUNWmp	MP 印刷フィルタ
SUNWnafdt	北アフリカ CDE サポート
SUNWnafos	北アフリカ OS サポート
SUNWnafow	北アフリカ OW サポート
SUNWnafox	北アフリカ 64 ビット OS サポート
SUNWnamdt	北米 CDE サポート
SUNWnamos	北米 OS サポート
SUNWnamow	北米 OW サポート
SUNWnamox	北米 64 ビット OS サポート
SUNWneudt	北欧 CDE サポート
SUNWneuos	北欧 OS サポート
SUNWneuow	北欧 OW サポート
SUNWneoux	北欧 64 ビット OS サポート
SUNWnistr	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用構成ファイルとディレクトリ

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWnisu	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用ユーティリティ
SUNWntpr	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)
SUNWntpu	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)
SUNWocf	Open Card Framework (OCF) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWocfh	Open Card Framework (OCF) - ヘッダーファイル
SUNWocfr	Open Card Framework (OCF) - 構成ファイル
SUNWocfx	Open Card Framework (OCF) - 64 ビットコアライブラリ
SUNWolaud	オーディオおよび他の補助オーディオサポート
SUNWolbk	OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWoldcv	OPEN LOOK 文書およびヘルプ表示アプリケーション
SUNWoldst	OPEN LOOK デスクトップツール
SUNWoldte	OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)
SUNWolimt	OPEN LOOK imagetool
SUNWolrte	OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWowbcp	OpenWindows バイナリ互換用サポートファイル、プログラム、およびライブラリ
SUNWpamsc	Smart Card 認証用プラグ可能認証モジュール
SUNWpamsx	Smart Card 認証用プラグ可能認証モジュール (64 ビット)
SUNWpcelx	3COM EtherLink III PCMCIA Ethernet ドライバ
SUNWpcmci	PCMCIA カードサービス用カーネルモジュールおよび起動ファイル

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWpcmcu	PCMCIA カードサービスを提供するデーモン
SUNWpcmcx	PCMCIA カードサービス用 64 ビットカーネルモジュール
SUNWpcmem	PCMCIA メモリーカードドライバ
SUNWpcr	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpcser	PCMCIA シリアルカードドライバ
SUNWpcu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpd	PCI バスを持つ SPARC プラットフォーム用ドライバ
SUNWpdas	Palm Pilot PDA でデスクトップアプリケーションを同期させるツール
SUNWpdx	PCI バスを持つ SPARC プラットフォーム用 64 ビットドライバ
SUNWpiclr	PICL フレームワーク init スクリプト
SUNWpiclu	PICL デーモン、prtpicl クライアントおよびプラグインモジュール
SUNWpiclx	クライアント用 PICL ライブラリ (64 ビット)
SUNWpl5u	Perl 5 プログラミング言語
SUNWplow	部分ロケールを有効にする OpenWindows
SUNWplow1	部分ロケールを有効にする OpenWindows
SUNWpmowr	電源管理システム OW ユーティリティ (root)
SUNWpmowu	電源管理システム OW ユーティリティ (usr)
SUNWpmr	電源管理システム構成ファイルおよび rc スクリプト
SUNWpmu	電源管理システムバイナリ
SUNWpmux	電源管理システムバイナリ (64 ビット)

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWppm	Solaris でプリンタを管理するグラフィカルツール
SUNWpsdpr	PCMCIA ATA カードドライバ
SUNWpsf	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpsr	印刷サービス用構成および起動ファイル
SUNWpsu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWqfed	Sun Quad FastEthernet PCI/SBus Adapter 32 ビットドライバ
SUNWqfedx	Sun Quad FastEthernet PCI/SBus Adapter 64 ビットドライバ
SUNWqlc	Qlogic ISP 2200/2202 ファイバチャネルデバイスドライバ
SUNWqlcx	Qlogic ISP 2200/2202 ファイバチャネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWrdrn	OILBN README ディレクトリ
SUNWrmodu	Realmode モジュール (usr)
SUNWrsg	ONC RPC 用 GSS-API サービス
SUNWrsgk	ONC RPC 用カーネル GSS-API サービス
SUNWrsgx	ONC RPC 用 GSS-API サービス (64 ビット)
SUNWsacom	root ファイルシステム用 Solstice Enterprise Agents 1.0.3 ファイル
SUNWsadmi	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 デスクトップ管理インタフェース
SUNWsadmx	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 デスクトップ管理インタフェースライブラリ (64 ビット)
SUNWsamdt	南米 CDE サポート
SUNWsamos	南米 OS サポート
SUNWsamow	南米 OW サポート

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsamox	南米 64 ビット OS サポート
SUNWsasnm	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 Simple Network Management Protocol
SUNWsasnx	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 Simple Network Management Protocol ライブラリ (64 ビット)
SUNWscbcp	SPARCCompilers バイナリ互換ライブラリ
SUNWscgui	Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインターフェース構成要素
SUNWsckmr	Sun Fire 15000 Key Management デーモン用 init スクリプトおよびリンク
SUNWsckmr.u	Sun Fire 15000 用 Key Management デーモン
SUNWsckmr.u	Sun Fire 15000 用 Key Management デーモン (64 ビット)
SUNWscmos	SCM Microsystems SmartOS スマートカードプロトコルモジュール
SUNWscmsc	Sun External Smart Card Reader 1 OCF Card Terminal Driver
SUNWscplp	ユーザーインターフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用印刷ユーティリティ
SUNWscpr	ユーザーインターフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ
SUNWscpu	ユーザーインターフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ
SUNWses	SCSI Enclosure Services (ses) デバイスドライバ
SUNWsesx	SCSI Enclosure Services (ses) デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWseudt	南ヨーロッパ CDE サポート
SUNWseuos	南ヨーロッパ OS サポート
SUNWseuow	南ヨーロッパ OW サポート

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWseuox	南ヨーロッパ 64 ビット OS サポート
SUNWsior.u	SuperIO 307 (プラグ&プレイ) デバイスドライバ (root)
SUNWsiox.u	SuperIO 307 (プラグ&プレイ) デバイスドライバ (root)
SUNWslpr	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの root ファイルシステム部分。SLP 構成ファイルと SLP デーモン起動スクリプトを含む
SUNWslpu	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの usr ファイルシステム部分。C と Java 開発ライブラリ、およびディレクトリエージェント (DA) として機能できるデーモンを含む
SUNWslpx	Service Location Protocol (SLP) 64 ビット開発者ライブラリ
SUNWsndmr	Sendmail root
SUNWsndmu	Sendmail ユーザー
SUNWsolnm	/etc/release ファイル内の Solaris 名を有効にする
SUNWspl	スペルチェックエンジン - ベースリリース (英語)
SUNWsgregu	ユーザー登録情報を入力するためのデスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWssad	Pln、soc、および ssd カーネルデバイスドライバ
SUNWssadx	Pln、soc、および ssd カーネルデバイスドライバ (64 ビット)
SUNWssaop	SPARCstorage Array (SSA) 管理ユーティリティとファームウェア
SUNWsvis	スウェーデン語版インストールソフトウェア
SUNWsvspl	スペルチェックエンジン - スウェーデン語辞書
SUNWswmt	Solaris 2.x インストールおよびパッチユーティリティ
SUNWsx	SX/CG14 ロード可能バイブラインサポート用共有可能ライブラリおよびヘッダーファイル

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsxow	SX/CG14 グラフィックスアクセラレータ用 X サーバーロード可能モジュール
SUNWsxr.m	SX ビデオサブシステム用カーネルデバイスドライバ
SUNWtcx.m	S24 フレームバッファ用デバイスドライバ
SUNWtcxow	S24 フレームバッファ用 X サーバーロード可能モジュールおよび構成ユーティリティ
SUNWtdbas	タイ語版 CDE ベース機能
SUNWtddst	タイ語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWtddte	タイ語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWtdft	タイ語版 CDE フォント
SUNWtdwm	タイ語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWtiu8	UTF-8 用タイ語 UTF-8 iconv モジュール
SUNWtiu8x	UTF-8 用タイ語 UTF-8 iconv モジュール (64 ビット)
SUNWtleu	タイ言語環境固有ファイル。タイ言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWtleux	タイ言語環境固有ファイル。タイ言語環境の実行に必要なパッケージ (64 ビット)
SUNWtltk	共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要な ToolTalk バイナリと共有ライブラリ
SUNWtltkx	共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要な ToolTalk バイナリ (64 ビット)
SUNWtoo	ソフトウェア開発用ユーティリティ。ld、ldd、od、および truss を含む
SUNWtoox	ソフトウェア開発用ユーティリティ (64 ビット)
SUNWtxfnt	タイ語 X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWtxodt	タイ語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWtxplt	X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWudf	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム (usr)
SUNWudfr	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム
SUNWudfrx	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム (64 ビット)
SUNWuiu8	UTF-8 ロケール用 iconv モジュール
SUNWuiu8x	UTF-8 ロケール用 iconv モジュール (64 ビット)
SUNWuium	UTF-8 ロケール用 iconv マニュアルページ
SUNWulcf	UTF-8 ロケール環境共通ファイル
SUNWulcfx	UTF-8 ロケール環境共通ファイル (64 ビット)
SUNWulocf	UTF-8 ロケール環境共通 OpenWindows 共通ファイル
SUNWusb	USBA (USB フレームワーク) および USB デバイスドライバ
SUNWusbx	USBA (USB フレームワーク) および USB デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWusoc	Sun Universal SOC+ Fibre Channel デバイスドライバ
SUNWusocx	Sun Universal SOC+ Fibre Channel デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWusx.u	UltraSPARC CPU デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWuxfl1.u	SUNW Ultra-1 用システム FLASH PROM 更新
SUNWuxfl2.u	SUNW Ultra-2 用システム FLASH PROM 更新
SUNWuxfl4.u	SUNW Ultra-4 用システム FLASH PROM 更新
SUNWuxfle.u	SUNW Ultra-Enterprise 用システム FLASH PROM 更新

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWuxflr.u	sun4u システム FLASH PROM 更新用一般構成要素
SUNWuxflu.u	sun4u システム FLASH PROM 更新用一般構成要素
SUNWuxlcf	UTF-8 X ロケール環境共通ファイル
SUNWuxlcx	UTF-8 X ロケール環境共通ファイル (64 ビット)
SUNWvld	Sun Ethernet Vlan ユーティリティ
SUNWvldx	Sun Ethernet Vlan ユーティリティ (64 ビット)
SUNWvolg	ボリューム管理グラフィカルユーザーインタフェース
SUNWvolr	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用構成および起動ファイル
SUNWvolu	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用ユーティリティおよびデーモン (vold)
SUNWvolux	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理用ドライバ (64 ビット)
SUNWvygdr.m	Voyager ドライバとストリームモジュール
SUNWwbapi	Solaris WBEM API
SUNWwbcor	Solaris WBEM Services (root)
SUNWwbcou	Solaris WBEM Services (usr)
SUNWweudt	西ヨーロッパ CDE サポート
SUNWweuos	西ヨーロッパ OS サポート
SUNWweuow	西ヨーロッパ OW サポート
SUNWweuox	西ヨーロッパ 64 ビット OS サポート
SUNWwsr2	Solaris Product Registry および Web Start サポート
SUNWwsrv	Solaris Product Registry ビューア

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxcu4	XCU4 仕様への準拠を提供するユーティリティ
SUNWxcu4x	XCU4 仕様への準拠を提供する 64 ビットユーティリティ
SUNWxi18n	libX11.so によりロードされるランタイムライブラリ。国際化 X Window System アプリケーション用入出力機能を提供する
SUNWxi18x	sparcv9/libX11.so によりロードされるランタイムライブラリ。国際化 X Window System アプリケーション用入出力機能を提供する
SUNWxilcg	SX/CG14 グラフィックスアクセラレータ用 XIL ロード可能パイプライン
SUNWxildh	XIL ロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilow	XIL デスクセットロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilrl	XIL ランタイム環境
SUNWxilvl	sun4u プラットフォーム用 XIL ロード可能パイプライン。UPA Bus Creator グラフィックスアクセラレータ用ロード可能パイプラインを含む
SUNWxim	複数の入力システムを提供する X 入力システムサーバー
SUNWximx	複数の入力システムを提供する X 入力システムサーバー
SUNWxwacx	AccessX クライアントプログラム
SUNWxwcfnt	X Window System オプションフォント
SUNWxwcs1	Type1/CID フォント用フォントサポートライブラリ
SUNWxwdv	X Window System 用カーネルデバイスドライバ
SUNWxwdvx	X Window System 用 64 ビットカーネルデバイスドライバ
SUNWxwfnfnt	X Window System フォント (必須フォント)
SUNWxwfs	OpenWindows フォントサーバー
SUNWxwice	OpenWindows ICE ライブラリおよび iceauth

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxwicx	X Window System ICE 64 ビットライブラリ
SUNWxwkey	X Window System ソフトウェア、PC キーテーブル
SUNWxwmod	OpenWindows 製品の実行に必要なカーネルモジュール
SUNWxwmox	X Window 用 64 ビットカーネルモジュール
SUNWxwoft	X Window System オプションフォント
SUNWxwopt	基本以外の MIT コアクライアントおよびサーバー拡張
SUNWxwplt	X Window System プラットフォームソフトウェア (サーバー、DPS、拡張、Xlib、必須および共通 MIT クライアント)
SUNWxwplx	X Window System 64 ビットライブラリソフトウェア
SUNWxwpsr	sun4u プラットフォーム用に最適化された X サーバーモジュール。このパッケージは、sun4u 以外のプラットフォームには必須ではない。このパッケージをインストールしても、sun4u 以外のプラットフォームでのサーバーの動作に影響はない
SUNWxwrtl	X Window System およびグラフィックスランタイムライブラリリンク
SUNWxwrtx	/usr/lib/sparcv9 における X Window System 64 ビットライブラリリンク
SUNWxwslx	プログラマ用 X Window System 64 ビット lint ライブラリ
TSBWvplr.m	東芝プラットフォームリンク
TSBWvplr.u	東芝プラットフォームリンク
TSBWvplu.m	東芝 usr/platform リンク
TSBWvplu.u	東芝 usr/platform リンク
TSIpgx.u	PGX32 (Raptor GFX) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ
TSIpgx.us	PGX32 (Raptor GFX) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ

表 31-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
TSIpgxw	PGX32 (Raptor GFX) グラフィックスアクセラレータ用 X サーバーロード可能モジュール
TSIpgxx.u	PGX32 (Raptor GFX) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ (64 ビット)
TSIpgxx.us	PGX32 (Raptor GFX) グラフィックスアクセラレータ用デバイスドライバ (64 ビット)
TWSvplr.u	TWS プラットフォームリンク
TWSvplu.u	TWS usr/platform リンク

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
FJSVmdb	富士通プラットフォームモジュールデバグ (MDB)
FJSVmdbx	富士通プラットフォームモジュールデバグ (MDB) (64 ビット)
SUNW1394h	Sun IEEE 1394 ヘッダーファイル
SUNWaccr	システム動作のアカウントティングと報告のためのユーティリティ
SUNWaccu	システム動作のアカウントティングと報告のためのユーティリティ
SUNWapchS	Apache HTTPD サーバー用ソース
SUNWapchd	Apache HTTP サーバー (文書)
SUNWapchr	Apache HTTP サーバープログラム (root 構成要素)
SUNWapchu	Apache HTTP サーバープログラム (usr 構成要素)
SUNWapppr	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用構成ファイル

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWapppu	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用ロ グインサービス
SUNWarc	静的にリンクされた実行可能ファイルのシステム 開発用システムライブラ リ (アーカイブ ar 形式)
SUNWarcx	静的にリンクされた実行可能ファイルのシステム 開発用システムライブラ リ (アーカイブ ar 形式)
SUNWast	システムファイルとディレクトリへのアクセスを監視または制限すること でシステムセキュリティを改善する管理ユーティリティ
SUNWaudh	オーディオドライバとアプリケーション用 SunOS C/C++ ヘッダーファイ ル
SUNWaudmo	オーディオデモプログラム、ライブラリ、サウンド
SUNWbash	GNU Bourne-Again シェル (bash)
SUNWbashS	GNU Bourne-Again シェル (bash) 用ソース
SUNWbnur	UUCP ユーティリティ用構成および起動ファイル
SUNWbnuu	UUCP ユーティリティおよびデーモン
SUNWbtool	システム開発 ユーティリ テイ。ar、dis、dump、elfdump、lex、lorder、mcs、nm、prof、 ranlib、rpcgen、size、strip、tsort、および yacc を含む
SUNWbtoox	システム開発ユーティリティ用 64 ビットライブラリ。lex と yacc を含む
SUNWbzipS	bzip 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWbzipx	bzip 圧縮ライブラリ (64 ビット)
SUNWcea	Sun GigaSwift Ethernet アダプタドライバ 32 ビット adb マクロ
SUNWceax	Sun GigaSwift Ethernet アダプタドライバ 64 ビット adb マクロ
SUNWcedu	Sun GigaSwift Ethernet アダプタヘッダー

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWcg6h	GX フレームバッファのソフトウェア開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWcpc.u	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート
SUNWcpc.us	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート
SUNWcpcu	CPU 性能カウンタライブラリおよびユーティリティ
SUNWcpcux	CPU 性能カウンタライブラリおよびユーティリティ (64 ビット)
SUNWcpcx.u	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート (64 ビット)
SUNWcpcx.us	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート (64 ビット)
SUNWcstl	アプリケーション追跡用 Appttrace ユーティリティ。共有オブジェクトを含む
SUNWcstlx	Appttrace 共有オブジェクト (64 ビット)
SUNWdclnt	ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWdfbh	ダムフレームバッファのソフトウェア開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWdhcm	DHCP サーバー用グラフィカル管理インターフェース
SUNWdhcsb	サービスプロバイダインタフェースのバージョン 1 をエクスポートする、バイナリファイルフォーマットパブリックモジュール。DHCP データを格納するために使用する。このモジュールは、ASCII ファイルおよび NIS+ パブリックモジュールよりも性能がよい。
SUNWdhcsr	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分
SUNWdhcsu	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分。そのサービスの管理ユーティリティが含まれる

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdial	ダイヤルとボタデバイス用ストリームモジュール
SUNWdialh	ダイヤルとボタデバイス用ヘッダーファイル
SUNWdialx	ダイヤルとボタデバイス用ストリームモジュール (64 ビット)
SUNWdpl	システム開発性能計測用プロファイルでコンパイルされたシステムライブラリ
SUNWdplx	システム開発性能計測用プロファイルでコンパイルされた 64 ビット システムライブラリ
SUNWdtab	CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWdtdem	CDE デモ
SUNWdthed	CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdtinc	CDE インクルードファイル
SUNWdtma	共通デスクトップ環境 (CDE) 用マニュアルページ
SUNWdtmad	共通デスクトップ環境 (CDE) 開発者マニュアルページ
SUNWdtmaz	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パフォーマンスメータ、ワークステーション情報用マニュアルページ
SUNWebnfs	WebNFS 用 Java パッケージ
SUNWfac	Form and Menu Language Interpreter (FMLI) 実行環境用ユーティリティとリソース
SUNWfnx5	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - X.500 Directory サポート
SUNWfnx5x	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - X.500 Directory サポート (64 ビット)
SUNWftdur	ドライバ強化テストハーネス
SUNWftduu	ドライバ強化テストハーネス (User)

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWftdux	ドライバ強化テストハーネス (64 ビット)
SUNWfwdcd	IEEE 1394 ビデオ会議デモ (64 ビット)
SUNWgedm	Sun Gigabit Ethernet アダプタマニュアルページ
SUNWgedu	Sun Gigabit Ethernet アダプタヘッダー
SUNWglt	レイアウトテーブル生成ユーティリティ
SUNWgpch	GNU パッチユーティリティ
SUNWgpchS	GNU パッチユーティリティ用ソース
SUNWgzip	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ
SUNWgzipS	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWhea	ソフトウェア一般開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWifph	QLogic FC-AL ファミリー用 SunOS ヘッダーファイル
SUNWj2dem	JDK 1.2 デモプログラム
SUNWj2dev	JDK 1.2 開発ツール (javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む)
SUNWj2man	JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWj3dev	JDK 1.3 開発ツール (javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む)
SUNWj3dmo	JDK 1.3 デモプログラム
SUNWj3man	JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWj3rt	JDK 1.3 実行時環境
SUNWjvdem	JavaVM デモプログラム
SUNWjvdev	JavaVM 開発者パッケージ (javac、javah、javap を含む)

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWjvman	JavaVM マニュアルページ
SUNWkcspf	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWkcspg	Kodak Color Management System ランタイム環境 デモ
SUNWkcspx	Kodak Color Management System ランタイム環境 デモ (64 ビット)
SUNWkcsrt	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWkcsrx	Kodak Color Management System ランタイム環境 OS (64 ビット)
SUNWless	GNU ページャ (less)
SUNWlessS	GNU ページャ (less) 用ソース
SUNWlibm	Sun WorkShop バンドル libm
SUNWlldap	動的にリンクされた実行可能ファイルのシステム開発用 LDAP ライブラリ
SUNWlmx	Sun WorkShop バンドル、その他の 64 ビット libm ファイル
SUNWman	システムリファレンスマニュアルページ
SUNWmc	Solaris Management Console 用クライアントおよびサーバーコンポーネント
SUNWmcc	Solaris Management Console 用クライアントコンポーネント
SUNWmccom	Solaris Management Console 用共通コンポーネント
SUNWmcdev	Solaris Management Console 用ソフトウェア開発キット
SUNWmcex	Solaris Management Console のアプリケーション例
SUNWmdb	モジュールデバッガ (MDB)
SUNWmdbdm	モジュールデバッガ (MDB) デモ用モジュールとソースコード
SUNWmdbx	モジュールデバッガ (MDB) (64 ビット)

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWmfdev	Motif UIL コンパイラ
SUNWmfman	CDE Motif マニュアル
SUNWmga	Solaris 管理アプリケーション
SUNWmipr	モバイル IP 構成および起動スクリプト
SUNWmipu	モバイル IP デーモンおよびユーティリティ
SUNWmkcd	CD 作成ユーティリティ
SUNWmkcdS	CD 作成ユーティリティ用ソース
SUNWncar	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にするコア構成要素
SUNWncarx	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にするコア構成要素 (64 ビット)
SUNWncau	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にする構成要素
SUNWoladd	OPEN LOOK 代替デスクトップデモ
SUNWoldem	OPEN LOOK デモプログラム
SUNWoldim	さまざまな形式のグラフィックスファイル
SUNWolinc	OPEN LOOK インクルードファイル
SUNWolman	OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ
SUNWolslb	プログラマ用 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップ静的および lint ライブラリ
SUNWolsrc	プログラマ用 OPEN LOOK サンプルソースコード
SUNWosdem	OS インタフェースの使用をデモするソースコード: ELF
SUNWpdu	SPARC プラットフォーム上の PCI バス用ソフトウェア開発のための SunOS C/C++ ヘッダーファイル

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWp15m	Perl 5 リファレンスマニュアルページ
SUNWp15p	Perl 5 プログラミング言語用 POD 文書
SUNWpmowm	電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWpppd	PPP (ポイントツーポイントプロトコル) を実装するデバイスドライバ
SUNWpppdr	Solaris PPP 用構成ファイル
SUNWpppdu	Solaris PPP 用デーモンおよびユーティリティ
SUNWpppdx	Solaris PPP を実装する 64 ビットデバイスドライバ
SUNWpppg	PPP と共に使用するための任意 GNU ユーティリティ
SUNWpppgs	PPP と共に使用するための任意 GNU ユーティリティのソース
SUNWpppk	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するカーネルデバイスドライバ
SUNWpppkx	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装する 64 ビットカーネルデバイスドライバ
SUNWpstl.u	Appttrace プロセッサ固有共有オブジェクト
SUNWpstl.us	Appttrace プロセッサ固有共有オブジェクト
SUNWpstlx.u	Appttrace プロセッサ固有共有オブジェクト (64 ビット)
SUNWpstlx.us	Appttrace プロセッサ固有共有オブジェクト (64 ビット)
SUNWqfedu	Sun Quad FastEthernet PCI/SBus アダプタヘッダー
SUNWrpm	RPM アーカイブを処理するユーティリティ
SUNWrtvc	SunVideo リアルタイムビデオキャプチャおよび圧縮カード用デバイスドライバ
SUNWrtvcl	SunVideo キャプチャおよび圧縮用 XIL ロード可能パイプライン

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWrtvcu	SunVideo キャプチャおよび圧縮用ヘッダーファイルと例
SUNWrtvcx	SunVideo キャプチャおよび圧縮カード用デバイスドライバ (64 ビット)
SUNWsadml	Solstice ランチャーと関連ライブラリ
SUNWscpux	SunOS 4.x とのユーザーインタフェースとソースビルド互換性用ユーティリティ
SUNWsprout	Solaris バンドルツール
SUNWsprrox	Sun Workshop バンドル 64 ビット make ライブラリ
SUNWsra	SunOS 4.x とのソースビルド互換性のためのライブラリ (アーカイブ ar 形式)
SUNWsrh	SunOS 4.x とのソースビルド互換性用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWsutl	システムの障害復旧のための SunOS 4.x とのソースビルド互換性用静的リンクユーティリティ
SUNWtcsh	Tenex C - シェル (tcsh)
SUNWtcshS	Tenex C - シェル用ソース (tcsh)
SUNWter	端末および疑似端末の機能を記述した拡張 terminfo データベース
SUNWtltkd	プログラマ用 ToolTalk 静的ライブラリとインクルードファイル
SUNWtltkm	ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用 ToolTalk マニュアルページ
SUNWtnfc	追跡ファイルに Trace Normal Format (TNF) レコードを生成できる、カーネルとアプリケーションにある、検証ポイントを有効にするのに必要なユーティリティ
SUNWtnfcx	追跡ファイルに Trace Normal Format (TNF) レコードを生成できる、カーネルとアプリケーションにある、検証ポイントを有効にするのに必要な 64 ビットユーティリティ
SUNWtnfd	Trace Normal Format (TNF) 機能を使用する開発者に必要なユーティリティ

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWucbt	UCB 互換ライブラリ用 Appttrace 共有オブジェクト
SUNWucbtx	UCB 互換ライブラリ用 Appttrace 共有オブジェクト (64 ビット)
SUNWusbu	USB ヘッダー
SUNWv1du	Sun Ethernet Vlan ユーティリティルーチンヘッダー
SUNWwbdev	Sun WBEM SDK
SUNWwbdoc	Sun WBEM SDK — ドキュメンテーション
SUNWwbmc	WBEM と SMC を統合するコンポーネント
SUNWxcu4t	make および sccs ユーティリティ XCU4 準拠バージョン
SUNWxilh	XIL API ヘッダーファイル
SUNWxwdem	X Window System デモプログラム
SUNWxwdim	さまざまな形式のグラフィックスファイル
SUNWxwdx	DPS MOTIF ライブラリ
SUNWxwfa	Solaris プラットフォーム用フォント管理アプリケーション
SUNWxwhl	/usr/include にある X Window System およびグラフィックスヘッダーリンク
SUNWxwinc	X Window System インクルードファイル
SUNWxwman	X Window System オンラインユーザーマニュアルページ
SUNWxwpmn	X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWxwslb	プログラマ用 X Window System 静的および lint ライブラリ
SUNWxwsrc	プログラマ用 X Window System サンプルソースコード
SUNWyprr	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー

表 32-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWypu	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー
SUNWzip	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ
SUNWzipS	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWzlib	Zip 圧縮ライブラリ
SUNWzlibS	Zip 圧縮ライブラリ用ソース
SUNWzlibx	Info-Zip 圧縮ライブラリ (64 ビット)
SUNWzsh	Z シェル (zsh)
SUNWzshS	Z シェル (zsh) 用ソース

Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を言語ごとに示します。

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字)

パッケージ	内容
NSCPccom	中国語 (簡体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPcucom	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPgcom	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWcadis	中国語 (簡体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcadma	中国語 (簡体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要
SUNWcbcp	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境バイナリ互換ファイル
SUNWcdab	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWcdbas	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ベース機能

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcdcl	中国語 (簡体字) 版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWcddst	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcdde	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcdez	中国語 (簡体字) (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcdf	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE フォント
SUNWcdhe	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcdhev	中国語 (簡体字) (EUC) CDE ヘルプボリューム
SUNWcdhez	中国語 (簡体字) (EUC) (共通) デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcdicn	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE アイコン
SUNWcdim	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE イメージツール
SUNWcdwm	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWcepmw	中国語 (簡体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcervl	中国語 (簡体字) (EUC) SunVideo ランタイムサポートソフトウェア
SUNWcexir	中国語 (簡体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWcfdl	中国語 (簡体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWcj2p	中国語 (簡体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWcj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (簡体字) 補遺)
SUNWcjmf	中国語 (簡体字) 版 JMF プレイヤー

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcjvdv	中国語 (簡体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWcjvrt	中国語 (簡体字) 版 JavaVM ランタイム環境
SUNWckcsr	中国語 (簡体字) (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWcleue	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcmga	中国語 (簡体字) 版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWcoaud	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWcodcv	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWcodem	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWcodst	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWcodte	中国語 (簡体字) (EUC) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcoimt	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWcoman	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcorte	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWcpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (簡体字) 版
SUNWcrdm	中国語 (簡体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWcreg	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcsadl	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcscgu	中国語 (簡体字) 版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWctltk	中国語 (簡体字) (EUC) ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWcttfe	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント
SUNWcuada	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 SUNWgadis パッケージが必要
SUNWcuadi	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcubas	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWcudab	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWcudc	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWcudez	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcudft	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWcudhe	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcudhv	中国語 (簡体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWcudhz	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcudic	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWcudim	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWcudst	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcudte	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcudwm	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWculee	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcuman	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcuodt	中国語 (簡体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcupmw	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcurdm	中国語 (簡体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWcureg	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcusad	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWcuudc	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWcuxe	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcwbc	中国語 (簡体字) 版 Solaris WBEM サービス
SUNWcwbcp	中国語 (簡体字) (EUC) OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWcwdev	中国語 (簡体字) 版 Solaris WBEM SDK
SUNWcwsr2	中国語 (簡体字) 版 Solaris Product Registry
SUNWcwsvr	中国語 (簡体字) 版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWcxe	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcxfnt	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWcxman	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcxoft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オプションフォントパッケージ
SUNWgadis	中国語 (簡体字) (GBK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWgadma	中国語 (簡体字) (GBK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (GBK) 版 SUNWgadis パッケージが必要
SUNWgdab	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWgdbas	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ベース機能
SUNWgddst	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWgddte	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgdezt	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWgdft	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE フォント
SUNWgdhe	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWgdhev	中国語 (簡体字) (GBK) CDE ヘルプボリューム
SUNWgdhez	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWgdicn	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE アイコン
SUNWgdim	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWgdwm	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWgleue	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgodte	中国語 (簡体字) (GBK) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWgpmw	中国語 (簡体字) (GBK) 版電源管理システム OW ユーティリティ

表 33-1 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWgrdm	中国語 (簡体字) (GBK) OILBN README ディレクトリ
SUNWgreg	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWgsadl	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWgttfe	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント
SUNWgudc	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWgxe	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ
SUNWgxman	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System オンラインユーザーマニュアル ページパッケージ

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字)

パッケージ	内容
NSCP5com	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポ-ト)
NSCP5com	中国語 (繁体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポ-ト)
NSCP5ucom	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポ-ト)
SUNW5adi	中国語 (繁体字) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNW5adma	中国語 (繁体字) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこの パッケージと中国語 (繁体字) 版 SUNW5adi パッケージが必要
SUNW5dab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNW5dbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNW5ddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNW5ddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5dezt	中国語 (繁体字) (BIG5) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNW5dft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNW5dhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNW5dhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNW5dhez	中国語 (繁体字) (共通 BIG5) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNW5dicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNW5dim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNW5dwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNW5leue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNW5odte	中国語 (繁体字) (BIG5) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNW5pmw	中国語 (繁体字) (BIG5) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNW5rdm	中国語 (繁体字) (BIG5) OILBN README ディレクトリ
SUNW5sadl	中国語 (繁体字) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNW5ttfe	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ拡張
SUNW5udc	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNW5xfnt	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhadis	中国語 (繁体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWhadma	中国語 (繁体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (繁体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要
SUNWhbcpc	中国語 (繁体字) 言語環境バイナリ互換ファイル
SUNWhdab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhdbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能
SUNWhdc1	中国語 (繁体字) 版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWhddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWhddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhdezt	中国語 (繁体字) (EUC) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWhdft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNWhdhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWhdhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNWhdhez	中国語 (繁体字) (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWhdicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNWhdim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNWhdwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhepmw	中国語 (繁体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWherv1	中国語 (繁体字) (EUC) SunVideo ランタイム環境サポートソフトウェア

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhexir	中国語 (繁体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWhfdl	中国語 (繁体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWhj2p	中国語 (繁体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWhj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (繁体字) 補遺)
SUNWhjmfpl	中国語 (繁体字) 版 JMF プレイヤー
SUNWhjvdl	中国語 (繁体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWhjvrt	中国語 (繁体字) 版 JavaVM ランタイム環境
SUNWhkcsr	中国語 (繁体字) (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWhleue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhmga	中国語 (繁体字) 版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWhoaud	中国語 (繁体字) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWhodcv	中国語 (繁体字) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWhodem	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWhodst	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWhodte	中国語 (繁体字) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhoimt	中国語 (繁体字) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWhoman	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhorte	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWhpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (繁体字) 版
SUNWhrdm	中国語 (繁体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWhreg	中国語 (繁体字) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWhsadl	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhscgu	中国語 (繁体字) 版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインターフェース構成要素
SUNWhlttk	中国語 (繁体字) ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWhttfe	中国語 (繁体字) True Type オプションフォントパッケージ拡張
SUNWhuada	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 SUNW5adi パッケージが必要
SUNWhuadi	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWhubas	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWhuccd	中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境固有ファイル。中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhudab	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhudc	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhudez	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWhudft	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWhudhe	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhudhv	中国語 (繁体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWhudhz	中国語 (繁体字) (共通 UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWhudic	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWhudim	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE イメージツール
SUNWhudst	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWhudte	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhudwm	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhulee	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhuodt	中国語 (繁体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhupmw	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWhurdm	中国語 (繁体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWhusad	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhuudc	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhwbc	中国語 (繁体字) 版 Solaris WBEM サービス
SUNWhwbcp	中国語 (繁体字) OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWhwdev	中国語 (繁体字) 版 Solaris WBEM SDK
SUNWhwsr2	中国語 (繁体字)版 Solaris Product Registry
SUNWhwsrv	中国語 (繁体字)版 Solaris Product Registry ビューア

表 33-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhxe	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ
SUNWhxman	中国語 (繁体字) X Window System オンラインユーザーマニュアルページ パッケージ

表 33-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: フランス語

パッケージ	内容
NSCPfrcdo	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (U.S. セキュリティをサポート)
NSCPfrcm	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWf8bas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWf8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8dte	CDE デスクトップ環境
SUNWf8he	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWf8im	フランス語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8wm	フランス語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWfbcp	フランス語 OS バイナリ互換パッケージ
SUNWfcd1	フランス語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWffd1	フランス語版フォントダウンローダー
SUNWfj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (フランス語補遺)
SUNWfjmfp	フランス語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用

表 33-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfjvdv	フランス語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWfjvrt	フランス語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWfmgp	フランス語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWfoaud	フランス語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWfobk	フランス語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWfodcv	フランス語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWfodem	フランス語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWfodst	フランス語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWfodte	フランス語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWfoimt	フランス語 OPEN LOOK imagetool
SUNWforte	フランス語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWfpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - フランス語版
SUNWfrbas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWfrdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWfrdte	CDE デスクトップ環境
SUNWfrhe	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWfrhed	フランス語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWfrhev	CDE ヘルプポリューム

表 33-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfrim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWfrj2p	フランス語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWfros	フランス語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWfrpmw	フランス語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWfrreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWfrsmc	フランス語版 Solaris Management Console
SUNWfrwbc	フランス語版 Solaris WBEM サービス
SUNWfrwm	フランス語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWfrws2	フランス語版 Solaris Product Registry
SUNWfrwsv	フランス語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWfscgu	フランス語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWftltk	フランス語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWfwacx	フランス語 OPEN LOOK AccessX
SUNWfwbcp	フランス語 OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWfwdev	フランス語版 Sun WBEM SDK リソース
SUNWfxplt	フランス語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 33-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: ドイツ語

パッケージ	内容
NSCPdecom	ドイツ語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWd8bas	ドイツ語版 UTF-8 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要
SUNWd8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWd8he	ドイツ語版 CDE ヘルプ UTF-8 ランタイム環境
SUNWd8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8wm	ドイツ語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWdbcpc	ドイツ語 OS バイナリ互換パッケージ
SUNWddc1	ドイツ語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWdebas	ドイツ語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要
SUNWdedst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdedte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWdehe	ドイツ語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdehed	ドイツ語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdehev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdeim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdej2p	ドイツ語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWdeos	ドイツ語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWdepmw	ドイツ語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ

表 33-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdereg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWdesmc	ドイツ語版 Solaris Management Console
SUNWdewbc	ドイツ語版 Solaris WBEM サービス
SUNWdewm	ドイツ語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWdews2	ドイツ語版 Solaris Product Registry
SUNWdewsv	ドイツ語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWdfd1	ドイツ語版フォントダウンローダー
SUNWdj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (ドイツ語補遺)
SUNWdjmfj	ドイツ語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWdjvdv	ドイツ語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWdjvrt	ドイツ語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWdmgp	ドイツ語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWdoaud	ドイツ語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWdobk	ドイツ語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWdodcv	ドイツ語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWdodem	ドイツ語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWdodst	ドイツ語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWdodte	ドイツ語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWdoimt	ドイツ語 OPEN LOOK imagetool

表 33-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdorte	ドイツ語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWdpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - ドイツ語版
SUNWdscgu	ドイツ語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWdtltk	ドイツ語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWdwacx	ドイツ語 OPEN LOOK AccessX
SUNWdwbcp	ドイツ語 OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWdxplt	ドイツ語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 33-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: イタリア語

パッケージ	内容
NSCPitcom	イタリア語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWi8bas	イタリア語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWi8dst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWi8dte	イタリア語 CDE UTF-8 デスクトップログイン環境
SUNWi8he	イタリア語 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWi8im	イタリア語 CDE UTF-8 デスクトップイメージエディタ
SUNWi8wm	イタリア語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWibcp	イタリア語 OS バイナリ互換パッケージ

表 33-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWidcl	イタリア語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWifdl	イタリア語版フォントダウンローダー
SUNWij2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (イタリア語補遺)
SUNWimgp	イタリア語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWijmfp	イタリア語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWijvdt	イタリア語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWijvrt	イタリア語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWioaud	イタリア語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWiobk	イタリア語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWiodcv	イタリア語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWiodem	イタリア語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWiodst	イタリア語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWiodte	イタリア語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWioimt	イタリア語 OPEN LOOK imagetool
SUNWiopte	イタリア語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWipdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - イタリア語版
SUNWiscgu	イタリア語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWitbas	イタリア語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な

表 33-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWitdst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWitdte	イタリア語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWithe	イタリア語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWithed	イタリア語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWithev	CDE ヘルプボリューム
SUNWitim	イタリア語版 CDE デスクトップイメージエディタ
SUNWitj2p	イタリア語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWitltk	イタリア語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWitos	イタリア語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWitpmw	イタリア語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWitreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWitsmc	イタリア語版 Solaris Management Console
SUNWitwbc	イタリア語版 Solaris WBEM サービス
SUNWitwm	イタリア語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWitws2	イタリア語版 Solaris Product Registry
SUNWitwsv	イタリア語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWiwacx	イタリア語 OPEN LOOK AccessX
SUNWiwbcv	イタリア語 OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWixplt	イタリア語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 33-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語

パッケージ	内容
JSat8xw	日本語入力システム ATOK8 - 日本語 Solaris 用
JSatsvr	日本語入力システム ATOK12 root ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvu	日本語入力システム ATOK12 usr ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvw	日本語入力システム ATOK12 X11 サポートファイル - 日本語 Solaris 用
NSCPjecom	日本語 (EUC) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjpcom	日本語 (PCK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjucom	日本語 (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWjadcl	日本語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWjadis	日本語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjadma	日本語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (EUC) 版 SUNWjadis パッケージが必要
SUNWjaj2p	日本語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWjbcpl	日本語 (EUC) ユーティリティ。SunOS 4.x アプリケーションにバイナリ互換実行環境を提供する libc とロケールデータを含む
SUNWjc0d	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - CDE Motif 用
SUNWjc0w	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - OPEN LOOK 用。このパッケージは、X Window System 上で X 入力システムサーバーを使用するのに必要
SUNWjcs3f	日本語 JIS X0212 Type1 フォント - 印刷用

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjdab	日本語 (共通) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjdbas	日本語 (共通) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjddst	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjddte	日本語 (EUC) 版 Solaris デスクトップログイン環境
SUNWjdhcm	日本語版 DHCP Manager
SUNWjdhe	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjdhed	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjdhev	日本語 (共通) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjdhez	日本語 (共通) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjdim	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjdrme	日本語 (EUC) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjdwmm	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjeab	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjebas	日本語 (EUC) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWject	日本語 (EUC) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjedev	日本語 (EUC) 開発環境パッケージ固有ファイル
SUNWjeezt	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWjehev	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjehez	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjej2m	日本語 (EUC) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWjej3m	日本語 (EUC) JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWjejmn	日本語 (EUC) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマーとユーザー用
SUNWjeman	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWjfpr と SUNWjfpu 用日本語 (EUC) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語 マニュアルページの表示に必要な
SUNWjepmm	日本語 (EUC) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjepmw	日本語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjervl	日本語 (EUC) 版 XIL ロード可能パイプライン - SunVideo キャプチャおよび圧縮用
SUNWjeuce	Japanese (EUC) Feature Package (JFP) の固有ファイル (usr 用)。EUC 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjeudc	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjewnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (EUC)
SUNWjexfa	日本語 (EUC) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjexir	日本語 (EUC) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjfdl	日本語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript プリンタ用
SUNWjfpre	ストリームモジュール - Japanese Feature Package (JFP) 用。JFP 環境を実行する拡張パッケージ
SUNWjfpue	Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル (usr 用)。JFP 環境を実行する拡張パッケージ
SUNWjfxmn	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - X Window System 用

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjj2dv	日本語 Java Virtual Machine ツールとユーティリティ。javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む
SUNWjj2rt	日本語 Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ
SUNWjjmfp	日本語版 JMF プレイヤー
SUNWjjvdv	日本語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWjjvrt	日本語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWjkcsr	日本語 (EUC) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjlibj	日本語固有ライブラリ (/usr/lib/libjapanese.a)、ヘッダー、移行キットを含む
SUNWjmane	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ (拡張)。- SUNWjfpue と SUNWjfpue 用英文マニュアルページの表示用
SUNWjmfrn	日本語 (EUC) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjoaud	日本語 (EUC) 版オーディオツールとその他の補助オーディオサポート
SUNWjodcv	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWjodem	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWjodst	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWjodte	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)
SUNWjoimt	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK imagetool
SUNWjorte	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWjoumn	日本語 (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjpbab	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjpacx	日本語 (PCK) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjpadi	日本語 (PCK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjpadm	日本語 (PCK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (PCK) 版 SUNWjpadi パッケージが必要
SUNWjpbas	日本語 (PCK) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjpcke	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package (JFP) の固有ファイル。PCK 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjpct	日本語 (PCK) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 日本語版
SUNWjpdst	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjpdte	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpez	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWjphe	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjphed	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjphev	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjphez	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWjpim	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWj2m	日本語 (PCK) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWj3m	日本語 (PCK) JDK 1.3 マニュアルページ

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjppjmn	日本語 (PCK) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマーとユーザー用
SUNWjpkcs	日本語 (PCK) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjpmann	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWjfprr と SUNWjfpur 用日本語 (PCK) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要
SUNWjpmfrr	日本語 (PCK) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjppmm	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjppmw	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjprdm	日本語 (PCK) OILBN README ディレクトリ
SUNWjprme	日本語 (PCK) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjprvl	日本語 (PCK) 版 XIL ロード可能バイブライン - SunVideo キャプチャおよび圧縮用
SUNWjpsal	日本語 (PCK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjptlm	日本語 (PCK) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラム、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjptlt	日本語 (PCK) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWjpudd	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjppwm	日本語 (PCK) CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjppwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (PCK)
SUNWjpxfa	日本語 (PCK) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjpxir	日本語 (PCK) 版 XIL ランタイム環境

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjpxpm	日本語 (PCK) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjpxum	日本語 (PCK) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjrdm	日本語 (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWjreg	日本語版 Solaris ユーザー登録
SUNWjsadl	日本語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjscag	日本語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWjsmc	日本語版 Solaris Management Console 2.0
SUNWjtlmn	日本語 (EUC) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjtltk	日本語 (EUC) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWju8e	Japanese (UTF-8) Feature Package (JFP) の固有ファイル。日本語 UTF-8 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjuab	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjuacx	日本語 (UTF-8) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjuadi	日本語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjuadm	日本語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (UTF-8) 版 SUNWjuadi パッケージが必要
SUNWjubas	日本語 (UTF-8) CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjuct	日本語 (UTF-8) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjudst	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjudte	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuezt	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWjuhe	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjuhed	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjuhev	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjuhez	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWjuim	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjuj2m	日本語 (UTF-8) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWjuj3m	日本語 (UTF-8) JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWjujmn	日本語 (UTF-8) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマとユーザー用
SUNWjukcs	日本語 (UTF-8) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjulcf	日本語 (UTF-8) 版 xutops コマンド
SUNWjuman	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWjfpr と SUNWjfpv 用日本語 (UTF-8) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要な
SUNWjumfr	日本語 (UTF-8) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjupmm	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjupmw	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjurdm	日本語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWjurme	日本語 (UTF-8) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjurvl	日本語 (UTF-8) 版 XIL ロード可能パイプライン - SunVideo キャプチャおよび圧縮用
SUNWjusal	日本語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjutlm	日本語 (UTF-8) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマー、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjutlt	日本語 (UTF-8) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWjuudc	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjuwm	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjuwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (UTF-8)
SUNWjuxfa	日本語 (UTF-8) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjuxir	日本語 (UTF-8) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjuxpm	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjuxum	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjwacx	日本語 (EUC) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjwbc	日本語版 Solaris WBEM Services
SUNWjwbcp	日本語 (EUC) 版サポートファイル、プログラム、およびライブラリ - OpenWindows バイナリ互換用
SUNWjwbd	日本語版 Sun WBEM SDK ソース
SUNWjwbk	日本語 (EUC) 版 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWjwncr	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (root)

表 33-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjwncu	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (usr)
SUNWjwncx	日本語入力システム - Wnn6 クライアント X Window System
SUNWjwndt	日本語入力システム - Wnn6 クライアント-CDE 用
SUNWjwnsr	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (root)
SUNWjwnsu	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (usr)
SUNWjwsr2	日本語 Solaris Product Registry
SUNWjwsv	日本語 Solaris Product Registry ビューア
SUNWjxfa	日本語 (共通) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjxfnt	日本語 X Window System フォント (必須フォント) - ゴシックボールドフォントと TrueType マップファイル
SUNWjxoft	Sun Minchou ビットマップフォント
SUNWjxplt	日本語版 X Window System プラットフォームソフトウェア (拡張)
SUNWjxpmn	日本語 (EUC) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjxumn	日本語 (EUC) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語

パッケージ	内容
NSCPkocom	韓国語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPkucom	韓国語 (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkadis	韓国語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkadma	韓国語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要
SUNWkbcpl	韓国語言語環境バイナリ互換ファイル
SUNWkcoft	韓国語/UTF-8 共通オプションフォントパッケージ
SUNWkdab	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkdbas	韓国語版 CDE ベース機能
SUNWkdc1	韓国語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWkdcst	韓国語版ツールパッケージ
SUNWkddst	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWkddte	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkdezt	韓国語 (EUC) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWkdfst	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語版 CDE 用
SUNWkdhe	韓国語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkdhev	韓国語 CDE ヘルプボリューム
SUNWkdhez	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWkdicn	韓国語版 CDE アイコン
SUNWkdim	韓国語版 CDE イメージツール
SUNWkdwm	韓国語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkepmw	韓国語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkervl	韓国語 (EUC) SunVideo ランタイム環境サポートソフトウェア
SUNWkexir	韓国語 (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWkfdl	韓国語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWkj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (韓国語補遺)
SUNWkjmfp	韓国語版 JMF プレイヤー
SUNWkjvdv	韓国語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWkjvrt	韓国語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWkkcsr	韓国語 (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWkleue	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkmga	韓国語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWkoaud	韓国語 OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWkodcv	韓国語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWkodem	韓国語 OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWkodst	韓国語 OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWkodte	韓国語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkoimt	韓国語 OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWkoj2p	韓国語版 Java Plug-in 1.2.2

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkoman	韓国語 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWkorte	韓国語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWkpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 韓国語版
SUNWkrdm	韓国語 (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWkreg	韓国語版 Solaris ユーザー登録
SUNWksadl	韓国語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWkscgu	韓国語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWktltk	韓国語 ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWkttfe	韓国語 True Type フォント拡張
SUNWkuadi	韓国語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkuadm	韓国語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要
SUNWkudab	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkudbs	韓国語/UTF-8 CDE ベース機能
SUNWkudc	韓国語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkudda	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWkuddt	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkudft	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語/UTF-8 版 CDE

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkudhr	韓国語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkudhv	韓国語/UTF-8 CDE ヘルプボリューム
SUNWkudhz	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWkudic	韓国語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWkudim	韓国語/UTF-8 版 CDE イメージツール
SUNWkudwm	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWkudztc	韓国語 (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWkulee	韓国語 (UTF-8) 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkuodf	韓国語 (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkupmw	韓国語 (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkurdm	韓国語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWkusal	韓国語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWkuudc	韓国語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkuxe	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkuxft	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkwbc	韓国語版 Solaris WBEM サービス
SUNWkwbcpc	韓国語 OpenWindows バイナリ互換パッケージ
SUNWkwdev	韓国語版 Solaris WBEM SDK

表 33-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkwsr2	韓国語 Solaris Product Registry
SUNWkwsrv	韓国語 Solaris Product Registry ビューア
SUNWkxe	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkxftc	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxman	韓国語 X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 33-8 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: 共有

パッケージ	内容
SUNWabcp	SunOS 4.x バイナリ互換用アジア言語共通ファイル
SUNWerdm	OILBN README ディレクトリ
SUNWudct	Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール環境

表 33-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スペイン語

パッケージ	内容
NSCPescom	スペイン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWe8bas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要
SUNWe8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWe8he	スペイン語 CDE ヘルプランタイム環境

表 33-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWe8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8wm	スペイン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWedcl	スペイン語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWefd1	スペイン語版フォントダウンローダー
SUNWej2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スペイン語補遺)
SUNWemgp	スペイン語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWejmfpl	スペイン語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWejvdrv	スペイン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWejvrt	スペイン語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWeoaud	スペイン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWeobk	スペイン語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWeodcv	スペイン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWeodem	スペイン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWeodst	スペイン語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWeodte	スペイン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWeoint	スペイン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWeorte	スペイン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWepdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スペイン語版

表 33-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWesbas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWescgu	スペイン語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWesdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesdte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWeshe	スペイン語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeshed	スペイン語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWeshev	CDE ヘルプボリューム
SUNWesim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesj2p	スペイン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWesos	スペイン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWespmw	スペイン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWesreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWessmc	スペイン語版 Solaris Management Console
SUNWeswbc	スペイン語版 Solaris WBEM サービス
SUNWeswm	スペイン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWesws2	スペイン語版 Solaris Product Registry
SUNWeswsv	スペイン語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWetltk	スペイン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ

表 33-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWewacx	スペイン語 OPEN LOOK AccessX
SUNWexplt	スペイン語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 33-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スウェーデン語

パッケージ	内容
NSCPsvcom	スウェーデン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWs8bas	スウェーデン語 UTF-8 CDE ベース機能のメッセージ
SUNWs8dst	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWs8dte	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWs8he	スウェーデン語 UTF-8 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWs8im	スウェーデン語 UTF-8 CDE イメージエディタメッセージ
SUNWs8wm	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWsdc1	スウェーデン語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWsfdl	スウェーデン語版フォントダウンローダー
SUNWsj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スウェーデン語補遺)
SUNWsjmfp	スウェーデン語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWsjvdv	スウェーデン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWsjvrt	スウェーデン語版 JavaVM ランタイム環境

表 33-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWsmgp	スウェーデン語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWsoaud	スウェーデン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWsobk	スウェーデン語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWsodcv	スウェーデン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWsodem	スウェーデン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWsodst	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWsodte	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWsoimt	スウェーデン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWsorte	スウェーデン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWspdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スウェーデン語版
SUNWsscgu	スウェーデン語版 Solaris スマートカード管理 - グラフィカルユーザーインタフェース構成要素
SUNWstltk	スウェーデン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWsvbas	ベーススウェーデン語 CDE ベース機能メッセージ
SUNWsvdst	スウェーデン語 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWsvdte	スウェーデン語 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWsvhe	スウェーデン語 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWsvhed	スウェーデン語 CDE ヘルプ開発者環境メッセージ
SUNWsvhev	CDE ヘルプボリューム

表 33-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWsvim	スウェーデン語 CDE イメージエディタメッセージ
SUNWsvj2p	スウェーデン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWsvos	スウェーデン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWsvpmw	スウェーデン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWsvreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWsvsmc	スウェーデン語版 Solaris Management Console
SUNWsvwbc	スウェーデン語版 Solaris WBEM サービス
SUNWsvwm	スウェーデン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWsvws2	スウェーデン語版 Solaris Product Registry
SUNWsvwsv	スウェーデン語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWswacx	スウェーデン語 OPEN LOOK AccessX
SUNWsxplt	スウェーデン語 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWvbcp	スウェーデン語 OS バイナリ互換パッケージ
SUNWvwbcp	スウェーデン語 OpenWindows バイナリ互換パッケージ

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
AMImega	MEGA ファミリー SCSI ホストバスアダプタ
CADP160	Adaptec Ultra160 SCSI ホストアダプタドライバ
CPQcnft	Compaq NetFlex ファミリー NIC
CPQncr	Compaq ファミリー SCSI HBA
CPQsmii	アレイコントローラの Compaq SMART-2/E ファミリー
HPFC	Agilent ファイバチャネル HBA ドライバ
MADGFmt	NIC の Madge トークンリングファミリ
MYLXflp	Buslogic FlashPoint Ultra PCI SCSI
NCRos86r	NCR プラットフォームサポート、OS 機能 (root)

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
NSCPcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 のアプリケーションと構成ファイル
NSCPcpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (簡体字) 版
NSCPpcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の中国語 (繁体字) 版
NSCPjacom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の日本語 (共通) 版
NSCPkcom	国際化セキュリティをサポートする Netscape Communicator 4.7 の韓国語版
SUNW1251f	ロシア語追加ロケールフォント (1251)
SUNW5dt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5leu	中国語 (繁体字) 環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNW5ttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNW5xmft	中国語/台湾語 (BIG5) X Window System プラットフォームに必要なフォントパッケージ
SUNW5xp1t	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWadmap	システム管理作業の実行に使用するソフトウェア
SUNWadmc	システム管理に使用するコアソフトウェアライブラリ
SUNWadmfw	システムおよびネットワーク管理ライブラリとサービス
SUNWadmj	システム管理ツールに使用する Java ライブラリ
SUNWadmr	システムインストールの初期化用 root プログラムとスクリプト
SUNWadp	SCSI HBA の Adaptec 29xx/39/xx/78xx ファミリ

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWale	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有する共通ファイル。アジア言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWaled	日本語、中国語、韓国語ロケールで共有するマニュアルページ
SUNWami	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWamir	認証管理インフラストラクチャ (AMI) - 構成ファイル
SUNWarrf	アラビア語文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWatfsr	autoFS ファイルシステム用構成と起動ファイル
SUNWatfsu	autoFS ファイルシステム用ユーティリティとデーモン (automountd)
SUNWauadt	Australasia CDE サポート
SUNWauaos	Australasia OS サポート
SUNWauaow	Australasia OW サポート
SUNWaudd	新しいオーディオドライバアーキテクチャを使用する SunOS オーディオデバイスドライバ
SUNWaudio	オーディオバイナリ
SUNWbzip	bzip 圧縮ユーティリティ
SUNWcadp	Adaptec AHA-29xx/39xx、AIC-78xx Ultra 2 SCSI HBA
SUNWcamdt	中央アメリカ CDE サポート
SUNWcamos	中央アメリカ OS サポート
SUNWcamow	中央アメリカ OW サポート
SUNWcar.i	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWcdt	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWceudt	中央ヨーロッパ CDE サポート

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWceuos	中央ヨーロッパ OS サポート
SUNWceuw	中央ヨーロッパ OW サポート
SUNWcius8	UTF-8 用中国語 (簡体字) (EUC) iconv モジュール
SUNWcleu	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcor	Corollary PSMI MP モジュール
SUNWcpmp	Compaq PSMI MP モジュール
SUNWcqhpc	COMPAQ ホットプラグ PCI コントローラ用ドライバ
SUNWcsd	Solaris の初期ブートに必要な /dev および /devices のコアエントリ
SUNWcsl	特定の命令セットアーキテクチャ用コア共有ライブラリ
SUNWcsr	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWcsu	特定の命令セットアーキテクチャ用コアソフトウェア
SUNWctlu	CTL ロケール用印刷ユーティリティ
SUNWctpls	言語エンジン用配置インタフェース
SUNWcttf	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント
SUNWcudt	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWculeu	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcuplt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcxmft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWcxplt	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェア パッケージ
SUNWdeis	ドイツ語版インストールソフトウェア
SUNWdespl	スペルチェックエンジン - ドイツ語辞書
SUNWdfb.i	ダムフレームバッファ用デバイスドライバ
SUNWdoc	マニュアルページなどの文書の開発、表示、生産用ユーティリティとフォ ント (nroff/troff)
SUNWdtbas	CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWdtcor	Solaris デスクトップ /usr/dt ファイルシステムアンカー
SUNWdtct	UTF-8 コード変換ツール
SUNWdtcsm	共通デスクトップ環境 (CDE) 用デーモン
SUNWdtcst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdtdte	Solaris デスクトップログイン環境
SUNWdtezt	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パ フォーマンスメータ、ワークステーション情報
SUNWdthe	CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdthev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdthez	デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWdticn	共通デスクトップ環境 CDE 用アイコン
SUNWdtim	Solaris CDE イメージビューア
SUNWdtjxt	Java エクステンション
SUNWdtlog	デスクトップログイン用システムブート

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdtnsc	CDE 用 Netscape コンポーネント化サポート
SUNWdtrme	共通デスクトップ環境 (CDE) リリースマニュアル
SUNWdtscm	CDE Dtpower スキーム
SUNWdtwm	CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeeudt	東ヨーロッパ CDE サポート
SUNWeeuos	東ヨーロッパ OS サポート
SUNWeeuow	東ヨーロッパ OW サポート
SUNWesis	ラテンスペイン語版インストールソフトウェア
SUNWesspl	スペルチェックエンジン - スペイン語辞書
SUNWesu	追加 UNIX システムユーティリティ。awk、bc、cal、compress、diff、dos2unix、last、rup、sort、spell、sum、uniq、および uuencode を含む
SUNWeudba	米国英語 UTF-8 版 CDE ベース機能
SUNWeudbd	米国英語/UTF-8 版 CDE Dtbuilder
SUNWeudda	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWeudhr	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudhs	米国英語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeudis	米国英語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWeudiv	米国英語/UTF-8 版デスクトップイメージツール
SUNWeudlg	米国英語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWeudmg	米国英語/UTF-8 版デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWeuezt	米国英語/UTF-8 版デスクトップパワーパックアプリケーション

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWeugrf	sun_eu_greek 文字セット用 X11 フォント
SUNWeuluf	米国英語/UTF-8 環境ユーザーファイル
SUNWeuodf	米国英語/UTF-8 コア OPEN LOOK デスクトップファイル
SUNWeusru	米国英語/UTF-8 版 Solaris ユーザー登録
SUNWeuxwe	米国英語/UTF-8 X Window System 環境
SUNWfdl	Adobe PostScript プリンタ用 Solaris デスクトップフォントダウンローダー
SUNWfns	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - コアライブラリとユーティリティ
SUNWfris	フランス語版インストールソフトウェア
SUNWfrspl	スペルチェックエンジン - フランス語辞書
SUNWftpr	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWftpu	ファイル転送プロトコルデーモンとユーティリティ
SUNWgdt	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgleu	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgss	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - ユーザー
SUNWgssc	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - 構成
SUNWgssdh	NIS+ 拡張 Diffie-Hellman 用 GSS-API 機構ライブラリ
SUNWgssk	一般セキュリティサービスアプリケーションプログラムインタフェース、バージョン 2 - カーネル
SUNWgttf	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWgxfnt	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWgxplt	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhdt	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhiu8	UTF-8 用中国語 (繁体字) iconv モジュール
SUNWhler	中国語 (繁体字) 言語環境用ストリームモジュール。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhleu	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhtttf	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ
SUNWhudt	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhufnt	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWhuleu	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) UTF-8 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhuplt	中国語 (繁体字) UTF-8 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhxfnt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWhxplt	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWi13cs	X11 ISO-8859-13 コードセットサポート
SUNWi13rf	ISO-8859-13 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi15cs	X11 ISO-8859-15 コードセットサポート
SUNWi15rf	ISO-8859-15 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWi1cs	X11 ISO-8859-1 コードセットサポート
SUNWi1of	ISO-8859-1 (Latin-1) オプションフォント
SUNWi2cs	X11 ISO-8859-2 コードセットサポート
SUNWi2of	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi2rf	ISO-8859-2 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi4of	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi4rf	ISO-8859-4 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi5cs	X11 ISO-8859-5 コードセットサポート
SUNWi5of	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi5rf	ISO-8859-5 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi7cs	X11 ISO-8859-7 コードセットサポート
SUNWi7of	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi7rf	ISO-8859-7 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi8rf	ISO-8859-8 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWi9cs	X11 ISO-8859-9 コードセットサポート
SUNWi9of	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (オプションフォント)
SUNWi9rf	ISO-8859-9 文字セット用 X11 フォント (必須フォント)
SUNWiimr	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (root)
SUNWiimu	インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (usr)
SUNWinst	Sun インストールソフトウェア

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWipc	プロセス間通信用にメッセージ、セマフォ、または共有メモリーを監視または削除するユーティリティ
SUNWislcc	東ヨーロッパロケール用 XSH4 変換
SUNWisolc	ISO ラテン文字セット用 XSH4 変換
SUNWitis	イタリア語版インストールソフトウェア
SUNWitspl	スペルチェックエンジン - イタリア語辞書
SUNWj2dem	デモアプリケーションとアプレット
SUNWj2pi	Java Plug-in 1.2.2 用構成ファイル
SUNWj2rt	Java Virtual Machine とコアクラスライブラリ
SUNWjc0r	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 root ファイル
SUNWjc0u	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザーファイル
SUNWjedt	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjeuc	usr 用 Japanese (EUC) Feature Package (JFP) 固有ファイル。EUC 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjexpl	日本語 (EUC) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjfpr	Japanese Feature Package (JFP) 用ストリームモジュール。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjfpu	usr 用 Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル。JFP 環境の実行に必要なパッケージ
SUNWjiu8	{eucJP PCK} および UTF-8 日本語間でのデータ変換用 iconv モジュール
SUNWjman	SUNWjfpr および SUNWjfpu 用英文マニュアルページを表示するための Japanese Feature Package (JFP) マニュアルページ
SUNWjmfj	JMF プレイヤ

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWjpck	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package (JFP) 固有ファイル。 PCK 環境のサポートに必要なパッケージ
SUNWjpdtd	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpxpl	日本語 (PCK) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjsnmp	Solaris Java SNMP API
SUNWju8	Japanese (UTF-8) Feature Package (JFP) 固有ファイル。日本語 UTF-8 環境 のサポートに必要なパッケージ
SUNWjudtd	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuxpl	日本語 (UTF-8) 版 X Window System プラットフォームソフトウェア
SUNWjvjit	Java JIT コンパイラ
SUNWjvrt	JavaVM ランタイム環境。java、appletviewer、classes.zip を含む
SUNWjxcft	日本語 JISX212 TrueType およびビットマップフォント
SUNWjxmft	日本語 X Window System 最小限必須フォント - gothic medium
SUNWkdt	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkey	各キーの各国語版の意味などのキーボード属性を指定する構成テーブル
SUNWkiu8x	UTF-8 用韓国語 (UTF-8) iconv モジュール (64 ビット)
SUNWkler	韓国語言語環境に必要なストリームモジュール
SUNWkleu	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語の環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkoi8f	KOI8-R 文字セット用 X11 フォント
SUNWkttf	韓国語 True Type フォント
SUNWkudtd	韓国語 UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWkuleu	韓国語 UTF-8 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkuxpl	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkvm.i	特定のハードウェアプラットフォームグループ用コアソフトウェア
SUNWkxfnt	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxmft	韓国語 UTF-8 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxplt	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWlccom	各国語対応様化共通ファイル
SUNWlcl	ロケール変換ライブラリ
SUNWlibC	Sun Workshop コンパイラバンドル libC
SUNWlibCf	Sun WorkShop バンドル libC (cfront バージョン)
SUNWlibms	Sun WorkShop バンドル共有 libm
SUNWlj3dv	各言語対応 JDK 1.3 開発環境
SUNWlj3rt	各言語対応 JDK 1.3 実行時環境
SUNWllc	IEEE 802.2 Logical Link Control 2 (LLC2) サービスを実装する LLC2 ドライバ
SUNWllcr	LLC2 ドライバ用構成および起動ファイル
SUNWloc	各国語対応ユーティリティおよび C ロケール (POSIX デフォルト) 定義
SUNWlpmg	プリンタ警告を転送する ToolTalk プログラム
SUNWmeadt	中東 CDE サポート
SUNWmeaos	中東 OS サポート

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWmeaow	中東 OW サポート
SUNWmfrun	Motif 2.1.1 ライブラリ、ヘッダー、xmbind、およびバインディング
SUNWmgapp	Solaris 管理アプリケーション
SUNWmibii	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 snmp デーモン
SUNWmlx	RAID デバイスの Mylex DAC960 ファミリ
SUNWmp	MP 印刷フィルタ
SUNWnafdt	北アフリカ CDE サポート
SUNWnafos	北アフリカ OS サポート
SUNWnafow	北アフリカ OW サポート
SUNWnamdt	北米 CDE サポート
SUNWnamos	北米 OS サポート
SUNWnamow	北米 OW サポート
SUNWneudt	北欧 CDE サポート
SUNWneuos	北欧 OS サポート
SUNWneuow	北欧 64 ビット OS サポート
SUNWnistr	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用構成ファイルとディレクトリ
SUNWnisu	ネットワーク情報システム (NIS と NIS+) 用ユーティリティ
SUNWntpr	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)
SUNWntpu	Network Time Protocol v3、NTP デーモンおよびユーティリティ (xntpd 3.4y)

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWolaud	オーディオおよび他の補助オーディオサポート
SUNWolbk	OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWoldcv	OPEN LOOK 文書およびヘルプ表示アプリケーション
SUNWoldst	OPEN LOOK デスクトップツール
SUNWoldte	OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)
SUNWolimt	OPEN LOOK imagetool
SUNWolrte	OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWos86r	プラットフォームサポート、OS 機能 (root)
SUNWos86u	プラットフォームサポート、OS 機能 (root)
SUNWpcelx	3COM EtherLink III PCMCIA Ethernet ドライバ
SUNWpcmci	PCMCIA カードサービス用カーネルモジュールおよび起動ファイル
SUNWpcmcu	PCMCIA カードサービスを提供するデーモン
SUNWpcmem	PCMCIA メモリーカードドライバ
SUNWpcer	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpcser	PCMCIA シリアルカードドライバ
SUNWpcu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpdas	Palm Pilot PDA でデスクトップアプリケーションを同期させるツール
SUNWpe10	Xircom パラレルポート Ethernet アダプタ
SUNWpl5u	Perl 5 プログラミング言語
SUNWplow	部分ロケールを有効にする OpenWindows

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWplow1	部分ロケールを有効にする OpenWindows
SUNWpmi	X サーバー VESA PMI ファイル
SUNWpmowr	電源管理システム OW ユーティリティ (root)
SUNWpmowu	電源管理システム OW ユーティリティ (usr)
SUNWpmr	電源管理システム構成ファイルおよび rc スクリプト
SUNWpmu	電源管理システムバイナリ
SUNWppm	Solaris でプリンタを管理するグラフィカルツール
SUNWpsdcr	プラットフォームサポート、バス非依存型デバイスドライバ (root)
SUNWpsdir	プラットフォームサポート、ISA バスデバイスドライバ (root)
SUNWpsdpr	PCMCIA ATA カードドライバ
SUNWpsf	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWpsr	印刷サービス用構成および起動ファイル
SUNWpsu	印刷サービス用クライアント構成ファイルおよびユーティリティ
SUNWrmdm	OILBN README ディレクトリ
SUNWrmodr	Realmode モジュール (root)
SUNWrmodu	Realmode モジュール (usr)
SUNWrsg	ONC RPC 用 GSS-API サービス
SUNWrsgk	ONC RPC 用 カーネル GSS-API サービス
SUNWsacom	root ファイルシステム用 Solstice Enterprise Agents 1.0.3 ファイル
SUNWsadmi	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 デスクトップ管理インタフェース

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsamdt	南米 CDE サポート
SUNWsamos	南米 OS サポート
SUNWsamow	南米 OW サポート
SUNWsasnm	Solstice Enterprise Agents 1.0.3 Simple Network Management Protocol
SUNWscplp	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用印刷ユーティリティ
SUNWscpr	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ
SUNWscpu	ユーザーインタフェースと SunOS 4.x とのソースビルド互換用ユーティリティ
SUNWseudt	南ヨーロッパ CDE サポート
SUNWseuos	南ヨーロッパ OS サポート
SUNWseuow	南ヨーロッパ OW サポート
SUNWslpr	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの root ファイルシステム部分。SLP 構成ファイルと SLP デーモン起動スクリプトを含む
SUNWslpu	サービスロケーションプロトコル (SLP) フレームワークの usr ファイルシステム部分。C と Java 開発ライブラリ、およびディレクトリエージェント (DA) として機能できるデーモンを含む
SUNWsndmr	Sendmail root
SUNWsndmu	Sendmail ユーザー
SUNWsolnm	/etc/release ファイル内の Solaris 名を有効にする
SUNWspl	スペルチェックエンジン - ベースリリース (英語)
SUNWsgregu	ユーザー登録情報を入力するためのデスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsvs	スウェーデン語版インストールソフトウェア
SUNWsvspl	スペルチェックエンジン - スウェーデン語辞書
SUNWswmt	Solaris 2.x インストールおよびパッチユーティリティ
SUNWtdbas	タイ語版 CDE ベース機能
SUNWtddst	タイ語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWtddte	タイ語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWtdft	タイ語版 CDE フォント
SUNWtdwm	タイ語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWtiu8	UTF-8 用タイ語 UTF-8 iconv モジュール
SUNWtleu	タイ言語環境固有ファイル。タイ言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWtltk	共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要な ToolTalk バイナリと共有ライブラリ
SUNWtoo	ソフトウェア開発用ユーティリティ。ld、ldd、od、および truss を含む
SUNWtxfnt	タイ語 X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWtxodt	タイ語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWtxplt	X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWudf	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム (usr)
SUNWudfr	Universal Disk Format 1.50 ファイルシステム
SUNWuiu8	UTF-8 ロケール用 iconv モジュール
SUNWuium	UTF-8 ロケール用 iconv マニュアルページ
SUNWulcf	UTF-8 ロケール環境共通ファイル

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWulocf	UTF-8 ロケール環境共通 OpenWindows 共通ファイル
SUNWusb	USBA (USB フレームワーク) および USB デバイスドライバ
SUNWuxlcf	UTF-8 X ロケール環境共通ファイル
SUNWvolg	ボリューム管理グラフィカルユーザーインターフェース
SUNWvolr	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用構成および起動ファイル
SUNWvolu	ボリューム (取り外し可能媒体) 管理と volfs 用ユーティリティおよびデーモン (vold)
SUNWwbapi	Solaris WBEM API
SUNWwbcor	Solaris WBEM Services (root)
SUNWwbcou	Solaris WBEM Services (usr)
SUNWweudt	西ヨーロッパ CDE サポート
SUNWweuos	西ヨーロッパ OS サポート
SUNWweuow	西ヨーロッパ OW サポート
SUNWwsr2	Solaris Product Registry および Web Start サポート
SUNWwsrv	Solaris Product Registry ビューア
SUNWxcu4	XCU4 仕様への準拠を提供するユーティリティ
SUNWxi18n	libX11.so によりロードされるランタイムライブラリ。国際化 X Window System アプリケーション用入出力機能を提供する
SUNWxildh	XIL ロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilow	XIL デスクセットロード可能パイプラインライブラリ
SUNWxilr1	XIL ランタイム環境

表 34-1 Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxim	複数の入力システムを提供する X 入力システムサーバー
SUNWxsvc	Xinside Xserver 疑似ドライバ
SUNWxwacx	AccessX クライアントプログラム
SUNWxwcfnt	X Window System オプションフォント
SUNWxwctl	Type1/CID フォント用フォントサポートライブラリ
SUNWxwdv	X Window System 用カーネルデバイスドライバ
SUNWxwfont	X Window System フォント (必須フォント)
SUNWxwfs	OpenWindows フォントサーバー
SUNWxwice	OpenWindows ICE ライブラリおよび iceauth
SUNWxwmod	OpenWindows 製品の実行に必要なカーネルモジュール
SUNWxwoft	X Window System オプションフォント
SUNWxwopt	基本以外の MIT コアクライアントおよびサーバー拡張
SUNWxwpls	X サーバープラットフォームソフトウェア
SUNWxwplt	X Window System プラットフォームソフトウェア (サーバー、DPS、拡張、Xlib、必須および共通 MIT クライアント)
SUNWxwrtl	X Window System およびグラフィックスランタイムライブラリリンク
SUNWxwscf	X サーバー検証と構成
SUNWxwssu	X サーバープラットフォーム固有、構成起動ソフトウェア
SYMhis1	Symbios 8XX 高性能 SCSI HBA

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を示します。

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ

パッケージ	内容
SUNWaccr	システム動作のアカウントिंगと報告のためのユーティリティ
SUNWaccu	システム動作のアカウントिंगと報告のためのユーティリティ
SUNWapchS	Apache HTTPD サーバー用ソース
SUNWapchd	Apache HTTP サーバー (文書)
SUNWapchr	Apache HTTP サーバープログラム (root 構成要素)
SUNWapchu	Apache HTTP サーバープログラム (usr 構成要素)
SUNWapppr	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用構成ファイル
SUNWapppu	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するデーモン用ロギンサービス
SUNWarc	静的にリンクされた実行可能ファイルのシステム開発用システムライブラリ (アーカイブ ar 形式)

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWast	システムファイルとディレクトリへのアクセスを監視または制限することでシステムセキュリティを改善する管理ユーティリティ
SUNWaudh	オーディオドライバとアプリケーション用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWaudmo	オーディオデモプログラム、ライブラリ、サウンド
SUNWbash	GNU Bourne-Again シェル (bash)
SUNWbashS	GNU Bourne-Again シェル (bash) 用ソース
SUNWbnur	UUCP ユーティリティ用構成および起動ファイル
SUNWbnuu	UUCP ユーティリティおよびデーモン
SUNWbtool	システム開発 ユーティリティ。ar、dis、dump、elfdump、lex、lorder、mcs、nm、prof、ranlib、rpcgen、size、strip、tsort、および yacc を含む。
SUNWbzipS	bzip 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWcoff	UNIX System V、リリース 3.x バイナリ互換
SUNWcpc.i	CPU 性能カウンタ用カーネルサポート
SUNWcpcu	CPU 性能カウンタライブラリおよびユーティリティ
SUNWcstl	アプリケーション追跡用 Appttrace ユーティリティ。共有オブジェクトを含む
SUNWdclnt	ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWdfbh	ダムフレームバッファのソフトウェア開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWdhcm	DHCP サーバー用グラフィカル管理インタフェース
SUNWdhcsb	サービスプロバイダインタフェースのバージョン 1 をエクスポートする、バイナリファイルフォーマットパブリックモジュール。DHCP データを格納するために使用する。このモジュールは、ASCII ファイルおよび NIS+ パブリックモジュールよりも性能がよい。

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWdhcsr	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分
SUNWdhcsu	ネットワーク構成パラメータを BOOTP/DHCP クライアントへ提供するため BOOT プロトコルまたは動的ホスト構成プロトコルのどちらか、または両方を使用する SunOS BOOTP/DHCP サービスのルートファイルシステム部分。そのサービスの管理ユーティリティが含まれる
SUNWdpl	システム開発性能計測用プロファイルでコンパイルされたシステムライブラリ
SUNWdtab	CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWtdem	CDE デモ
SUNWdthed	CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdtinc	CDE インクルードファイル
SUNWdtma	共通デスクトップ環境 (CDE) 用マニュアルページ
SUNWdtmad	共通デスクトップ環境 (CDE) 開発者マニュアルページ
SUNWdtmaz	アドレスマネージャ、プロセスマネージャ、ファイルマネージャ、パフォーマンスメータ、ワークステーション情報用マニュアルページ
SUNWebnfs	WebNFS 用 Java パッケージ
SUNWfac	Form and Menu Language Interpreter (FMLI) 実行環境用ユーティリティとリソース
SUNWfnsx5	フェデレーテッド・ネーミング・サービス (XFN) - X.500 Directory サポート
SUNWglt	レイアウトテーブル生成ユーティリティ
SUNWgpch	GNU パッチユーティリティ
SUNWgpchS	GNU パッチユーティリティ用ソース

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWgzip	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ
SUNWgzipS	GNU Zip (gzip) 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWhea	ソフトウェア一般開発用 SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWj2dem	JDK 1.2 デモプログラム
SUNWj2dev	JDK 1.2 開発ツール (javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む)
SUNWj2man	JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWj3dev	JDK 1.3 開発ツール (javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む)
SUNWj3dmo	JDK 1.3 デモプログラム
SUNWj3man	JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWj3rt	JDK 1.3 実行時環境
SUNWjvdem	JavaVM デモプログラム
SUNWjvdev	JavaVM 開発者パッケージ (javac、javah、javap を含む)
SUNWjvman	JavaVM マニュアルページ
SUNWkcspf	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWkcspg	Kodak Color Management System ランタイム環境デモ
SUNWkcsrt	Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWless	GNU ページャ (less)
SUNWlessS	GNU ページャ (less) 用ソース
SUNWlibm	Sun WorkShop バンドル libm
SUNWlldap	動的にリンクされた実行可能ファイルのシステム開発用 LDAP ライブラリ

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWman	システムリファレンスマニュアルページ
SUNWmc	Solaris Management Console 用クライアントおよびサーバーコンポーネント
SUNWmcc	Solaris Management Console 用クライアントコンポーネント
SUNWmccom	Solaris Management Console 用共通コンポーネント
SUNWmcdev	Solaris Management Console 用ソフトウェア開発キット
SUNWmcex	Solaris Management Console のアプリケーション例
SUNWmdb	モジュールデバッカ (MDB)
SUNWmdbdm	モジュールデバッカ (MDB) デモ用モジュールとソースコード
SUNWmfdev	Motif UIL コンパイラ
SUNWmfman	CDE Motif マニュアル
SUNWmga	Solaris 管理アプリケーション
SUNWmipr	モバイル IP 構成および起動スクリプト
SUNWmipu	モバイル IP デーモンおよびユーティリティ
SUNWmkcd	CD 作成ユーティリティ
SUNWmkcds	CD 作成ユーティリティ用ソース
SUNWncar	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にするコア構成要素
SUNWncau	ネットワークキャッシュとアクセラレータを有効にする構成要素
SUNWoladd	OPEN LOOK 代替デスクトップデモ
SUNWoldem	OPEN LOOK デモプログラム
SUNWoldim	さまざまな形式のグラフィックスファイル

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWolinc	OPEN LOOK インクルードファイル
SUNWolman	OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ
SUNWolslb	プログラマ用 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップ静的および lint ライブラリ
SUNWolsrc	プログラマ用 OPEN LOOK サンプルソースコード
SUNWosdem	OS インタフェースの使用をデモするソースコード: ELF
SUNWp15m	Perl 5 リファレンスマニュアルページ
SUNWp15p	Perl 5 プログラミング言語用 POD 文書
SUNWpmowm	電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWpppd	PPP (ポイントツーポイントプロトコル) を実装するデバイスドライバ
SUNWpppdr	Solaris PPP 用構成ファイル
SUNWpppdu	Solaris PPP 用デーモンおよびユーティリティ
SUNWpppg	PPP と共に使用するための任意 GNU ユーティリティ
SUNWpppgs	PPP と共に使用するための任意 GNU ユーティリティのソース
SUNWpppk	非同期ポイントツーポイントプロトコル (PPP) を実装するカーネルデバイスドライバ
SUNWpsh	バスとプラットフォーム固有のデバイスドライバ用ソフトウェア開発のための SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWrpm	RPM アーカイブを処理するユーティリティ
SUNWs53	UNIX System V、リリース 3 ファイルシステム用カーネルモジュールおよび関連ユーティリティ
SUNWsadml	Solstice ランチャーと関連ライブラリ
SUNWspot	Solaris バンドルツール

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWsrta	SunOS 4.x とのソースビルド互換性のためのライブラリ (アーカイブ ar 形式)
SUNWsrh	SunOS 4.x とのソースビルド互換性のための SunOS C/C++ ヘッダーファイル
SUNWsutl	システムの障害復旧のための SunOS 4.x とのソースビルド互換性用静的リンクユーティリティ
SUNWtcsh	Tenex C - シェル (tcsh)
SUNWtcshS	Tenex C - シェル用ソース (tcsh)
SUNWter	端末および疑似端末の機能を記述した拡張 terminfo データベース
SUNWtltk	プログラマ用 ToolTalk 静的ライブラリとインクルードファイル
SUNWtltk	ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用 ToolTalk マニュアルページ
SUNWtnfc	追跡ファイルに Trace Normal Format (TNF) レコードを生成できる、カーネルとアプリケーションにある、検証ポイントを有効にするのに必要なユーティリティ
SUNWtnfd	Trace Normal Format (TNF) 機能を使用する開発者に必要なユーティリティ
SUNWucbt	UCB 互換ライブラリ用 Appttrace 共有オブジェクト
SUNWusbu	USB ヘッダー
SUNWwbdev	Sun WBEM SDK
SUNWwbdoc	Sun WBEM SDK — ドキュメンテーション
SUNWwbmc	WBEM と SMC を統合するコンポーネント
SUNWxcu4t	make および sccs ユーティリティ XCU4 準拠バージョン
SUNWxilh	XIL API ヘッダーファイル
SUNWxwdem	X Window System デモプログラム

表 35-1 Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel) に含まれるパッケージ 続く

パッケージ	内容
SUNWxwdim	さまざまな形式のグラフィックスファイル
SUNWxwdx	DPS MOTIF ライブラリ
SUNWxwfa	Solaris プラットフォーム用フォント管理アプリケーション
SUNWxwhl	/usr/include にある X Window System およびグラフィックスヘッダーリンク
SUNWxwinc	X Window System インクルードファイル
SUNWxwman	X Window System オンラインユーザーマニュアルページ
SUNWxwpmn	X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWxwslb	プログラマ用 X Window System 静的および lint ライブラリ
SUNWxwsrc	プログラマ用 X Window System サンプルソースコード
SUNWyp	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー
SUNWypu	Solaris 2.6 以上用 NIS サーバー
SUNWzip	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ
SUNWzipS	Info-Zip (zip) 圧縮ユーティリティ用ソース
SUNWzlib	Zip 圧縮ライブラリ
SUNWzlibS	Zip 圧縮ライブラリ用ソース
SUNWzsh	Z シェル (zsh)
SUNWzshS	Z シェル (zsh) 用ソース

Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ

この章では、Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージの一覧と、その内容を言語ごとに示します。

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字)

パッケージ	内容
NSCPccom	中国語 (簡体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPcucom	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPgcom	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWcadis	中国語 (簡体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcadma	中国語 (簡体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要
SUNWcdab	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWcdbas	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ベース機能
SUNWcdc1	中国語 (簡体字) 版ディスククライアント管理アプリケーション

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcddst	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcddte	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcdez	中国語 (簡体字) (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcdf	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE フォント
SUNWcdhe	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcdhev	中国語 (簡体字) (EUC) CDE ヘルプボリューム
SUNWcdhez	中国語 (簡体字) (EUC) (共通) デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcdicn	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE アイコン
SUNWcdim	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE イメージツール
SUNWcdwm	中国語 (簡体字) (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWcepmw	中国語 (簡体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcexir	中国語 (簡体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWcfdl	中国語 (簡体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWcj2p	中国語 (簡体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWcj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (簡体字) 補遺)
SUNWcjmf	中国語 (簡体字) 版 JMF プレイヤー
SUNWcjv	中国語 (簡体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWcjvrt	中国語 (簡体字) 版 JavaVM ランタイム環境

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWckcsr	中国語 (簡体字) (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWcleue	中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (EUC) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcmga	中国語 (簡体字) 版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWcoaud	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWcodcv	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWcodem	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWcodst	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWcodte	中国語 (簡体字) (EUC) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcoimt	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWcoman	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcorte	中国語 (簡体字) (EUC) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWcpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (簡体字) 版
SUNWcrdm	中国語 (簡体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWcreg	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcsadl	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWctltk	中国語 (簡体字) (EUC) ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWcttfe	中国語 (簡体字) (EUC) True Type フォント

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcuada	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 SUNWgadis パッケージが必要
SUNWcuadi	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWcubas	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWcudab	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWcudc	中国語 (簡体字) (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWcudez	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWcudft	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWcudhe	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWcudhv	中国語 (簡体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWcudhz	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWcudic	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWcudim	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWcudst	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWcudte	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWcudwm	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWculee	中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWcuman	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWcuodt	中国語 (簡体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWcupmw	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWcurdm	中国語 (簡体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWcureg	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWcusad	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWcuudc	中国語 (簡体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWcuxe	中国語 (簡体字) (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcwbc	中国語 (簡体字) 版 Solaris WBEM サービス
SUNWcwdev	中国語 (簡体字) 版 Solaris WBEM SDK
SUNWcwsr2	中国語 (簡体字) 版 Solaris Product Registry
SUNWcwsvr	中国語 (簡体字) 版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWcxe	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWcxfont	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWcxman	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWcxoft	中国語 (簡体字) (EUC) X Window System オプションフォントパッケージ
SUNWgadis	中国語 (簡体字) (GBK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWgadma	中国語 (簡体字) (GBK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (簡体字) (GBK) 版 SUNWgadis パッケージが必要

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWgdab	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWgdbas	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ベース機能
SUNWgddst	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWgddte	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWgdez	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWgdft	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE フォント
SUNWgdhe	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWgdhev	中国語 (簡体字) (GBK) CDE ヘルプボリューム
SUNWgdhez	中国語 (簡体字) (GBK) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWgdicn	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE アイコン
SUNWgdim	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップイメージツール
SUNWgdwm	中国語 (簡体字) (GBK) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWgleue	中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境固有ファイル。中国語 (簡体字) (GBK) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWgodte	中国語 (簡体字) (GBK) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWgpmw	中国語 (簡体字) (GBK) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWgrdm	中国語 (簡体字) (GBK) OILBN README ディレクトリ
SUNWgreg	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris ユーザー登録
SUNWgsadl	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ

表 36-1 Solaris LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (簡体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWgttfe	中国語 (簡体字) (GBK) True Type フォント
SUNWgudc	中国語 (簡体字) (GBK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWgxe	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWgxman	中国語 (簡体字) (GBK) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字)

パッケージ	内容
NSCP5com	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPhcom	中国語 (繁体字) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPhucom	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNW5adi	中国語 (繁体字) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNW5adma	中国語 (繁体字) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (繁体字) 版 SUNW5adi パッケージが必要
SUNW5dab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNW5dbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能
SUNW5ddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNW5ddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNW5dezt	中国語 (繁体字) (BIG5) 版デスクトップパワーバックアプリケーション

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNW5dft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNW5dhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNW5dhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNW5dhez	中国語 (繁体字) (共通 BIG5) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNW5dicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNW5dim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNW5dwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNW5leue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (BIG5) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNW5odte	中国語 (繁体字) (BIG5) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNW5pmw	中国語 (繁体字) (BIG5) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNW5rdm	中国語 (繁体字) (BIG5) OILBN README ディレクトリ
SUNW5sadl	中国語 (繁体字) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNW5ttfe	中国語 (繁体字) True Type フォントパッケージ拡張
SUNW5udc	中国語 (繁体字) (BIG5) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNW5xfnt	中国語 (繁体字) (BIG5) X Window System プラットフォーム必須フォントパッケージ
SUNWhadis	中国語 (繁体字) (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWhadma	中国語 (繁体字) (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (繁体字) (EUC) 版 SUNWhadis パッケージが必要

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhdab	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhdbas	中国語 (繁体字) 版 CDE ベース機能
SUNWhdc1	中国語 (繁体字) 版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWhddst	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWhddte	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhdez	中国語 (繁体字) (EUC) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWhdft	中国語 (繁体字) 版 CDE フォント
SUNWhdhe	中国語 (繁体字) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWhdhev	中国語 (繁体字) CDE ヘルプボリューム
SUNWhdhez	中国語 (繁体字) (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWhdicn	中国語 (繁体字) 版 CDE アイコン
SUNWhdim	中国語 (繁体字) 版 CDE イメージツール
SUNWhdwm	中国語 (繁体字) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhepmw	中国語 (繁体字) (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWhexir	中国語 (繁体字) (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWhfd1	中国語 (繁体字) 版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用
SUNWhj2p	中国語 (繁体字) 版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWhj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (中国語 (繁体字) 補遺)

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhjmfj	中国語 (繁体字) 版 JMF プレイヤー
SUNWhjvdv	中国語 (繁体字) 版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWhjvrt	中国語 (繁体字) 版 JavaVM ランタイム環境
SUNWhkcsr	中国語 (繁体字) (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWhleue	中国語 (繁体字) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhmga	中国語 (繁体字) 版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWhoaud	中国語 (繁体字) OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWhodcv	中国語 (繁体字) OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWhodem	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWhodst	中国語 (繁体字) OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWhodte	中国語 (繁体字) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhoimt	中国語 (繁体字) OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWhoman	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニユアルページパッケージ
SUNWhorte	中国語 (繁体字) OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWhpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 中国語 (繁体字) 版
SUNWhrdm	中国語 (繁体字) (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWhreg	中国語 (繁体字) 版 Solaris ユーザー登録

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhsadl	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhtltk	中国語 (繁体字) ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWhttfe	中国語 (繁体字) True Type オプションフォントパッケージ拡張
SUNWhuada	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 SUNW5adi パッケージが必要
SUNWhuadi	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWhubas	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ベース機能
SUNWhuccd	中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境固有ファイル。中国語 (繁体字) コンソールディスプレイ環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhudab	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWhudc	中国語 (繁体字) (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhudez	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWhudft	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE フォント
SUNWhudhe	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWhudhv	中国語 (繁体字) (UTF-8) CDE ヘルプボリューム
SUNWhudhz	中国語 (繁体字) (共通 UTF-8) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWhudic	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE アイコン
SUNWhudim	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE イメージツール
SUNWhudst	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション

表 36-2 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 中国語 (繁体字) 続く

パッケージ	内容
SUNWhudte	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWhudwm	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWhulee	中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境固有ファイル。中国語 (繁体字) (UTF-8) 言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWhuodt	中国語 (繁体字) (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWhupmw	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWhurdm	中国語 (繁体字) (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWhusad	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWhuudc	中国語 (繁体字) (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWhwbc	中国語 (繁体字) 版 Solaris WBEM サービス
SUNWhwdev	中国語 (繁体字) 版 Solaris WBEM SDK
SUNWhwsr2	中国語 (繁体字)版 Solaris Product Registry
SUNWhwsrv	中国語 (繁体字)版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWhxe	中国語 (繁体字) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWhxman	中国語 (繁体字) X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 36-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語

パッケージ	内容
NSCPfrcd0	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (U.S. セキュリティをサポート)
NSCPfrcom	フランス語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWf8bas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWf8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8dte	CDE デスクトップ環境
SUNWf8he	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWf8im	フランス語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWf8wm	フランス語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWf8dcl	フランス語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWf8fdl	フランス語版フォントダウンローダー
SUNWfj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (フランス語補遺)
SUNWfjmfj	フランス語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWfjvdv	フランス語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWfjvrt	フランス語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWfmgp	フランス語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWfoaud	フランス語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWfobk	フランス語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWfodcv	フランス語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWfodem	フランス語 OPEN LOOK デモプログラム

表 36-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfodst	フランス語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWfodte	フランス語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWfoimt	フランス語 OPEN LOOK imagetool
SUNWforte	フランス語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWfpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - フランス語版
SUNWfrbas	フランス語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWfrdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWfrdte	CDE デスクトップ環境
SUNWfrhe	フランス語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWfrhed	フランス語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWfrhev	CDE ヘルプボリューム
SUNWfrim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWfrj2p	フランス語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWfros	フランス語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWfrpmw	フランス語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWfrreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWfrsmc	フランス語版 Solaris Management Console
SUNWfrwbc	フランス語版 Solaris WBEM サービス

表 36-3 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: フランス語 続く

パッケージ	内容
SUNWfrwm	フランス語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWfrws2	フランス語版 Solaris Product Registry
SUNWfrwsv	フランス語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWftltk	フランス語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWfwacx	フランス語 OPEN LOOK AccessX
SUNWfwdev	フランス語版 Sun WBEM SDK リソース
SUNWfxplt	フランス語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 36-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語

パッケージ	内容
NSCPdecom	ドイツ語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWd8bas	ドイツ語版 UTF-8 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要
SUNWd8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWd8he	ドイツ語版 CDE ヘルプ UTF-8 ランタイム環境
SUNWd8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWd8wm	ドイツ語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWddcl	ドイツ語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWdebas	ドイツ語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要

表 36-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdedst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdedte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWdehe	ドイツ語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWdehed	ドイツ語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWdehev	CDE ヘルプボリューム
SUNWdeim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWdej2p	ドイツ語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWdeos	ドイツ語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWdepmw	ドイツ語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWdereg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWdesmc	ドイツ語版 Solaris Management Console
SUNWdewbc	ドイツ語版 Solaris WBEM サービス
SUNWdewm	ドイツ語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWdews2	ドイツ語版 Solaris Product Registry
SUNWdewsv	ドイツ語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWdfd1	ドイツ語版フォントダウンローダー
SUNWdj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (ドイツ語補遺)
SUNWdjmf	ドイツ語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWdjv	ドイツ語版 JavaVM 開発者パッケージ

表 36-4 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: ドイツ語 続く

パッケージ	内容
SUNWdjvrt	ドイツ語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWdmgp	ドイツ語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWdoaud	ドイツ語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWdobk	ドイツ語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWdodcv	ドイツ語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWdodem	ドイツ語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWdodst	ドイツ語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWdodte	ドイツ語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWdoimt	ドイツ語 OPEN LOOK imagetool
SUNWdorte	ドイツ語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWdpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - ドイツ語版
SUNWdtltk	ドイツ語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWdwacx	ドイツ語 OPEN LOOK AccessX
SUNWdxplt	ドイツ語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 36-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語

パッケージ	内容
NSCPitcom	イタリア語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWi8bas	イタリア語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な

表 36-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWi8dst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWi8dte	イタリア語 CDE UTF-8 デスクトップログイン環境
SUNWi8he	イタリア語 CDE ヘルプランタイル環境
SUNWi8im	イタリア語 CDE UTF-8 デスクトップイメージエディタ
SUNWi8wm	イタリア語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWidcl	イタリア語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWifdl	イタリア語版フォントダウンローダー
SUNWij2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (イタリア語補遺)
SUNWimgp	イタリア語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWijmfp	イタリア語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWijvdv	イタリア語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWijvrt	イタリア語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWioaud	イタリア語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWiobk	イタリア語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWiodcv	イタリア語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWiodem	イタリア語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWiodst	イタリア語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWiodte	イタリア語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWioimt	イタリア語 OPEN LOOK imagetool

表 36-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWiorthe	イタリア語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWipdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - イタリア語版
SUNWitbas	イタリア語版 CDE のベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWitdst	イタリア語版 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWitdte	イタリア語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWithe	イタリア語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWitthed	イタリア語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWithev	CDE ヘルプボリューム
SUNWitim	イタリア語版 CDE デスクトップイメージエディタ
SUNWitj2p	イタリア語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWitltk	イタリア語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWitos	イタリア語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWitpmw	イタリア語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWitreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWitsmc	イタリア語版 Solaris Management Console
SUNWitwbc	イタリア語版 Solaris WBEM サービス
SUNWitwm	イタリア語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWitws2	イタリア語版 Solaris Product Registry

表 36-5 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: イタリア語 続く

パッケージ	内容
SUNWitwsv	イタリア語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWiwacx	イタリア語 OPEN LOOK AccessX
SUNWixplt	イタリア語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語

パッケージ	内容
JSat8xw	日本語入力システム ATOK8 - 日本語 Solaris 用
JSatsvr	日本語入力システム ATOK12 root ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvu	日本語入力システム ATOK12 usr ファイル - 日本語 Solaris 用
JSatsvw	日本語入力システム ATOK12 X11 サポートファイル - 日本語 Solaris 用
NSCPjecom	日本語 (EUC) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjpcom	日本語 (PCK) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPjucom	日本語 (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWjadcl	日本語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWjadis	日本語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjadma	日本語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (EUC) 版 SUNWjadis パッケージが必要
SUNWjaj2p	日本語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWjc0d	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - CDE Motif 用

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjc0w	日本語仮名漢字変換サーバー cs00 ユーザー辞書管理ツール - OPEN LOOK 用。このパッケージは、X Window System 上で X 入力システムサーバーを使用するのに必要
SUNWjcs3f	日本語 JIS X0212 Type1 フォント - 印刷用
SUNWjdab	日本語 (共通) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjdbas	日本語 (共通) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjddst	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjddte	日本語 (EUC) 版 Solaris デスクトップログイン環境
SUNWjdhcm	日本語版 DHCP Manager
SUNWjdhe	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjdhed	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjdhev	日本語 (共通) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjdhez	日本語 (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWjdim	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjdrme	日本語 (EUC) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWjdwm	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjeab	日本語 (EUC) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjebas	日本語 (EUC) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWject	日本語 (EUC) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjedev	日本語 (EUC) 開発環境パッケージ固有ファイル

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjeezt	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWjehcv	日本語 (EUC) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjehcz	日本語 (EUC) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjej2m	日本語 (EUC) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWjej3m	日本語 (EUC) JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWjejmnm	日本語 (EUC) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマーとユーザー用
SUNWjeman	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWjfp _r と SUNWjfp _u 用日本語 (EUC) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語 マニュアルページの表示に必要な
SUNWjepmm	日本語 (EUC) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjepmw	日本語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjeuce	Japanese (EUC) Feature Package (JFP) の固有ファイル (usr 用)。EUC 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjeudc	日本語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjewnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (EUC)
SUNWjexfa	日本語 (EUC) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjexir	日本語 (EUC) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjfdl	日本語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript プリンタ用
SUNWjfp _r e	ストリームモジュール - Japanese Feature Package (JFP) 用。JFP 環境を実行する拡張パッケージ
SUNWjfp _u e	Japanese Feature Package (JFP) 固有ファイル (usr 用)。JFP 環境を実行する拡張パッケージ

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjfxmn	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - X Window System 用
SUNWjj2dv	日本語 Java Virtual Machine ツールとユーティリティ。javac、jdb、javadoc、rmiregistry を含む
SUNWjj2rt	日本語 Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ
SUNWjjmfp	日本語版 JMF プレイヤー
SUNWjjvdv	日本語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWjjvrt	日本語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWjkcsr	日本語 (EUC) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjlibj	日本語固有ライブラリ (/usr/lib/libjapanese.a)、ヘッダー、移行キットを含む
SUNWjmane	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ (拡張)。- SUNWjfpref と SUNWjfpue 用英文マニュアルページの表示用
SUNWjmfrn	日本語 (EUC) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjoaud	日本語 (EUC) 版オーディオツールとその他の補助オーディオサポート
SUNWjodcv	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWjodem	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWjodst	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWjodte	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK デスクトップ環境 (olwm、props、wsinfo など)
SUNWjoimt	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK imagetool
SUNWjorte	日本語 (EUC) 版 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjourn	日本語 (EUC) OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページ
SUNWjpab	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjpacx	日本語 (PCK) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjpadi	日本語 (PCK) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjpadm	日本語 (PCK) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (PCK) 版 SUNWjpadi パッケージが必要
SUNWjpbas	日本語 (PCK) 版 CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjpcke	Japanese (PCK - PC 漢字コード) Feature Package (JFP) の固有ファイル。PCK 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjpct	日本語 (PCK) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 日本語版
SUNWjpdst	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWjpdte	日本語 (PCK) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjpez	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーパックアプリケーション
SUNWjphe	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjphed	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjphev	日本語 (PCK) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjphex	日本語 (PCK) 版デスクトップパワーパックヘルプボリューム
SUNWjpim	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE イメージビューア

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWj2pj2m	日本語 (PCK) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWj2pj3m	日本語 (PCK) JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWj2pjmn	日本語 (PCK) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマーとユーザー用
SUNWj2pkcs	日本語 (PCK) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWj2pman	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWj2fpr と SUNWj2fpu 用日本語 (PCK) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要
SUNWj2pmfr	日本語 (PCK) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWj2ppmm	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWj2ppmw	日本語 (PCK) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWj2prdm	日本語 (PCK) OILBN README ディレクトリ
SUNWj2prme	日本語 (PCK) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書
SUNWj2psal	日本語 (PCK) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWj2pt1m	日本語 (PCK) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマ、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWj2pt1t	日本語 (PCK) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWj2pudc	日本語 (PCK) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWj2pwm	日本語 (PCK) CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWj2pwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (PCK)
SUNWj2pxfa	日本語 (PCK) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjpxir	日本語 (PCK) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjpxpm	日本語 (PCK) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjpxum	日本語 (PCK) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjrdb	日本語 (EUC) OILBN README ディレクトリ
SUNWjreg	日本語版 Solaris ユーザー登録
SUNWjsadl	日本語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjsmc	日本語版 Solaris Management Console 2.0
SUNWjtlmn	日本語 (EUC) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラム、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjtltk	日本語 (EUC) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWju8e	Japanese (UTF-8) Feature Package (JFP) の固有ファイル。日本語 UTF-8 環境をサポートする拡張パッケージ
SUNWjuab	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWjuacx	日本語 (UTF-8) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjuadi	日本語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWjuadm	日本語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと日本語 (UTF-8) 版 SUNWjuadi パッケージが必要
SUNWjubas	日本語 (UTF-8) CDE アプリケーション基本ランタイム環境
SUNWjuct	日本語 (UTF-8) 版 UTF-8 コード変換ツール
SUNWjudst	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップアプリケーション

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjudte	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWjuezt	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWjuhe	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWjuhed	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWjuhev	日本語 (UTF-8) 版 CDE ヘルプボリューム
SUNWjuhez	日本語 (UTF-8) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWjuim	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE イメージビューア
SUNWjuj2m	日本語 (UTF-8) JDK 1.2 マニュアルページ
SUNWjuj3m	日本語 (UTF-8) JDK 1.3 マニュアルページ
SUNWjujmn	日本語 (UTF-8) JavaVM マニュアルページ - Java プログラマとユーザー用
SUNWjukcs	日本語 (UTF-8) 版 Kodak Color Management System ランタイム環境
SUNWjulcf	日本語 (UTF-8) 版 xutops コマンド
SUNWjuman	Japanese Feature Package (JFP) のマニュアルページ - SUNWjfpr と SUNWjfpu 用日本語 (UTF-8) マニュアルページ、および SUNWman と SUNWaled 用日本語マニュアルページの表示に必要な
SUNWjumfr	日本語 (UTF-8) 版 Motif 1.2.3 ランタイムキット
SUNWjupmm	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティマニュアルページ
SUNWjupmw	日本語 (UTF-8) 電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWjurdm	日本語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWjurme	日本語 (UTF-8) 版共通デスクトップ環境 (CDE) リリース文書

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjusal	日本語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWjutlm	日本語 (UTF-8) ToolTalk マニュアルページ - ToolTalk プログラマー、OpenWindows ユーザー、および共通デスクトップ環境 (CDE) ユーザー用
SUNWjutlt	日本語 (UTF-8) 版 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ - 共通デスクトップ環境 (CDE)、OpenWindows、およびすべての ToolTalk クライアントに必要
SUNWjuudc	日本語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWjuwm	日本語 (UTF-8) 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWjuwnu	日本語入力システム - Wnn6 メッセージ (UTF-8)
SUNWjuxfa	日本語 (UTF-8) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjuxir	日本語 (UTF-8) 版 XIL ランタイム環境
SUNWjuxpm	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjuxum	日本語 (UTF-8) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ
SUNWjwacx	日本語 (EUC) 版 AccessX クライアントプログラム
SUNWjwbc	日本語版 Solaris WBEM Services
SUNWjwbd	日本語版 Sun WBEM SDK ソース
SUNWjwbk	日本語 (EUC) 版 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWjwncr	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (root)
SUNWjwncu	日本語入力システム - Wnn6 クライアント (usr)
SUNWjwncx	日本語入力システム - Wnn6 クライアント X Window System

表 36-6 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 日本語 続く

パッケージ	内容
SUNWjwndt	日本語入力システム - Wnn6 クライアント- CDE 用
SUNWjwnsr	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (root)
SUNWjwnsu	日本語入力システム - Wnn6 サーバー (usr)
SUNWjwsr2	日本語 Solaris Product Registry
SUNWjwsv	日本語 Solaris Product Registry ビューア
SUNWjxfa	日本語 (共通) 版 Solaris 用フォント管理アプリケーション
SUNWjxfnt	日本語 X Window System フォント (必須フォント) - ゴシックボールドフォントと TrueType マップファイル
SUNWjxoft	Sun Minchou ビットマップフォント
SUNWjxplt	日本語版 X Window System プラットフォームソフトウェア (拡張)
SUNWjxpmn	日本語 (EUC) X Window System オンラインプログラマ用マニュアルページ
SUNWjxumn	日本語 (EUC) X Window System オンラインユーザー用マニュアルページ

表 36-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語

パッケージ	内容
NSCPkocom	韓国語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
NSCPkucom	韓国語 (UTF-8) 版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWkadis	韓国語 (EUC) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkadma	韓国語 (EUC) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要

表 36-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkcoft	韓国語/UTF-8 共通オプションフォントパッケージ
SUNWkdab	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkdbas	韓国語版 CDE ベース機能
SUNWkdc1	韓国語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWkdcst	韓国語版ツールパッケージ
SUNWkddst	韓国語版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWkddte	韓国語版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkdezt	韓国語 (EUC) 版デスクトップパワーバックアプリケーション
SUNWkdft	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語版 CDE 用
SUNWkdhe	韓国語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkdhev	韓国語 CDE ヘルプボリューム
SUNWkdhez	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWkdicn	韓国語版 CDE アイコン
SUNWkdim	韓国語版 CDE イメージツール
SUNWkdwm	韓国語版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ
SUNWkepmw	韓国語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkexir	韓国語 (EUC) XIL ランタイム環境
SUNWkfdl	韓国語版 Solaris デスクトップフォントダウンローダー - Adobe PostScript TCP/IP プリンタ用

表 36-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (韓国語補遺)
SUNWkjmfj	韓国語版 JMF プレイヤー
SUNWkjvdv	韓国語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWkjvrt	韓国語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWkkcsr	韓国語 (EUC) KCMS ランタイム環境
SUNWkleue	韓国語言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkmga	韓国語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWkoaud	韓国語 OPEN LOOK オーディオアプリケーションパッケージ
SUNWkodcv	韓国語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーションパッケージ
SUNWkodem	韓国語 OPEN LOOK デモプログラムパッケージ
SUNWkodst	韓国語 OPEN LOOK デスクトップツールパッケージ
SUNWkodte	韓国語コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkoimt	韓国語 OPEN LOOK イメージツールパッケージ
SUNWkoj2p	韓国語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWkoman	韓国語 OPEN LOOK ツールキット/デスクトップユーザーマニュアルページパッケージ
SUNWkorte	韓国語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境パッケージ
SUNWkpdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - 韓国語版
SUNWkrdm	韓国語 (EUC) OILBN README ディレクトリ

表 36-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkreg	韓国語版 Solaris ユーザー登録
SUNWksad1	韓国語 (EUC) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWktltk	韓国語 ToolTalk ランタイム環境パッケージ
SUNWkttfe	韓国語 True Type フォント拡張
SUNWkuadi	韓国語 (UTF-8) 版 - Admintool と GUI インストール用
SUNWkuadm	韓国語 (UTF-8) 版システム管理作業用ソフトウェア。Admintool にはこのパッケージと韓国語 (EUC) 版 SUNWkadis パッケージが必要
SUNWkudab	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーションビルダー
SUNWkudbs	韓国語/UTF-8 CDE ベース機能
SUNWkudc	韓国語 (EUC) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkudda	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップアプリケーション
SUNWkuddt	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップログイン環境
SUNWkudft	共通デスクトップ環境用フォント - 韓国語/UTF-8 版 CDE
SUNWkudhr	韓国語/UTF-8 版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWkudhv	韓国語/UTF-8 CDE ヘルプボリューム
SUNWkudhz	韓国語 (共通) 版デスクトップパワーバックヘルプボリューム
SUNWkudic	韓国語/UTF-8 版 CDE アイコン
SUNWkudim	韓国語/UTF-8 版 CDE イメージツール
SUNWkudwm	韓国語/UTF-8 版 CDE デスクトップウィンドウマネージャ

表 36-7 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 韓国語 続く

パッケージ	内容
SUNWkudz	韓国語 (UTF-8) 版デスクトップパワーバックアップアプリケーション
SUNWkulee	韓国語 (UTF-8) 言語環境固有ファイル。韓国語言語環境の実行に必要なパッケージ
SUNWkuodf	韓国語 (UTF-8) コア OPEN LOOK デスクトップパッケージ
SUNWkupmw	韓国語 (UTF-8) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWkurdm	韓国語 (UTF-8) OILBN README ディレクトリ
SUNWkusal	韓国語 (UTF-8) 版 Solstice Admintool ランチャーと関連ライブラリ
SUNWkuudc	韓国語 (UTF-8) 版 Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール
SUNWkuxe	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkuxft	韓国語 (UTF-8) X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkwbc	韓国語版 Solaris WBEM サービス
SUNWkwdev	韓国語版 Solaris WBEM SDK
SUNWkwsr2	韓国語 Solaris Product Registry
SUNWkwsrv	韓国語 Solaris Product Registry ビューア
SUNWkxe	韓国語 X Window System プラットフォームソフトウェアパッケージ
SUNWkxfte	韓国語 X Window System プラットフォーム必須フォント
SUNWkxman	韓国語 X Window System オンラインユーザーマニュアルページパッケージ

表 36-8 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: 共有

パッケージ	内容
SUNWerdm	OILBN README ディレクトリ
SUNWudct	Solaris CDE 環境用ユーザー定義文字ツール環境

表 36-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語

パッケージ	内容
NSCPescom	スペイン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWe8bas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWe8dst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8dte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWe8he	スペイン語 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWe8im	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWe8wm	スペイン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWedcl	スペイン語版ディスクレスクライアント管理アプリケーション
SUNWefd1	スペイン語版フォントダウンローダー
SUNWej2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スペイン語補遺)
SUNWemgp	スペイン語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWejmfsp	スペイン語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWejvdv	スペイン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWejvrt	スペイン語版 JavaVM ランタイム環境

表 36-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWeoaud	スペイン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWeobk	スペイン語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWeodcv	スペイン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWeodem	スペイン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWeodst	スペイン語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWeodte	スペイン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWеоimt	スペイン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWeorte	スペイン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWepdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スペイン語版
SUNWesbas	スペイン語版 CDE ベース機能 - CDE アプリケーションの実行に必要な
SUNWesdst	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesdte	CDE デスクトップログイン環境
SUNWeshe	スペイン語版 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWeshed	スペイン語版 CDE ヘルプ開発者環境
SUNWeshev	CDE ヘルプボリューム
SUNWesim	CDE デスクトップアプリケーション
SUNWesj2p	スペイン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWesos	スペイン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用

表 36-9 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スペイン語 続く

パッケージ	内容
SUNWespmw	スペイン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWesreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWessmc	スペイン語版 Solaris Management Console
SUNWeswbc	スペイン語版 Solaris WBEM サービス
SUNWeswm	スペイン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWesws2	スペイン語版 Solaris Product Registry
SUNWeswsv	スペイン語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWetltk	スペイン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ
SUNWewacx	スペイン語 OPEN LOOK AccessX
SUNWexplt	スペイン語 X Window System プラットフォームソフトウェア

表 36-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語

パッケージ	内容
NSCPsvcom	スウェーデン語版 Netscape Communicator 4.7 (国際化セキュリティをサポート)
SUNWs8bas	スウェーデン語 UTF-8 CDE ベース機能のメッセージ
SUNWs8dst	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWs8dte	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWs8he	スウェーデン語 UTF-8 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWs8im	スウェーデン語 UTF-8 CDE イメージエディタメッセージ

表 36-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWs8wm	スウェーデン語 UTF-8 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWsdcl	スウェーデン語版ディスククライアント管理アプリケーション
SUNWsfdl	スウェーデン語版フォントダウンローダー
SUNWsj2rt	Java Virtual Machine およびコアクラスライブラリ (スウェーデン語補遺)
SUNWsjmfp	スウェーデン語版 JMF プレイヤ - オーディオおよびビデオファイルの再生用
SUNWsjvdv	スウェーデン語版 JavaVM 開発者パッケージ
SUNWsjvrt	スウェーデン語版 JavaVM ランタイム環境
SUNWsmgp	スウェーデン語版 Solaris 管理アプリケーション
SUNWsoaud	スウェーデン語 OPEN LOOK オーディオアプリケーション
SUNWsobk	スウェーデン語 OpenWindows オンラインハンドブック
SUNWsdcv	スウェーデン語 OPEN LOOK 文書とヘルプビューアアプリケーション
SUNWsdem	スウェーデン語 OPEN LOOK デモプログラム
SUNWsdst	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクセットツール
SUNWsdote	スウェーデン語 OPEN LOOK デスクトップ環境
SUNWsoimt	スウェーデン語 OPEN LOOK imagetool
SUNWsorte	スウェーデン語 OPEN LOOK ツールキットランタイム環境
SUNWspdas	デスクトップアプリケーションを Palm Pilot PDA と同期させるツール - スウェーデン語版
SUNWstltk	スウェーデン語 ToolTalk バイナリおよび共有ライブラリ

表 36-10 Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) に含まれるパッケージ: スウェーデン語 続く

パッケージ	内容
SUNWsvbas	ベーススウェーデン語 CDE ベース機能メッセージ
SUNWsvdst	スウェーデン語 CDE デスクトップアプリケーションメッセージ
SUNWsvdte	スウェーデン語 CDE デスクトップログイン環境メッセージ
SUNWsvhe	スウェーデン語 CDE ヘルプランタイム環境
SUNWsvhed	スウェーデン語 CDE ヘルプ開発者環境メッセージ
SUNWsvhev	CDE ヘルプボリューム
SUNWsvim	スウェーデン語 CDE イメージエディタメッセージ
SUNWsvj2p	スウェーデン語版 Java Plug-in 1.2.2
SUNWsvos	スウェーデン語メッセージファイル - OS とネットワーク統合用
SUNWsvpmw	スウェーデン語 (EUC) 版電源管理システム OW ユーティリティ
SUNWsvreg	デスクトップログイン時の Solaris ユーザー登録プロンプト
SUNWsvsmc	スウェーデン語版 Solaris Management Console
SUNWsvwbc	スウェーデン語版 Solaris WBEM サービス
SUNWsvwm	スウェーデン語 CDE デスクトップウィンドウマネージャメッセージ
SUNWsvws2	スウェーデン語版 Solaris Product Registry
SUNWsvwsv	スウェーデン語版 Solaris Product Registry ビューア
SUNWswacx	スウェーデン語 OPEN LOOK AccessX
SUNWsxplt	スウェーデン語 X Window System プラットフォームソフトウェア

プラットフォーム名とグループ

各種のハードウェアのプラットフォーム名とグループを表 37-1 に示します。Solaris 8 ソフトウェアをインストールする場合、この情報が必要になることがあります。

注 - システムが動作している場合、システムのプラットフォーム名は `uname -i`、システムのプラットフォームグループは `uname -m` でそれぞれ調べることができます。

表 37-1 プラットフォーム名とグループ

システム	プラットフォーム名	プラットフォームグループ
IA	i86pc	i86pc
SPARCstation 1	SUNW,Sun_4_60	sun4c
SPARCstation 1+	SUNW,Sun_4_65	sun4c
SPARCstation SLC	SUNW,Sun_4_20	sun4c
SPARCstation ELC	SUNW,Sun_4_25	sun4c
SPARCstation IPC	SUNW,Sun_4_40	sun4c
SPARCstation IPX	SUNW,Sun_4_50	sun4c
SPARCstation 2	SUNW,Sun_4_75	sun4c

表 37-1 プラットフォーム名とグループ 続く

システム	プラットフォーム名	プラットフォームグループ
SPARCserver 1000	SUNW,SPARCserver-1000	sun4d
SPARCcenter 2000	SUNW,SPARCcenter-2000	sun4d
SPARCstation 5	SUNW,SPARCstation-5	sun4m
SPARCstation 10	SUNW,SPARCstation-10	sun4m
SPARCstation 10SX	SUNW,SPARCstation-10,SX	sun4m
SPARCstation 20	SUNW,SPARCstation-20	sun4m
SPARCstation LX	SUNW,SPARCstation-LX	sun4m
SPARCstation LX+	SUNW,SPARCstation-LX+	sun4m
SPARCclassic	SUNW,SPARCclassic	sun4m
SPARCclassic X	SUNW,SPARCclassic-X	sun4m
SPARCstation Voyager	SUNW,S240	sun4m
SPARCstation 4	SUNW,SPARCstation-4	sun4m
Ultra 1 システム	SUNW,Ultra-1	sun4u
Sun Enterprise 1 systems	SUNW,Ultra-1	sun4u
Ultra 30	SUNW,Ultra-30	sun4u
Ultra 2 システム	SUNW,Ultra-2	sun4u
Sun Enterprise 2 システム	SUNW,Ultra-2	sun4u
Sun Enterprise 150	SUNW,Ultra-1	sun4u
Sun Enterprise 250	SUNW,Ultra-2	sun4u
Ultra 450	SUNW,Ultra-4	sun4u
Sun Enterprise 450	SUNW,Ultra-4	sun4u

表 37-1 プラットフォーム名とグループ 続く

システム	プラットフォーム名	プラットフォームグループ
Sun Enterprise 3000, 3500, 4000, 4500, 5000, 5500, 6000, 6500, 10000	SUNW,Ultra-Enterprise	sun4u
Ultra 5	SUNW,Ultra-5/10	sun4u
Ultra 10	SUNW,Ultra-5/10	sun4u
Ultra 60	SUNW,Ultra-60	sun4u
Ultra 80	SUNW,Ultra-80	sun4u

言語とロケールの値

「ロケール」によって、特定の言語と地域についてのオンライン情報を表示する方法が決定されます。1つの言語でも、日付と時間の表記、綴り、通貨など、地域によって異なるロケールが含まれます。

たとえば、英国綴りの英語を使用する場合は英国用英語 (en_GB) を、米国綴りの英語を使用する場合は米国用英語 (en_US) を選択します。表 38-1 に、プロファイルに locale キーワードを設定するときの値またはロケールを事前設定するときの値を示します。

特定のロケールを使用するには、Solaris 8 の地域対応化バージョンをインストールする必要があります。Solaris 8 ソフトウェアのロケールの詳細は、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

表 38-1 ロケールの値

地域	ロケール名	コードセット	説明
日本	ja	euclJP	日本語 EUC コードセット。JIS X0201-1976、JIS X0208-1983、JIS X0212-1990 を含む
	ja_JP.euclJP	euclJP	
	ja_JP.PCK	PCK	PCK。シフト JIS (SJIS) と呼ぶ
	ja_JP.UTF-8	UTF-8	
アルバニア	sq_AL	ISO8859-2	

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
アルゼンチン	es_AR	ISO8859-1	
オーストラリア	en_AU	ISO8859-1	
オーストリア	de_AT	ISO8859-15	
ベルギー	fr_BE	ISO8859-1	フランス語
	fr_BE.ISO8859-15	ISO8859-15	フランス語。ユーロ通貨をサポート
	nl_BE	ISO8859-1	オランダ語
	nl_BE.ISO8859-15	ISO8859-15	オランダ語。ユーロ通貨をサポート
ボリビア	es_BO	ISO8859-1	
ボスニア	nr	ISO8859-2	
ブラジル	pt_BR	ISO8859-1	
ブルガリア	bg_BG	ISO8859-5	
カナダ	en_CA	ISO8859-1	英語
	fr_CA	ISO8859-1	フランス語
チリ	es_CL	ISO8859-1	
中華人民共和国	zh	gb2312	簡体字 EUC コードセット。GB 1988-80 と GB 2312-80 を含む

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
	zh.GBK	GBK	GB 拡張付き簡体字。すべての GB 2312-80 文字、ISO/IEC 10646-1 のすべての Unified Han 文字、日本語ひらがなおよびカタカナ文字、中国語と日本語と韓国語文字セットの記号文字、および ISO/IEC 10646-1 に含まれる文字
コロンビア	es_CO	ISO8859-1	
コスタリカ	es_CR	ISO8859-1	
クロアチア	hr_HR	ISO8859-2	
チェコ共和国	cz	ISO8859-2	
デンマーク	da	ISO8859-1	
	da.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
エクアドル	es_EC	ISO8859-1	
エストニア	et	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ヨーロッパ	en_EU.ISO8859-15	ISO8859-15	ヨーロッパカルチャーデータを使用し、デフォルトの通貨記号として「ユーロ」を返す。英語
	en_EU.UTF-8	UTF-8	ヨーロッパカルチャーデータを使用し、デフォルトの通貨記号として「ユーロ」を返す。英語

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
フィンランド	fi	ISO8859-1	
	fi.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
フランス	fr	ISO8859-1	
	fr.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	fr.UTF-8	UTF-8	
ドイツ	de	ISO8859-1	
	de.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	de.UTF-8	UTF-8	
英国	en_GB	ISO8859-1	
	en_GB.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ギリシャ	el.sun_eu_greek	ISO8859-7 (modified)	ユーロ通貨をサポート
グアテマラ	es_GT	ISO8859-1	
ハンガリー	hu	ISO8859-2	
アイルランド	en_IE	ISO8859-1	
	en_IE.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
イスラエル	he	ISO8859-8	
	he_IL	ISO8859-8	

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
イタリア	it	ISO8859-1	
	it.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	it.UTF-8	UTF-8	
韓国語	ko	5601	
	ko.UTF-8	UTF-8	韓国語 EUC コードセット。KS C 5636 と KS C 5601-1987 を含む
ラトビア	lt	ISO8859-13	
リトアニア	lv	ISO8859-13	
ルクセンブルグ	lu	ISO8859-15	
マケドニア	mk_MK	ISO8859-5	
オランダ	nl	ISO8859-1	
	nl.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ニュージーランド	en_NZ	ISO8859-1	
ニカラグア	es_NI	ISO8859-1	
ノルウェー	no	ISO8859-1	ブークモール (bokmål) ノルウェー語をサポート
	no_NY	ISO8859-1	ニーノシク (nynorsk) ノルウェー語をサポート

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
パナマ	es_PA	ISO8859-1	
パラ グアイ	es_PY	ISO8859-1	
ペルー	es_PE	ISO8859-1	
ポーランド	pl	ISO8859-2	
ポルトガル	pt	ISO8859-1	
	pt.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
ルーマ ニア	ro_RO	ISO8859-2	
ロシア	ru	ISO8859-5	
	ru.KOI8-R	KOI8-R	
エルサル バドル	es_SV	ISO8859-1	
サウジア ラビア	ar	ISO8859-6	
セルビア	sr_SP	ISO8859-5	
スロバ キア	sk_SK	ISO8859-2	
スロベ ニア	sl_SI	ISO8859-2	
スペイン	es	ISO8859-1	
	es.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート

表 38-1 ロケールの値 続く

地域	ロケール名	コードセット	説明
	es.UTF-8	UTF-8	
スウェーデン	sv	ISO8859-1	
	sv.ISO8859-15	ISO8859-15	ユーロ通貨をサポート
	sv.UTF-8	UTF-8	
スイス	fr_CH	ISO8859-1	フランス語
	de_CH	ISO8859-1	ドイツ語
台湾	zh_TW	cns11643	繁体字
	zh_TW.BIG5	BIG5	繁体字
タイ	th_TH	TIS 620-2533	
トルコ	tr	ISO8859-9	
米国	en_US	ISO8859-1	
	en_US.UTF-8	UTF-8	
	C	ISO/IEC 646 (US-ASCII)。8 ビット文字はサポートしない	
ウルグアイ	es_UY	ISO8859-1	
ベネズエラ	es_VE	ISO8859-1	

問題発生時の解決方法

この章では、Solaris 8 ソフトウェアをインストールする際に発生する可能性のあるエラーメッセージと一般的な問題および解決方法を示します。まず、次のリストを使用して、インストールプロセスのどこで問題が発生したか確認してください。

- 493 ページの「ネットワークインストールの設定」
- 494 ページの「システムのブート」
- 498 ページの「ネットワーク上のシステムのブート」
- 503 ページの「Solaris 8 のインストール (初期インストール)」
- 506 ページの「Solaris 8 のインストール (アップグレード)」

ネットワークインストールの設定

```
Error: Unknown client ``host_name''
```

問題	解決方法
----	------

`add_install_client` コマンドの `host_name` 引数は、ネームサービス内のホストでなければならない。

ホストの `host_name` を NIS または NIS+ のネームサービスに追加してください。その後 `add_install_client` コマンドを再実行してください。

システムのブート

エラーメッセージ

```
le0: No carrier - transceiver cable problem
```

問題	解決方法
このシステムはネットワークに接続されていない。	Iネットワークに接続されていないシステムの場合は、このメッセージは無視してください。ネットワークに接続されているシステムの場合は、Ethernet がしっかり接続されているかどうか確認してください。

```
The file just loaded does not appear to be executable
```

問題	解決方法
ブート用の適切な媒体が見つからない。	インストールサーバーからネットワークを介して Solaris 8 をインストールするように正しく設定されているか確認します。たとえば、設定時のシステムのプラットフォームグループの指定が正しいか確認します。また、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2、および Solaris 8 LANGUAGES CD のイメージをコピーしなかった場合、インストールサーバー上の Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD がマウントされていて、アクセスできることを確認します。

```
boot: cannot open /kernel/unix
```

問題**解決方法**

SPARC システムのみ。

ブートファイルの格納場所を /kernel/unix に変更したときに発生するエラー。Solaris 2.6 およびその互換バージョンでは、カーネルは /kernel/unix ではなく、/platform/arch/kernel/unix に置かれる。

PROM のブートファイルを “ ” (無指定) に設定変更します。

```
Can't boot from file/device
```

問題**解決方法**

JumpStart または Solaris 8 対話式インストールプログラムが、システムの CD-ROM ドライブ中に Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を見つけることができない。

次の項目を確認してください。

- CD-ROM ドライブが適切にインストールされているか、または CD-ROM ドライブの電源が入っているか
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD が CD-ROM ドライブに挿入されているか

```
WARNING: clock gained xxx days -- CHECK AND RESET  
DATE!
```

問題**解決方法**

SPARC システムのみ。

これは通知用メッセージです。

メッセージは無視して、インストールを継続してください。

```
Not a UFS filesystem
```

問題	解決方法
IA システムのみ。 Solaris 8 ソフトウェアをインストールしたとき (対話式またはカスタム JumpStart を使って)、デフォルトのブートドライブを選択しなかった。別のブートディスクを選択した場合、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、システムをブートしなければならない。	Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクをそのシステムのブートディスクドライブ (通常は A:) に挿入します。

一般的な問題

問題	解決方法
IA システムのみ。 Solaris 8 ルートスライスは、ディスクの最初の 1024 シリンダ内になければならない。そうでないと、インストール後にシステムのブートが失敗する。	最初の fdisk パーティションが一次 DOS (PRI DOS) である場合、fdisk コマンドを使ってそこから領域を削除し、再びブートします。最初の fdisk パーティションが拡張 DOS (EXT DOS) または他のオペレーティングシステムである場合、fdisk コマンドを使ってそれを削除し、再びブートします。

問題	解決方法
IA システムのみ。 メモリー増設用以外の PC カードを挿入すると、システムがハングまたはパニックを起こす。	メモリー増設用以外の PC カードは、他のデバイスが使用している同じメモリーリソースを使用できません。これを修正するには、DOS のデバッグを使用して、デバイスのメモリー使用状況を調べます。次に、下記の手順に従って、手作業で PC カードデバイス用にメモリーリソースを予約します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、システムをブートします。 2. 「デバイスタスク (Device Tasks)」メニューに移動します。 3. 「デバイスの検査/編集 (Review/Edit Devices)」を選択します。 4. 「デバイスの追加 (Add Device)」を選択します。 5. 「デバイスの定義 (Define Device)」を選択します。 6. EISA ID 命名規約に従った一意の名前 (たとえば、ITD4001) を入力して、「継続 (Continue)」を選択します。 7. リソースのリストから「メモリーアドレス (Memory Address)」を選択して、「継続 (Continue)」を選択します。 8. 予約するアドレスの範囲 (たとえば、CA800-CFFFF) を入力して、「継続 (Continue)」を選択します。 9. 「デバイスタスク (Device Tasks)」メニューに戻って、「構成を保存 (Save Configuration)」を選択します。 10. システムをリブートします。

IA システムのみ。

事前ブート段階では、Solaris 8 Device Configuration Assistant プログラムが、システム上の IDE BIOS 一次ドライブを検出できなかった。

- 古いドライブを使用している場合、サポートされていないことがあります。『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』で確認してください。
- リボンと電源ケーブルが正しく接続されているか確認します。ハードウェアのマニュアルで確認してください。
- 1 台のドライブだけがコントローラに接続されている場合、ジャンパを設定して、そのドライブをマスタードライブとして指定します。一部のドライブでは、単一マスター用のジャンパ設定が、スレーブといっしょに動作するマスター用のジャンパ設定と異なる場合があります。未使用のコネクタがケーブルの終端にあるときに発生する信号障害を抑制するために、ケーブルの終端にあるコネクタにドライブを接続します。
- 2 台のドライブがコントローラに接続されている場合、1 台目のドライブをマスター (またはスレーブといっしょに動作するマスター) としてジャンパ設定して、2 台目のドライブをスレーブとしてジャンパ設定します。
- 1 台目のドライブがハードディスクで、2 台目のドライブが CD-ROM ドライブの場合、ジャンパを設定して、そのドライブをスレーブドライブとして指定します。ドライブがケーブルのどのドライブコネクタに接続されていてもかまいません。
- 1 つのコントローラと 2 台のドライブの組み合わせで問題が残る場合、1 台ずつドライブを接続して、各ドライブが動作していることを確認します。ドライブをマスターまたは単一マスターとしてジャンパ設定して、IDE リボンケーブルの終端にあるドライブコネクタを使用してドライブを接続します。各ドライブが動作することを確認して、次にドライブをもう一度マスターとスレーブの構成にジャンパ設定します。
- ドライブがディスクドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプ (シリンダ、ヘッド、セクターの数を示す) が正しく構成されていることを確認します。一部の BIOS ソフトウェアは、ドライブタイプを自動的に検出する機能を持っています。
- ドライブが CD-ROM ドライブの場合、BIOS 設定画面を使用して、ドライブタイプを CD-ROM ドライブとして構成します (BIOS ソフトウェアがこの機能を持っている場合のみ)。
- MS-DOS がドライブを認識しない場合、ハードウェアまたは BIOS 構成の問題が考えられます。ほとんどのシステムでは、MS-DOS CD-ROM ドライブがインストールされている場合、IDE の CD-ROM ドライブは MS-DOS でしか認識されません。

問題	解決方法
IA システムのみ。 事前ブートの段階で、Solaris 8 Device Configuration Assistant プログラムがシステム上の IDE または CD-ROM ドライブを見つけることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスクが BIOS で無効にされている場合は、Solaris 8 Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用して、ハードディスクからブートします。 ■ システムがディスクを持っていない場合は、ディスクレスクライアントにします。

問題	解決方法
IA システムのみ。 システムがプロンプトを出す前にハングする。	『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』を参照してください。

ネットワーク上のシステムのブート

エラーメッセージ

```
WARNING: getfile:
RPC failed: error 5 (RPC Timed out).
```

問題**解決方法**

インストールクライアントのブート要求に対して、ネットワーク上の複数のサーバーが応答したときに発生するエラー。インストールクライアントの接続先のブートサーバーが間違っているため、インストールは停止する。考えられる原因は次の通り。

原因 1: /etc/bootparams ファイルに、このインストールクライアントが登録されているサーバーが複数存在する。

原因 2: このインストールクライアントが、複数の /tftpboot または /rplboot ディレクトリに登録されている。

原因 3: サーバーの /etc/bootparams ファイルにこのインストールクライアントのエントリがあり、また別の /etc/bootparams ファイルに、全システムのプロファイルサーバーへのアクセスを可能にする登録がある。後者の登録は、次のようになっている。

```
* install_config=profile_server:path
```

このエラーは、NIS または NIS+ bootparams テーブルに、このような行が存在していても発生する。

原因 1 の対処方法: ネットワーク上の複数のサーバーの /etc/bootparams ファイルにインストールクライアントが登録されていないか調べます。登録されている場合は、インストールクライアントに使用させたいインストールサーバーまたはブートサーバー以外のサーバーの /etc/bootparams ファイルから登録を削除します。

原因 2 の対処方法: インストールクライアントが、複数の /tftpboot または /rplboot ディレクトリに登録されていないか調べます。登録されている場合は、インストールクライアントに使用させたいインストールサーバーまたはブートサーバー以外のサーバーの /tftpboot または /rplboot ディレクトリから登録を削除します。

原因 3 の対処方法: ネームサービスの bootparams マップまたはテーブルに * install_config= などのワイルドカードを使った登録がある場合は、その登録を削除し、削除したのと同じ行をブートサーバーの /etc/bootparams ファイルに追加します。

```
No network boot server. Unable to install the system.  
See installation instructions.
```

問題	解決方法
<p>SPARC システムのみ。</p> <p>このエラーは、ネットワーク上でインストールしようとしているシステムで発生する。このシステムは、適切に設定されていない。</p>	<p>ネットワーク上でインストールするようにシステムを設定していることを確認します。詳細は、115 ページの「ネットワーク上でインストールするためのシステムの設定」を参照してください。</p>
<pre>prom_panic: Could not mount filesystem</pre>	

問題	解決方法
<p>SPARC システムのみ。</p> <p>ネットワークを介して Solaris 8 のインストールを行なっているときに、ブートソフトウェアが Solaris 8 の CD イメージ (Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD またはインストールサーバー上にある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージのコピー) を見つけることができない。</p>	<p>インストール用のソフトウェアがマウントされ共有されるように設定してあることを確認します。</p> <p>インストールサーバーの CD-ROM ドライブから Solaris 8 をインストールしている場合、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD が CD-ROM ドライブに挿入されてマウントされている、/etc/dfs/dfstab ファイルで共有されるように設定してあることを確認します。インストールサーバーのディスク上にある Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD イメージのコピーからインストールしている場合、そのコピーへのディレクトリパスが /etc/dfs/dfstab ファイルで共有されていることを確認します。</p>
<pre>Timeout waiting for ARP/RARP packet...</pre>	

問題**解決方法**

SPARC システムのみ。

クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、認識してくれるシステムを見つけない。

システムのホスト名が NIS または NIS+ のネームサービスに登録されていることを確認します。また、ブートサーバーの `/etc/nsswitch.conf` ファイル内の `bootparams` の検索順序を確認します。

たとえば、`/etc/nsswitch.conf` ファイル内にある次の行は、`JumpStart` または Solaris 8 対話式インストールプログラムが最初に NIS マップから `bootparams` 情報を探すことを示しています。ここで見つからなかった場合、`JumpStart` または Solaris 8 対話式インストールプログラムはブートサーバーの `/etc/bootparams` ファイルを調べます。

```
bootparams: nis files
```

```
ip: joining multicasts failed on tr0 - will use link layer broadcasts for multicast
```

問題**解決方法**

IA システムのみ。

トークンリングカードを使用してシステムをブートすると、このエラーメッセージが表示される。**Ethernet** のマルチキャストとトークンリングのマルチキャストの動作は異なる。ドライバはこのエラーメッセージを返して、マルチキャストアドレスが無効なことを知らせる。

このエラーメッセージは無視してください。マルチキャストがうまく動作しなければ、IP は代わりにレイヤーブロードキャストを使用し、インストールは失敗しません。

```
Requesting Internet address for Ethernet_Address
```

問題**解決方法**

IA システムのみ。

クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、認識してくれるシステムを見つけない。

システムのホスト名が NIS または NIS+ のネームサービスに登録されているのに、システムがこのエラーメッセージを表示し続ける場合は、リポートしてください。

```
RPC: Timed out
No bootparams (whoami) server responding; still trying...
```

問題	解決方法
IA システムのみ。 クライアントはネットワークを介してブートしようとしているが、インストールサーバー上の <code>/etc/bootparams</code> ファイルにエントリを持つシステムを見つけることができない。	インストールサーバー上で <code>add_install_client</code> を実行します。これにより <code>/etc/bootparams</code> ファイルに適切なエントリが追加され、クライアントはネットワークを介してブートできます。

```
Still trying to find a RPL server...
```

問題	解決方法
IA システムのみ。 システムはネットワークを介してブートしようとしているが、サーバーではこのシステムをブートするように設定されていない。	インストールサーバー上で、インストールするシステム用に <code>add_install_client</code> を実行します。 <code>add_install_client</code> コマンドは、必要なネットワークブートプログラムを含む <code>/rplboot</code> ディレクトリを設定します。

一般的な問題

問題	解決方法
システムはネットワークを介してブートされるが、指定したインストールサーバー以外のシステムからブートされる。	ネームサーバー上で、インストール中のシステムに対する <code>/etc/bootparams</code> エントリを更新します。このエントリは、次の構文に従う必要があります。 <code>install_system root=boot_server:path install=install_server:path</code> また、サブネット中で <code>bootparams</code> ファイルに対するインストールクライアントの登録を 1 つだけにします。

問題**解決方法**

SPARC システムのみ。

インストールサーバーを設定して、ネットワークを介して Solaris 8 をインストールするようにシステムを構成しても、システムをブートできない。

tftpd デーモンがインストールサーバーで実行されていることを確認します。次のコマンドを入力して Return キーを押します。

```
# ps -ef | grep tftpd
```

このコマンドを入力しても tftpd デーモンが実行されていることを示す行が表示されない場合は、/etc/inetd.conf ファイルを編集して、次に示す行からコメント文字 (#) を削除します。

```
# tftp dgram udp
wait root /usr/sbin/in.tftpd
in.tftpd -s /tftpboot
```

この変更を行なった後、システムをリブートしてください。

問題**解決方法**

IA システムのみ。

ネットワークを介してインストールするため、インストールサーバーを設定してシステムを構成しても、システムをブートできない。

tftpd デーモンがインストールサーバーで実行されていることを確認します。次のコマンドを入力して Return キーを押します。

```
# ps -ef | grep rpld
```

このコマンドを入力しても、rpld デーモンが実行されていることを示す行が表示されない場合は、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/rpld
```

この変更を行なった後、システムをリブートしてください。

Solaris 8 のインストール (初期インストール)

```
/cdrom/Solaris_2.x/SUNWxxx/reloc.cpio: Broken pipe
```

問題	解決方法
バグ ID: 1212370 このエラーメッセージはインストールには影響しない。	このメッセージは無視して、インストールを続けてください。

WARNING: CHANGE DEFAULT BOOT DEVICE

問題	解決方法
IA システムのみ システムの BIOS に設定されているデフォルトブートデバイスが、ブート時に Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクを必要とするように設定されている可能性がある。 これは参考情報です。	インストールを続けます。必要なら、Solaris ソフトウェアをインストールした後に、BIOS に設定されているシステムのデフォルトブートデバイスを、Solaris 8 Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクを使わなくてもブートできるように変更します。

IA システムのみ。

IDE ディスクドライブは、Solaris ソフトウェアがサポートする他のドライブのように、不良ブロックを自動的に無効にしません。IDE ディスク上に Solaris 8 をインストールする前に、ディスクの検査を行なってください。

IDE ディスクの検査を行うには、次の手順に従います。

1. 143 ページの「IA: Solaris 8 対話式インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」の説明に従って、Solaris 8 対話式インストールプログラムを起動します。この対話式インストールプログラムは、グラフィックスモニターであるかどうかによって、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) か、キャラクタユーザーインターフェース (CUI) のどちらかを起動します。
2. GUI または CUI プログラムが起動したら、最初の 2、3 の画面で情報を入力し、「継続 (Continue)」オプションを選択します。
3. 「Solaris 8 対話式インストール (Solaris Interactive Installation)」画面が表示されたら、「終了 (Exit)」オプションを選択して、インストールを終了します。
4. GUI インストールプログラムを使用している場合は、この後の手順のためにコマンドツールウィンドウを開きます。また、CUI インストールプログラムを使用している場合は、システムのシェルを使用します。
5. **format** と入力して、**format** プログラムを起動します。
6. ディスク面の検査をする IDE ディスクドライブを指定します。

IDE ドライブはターゲット番号を含みません。IDE ドライブ名は `cx``dy` 形式です。`cx` はコントローラ番号、`dy` はデバイス番号です。

7. `format>` プロンプトで、**fdisk** と入力します。**fdisk** プログラムを使用して、ディスク上に Solaris パーティションを作成します (Solaris **fdisk** パーティションがすでに存在する場合は、そのまま残しておいてください)。
8. `format>` プロンプトで、**analyze** と入力します。
9. `analyze>` プロンプトで、**config** と入力します。ディスク検査の現在の設定が表示されます。設定を変更するには、**setup** と入力します。
10. `analyze>` プロンプトで、実行する検査内容によって **read**、**write**、**compare** のいずれかを入力します。**format** が不良ブロックを発見すると、それらの再マッピングを実行します。
11. `analyze>` プロンプトで、**quit** と入力します。
12. 再マップするブロックを指定する場合は、`format>` プロンプトで **repair** と入力します。
13. **quit** と入力して、**format** プログラムを終了します。
14. GUI インストールを再開するには、ワークスペースメニューから「インストールの再起動 (Restart Install)」を選択し、CUI インストールを再開するには、**suninstall** と入力します。

Solaris 8 のインストール (アップグレード)

エラーメッセージ

No upgradeable disks

問題	対処方法
----	------

バグ ID: 1191792

/etc/vfstab ファイルのスワップエントリが原因でアップグレードに失敗した。

/etc/vfstab ファイルの以下の行をコメントにしてください。

- アップグレードしないディスク上のスワップファイルとスライスの指定行
- 存在しないスワップファイルの指定行
- 使用していないスワップスライスの指定行

一般的な問題

問題	解決方法
----	------

Solaris 8 対話式インストールプログラムが、メタデバイスをシステムにマウントできないため、アップグレードに失敗する。

メタデバイスは自動的にアップグレードできません。詳細は、『*Solstice DiskSuite 4.2.1* リファレンス』の「Solaris のアップグレード」を参照してください。

問題**解決方法**

バグ ID: 1170953

システム上にアップグレード可能なバージョンの Solaris ソフトウェアが存在するにもかかわらず、アップグレードオプションが提供されない。原因としては、以下が考えられる。

この問題の原因には、次のものが考えられる。

原因 1: /var/sadm ディレクトリがシンボリックリンクであるか、別のファイルシステムからマウントされたディレクトリである。

原因 1 の対処方法: /var/sadm ディレクトリをルート (/) または /var ファイルシステムに移動します。

原因 2: /var/sadm/softinfo/INST_RELEASE ファイルが存在しない。

原因 2 の対処方法: 以下の形式で INST_RELEASE ファイルを作成します。

```
OS=Solaris
VERSION=2.x
REV=0
```

x は、システム上の Solaris ソフトウェアのバージョン番号です。

問題**解決方法**

電源の切断やネットワークの接続障害など、ユーザーの管理の及ばない理由によって、アップグレードオプションによるインストールが失敗し、システムがソフトブート不可能な状態になることがある。

1. システムを Solaris 8 INSTALLATION CD と Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD またはネットワーク上からリブートします。
2. インストール用のアップグレードオプションを選択します。

Solaris 8 対話式インストールプログラムは、システムが部分的にアップグレードされているか判断し、アップグレードを継続します。

問題	解決方法
<p>Solaris インストールプログラムがファイルシステムをマウントできないため、アップグレードに失敗する。アップグレード中、インストールプログラムは、システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイルにリストされているすべてのファイルシステムを、アップグレードしようとしているルートファイルシステムにマウントしようとする。インストールプログラムがファイルシステムをマウントできない場合、失敗して終了する。</p>	<p>システムの <code>/etc/vfstab</code> ファイル内のすべてのファイルシステムがマウントできることを確認します。<code>/etc/vfstab</code> ファイル内のマウントできない、あるいは問題の原因になっている可能性があるファイルシステムは、すべてコメントにします。このため、Solaris 8 対話式インストールプログラムはアップグレード中、コメントにしたファイルシステムをマウントしません。</p> <p>アップグレードされるソフトウェアを含む、システムベースのファイルシステム (たとえば <code>/usr</code>) はコメントにできません。</p>

問題	解決方法
<p>アップグレードするための十分な領域がシステムにない。次の原因を確認して、自動レイアウトを使用して領域を再配置しなくても、この問題を修正できるか調べてください。</p>	
<p>原因 1: オートマウントはアップグレード中は有効ではないため、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、オートマウントされていないファイルシステムに向けてシンボリックリンクされたパッケージのディレクトリやファイルをインストールしようとする。シンボリックリンクが上書きされると、ディスク容量が十分ではないために、アップグレードは失敗する。</p> <p>通常、<code>/var/mail</code> と <code>/var/news</code> ディレクトリは、オートマウントされたファイルシステムにあり、アップグレードの影響を受けません。</p>	<p>原因 1 の対処方法: アップグレード中、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を利用して、オートマウントされるファイルシステムにファイルまたはディレクトリを作成するソフトウェアパッケージを削除します。これにより、Solaris インストールプログラムは、シンボリックリンクをパッケージのファイルまたはディレクトリで上書きしません。</p>
<p>原因 2: アップグレードしているソフトウェアグループに新しいソフトウェアが追加されたか、既存のソフトウェアのサイズが増えた。アップグレード中、Solaris 8 対話式インストールプログラムは、以前システムにインストールしたソフトウェアグループの一部であるかぎり、どのような新しいソフトウェアでもインストールする。そして、システム上の既存のパッケージもアップグレードする。</p>	<p>原因 2 の対処方法: アップグレード中、「ソフトウェアのカスタマイズ (Customize Software)」画面を利用して、多くの領域を必要とするソフトウェアパッケージを削除します。特に、Solaris リリースに追加されているものの、システムに不要なパッケージを調べます。</p>

問題	解決方法
アップグレードの間、パッケージに関するメッセージが表示される (SUNWolrte、SUNWoldcv、SUNWoldte、SUNWolaudを含む)。	このメッセージは、すでにインストールされているパッケージと同じアーキテクチャとバージョンをインストールしようとしていることを示します。
メッセージの例	Installation of SUNWolrte was successful...
Doing pkgadd of SUNWolrte to /	操作は必要ありません。このメッセージは、情報を伝えるだけのものです。

Solaris 8 をインストールした後のソフトウェアの追加と削除

この付録では、Solaris 8 のインストールまたはアップグレードの後にこのソフトウェアをカスタマイズする方法を説明します。

ソフトウェアの追加や削除には次の方法を使用できます。

使用するツール	追加、削除、または変更できるソフトウェア
Solaris Web Start プログラム	Solaris 8 DVD, Solaris 8 SOFTWARECD、Solaris 8 Software CompanionCD、Solaris 8 LANGUAGESCD、または Solaris 8 DOCUMENTATION CD 上の製品、ソフトウェアグループ、および追加のソフトウェア 個々のソフトウェアパッケージをインストールすることはできません。
Solaris Product Registry	Solaris Web Start プログラムまたは Solaris パッケージ管理コマンド (pkgadd など) を使用してインストールされたすべてのソフトウェア

使用するツール	追加、削除、または変更できるソフトウェア
Admintool	Solaris 8 DVD, Solaris 8 SOFTWARE CD、Solaris 8 Software Companion CD、Solaris 8 LANGUAGES CD、または Solaris 8 DOCUMENTATION CD 上の製品、グループ、および個々のソフトウェアパッケージ Admintool を使用して追加または削除ができるのは、Admintool を実行しているシステム上のソフトウェアだけです。Admintool は分散環境で使用するものではありません。
pkgadd(1M) や pkgrm(1M) コマンド	個々のソフトウェアパッケージ

注 - いろいろなコンピューティング環境のクライアントシステムでソフトウェアパッケージの追加や削除を行う方法については、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

Solaris Web Start プログラムによるソフトウェアの追加

この節では、Solaris オペレーティング環境がインストールされたシステム上に Solaris Web Start プログラムを使用してソフトウェアを追加する方法について説明します。

▼ Solaris Web Start プログラムを使用してソフトウェアを追加する方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャなしでメディアを管理する方法については、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『*System Administration Guide: Basic Administration*』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. インストールまたはアップグレードされたシステムにログインします。
2. ネットワーク、**DVD**、**CD** のうちのどれからインストールするかを決定し、次のどちらかを選択します。
 - ネットワークからインストールする場合は、インストールするソフトウェアのネットイメージを見つけます。
 - DVD または CD からインストールする場合は、ドライブにそのディスクを挿入します。

注 - Solaris 8 LANGUAGES CD を挿入すると、Solaris Web Start プログラムが自動的に起動されます。

3. ディレクトリを移動し、インストールしたいソフトウェアの **Solaris Web Start** インストーラを見つけます。

Solaris Web Start インストーラは、DVD または CD のさまざまなディレクトリに置かれています。DVD と CD のディレクトリ構造については、第 30 章を参照してください。
4. **Solaris Web Start** インストールプログラムを開始します。
 - ファイルマネージャで、**Installer** または **installer** をクリックします。
 - コマンド行で次のように入力します。

```
% ./installer [options]
```

<code>-nodisplay</code>	グラフィカルユーザーインターフェースを使用せずにインストーラを実行する
<code>-noconsole</code>	対話方式のテキストコンソールデバイスを使用せずにインストーラを実行する。このオプションは、ソフトウェアのインストールに使用したい UNIX スクリプト内にインストールコマンドを含める場合に <code>-nodisplay</code> オプションと共に使用してください。

Installer ウィンドウが表示され、続いて Solaris Web Start の画面が表示されます。

5. 画面の指示に従ってソフトウェアをインストールします。
6. DVD または CD からインストールした場合は、そのディスクを取り出します。

Solaris Product Registry によるソフトウェアの追加と削除

目的

Solaris Product Registry は、インストールされているソフトウェアをユーザーが管理するためのツールです。Solaris ソフトウェアのインストールが終わると、Solaris Web Start プログラムまたは Solaris パッケージ管理コマンド (`pkgadd` など) を使用してインストールしたすべてのソフトウェアの一覧を Product Registry で表示できます。

Solaris Product Registry では、次のことができます。

- インストールおよび登録されているソフトウェアとソフトウェア属性の一覧表示
- System Software Localizations フォルダにインストールされているすべての Solaris システム製品を表示する
- インストーラの選択と起動
- 追加のソフトウェア製品のインストール

- ソフトウェアのアンインストール
- 個々のシステムパッケージのアンインストール

Solaris Product Registry の使い方

図 B-1 に示す Solaris Product Registry のメインウィンドウは、次の情報を表示する 3 つの領域からなります。

- インストールおよび登録されたソフトウェア
- 選択されているソフトウェアの標準属性
- カスタマイズされた属性と登録されているソフトウェアの内部属性



図 B-1 Solaris Product Registry ウィンドウ

Solaris Product Registry で項目を表示するには、「システムレジストリ (System registry)」の左側にあるアイコンをクリックします。右を向いていたアイコンが下を向きます。

Solaris Product Registry の項目は、左側にテキストファイルアイコンがあるものを除き、どの項目も展開または短縮できます。

図 B-2 に示すように、「インストールされているソフトウェア (Software Installed in Solaris Registry)」の「Solaris 8」には、Solaris のインストール時に選択したソフトウェアグループと「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」という 2 つの項目が常にあります。

ソフトウェアグループは、「コアシステムサポート (Core System Support)」、「エンドユーザーシステムサポート (End User System Support)」、「開発者システムサポート (Developer System Support)」、「全体ディストリビューション (Entire Distribution)」、「全体ディストリビューションと OEM サポート (Entire Distribution plus OEM Support)」のいずれかです。

「追加のシステムソフトウェア (additional system software)」には、選択したソフトウェアグループに属していない Solaris 製品が含まれます。さらに、「その他のソフトウェア (unclassified software)」には、pkgadd コマンドを使ってインストールした、Solaris 製品やソフトウェアグループに属さないパッケージが含まれます。

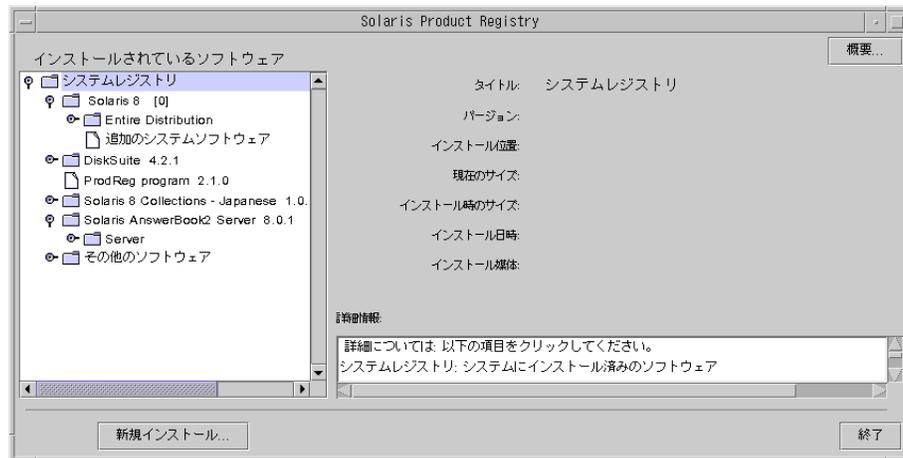


図 B-2 システムレジストリが展開された画面

Solaris Product Registry の属性は「詳細情報 (More Information)」ボックスに表示されます。Solaris Web Start でインストールした製品の場合、少なくとも「タイトル (Title)」、「バージョン (Version)」、「インストール位置 (Location)」、「インストール日時 (Installed on)」の各属性が表示されます。製品またはソフトウェアグループの下で展開されているリスト内の項目の場合、その製品のバージョン情報が表示されます。項目をクリックすると、その項目の属性値が表示されます。

項目が Solaris Product Registry ウィンドウに表示されても、対応するソフトウェアが pkgrm コマンドで削除されていることがあります。

この場合には、「インストール媒体 (Installed from)」の属性の後に「1つまたは複数のコンポーネント中のファイルがありません (Missing files in one or more components)」というメッセージが表示されます (図 B-3 を参照)。pkgadd コマンドを使ってソフトウェアをインストールし直すことも、Solaris Product Registry でソフトウェアを削除することもできます。

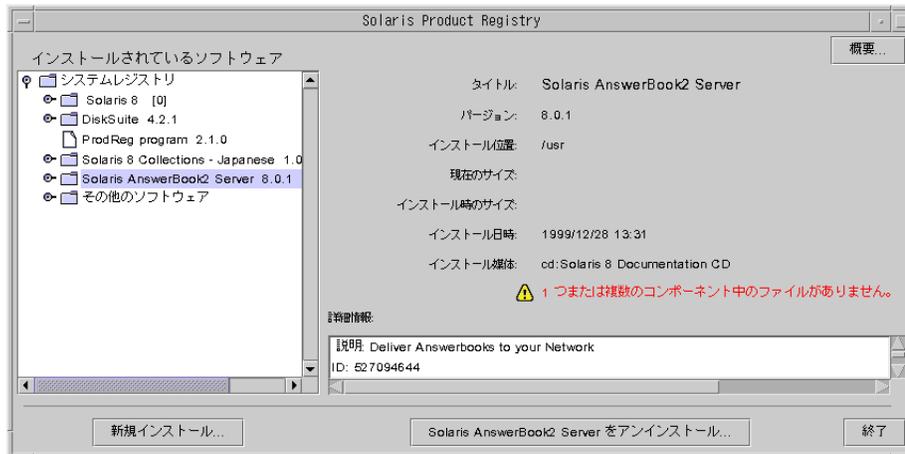


図 B-3 Solaris Product Registry でファイルがないことを示すメッセージ

▼ インストール済み製品の情報を表示する方法

1. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合、パス `/usr/bin/` を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

2. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
3. ソフトウェア属性を
 - 表示しない場合は、次の手順に進みます。
 - 表示する場合は、「インストールされているソフトウェア (Software Installed in Solaris Registry)」内のソフトウェアの名前をクリックします。
 選択したソフトウェアの属性情報が Solaris Product Registry に表示されます。

▼ インストール済み製品の整合性を検査する方法

1. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合、パス `/usr/bin/` を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

2. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
3. 「インストールされているソフトウェア (**Software Installed in Solaris Registry**)」内のソフトウェアの名前をクリックします。

製品のすべてまたは一部が `pkgrm` コマンドで削除されている場合は、「インストール媒体 (Installed from)」の属性の後に「1 つまたは複数のコンポーネント中のファイルがありません。(Missing files in one or more components.)」というメッセージが表示されます。

▼ Solaris Product Registry を使ってソフトウェアをインストールする方法

1. インストールまたはアップグレードされたシステムにログインします。
2. ネットワーク、**DVD**、**CD** のうちのどれからインストールするかを決定し、次のどちらかを選択します。
 - ネットワークからインストールする場合は、インストールするソフトウェアのネットイメージを見つけます。
 - DVD または CD からインストールする場合は、ドライブにそのディスクを挿入します。

注 - Solaris 8 LANGUAGES CD を挿入すると、Solaris Web Start プログラムが自動的に起動されます。

3. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合、パス /usr/bin/ を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

4. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。

5. **Solaris Product Registry** ウィンドウの下にある「新規インストール (**New Install**)」ボタンをクリックします。

Solaris Product Registry は「インストーラを選択 (Select Installer)」画面を表示します。この画面では、デフォルトで /cdrom ディレクトリが指定されています。

注 - ソフトウェアは、ローカルな媒体またはネットワークを介してインストールできます。

6. 起動したいインストーラを見つけたら、「ファイル (**Files**)」ボックスでそのインストーラの名前をクリックします。

注 - Solaris Web Start のインストーラは、Installer または installer という名前です。

7. 「了解 (**OK**)」をクリックします。
選択したインストーラが起動されます。

8. インストーラの指示に従ってソフトウェアをインストールします。

▼ 製品をアンインストールする方法

1. **Solaris Product Registry** をまだ起動していない場合は、次のように入力します。

```
/usr/bin/prodreg
```

注 - ほとんどの場合、パス /usr/bin/ を指定する必要はありません。

システムレジストリ (System Registry) を含む Solaris Product Registry ウィンドウが表示されます。

2. インストールおよび登録されているソフトウェアの一覧を表示するには、その左側にあるアイコンをクリックします。
3. 「インストールされているソフトウェア (**Software Installed in Solaris Registry**)」内のソフトウェアの名前をクリックします。
4. ソフトウェア属性を見て、このソフトウェアがアンインストールしたいソフトウェアであるかどうかを確認します。
5. **Solaris Product Registry** ウィンドウの下にある「アンインストール (**Uninstall**)」ボタンをクリックします。
選択したソフトウェアがアンインストールされます。

Admintool によるパッケージの追加と削除

ここでは、Admintool のグラフィカルユーザーインターフェースを使用してソフトウェアパッケージを追加または削除する方法を説明します。

▼ Admintool でパッケージを追加する方法

注 - UNIX sysadmin グループ (グループ 14) のメンバーでない場合、Admintool でソフトウェアパッケージをシステムに追加または削除するにはスーパーユーザーになる必要があります。

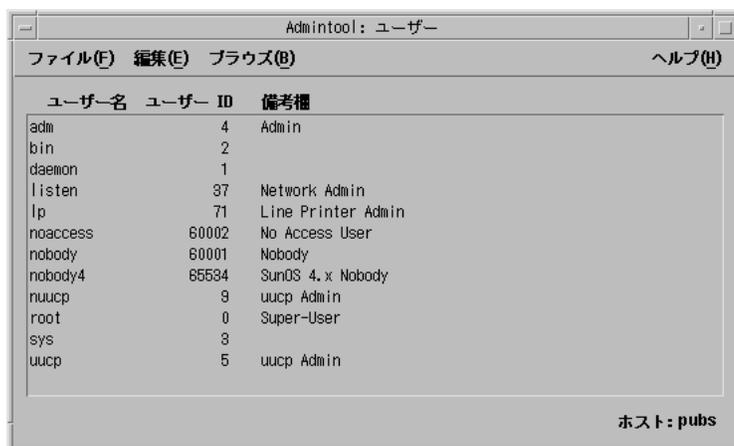
1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

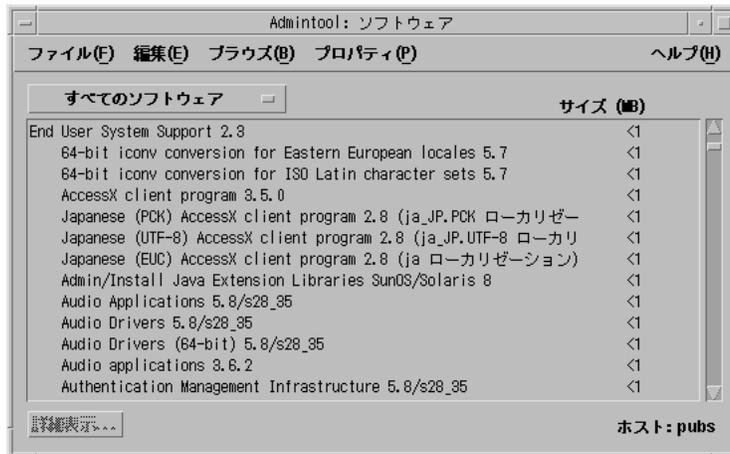
2. 追加するソフトウェアが含まれる **DVD** または **CD** を挿入します。
ボリュームマネージャが自動的にディスクをマウントします。
3. 追加するソフトウェアのディレクトリパスを記録します。
4. **Admintool** を起動します。

```
# admintool &
```

「ユーザー (User)」ウィンドウが表示されます。



- 「ブラウズ (**Browse**)」メニューから「ソフトウェア (**Software**)」を選択します。
「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。



- 「編集 (**Edit**)」メニューから「追加 (**Add**)」を選択します。
- 「ソース媒体の設定 (**Set Source Media**)」ウィンドウが



- 表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 表示された場合、「CD のパス (CD Path)」フィールドに CD へのディレクトリパスが表示されていないならば、521 ページの手順 3 で記録したパスを入力し、「了解 (OK)」をクリックします。

「ソフトウェアの追加 (Add Software)」ウィンドウが表示されます。



8. このウィンドウの「ソフトウェア (Software)」部分で、ローカルのシステムにインストールしたいソフトウェアを選択します。



ベース (親) パッケージとそれに依存する日本語 (子) パッケージがソフトウェアリストに表示されます。依存関係のある日本語パッケージは、次のように末尾に (<ロケール名> ローカリゼーション) と表示されます。

末尾の表示	パッケージの種類
(ja ローカリゼーション)	ja ロケール固有パッケージ
(ja_JP.PCK ローカリゼーション)	ja_JP.PCK ロケール固有パッケージ
(ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)	ja_JP.UTF-8 ロケール固有パッケージ
(ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)	日本語ロケール共有パッケージ

ベース (親) パッケージを選択しても、依存関係のある日本語パッケージが自動的に選択されるわけではありません。システムのロケールに合った適切な依存関係にある日本語パッケージを選択する必要があります

たとえば、ja ロケールだけがインストールされているシステムに「CDE HELP VOLUMES」を追加する場合は、それに対応する次の日本語パッケージも選択する必要があります。

- Japanese (EUC) CDE HELP VOLUMES 2.8 (ja ローカリゼーション)
- Japanese CDE HELP VOLUMES 2.8 (ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8 ローカリゼーション)

パッケージについては、第 31 章から第 36 章を参照してください。

9. 「追加 (Add)」をクリックします。

「Add Software」ウィンドウが表示され、ソフトウェアの構成要素が追加されるたびにメッセージが表示されます。

```
Admintool: Add Software
</cdrom/sol_8_sparc/s0/Solaris_8/Product> 中のパッケージインスタンス <NSCPjacom>
を処理中です。

Japanese (common) Netscape Communicator
(sparc) 20.4.70, REV=1999.11.19.10.12
Copyright 2000 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Copyright 1994-1999 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.
</usr> をパッケージのベースディレクトリとして使用します。
## パッケージ情報を処理中です。
## システム情報を処理中です。
   12 個のパッケージ/パス名がすでに正しくインストールされています。
## ディスク領域の要件を確認中です。
## すでにインストール済みのパッケージとの重複を確認中です。
## setuid/setgid を行うプログラムを検査中です。

このパッケージには、パッケージのインストール処理中にスーパーユーザーの
アクセス権で実行するスクリプトが含まれています。

<NSCPjacom> のインストールを続けますか [y,n,?] y

Japanese (common) Netscape Communicator を <NSCPjacom>
としてインストール中です。

## 1/1 部分をインストールしています。
## postinstall スクリプトを実行中です。

<NSCPjacom> のインストールに成功しました。
press <Return> to continue
```

選択したソフトウェアに属するすべての構成要素が追加されると、次のメッセージが表示されます。

```
<name_of_software> のインストールに成功しました。
press <Return> to continue
```

10. Return キーを押します。

「Add Software」ウィンドウが閉じ、「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。引き続きソフトウェアを追加できます。

11. ソフトウェアの追加が終了したら、「ファイル (File)」メニューから「終了 (Exit)」を選択します。

▼ Admintool でパッケージを削除する方法

注 - UNIX sysadmin グループ (グループ 14) のメンバーでない場合は、Admintool でソフトウェアパッケージをシステムに追加または削除するにはスーパーユーザーになる必要があります。

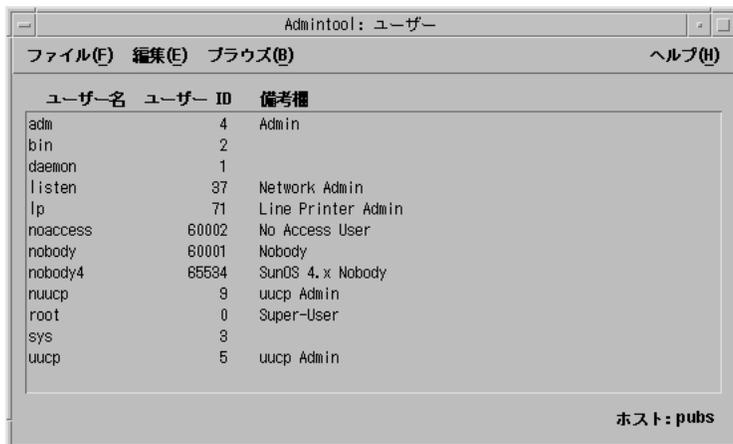
1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

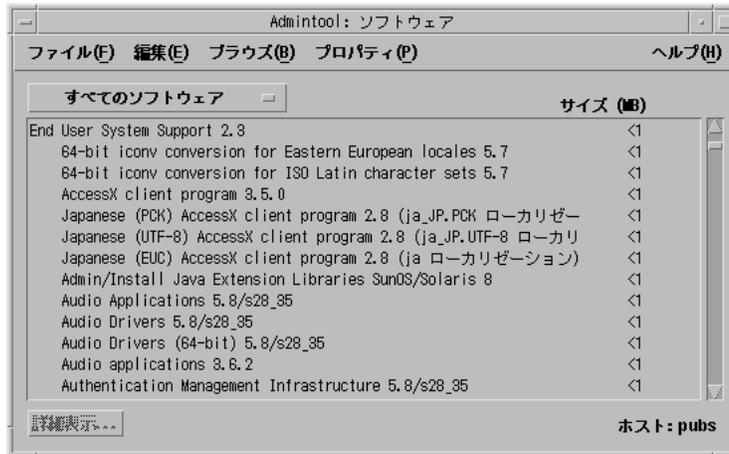
2. **Admintool** を起動します。

```
# admintool &
```

「ユーザー (User)」ウィンドウが表示されます。



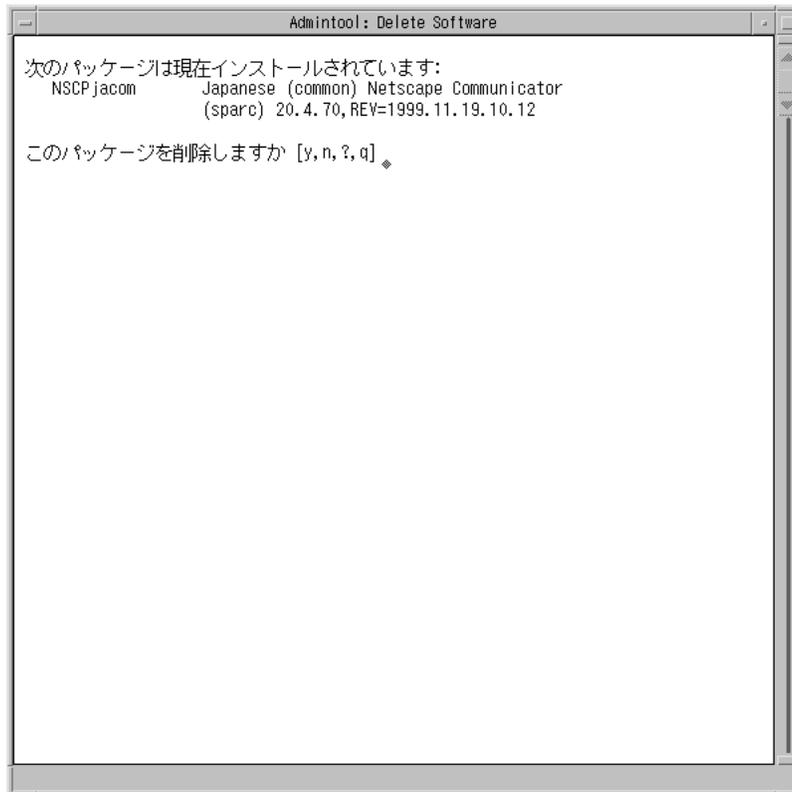
3. 「ブラウザ (**Browse**)」メニューから「ソフトウェア (**Software**)」を選択します。
「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。



4. 削除したいソフトウェアを選択して強調表示します。
5. 「編集 (**Edit**)」メニューから「削除 (**Delete**)」を選択します。
「警告 (**Warning**)」画面にソフトウェアの削除を確認するメッセージが表示されます。



6. 「警告 (**Warning**)」画面で「削除 (**Delete**)」をクリックします。
「Delete Software」ウィンドウが表示され、削除するソフトウェアごとにメッセージが表示されます。



選択したソフトウェアパッケージごとに削除を確認するプロンプトが表示されま
す。

7. プロンプトが表示されるごとに「y」、「n」、または「q」を入力します。
ソフトウェアの構成要素が削除されるたびにメッセージが表示されます。選択し
たソフトウェアに属するすべての構成要素が削除されると、次のメッセージが表
示されます。

```
name_of_software の削除に成功しました。  
press <Return> to continue
```

8. Return キーを押します。

「Delete Software」ウィンドウが閉じ、「ソフトウェア (Software)」ウィンドウが表示されます。引き続きソフトウェアを削除できます。

9. ソフトウェアの削除が終了したら、「ファイル (File)」メニューから「終了 (Exit)」を選択します。

pkgadd と pkgrm によるパッケージの追加と削除

▼ pkgadd でパッケージを追加する方法

1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. 追加するソフトウェアが入っている **DVD** または **CD** を挿入します。
ボリュームマネージャが自動的にディスクをマウントします。
3. 追加するソフトウェアのディレクトリパスを記録します。
4. 1 つまたは複数のパッケージをシステムに追加します。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d device_name pkgid
```

パラメータの内容は次のとおりです。

device_name インストール済みのシステムに追加するソフトウェアが含まれる
DVD または CD のディレクトリパス名

pkgid インストール済みのシステムに追加するソフトウェアパッケージ
名 (たとえば、SUNWaudio)

5. 一連の手順が終了したら、pkgchk (1M) コマンドを使って、パッケージが正しくインストールされているかを確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

エラーがなければ、pkgchk はインストール済みファイルのリストを表示します。エラーがあると、pkgchk はエラーの内容を示すメッセージを表示します。

SPARC: 例 : pkgadd マウントされた CD からのソフトウェアのインストール

次の例では、pkgadd を使って、マウントされている Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) から SUNWaudio パッケージをインストールします。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d /cdrom/sol_8_sparc/Solaris_8/Product SUNWaudio
.<br>.<br><SUNWaudio> のインストールに成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
/usr
/usr/bin
/usr/bin/audioconvert
/usr/bin/audioplay
/usr/bin/audiorecord
#
```

IA: 例 : pkgadd マウントされた CD からのソフトウェアのインストール

次の例では、pkgadd を使って、マウントされている Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) から SUNWaudio パッケージをインストールします。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d /cdrom/sol_8_ia/Solaris_8/Product SUNWaudio
.<br>.<br><SUNWaudio> のインストールに成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
/usr
/usr/bin
/usr/bin/audioconvert
/usr/bin/audioplay
/usr/bin/audiorecord
#
```

▼ pkgrm でパッケージを削除する方法

1. インストールまたはアップグレード済みのシステムにスーパーユーザーとしてログインするか、または次のコマンドを入力してスーパーユーザーになります。

```
# su
```

2. 1 つまたは複数のパッケージをシステムから削除します。

```
# /usr/sbin/pkgrm pkgid
```

pkgid は、インストール済みのシステムから削除するソフトウェアパッケージ名 (たとえば、SUNWaudio) です。

3. プロンプトが表示されるごとに「y」、「n」、または「q」を入力して、パッケージを削除する、削除しない、または終了するかを指定します。
4. 一連の手順が終了したら、`pkgchk (1M)` コマンドを使って、パッケージが正しく削除されているか確認します。

```
# /usr/sbin/pkgchk -v pkgid
```

パッケージが正しく削除されていないと、`pkgchk` は警告メッセージを表示します。

SPARC: 例 : システムからのソフトウェアの削除

次の例は、`pkgrm` を使用して SUNWaudio パッケージをシステムから削除する方法を示しています。

```
# /usr/sbin/pkgrm SUNWaudio
次のパッケージは現在インストールされています:
  SUNWaudio      Audio applications
                (SPARC) 3.6.20,REV=1.2000.11.7
このパッケージを削除しますか [y, n, ? q] y
.
.
.
<SUNWaudio> の削除に成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
警告: <SUNWaudio> に関連するパス名がありません。
#
```

IA: 例 : システムからのソフトウェアの削除

次の例は、`pkgrm` を使用して SUNWaudio パッケージをシステムから削除する方法を示しています。

```
# /usr/sbin/pkgrm SUNWaudio
次のパッケージは現在インストールされています:
  SUNWaudio          Audio applications
                    (i386) 3.6.20,REV=1.2000.11.7
このパッケージを削除しますか [y, n, ? q] y
.
.
.
<SUNWaudio> の削除に成功しました。
# pkgchk -v SUNWaudio
警告: <SUNWaudio> に関連するパス名がありません。
#
```

リモートの **DVD-ROM** と **CD-ROM** によるインストールまたはアップグレード

この付録では、DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないシステムまたはドメインに、Solaris Web Start を使って Solaris オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードする方法について説明します。

注 - マルチドメインサーバーに Solaris オペレーティング環境をインストールする、またはアップグレードする場合は、インストールプロセスを開始する前に、システムコントローラまたはシステムサービスプロセッサのマニュアルを参照してください。

SPARC: Solaris Web Start を使用してリモート **DVD-ROM** または **CD-ROM** からインストールまたはアップグレードする

DVD-ROM または CD-ROM ドライブが直接接続されていないシステムまたはドメインサーバーに Solaris オペレーティング環境をインストールしたい場合は、ほかのシステムに接続されたドライブを使用することができます。この場合、両方のシステムが同じサブネット上に接続されている必要があります。インストール手順は次のとおりです。

▼ リモート DVD-ROM と CD-ROM を使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

注 - この手順では、システムでボリュームマネージャを実行していると仮定しています。ボリュームマネージャを使用せずにメディアを管理する方法の詳細は、<http://docs.sun.com> 上の Solaris 9 System Administration Collection に含まれている『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。Solaris 9 のリリース前には、Solaris 9 アーリーアクセスの『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。Solaris 9 アーリーアクセスのマニュアルを参照する方法については、『Solaris 8 2/02 新規機能の概要』の「アーリーアクセス」をご覧ください。

1. **Solaris** オペレーティング環境が動作し、かつ **DVD-ROM** ドライブまたは **CD-ROM** ドライブを備えたシステムを特定します。
以下の説明では、このシステムは *host1* とします。
2. **DVD-ROM** ドライブまたは **CD-ROM** ドライブが存在するシステムで、ドライブに **Solaris 8 DVD (SPARC)** または **Solaris 8 INSTALLATION CD (SPARC)** を挿入します。
ボリュームマネージャによってディスクがマウントされます。
3. クライアントに相当するシステム上で、そのシステムがほかのサーバーのクライアントでないか確認します。

```
host2# bpgetfile
```

- bpgetfile コマンドが空の画面を返す場合は、535 ページの手順 4 へ進んでください。
- そのシステムがインストール元以外のサーバーのクライアントである場合、次の手順でそのシステムをクライアントでない状態にしてください。
 - a. **DVD-ROM** ドライブまたは **CD-ROM** ドライブを備えたシステムにログインします。
 - b. bpgetfile コマンドによって報告されたディレクトリに移動します。例:

```
host2# cd /export/solaris/s9
```

- c. そのシステムをクライアントでない状態にします。

```
host2# .rmclient line1-u5
```

4. **DVD-ROM** ドライブまたは **CD-ROM** ドライブを備えたシステムで `/etc/dfs/dfstab` ファイルをチェックし、**DVD** または **CD** をエクスポートする必要があるかどうかを確認します。

```
host1# more /etc/dfs/dfstab
```

- このファイル内に次の行が存在する場合は、535 ページの手順 6 へ進みます。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s0  
share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s1
```

- ファイル内にこの行が存在しない場合は、このまま継続します。

5. **Solaris 8 DVD** または **Solaris 8 INSTALLATION CD** をエクスポートします。

```
host# share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s0  
host# share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s1
```

6. **DVD** または **CD** ヘディレクトリを移動します。

```
host1# cd /cdrom/en_icd_sol_release_sparc /s0
```

release

ソフトウェアリリース (例: Solaris 8 の場合 s8)

7. **DVD-ROM** ドライブまたは **CD-ROM** ドライブを備えたシステムのクライアントとしてインストールしたいシステムを追加します。

```
host1# ./add_install_client -s host1:/cdrom/cdrom0/s0 host2 arch
```

<i>host1</i>	DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを備えたシステムの名前
<i>host2</i>	インストールしたいマシンの名前
<i>arch</i>	インストールしたいマシンのプラットフォームグループ (例: sun4u)インストールしたいシステム上で、 uname -m コマンドを使用してプラットフォームグループを見つけます。

8. インストールしたいシステムをブートします。

```
ok boot net
```

Solaris Web Start インストールが始まります。

9. 必要に応じてシステム構成情報を入力します。

- すべてのシステム構成情報をあらかじめ設定してある場合は、構成情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。536 ページの手順 10 へ進みます。
- システム構成情報をあらかじめ設定してない場合は、システム構成情報を入力します。

システムがリブートし、Solaris インストールプログラムが開始します。「よろこそ」画面が表示された後、「ネットワーク接続性」画面で「ネットワークに接続する (Network File System)」を選択します。設定を続けると、「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。

10. 「媒体の指定 (**Specify Media**)」画面で、「次へ (**Next**)」をクリックします。

「ネットワークファイルシステムのパスの指定 (Specify Network Filesystem Parh)」画面が表示され、テキストフィールドにインストールパスが示されます。

```
host1_ip_address:/cdrom/cdrom0/s0
```

11. DVD または CD がマウントされているシステムで、ディレクトリを / (root) に変更します。

```
host1# cd /
```

12. Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD の共有を解除します。

```
host1# unshare /cdrom/en_icd_sol_release_sparc/s0
host1# unshare /cdrom/en_icd_sol_release_sparc/s1
```

release

ソフトウェアリリース (例: Solaris 8 リリースの場合 s8)

13. Solaris 8 DVD または Solaris 8 INSTALLATION CD を取り出します。

```
host1# eject cdrom
```

- DVD を使用している場合、操作はここで終了します。
- CD を使用している場合は、継続します。

14. CD-ROM ドライブに Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を挿入します。

15. Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD をエクスポートします。

```
share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s0
share -F nfs -o ro,anon=0 /cdrom/cdrom0/s1
```

16. インストールするシステムで、「次へ (Next)」をクリックして Solaris のインストールを継続します。

17. **Solaris Web Start** が **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** を挿入するようプロンプトを表示したら、537 ページの手順 12 の **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** の共有解除から 537 ページの手順 16 までの **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** のエクスポートとインストールを行います。

18. **Solaris Web Start** が **Solaris 8 LANGUAGES CD** を挿入するようプロンプトを表示したら、537 ページの手順 12 の **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** の共有解除から 537 ページの手順 16 までの **Solaris 8 LANGUAGES CD** のエクスポートとインストールを行います。

Solaris 8 LANGUAGES CD をエクスポートすると、CD-ROM がマウントされているシステム上にインストール画面が表示されます。Solaris 8 LANGUAGES CD をインストールする間は、このインストール画面は無視してください。

Solaris 8 LANGUAGES CD のインストールが終了した後で、このインストール画面を閉じてください。

用語集

begin スクリプト	ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプト。rules ファイル内で指定され、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされる前に作業を実行する。このスクリプトはカスタム JumpStart インストールでのみ使用できる。
DHCP	動的ホスト構成プロトコルは、アプリケーション層プロトコルであり、TCP/IP ネットワーク上の個々のコンピュータつまりクライアントが、中央管理を行なっている指定の DHCP サーバーから IP アドレスなどのネットワーク構成情報を抽出できるようにする。この機能は、大規模な IP ネットワークの保持、管理によるオーバーヘッドを削減する。
EISA	拡張 ISA (Extended Industry Standard Architecture)。IA ベースシステムで使用されるバスの 1 つ。EISA バス標準は ISA バスシステムよりも性能と機能が向上している。接続されているデバイスは、システムと共に提供される「EISA コンフィギュレータ」プログラムによって構成された場合、自動的に検出される。「ISA」も参照。
/etc	重要なシステム構成ファイルや保守コマンドが収められているディレクトリ
/export	OS サーバー上のファイルシステムで、ネットワーク上の他のシステムと共有される。たとえば、/export ファイルシステムには、ディスクレスクライアント用のルートファイルシステムとスワップ、それにネットワーク上のユーザーのホームディレクトリを収めることができる。ディスクレスクライアントは、起動と実行のために OS サーバー上の /export ファイルシステムに依存する。

fdisk パーティション

IA システムにある特定のオペレーティングシステム専用のディスクドライブの論理パーティション。Solaris ソフトウェアをインストールするには、IA システム上に 1 つ以上の Solaris 8 fdisk パーティションを設定する必要がある。IA システムは、各ドライブで最高 4 つまでの異なるオペレーティングシステムをサポートするように設計されている。各オペレーティングシステムは、独自の fdisk パーティション上に存在しなければならない。

finish スクリプト

ユーザーが定義する Bourne シェルスクリプト。rules ファイル内で指定され、Solaris ソフトウェアがシステムにインストールされたから、システムがリブートされるまでの間に作業を実行する。このスクリプトは、カスタム JumpStart インストールでのみ使用できる。

IPv6

IPv6 は、現在のバージョン IPv4 (バージョン 4) から拡張されたインターネットプロトコル (IP) の新しいバージョン (バージョン 6) である。これは、IPv4 を強化したものである。定義された移行方法を使用して IPv6 を採用すると、現在の運用を中断する必要はない。また、IPv6 には、新しいインターネット機能用のプラットフォームも用意されている。

IPv6 の詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 3 巻)』を参照。

IP アドレス

インターネットプロトコル (Internet Protocol、IP) アドレス。インターネットプロトコルを介して通信するためにネットワークシステムを識別する一意な番号で、ピリオドによって区切られた 4 つの数字 (例 : 192.9.9.1) から構成される。通常、IP アドレスの各部分は 0~225 の番号であるが、最初の番号は 224 未満とし、最後の番号は 0 以外にする必要がある。

IP アドレスは論理的には、ネットワーク (市外局番のようなもの) とネットワーク上のシステム (電話番号のようなもの) の 2 つの部分に分割される。たとえば、クラス A の IP アドレスは「network.local.local.local」となり、クラス C の IP アドレスは「network.network.network.local」となります。

クラス	範囲 (xxx は 0 から 255 までの数字)	使用できる IP アドレス数
クラス A	1.xxx.xxx.xxx - 126.xxx.xxx.xxx	1600 万以上
クラス B	128.0.xxx.xxx - 191.255.xxx.xxx	65,000 以上
クラス C	192.0.0.xxx - 223.255.255.xxx	256

ISA	Industry Standard Architecture の略。IA システムのバスタイプの 1 つ。ISA バスシステムは「ダム (dumb)」タイプで、システムがデバイスを自動的に検出して構成できるようなメカニズムは提供していない。「EISA」も参照。
JumpStart インストール	インストール方法の 1 つ。出荷時にインストールされている JumpStart ソフトウェアを使用することによって、Solaris ソフトウェアがシステムに自動インストールされる。
JumpStart ディレクトリ	カスタム JumpStart インストール用にプロファイルフロッピーディスクを使用するときのフロッピーディスク上のルートディレクトリ。このディレクトリには、必要なカスタム JumpStart ファイルがすべて含まれる。カスタム JumpStart インストール用にプロファイルサーバーを使用する場合は、サーバー上のディレクトリで、必要なカスタム JumpStart ファイルがすべて含まれる。
Kerberos	強力な秘密鍵暗号方式を使用して、クライアントとサーバーが、セキュリティ保護されていないネットワーク接続で相互を認識できるようにするネットワーク認証プロトコル
NIS	Network Information Service (ネットワーク情報サービス) の略。SunOS 3.x、4.x、および Solaris 1.x システムで標準のネームサービス
NIS+	Network Information Service Plus (ネットワーク情報サービスプラス) の略。NIS に代わるもので、情報を自動更新し、承認や認証などのセキュリティ機能が追加されている。NIS+ は Solaris 2.x、Solaris 7 および Solaris 8 システムでは標準のネームサービス

/opt	Sun 以外のソフトウェア製品や別製品のソフトウェア用のマウントポイントが収められているファイルシステム
OS サーバー	ネットワーク上のシステムにサービスを提供するシステム。ディスクレスクライアントにサービスを提供するには、OS サーバーは、各ディスクレスクライアントごとに、ルートファイルシステムとスワップ領域 (/export/root、/export/swap) 用のディスク空間が必要である。
rules ファイル	自動的にインストールしたいシステムの各グループ (または、単一のシステム) のルールを含んでいるテキストファイル。各ルールは、1 つ以上のシステム属性に基づいてシステムのグループを区別し、各グループをプロファイルにリンクする。プロファイルは、Solaris 8 ソフトウェアのグループ内の各システムへのインストール方法を定義するテキストファイル。「プロファイル」も参照。
rules.ok ファイル	rules ファイルから生成されたファイル。カスタム JumpStart インストールソフトウェアがシステムをプロファイルに一致させるために必要である。check スクリプトを使用して rules.ok ファイルを作成しなくてはならない。
Solaris 8 CD イメージ	システムにインストールされた Solaris 8 ソフトウェア。Solaris CD、または Solaris 8 CD イメージからコピーしたインストールサーバーのハードディスク上から利用できる。
Solaris 8 対話式インストールプログラム	グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) またはコマンド行インターフェース (CLI) ベースのメニュー方式対話スクリプト。これによりシステムを設定し、Solaris 8 ソフトウェアをインストールできる。
Solaris Web Start	グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) とコマンド行インターフェース (CLI) を備えたインストールプログラム。Solaris 8 ソフトウェアやサードパーティソフトウェアをインストールする方法が、ウィザードに手順ごとに示される。
sysidcfg ファイル	システムを事前設定する特殊な一連のシステム構成キーワードを指定するファイル
/usr	スタンドアロンシステムまたはサーバー上のファイルシステム。標準 UNIX プログラムの多くが収められている。ローカルコピーを保

持する代わりに、大きな /usr ファイルシステムをサーバーと共有することにより、システム上で Solaris 8 ソフトウェアをインストールおよび実行するために必要なディスク容量を最小限に抑えることができる。

/var	システムの存続期間にわたって変更または増大が予想されるシステムファイルが収められている (スタンドアロンシステム上の) ファイルシステムまたはディレクトリ。これらのファイルには、システムログ、vi ファイル、メールファイル、uucp ファイルなどがある。
アーカイブ	マスターシステムからコピーされたすべてのファイルを格納するファイル。このファイルには、アーカイブの名前や作成した日付など、アーカイブの識別情報が含まれている。アーカイブをシステムにインストールすると、アーカイブを作成したマスターシステムと全く同じ構成でインストールされる。
アップグレードオプション	Solaris 8 対話式インストールプログラムのオプションの 1 つ。アップグレードでは、新しいバージョンの Solaris がディスク上の既存のファイルと結合され、前回 Solaris がインストールされてから加えられたローカルでの変更内容をできる限り残す。
インストールサーバー	インストール用に、Solaris 8 CD イメージをネットワーク上の他のシステムに提供するサーバー (「メディアサーバー」とも呼ばれる)。Solaris 8 CD イメージをサーバーのハードディスクにコピーすることによってインストールサーバーを作成できる。
エンドユーザーシステムサポート	コアソフトウェアグループの他に、エンドユーザーに推奨するソフトウェアが収められているソフトウェアグループ。これには OpenWindows または共通デスクトップ環境 (CDE) や DeskSet などが含まれる。
開発者システムサポート	エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループの他に、ソフトウェア開発用ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、およびプログラミングツールが収められているソフトウェアグループ
カスタム JumpStart	ユーザーが定義するプロファイルに基づいて、Solaris ソフトウェアがシステムに自動的にインストールされるようなインストール方法。ユーザーやシステムの種類が異なるごとに、カスタマイズされ

たプロファイルを作成できる。カスタム JumpStart インストールは、ユーザーが作成する JumpStart インストールである。

カスタムプローブファイル	rules ファイルと同じ JumpStart ディレクトリに存在しなければならないファイルで、プローブと比較という 2 つのタイプの関数を含む Bourne シェルスクリプト。プローブ関数は、必要な情報を収集するかまたは実際の作業を実行して、定義された対応する SI_ 環境変数を設定する。プローブ関数は、プローブキーワードになる。比較関数は、対応するプローブ関数を呼び出してプローブ関数の出力を比較し、キーワードが一致する場合は 0、キーワードが一致しない場合は 1 を返す。比較関数はルールキーワードになる。「rules ファイル」も参照。
クライアント	ネットワークに接続されているシステム
クラスタ	ソフトウェアパッケージを論理的にグループ化したもの。Solaris ソフトウェアは 4 つの「ソフトウェアグループ」に分割され、それぞれがクラスタと「パッケージ」から構成されている。
クローンシステム	フラッシュアーカイブを使ってインストールされたシステム。クローンシステムは、マスターシステムと全く同じインストール構成になる。
コア	システムで Solaris オペレーティング環境を起動して実行するのに必要な最小限のソフトウェアが収められているソフトウェアグループ。これには共通デスクトップ環境 (CDE) または OpenWindows 環境を実行するために必要ないくつかのネットワーク用ソフトウェアとドライバが含まれるが、CDE または OpenWindows ソフトウェア自体は含まれない。
サーバー	「OS サーバー」を参照
サブネット	単一の論理ネットワークをより小さな物理ネットワークに分割して、経路指定を簡素化する方式
サブネットマスク	32 ビット長のビットマスク。IP アドレスから必要なネットワーク情報やシステム情報を判定するために使用される。
時間帯	グリニッジ標準時間を基準に地球の表面を 24 の地域に経度分割したもの

初期インストールオプション	Solaris Web Start プログラムおよび Solaris 8 対話式インストールプログラムの実行時に提示される、新バージョンの Solaris でディスクを上書きするオプション。初期インストールオプションはアップグレード可能なシステムでも表示されるが、初期インストールオプションを選択した場合、旧バージョンの Solaris ソフトウェア (ローカルの変更内容も含めて) が含まれているディスクは上書きされる。
スタンドアロン	自分のルート (/) ファイルシステム、スワップ領域および /usr ファイルシステムをローカルディスクに備えたシステム。OS サーバーからのブートサービスやソフトウェアサービスを必要としない。スタンドアロンシステムはネットワークに接続できる。
スライス	1 つの連続したブロックの範囲で構成されるディスク上の領域。スライスはディスクの物理的なサブセットである。ディスク上にファイルシステムを作成する前に、ディスクをスライスにフォーマットしなければならない。
スワップ領域	システムに現在のプロセスを処理できるだけの十分なシステムメモリがない場合に、仮想記憶領域として使用されるディスク空間。/swap または swap ファイルシステムともいいます。
全体ディストリビューション	Solaris 8 のリリース全体が含まれているソフトウェアグループ
全体ディストリビューションと OEM サポート	Solaris 8 のリリース全体と、OEM のための追加ハードウェアサポートを含むソフトウェアグループ。Solaris を SPARC サーバシステムにインストールする場合は、このソフトウェアグループを推奨する。
ソフトウェアグループ	Solaris ソフトウェアの論理グループ (クラスタとパッケージ)。Solaris のインストール時には、コア、エンドユーザーシステムサポート、開発者システムサポート、全体ディストリビューションの各ソフトウェアグループから 1 つをインストールできる。
対話式インストール	インストールの 1 つの形式で、対話式インストールプログラムと対話を行うことによって Solaris 8 ソフトウェアをシステムにインストールする。

ディスク構成ファイル	ディスクの構造 (たとえば、バイト/セクター、フラグ、スライス) を表現するファイル。ディスク構成ファイルにより、単一システムから <code>pfinstall</code> を使用して、サイズの異なるディスクについてのプロファイル进行测试できる。
ディスクレスクライアント	自分のディスクを持たずに、ソフトウェアやファイルの格納についてサーバーに完全に依存する、ネットワークに接続されたシステム。
電源管理システム	<p>システムの状態を自動的に保存し、30 分間アイドル状態が続くと電源を切断するソフトウェア。米国 Environmental Protection Agency's Energy Star ガイドラインのバージョン 2 に準拠するシステム (たとえば sun4u SPARC システム) に Solaris ソフトウェアをインストールする場合、電源管理システムはデフォルトでインストールされて、再起動後、電源管理ソフトウェアを有効または無効にするかを尋ねられる。</p> <p>Energy Star ガイドラインでは、システムまたはモニターを使用していない場合は、自動的に「休眠状態」(30 ワット以下の消費) に入ることが要求される。</p>
動的プロファイル	カスタム JumpStart インストール時に、 <code>begin</code> スクリプトによって動的に作成されるプロファイル
ドメイン	インターネットのネーミング階層の一部。管理ファイルを共有する、ローカルネットワーク上のシステムグループを表す。
ドメイン名	ローカルネットワーク上のシステムグループの識別名。ドメイン名は、ピリオドで区切られた一連の構成要素名から構成される (たとえば、 <code>tundra.mpk.ca.us</code>)。ドメイン名を右側に行くにしたがって、構成要素名は全体的な (通常はリモートな) 管理権限領域を表す。
ネームサーバー	ネットワーク上のシステムに対してネームサービスを提供するサーバー
ネームサービス	ネットワーク上のシステムが互いに通信できるよう、ネットワーク上の全システムについての重要なシステム情報が収められている分散型ネットワークデータベース。ネームサービスを使用することによって、ネットワーク全域にわたるシステム情報を保守、管理、またはアクセスできる。Sun では NIS と NIS+ のネームサービスを

サポートしている。ネームサービスを使用しないと、各システムは(ローカルの /etc ファイルに) システム情報のコピーを保持しなければならない。

ネットワークインストール	ネットワーク上でソフトウェアをインストールする方法。 (CD-ROMドライブがあるシステムからCD-ROMドライブがないシステム)ネットワークインストールを行うには、「ネームサーバー」と「インストールサーバー」が必要。
ネットワークに接続されていないシステム	ネットワークに接続されていない、または他のシステムに依存しないシステム
ネットワークに接続されているシステム	ハードウェアとソフトウェアによって接続されているシステムのグループ(ホストと呼ばれる)。通信と情報の共用が可能。通常、ローカルエリアネットワーク(LAN)とも呼ばれる。システムをネットワークに接続するには、通常、1台以上のサーバーが必要。
パッケージ	ソフトウェアアプリケーションを形成する、機能的にグループ化されたファイルとディレクトリ。Solaris ソフトウェアは4つの「ソフトウェアグループ」に分類され、それぞれが「クラスタ」とパッケージで構成される。
パッチアナライザ	手動で、または Solaris 8 対話式インストールプログラムの一部として実行するスクリプトで、システムの解析を実行して、Solaris 8 Update へのアップグレードによってどのパッチが削除されるかを判断する。
ファイルサーバー	ネットワーク上のシステムに対して、ソフトウェアやファイルの記憶領域を提供するサーバー
ファイルシステム	ファイルとディレクトリの集合で、論理階層に組み立てられた場合には、組織化され構造化された情報のセットを構成する。ファイルシステムは、ユーザーのローカルシステムやリモートシステムからマウントできる。
ブートサーバー	同じサブネット上のシステムにブートサービスを提供するサーバー。インストールサーバーの存在するサブネットが、Solaris ソフトウェアをインストールする必要があるシステムと異なる場合、ネットワークを介してインストールするにはブートサーバーが必要。

フラッシュ	マスターシステムと呼ぶシステムからファイルのアーカイブを作成する Solaris インストール機能。このアーカイブを使って他のシステムのインストールを行うと、そのシステムの構成はマスターシステムと同じになる。
プラットフォームグループ	特定のソフトウェア用にベンダーが定義するハードウェアプラットフォームのグループ。たとえば i86pc や sun4c など
プラットフォーム名	uname -i コマンドによって出力される情報。たとえば Ultra 60 のプラットフォーム名は、SUNW,Ultra-60
プローブキーワード	ルールの場合のように照合条件を設定してプロファイルを実行せずに、システムに関する属性情報を抽出するための構文要素。「ルール」も参照。
プロファイル	Solaris ソフトウェアのシステムへのインストール方法 (たとえば、どのソフトウェアグループをインストールするか) を定義するテキストファイル。各ルールは、そのルールが一致したときにシステムがインストールされる方法を定義してあるプロファイルを指定する。通常はルールごとに異なるプロファイルを作成するが、複数のルールで同じプロファイルを使用することも可能。「rules ファイル」を参照。
プロファイルサーバー	すべての重要なカスタム JumpStart ファイルを JumpStart ディレクトリに持つサーバー
プロファイルフロッピーディスク	すべての重要なカスタム JumpStart ファイルを、そのルートディレクトリ (JumpStart ディレクトリ) に持つフロッピーディスク
ホスト名	システムがネットワーク上の他のシステムから識別される名前。この名前は、所定のドメイン (通常、これは 1 つの組織内にあることを意味する) 内にある全システム間で固有でなければならない。ホスト名は、文字、数字、マイナス符号 (-) を任意に組み合わせて作成できるが、先頭と末尾にマイナス符号は使用できない。
ボリュームマネージャ	CD-ROM やフロッピーディスク上のデータへのアクセスを管理および実行するための手段を提供するプログラム
マウント	mount コマンドを実行することによって、リモートまたはローカルのファイルシステムをアクセス可能にするプロセス。ファイルシ

	システムをマウントするには、ローカルシステム上のマウントポイントと、マウントするファイルシステム名 (たとえば <code>/usr</code>) が必要。
マウントポイント	システム上のディレクトリ。ローカルシステムやリモートシステムに存在するファイルシステムをマウントできる。
マスターシステム	フラッシュアーカイブを作成するシステム。このシステム構成がアーカイブに保存される。
ミニルート	起動可能な最小の Solaris ルートファイルシステム。ミニルートには、カーネルと、Solaris 環境をハードディスクにインストールするために必要な最小限のソフトウェアが含まれる。ミニルートは、初期インストールでマシンにコピーされるファイルシステム
メディアサーバー	「インストールサーバー」を参照
/ (ルート)	システムの階層型ファイルツリーの最上位にあるファイルシステム。ルートディレクトリには、カーネル、デバイスドライバ、システムの起動 (ブート) に使用されるプログラムなど、システム操作に不可欠なディレクトリやファイルが含まれている。
ルール	1 つ以上のシステム属性をプロファイルに割り当てる一連の値
ロケール	ある地域または地方に関連する特定の言語

索引

!(感嘆符) ルールフィールド 207

#

rules ファイル内の 206

プロファイル内の 211

A

add_install_client コマンド

DVD メディアによるインストールサーバーの設定 99

DVD メディアの例 103

JumpStart ディレクトリのアクセス 196

インストールサーバーの設定 116

構文 100, 116, 118

例 103, 119

add_install_client コマンドの -s オプション 270

Admintool

ソフトウェアの削除 512, 520, 526

ソフトウェアの追加 512, 520, 521

AND ルールフィールド 207

any

プローブキーワード 313

ルールキーワード 274, 312

arch プローブキーワード 312

arch ルールキーワード 274, 312

auto_install_sample ディレクトリ

check スクリプト 221, 246

JumpStart ディレクトリへファイルをコピー 200, 204

set_root_pw finish スクリプト 229, 230

ファイルを JumpStart ディレクトリへコピーする 195

B

backup_media キーワード 288

banner コマンド 122

begin.log ファイル 224

begin スクリプト

アクセス権 224

概要 223

サイト固有のインストールプログラム 239

動的プロファイルの作成 224, 225

ルールフィールド 207

begin ルールフィールド

説明 207

boot: cannot open /kernel/unix メッセージ 495

bootparams ファイル

JumpStart ディレクトリへのアクセスを有効にする 197

更新 502

boot_device キーワード 289

Bourne シェルスクリプト、ルールフィールド内の 207

C

cannot open /kernel/unix メッセージ 495

Can't boot from file/device メッセージ 495

CD-ROM ドライブ

問題の解決 500

CHANGE DEFAULT BOOT DEVICE メッセージ 504

check スクリプト

custom_probes.ok ファイルの作成 246
custom_probes ファイルの妥当性検査 246, 247
rules.ok ファイルの作成 221
rules の妥当性検査 222
rules ファイルの妥当性検査 220, 222, 247
動的プロファイル 225
ルールの検査 247
client_arch キーワード 290
client_root プロファイルキーワード 291
clock gained xxx days メッセージ 495
cluster プロファイルキーワード
例 211
Could not mount filesystem メッセージ 500
CPU (プロセッサ)
プローブキーワード 312
ルールキーワード 274, 312
.cshrc ファイル 228
custom_probes.ok ファイル
作成 246
説明 246
custom_probes ファイル
check による検証 247
check による妥当性検査 246
custom_probes の検査 247
名前の指定 243
要件 243
-c オプション
add_install_client コマンド 117, 118, 269, 270
pfinstall コマンド 219

D

dd コマンド 202
default
partitioning 305
Developer System Support ソフトウェアグループ 292
dfstab ファイル 195, 266
DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) の事前設定 58
disksize ルールキーワード
説明と値 274, 312
disks プロブキーワード
説明と値 312
domainname プロブキーワード 312

domainname ルールキーワード 275, 312
dontuse プロファイルキーワード 293, 308
-d オプション
add_install_client コマンド 117, 118

E

End User System Support ソフトウェアグループ 292
eng_profile の例 266
Entire Distribution Plus OEM Support ソフトウェアグループ 292
Entire Distribution ソフトウェアグループ 292
/etc/bootparams ファイル
JumpStart ディレクトリへのアクセスを有効にする 197, 502
/etc/dfs/dfstab ファイル 195, 266
/etc/locale ファイル 69
/etc/mnttab ファイル 199
existing
partitioning の値 305
explicit
partitioning の値 306
/export ファイルシステム 38

F

fdformat コマンド 200, 203
fdisk コマンド 235
fdisk プロファイルキーワード
説明と値 293
例 211
file just loaded does not appear to be executable メッセージ 494
filesys キーワード 297
filesys プロファイルキーワード
説明と値 296
例 211
finish.log ファイル 226
finish スクリプト
システムの root パスワードを設定する 229
パッケージとパッチの追加 227
ファイルの追加 226
ルート環境のカスタマイズ 228
ルールフィールド 208

finish ルールフィールド
説明 208
flarcreate コマンド 176
flar コマンド 179

G

geo キーワード 299
getfile: RPC failed: error 5: RPC Timed out
メッセージ 198
getfile: RPC failed: error 5: RPC Timed out
メッセージ 499

H

hostaddress プローブキーワード 312
hostaddress ルールキーワード 275, 312
hostname プローブキーワード
説明と値 312
hostname ルールキーワード
説明と値 275, 312
例 273

I

IDE インタフェース
表面検査 505
不良ブロックのマッピング 505
installed プローブキーワード
説明と値 312
installed ルールキーワード
説明と値 275, 312
install_config コマンド 197, 198
install_type キーワード 300
install_type プロファイルキーワード
プロファイルのテスト 216, 219
要件 210, 211
例 211
Internet Protocol アドレス
事前設定 58
ip: joining multicasts failed メッセージ 501
IPv6 の事前設定 58
IP アドレス
プローブキーワード 312
ルールキーワード 275, 312
IRQ レベルの事前設定 59
isa_bits キーワード 301

J

joining multicasts failed メッセージ 501
JumpStart ディレクトリ
finish スクリプトによるファイルの追
加 226, 227
rules ファイルの例 206
アクセス権 194, 199
共有 194, 266
作成 194, 198, 199, 202, 266
ファイルのコピー 195, 200, 204, 226

K

karch プローブキーワード 312
karch ルールキーワード 276, 312
Kerberos
構成情報 45
事前設定 59

L

layout_constraint キーワード 301
LBA 30
le0: No carrier - transceiver cable problem
メッセージ 494
locale.org_dir テーブルエントリの追加 71
locale キーワード 303

M

Makefile ファイル 68
marketing_profile の例 267
memsize プローブキーワード
説明と値 312
memsize ルールキーワード
説明と値 276, 312
mnttab ファイル 199
model プローブキーワード
説明と値 313
model ルールキーワード
説明と値 276, 313
mount コマンド 122
multicasts failed メッセージ 501

N

netmask の事前設定 58
network プローブキーワード

説明と値 313
network ルールキーワード
説明と値 277, 313
nistbladm コマンド 70, 71
No carrier - transceiver cable problem メッセージ 494
No network boot server メッセージ 500
Not a UFS filesystem メッセージ 496
num_clients プロファイルキーワード 304

O

osname プロブキーワード 313
osname ルールキーワード 278, 313

P

package プロファイルキーワード
説明と値 304
partitioning
fdiskパーティション 211, 293
使用しないディスク 293
プロファイルキーワード 305, 308
ルートスライスの位置 496
例 211
partitioning キーワード 305
pfinstall コマンド 215
pkgadd
ソフトウェアの追加 529
pkgrm
ソフトウェアの削除 512, 529, 530
probe ルールキーワード
説明と値 278
Product Registry
ソフトウェアの削除 514, 511
ソフトウェアの追加 514, 511
目的 514
prom_panic: Could not mount filesystem メッセージ 500
prtvtoc コマンド
IA:ディスク構成ファイルの作成 235
SPARC:ディスク構成ファイルの作成 233
-p オプション、check スクリプトの 222, 247

R

Requesting Internet address メッセージ 501
reset コマンド 122

rootdisk
filesystem のスライス値 297
JumpStart で設定される値 307
定義 307
root_device キーワード 306
root パスワード
事前設定 59
root パスワードを finish スクリプトで設定する 229
RPC failed: error 5: RPC Timed out メッセージ 198, 499
RPC Timed out メッセージ 198, 499, 502
rules
フィールドの説明 208
rules.ok ファイル
作成 220, 221
説明 220, 246
ルールの照合順序 209, 249, 254
rules ファイル
check による妥当性検査 220, 247
check を使用して検査する 268
check を使用する妥当性検査 222, 225
rules の妥当性検査 222
カスタム JumpStart の例 268
構文 206
コメント 206
作成 205
説明 205
名前 206
名前の指定 206
複数行のルール 206
ルールの追加 206
例 206
rule_keyword ルールフィールド 207
rule_value ルールフィールド 207
-r オプション、check スクリプトの 222, 247

S

setup_install_server コマンド
インストールサーバー設定 113
インストールサーバーの設定 98
説明 121
setup_install_server コマンドの -b オプション 265
set_root_pw finish スクリプト 229, 230
shareall コマンド 195, 266

- share コマンド
 - JumpStart ディレクトリの共有 266
 - 共有 JumpStart ディレクトリ 195
- size
 - fdisk パーティション 295
 - ローカルファイルシステム 297
- SI_CONFIG_DIR 変数 226
- SI_PROFILE 環境変数 225
- slices
 - filesys の値 297
 - ルールキーワード 275
- Solaris 8 DOCUMENTATION CD
 - 構成 328
- Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (Intel)
 - 構成 324, 326
- Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (SPARC)
 - 構成 320
- Solaris 8 INSTALLATION (SPARC)
 - 構成 319
- Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel)
 - 構成 329
- Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC)
 - 構成 329
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD
 - CD-ROM ドライブがないシステムでインストールする 91, 94, 107
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel)
 - マウントされたファイルシステムの表示 122
 - ローカルディスク上のイメージ 195, 204
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC)
 - マウントされたファイルシステムの表示 122
 - ローカルディスク上のイメージ 195, 200
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD
 - CD-ROM ドライブがないシステムでインストールする 91, 94, 107
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel)
 - マウントされたファイルシステムの表示 122
- Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC)
 - マウントされたファイルシステムの表示 122
- Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel)
 - 構成 326
- Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC)
 - 構成 321
- Solaris Product Registry
 - インストール済み製品の整合性の検査 518
 - インストール済み製品の表示 517
 - 製品のアンインストール 520
 - 説明 515
 - ソフトウェアのインストール 518
 - ソフトウェアの削除 514, 511
 - ソフトウェアの追加 514, 511
 - 目的 514
- Solaris Web Start
 - Kiosk 138
 - アップグレード後の修正 137
 - インストール方法 126, 130
 - グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) 124
 - コマンド行インターフェース (CUI) 124
 - 作業の概要 125, 129
 - 説明 123
 - ソフトウェアの削除 511
 - ソフトウェアの追加 513, 511
 - ほかのインストール方法との比較 33
 - フラッシュアーカイブのインストール 165
 - 要件 29, 30
- Solaris 8 インストールの準備
 - システム構成情報の事前設定 57, 58
- Solaris 8 対話式インストールプログラム
 - アップグレード後の修正 150
 - インストール方法 141, 144
 - グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) 140
 - コマンド行インターフェース (CLI) 140
 - 作業の概要 140, 143
 - フラッシュアーカイブのインストール 167
- Solaris 8 ソフトウェア
 - グループ 211, 292, 304
 - リリースまたはバージョン 275, 312
- Solaris 8 ソフトウェアのバージョン
 - installed ルールキーワード 275
- Solaris 8 ソフトウェアのリリース
 - installed プロブキーワード 312
 - installed ルールキーワード 275, 312
 - osname プロブキーワード 313
 - osname ルールキーワード 278, 313

Solaris ソフトウェア
リリースまたはバージョン 278, 313
Solaris ソフトウェアのバージョン
installed プロープキーワード 312
installed ルールキーワード 312
osname プロープキーワード 313
osname ルールキーワード 278, 313
Still trying to find a RPL server メッセージ 502
stty コマンド 43, 50, 251, 255
SUNWCall グループ 292
SUNWCprog グループ 292
SUNWCreq グループ 292
SUNWCuser グループ 292
SUNWCxall グループ 292
sysidcfg ファイル
依存型キーワードの構文 60
ガイドラインと要件 60
キーワード 61
構文規則 61
作成方法 66
非依存型キーワードの構文 60
system_type プロファイルキーワード
説明と値 308
例 211
-s オプション、add_install_client コマンド 118

T

tftpd デーモン 503
timed out RPC エラー 499, 502
Timeout waiting for ARP/RARP packet メッセージ 501
tip ライン接続とカスタム JumpStart インストール 251, 255
totaldisk プロープキーワード 313
totaldisk ルールキーワード 279, 313
transceiver cable problem メッセージ 494

U

UFS 200
Unable to install the system メッセージ 500
uname コマンド 122
Unknown client error メッセージ 493
usedisk プロファイルキーワード
説明と値 308

/usr/sbin/rpld コマンド 503

V

/var/sadm/begin.log ファイル 224
/var/sadm/finish.log ファイル 226
/var/yp/Makefile ファイル 68
/var/yp/make コマンド 70
volcheck コマンド 199, 202, 203

W

WARNING: CHANGE DEFAULT BOOT
DEVICE 504
WARNING: clock gained xxx days メッセージ 495

あ

アクセス権

JumpStart ディレクトリ 194, 199
begin スクリプト 224
finish スクリプト 226
新しい行に続ける、rules ファイル内で 206
アップグレード
Solaris Update リリースへ 76
Solaris アップデートリリースへ 27
カスタム JumpStart による 75
作業の概要 24
システム要件 28
初期インストールとの比較 26, 73
ディスク容量の再配置 75
ディスク容量の推奨 37
方法 27, 74
方法の比較 33
ローカル変更の修正 137, 150
ログファイル 128, 137, 143, 149
アップグレードインストール
アップグレードの失敗 507, 508
カスタム JumpStart インストール 249
ブートファイルの位置の変更 495
プロファイルキーワード 292, 300, 304
アップグレードの失敗
リポートの問題 507, 508
アンパサンド (&&) ルールフィールド 207

い

インストール

アップグレードとの比較 25

作業の概要 24

システム要件 28

ディスク容量の推奨 37

方法の比較 33

ログファイル 128, 137, 143, 149

インストールサーバー

DVD メディアによるネットワークインストール設定 99

Solaris 8 LANGUAGES (SPARC) をローカルディスクへコピーする 92, 109

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (Intel) をローカルディスクへコピーする 121

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (SPARC) をローカルディスクへコピーする 95, 98, 108, 113, 121

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 (Intel) をローカルディスクへコピーする 121

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 (SPARC) をローカルディスクへコピーする 108, 121

作成 91, 94, 107

サブネット上の 93, 96, 110

ネットワークインストールの設定 116

利用できるシステムタイプ 83

インストールの準備

カスタム JumpStart インストール 191

インターネットアドレス要求 501

え

エンドユーザーシステムサポート

説明 38

エンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループ

サイズ 39

か

カーネルの位置とアップグレードインストール 495

開始

check スクリプト 221, 222

開発者システムサポート

説明 38

開発者システムサポートソフトウェア

プロファイルの例 211

開発者システムサポートソフトウェアグループ

サイズ 39

カスタム JumpStart インストール 249

tip ライン接続 251, 255

いつアップグレードするか 75

オプション機能 223, 225, 230, 239

概要 189

準備 191, 222

説明 191

他のインストール方法との比較 35

ブートとインストール 249

フラッシュアーカイブのインストール 169

例 187, 189, 262, 263, 265–269, 271

画面サイズの事前設定 59

カラー深度の事前設定 59

代替のインストールプログラム 239

感嘆符 (!) ルールフィールド 207

き

キーボード言語、配置の事前設定 59

キーワード

sysidcfg ファイル 61

カスタム JumpStart 282

プローブ 242

起動

rpld デーモン 503

tftpd デーモン 503

共有

JumpStart ディレクトリ 195, 266

く

クラスタのプロファイルキーワード

説明と値 292

グラフィックスカードの事前設定 59

け

計画

インストール方法の比較 33

作業の概要 24
システム要件 28
初期インストールとアップグレードの比較 25
ディスク容量 37
ネットワークからインストール 30

検査
custom_probes ファイルの検査 247
rules ファイルの妥当性検査 220, 222, 225
プロファイル 216

検証
custom_probes ファイル 247
rules ファイル 222
プロファイル 216

こ

コアシステムサポートソフトウェア 292

構成、Solaris 8 DOCUMENTATION CD の 328
ディスク構成ファイルの作成 233

構成、Solaris 8 INSTALLATION (SPARC) の 319

構成、Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (Intel) の 324, 326

構成、Solaris 8 INSTALLATION (MULTILINGUAL) CD (SPARC) の 320

構成、Solaris 8 LANGUAGES CD (Intel) の 329

構成、Solaris 8 LANGUAGES CD (SPARC) の 329

構成、Solaris 8 SOFTWARE CD (Intel) の 326

構成、Solaris 8 SOFTWARE CD (SPARC) の 321

コピー
CD の JumpStart インストールファイル 200, 204
JumpStart ディレクトリファイル 226
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel) の JumpStart インストールファイル 195
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC) の JumpStart インストールファイル 195
Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) 202

サーバーのローカルディスクにインストールする Solaris 8 LANGUAGES (SPARC) 92, 109

サーバーのローカルディスクにインストールする Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (Intel) 121

サーバーのローカルディスクにインストールする Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (SPARC) 95, 98, 108, 121

サーバーのローカルディスクにインストールする Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 (Intel) 121

サーバーのローカルディスクにインストールする Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 (SPARC) 108, 121

サーバーのローカルディスクをインストールする Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (SPARC) 113

コメント

rules ファイル内の 206
プロファイル内の 211

さ

サーバー

DVD メディアによるネットワークインストールの設定 99

JumpStart ディレクトリの作成 194

ネットワークインストールの設定 115

ネットワークインストールの要件 83

ルート領域 291

サイズ

tip ウィンドウの大きさ 251, 255

スワップ空間 191

スワップ領域 29, 291

ハードディスク 92, 95, 108, 113, 274, 279, 291, 312, 313

メモリー 276, 312

再設定する、入出力割り込みの後にディスプレイと端末を 122

サイト固有のインストールプログラム 239

削除

クラスタ、アップグレード時の 292

ソフトウェアグループからパッケージを 304

削除、ソフトウェアの
Admintool による 512, 520, 526
Solaris Product Registry による 514, 511
pkgmgr による 512, 530
作成
DVD メディアを持つサブネット上のブートサーバー 97
JumpStart ディレクトリ 194
UFS 200
custom_probes.ok ファイル 246
/etc/locale ファイル 69
rules.ok ファイル 220, 221, 246
rules ファイル 205
sysidcfg ファイル 66
インストールサーバー 91, 94, 107
サブネット上にブートサーバーを 111
ディスク構成ファイル 233
プロファイル 210, 224, 225
ローカルファイルシステムの 297
サブネット
DVD メディアによるブートサーバー作成 97
インストールサーバーと 93, 95, 110
ブートサーバーを作成 111

し
時間帯の事前設定 59
試験
プロファイル 75
システム構成情報の事前設定
NIS+ による言語またはロケール 70
NIS による言語またはロケール 68
電源管理 71
ネームサービスによる 58, 67
方法の選択 58
利点 57
システム情報の表示 122
事前設定、システム構成情報の
sysidcfg ファイルを使用する 58
自動配置 75
出力ファイル
begin スクリプトログ 224
finish スクリプトログ 226
アップグレードログ 128, 137, 143, 149
インストールログ 128, 137, 143, 149
準備、Solaris 8 インストールの
システムをアップグレードする準備 50

準備、Solaris 8 インストールの
アップグレード前に必要な情報 51
インストール前に必要な情報 44
システムの準備 43
準備、Solaris 8 をインストールする
カスタム JumpStart インストール 222
照合
rootdisk の値 307
動的プロファイル 224
ルールでの順序 209
ルールの順序 249, 254

す

スクリプト
Bourne シェルスクリプト、ルールファイル内の 207
begin スクリプト 223, 225, 239
finish スクリプト 225, 230, 239
スタンドアロンシステム
カスタム JumpStart インストールの例 187
プロファイルの例 211
スライス
プロンプキーワード 312
プロファイルの例 211
ルートスライスの位置 496
ルールキーワード 312
スワップファイルシステム
ディスクレスクライアントのスワップ領域 291
プロファイルの例 191

せ

セキュリティ
root パスワード 229, 230
セキュリティポリシー
事前設定 59
全体ディストリビューション
説明 38
全体ディストリビューションソフトウェアグループ
サイズ 39
全体ディストリビューションと OEM サポート
説明 38

全体ディストリビューションとOEM サポート
ソフトウェアグループ
サイズ 39

そ

ソフトウェア
Solaris のインストール後に削除 511
Solaris のインストール後に追加 511
ソフトウェアグループ
アップグレード 27, 292
サイズ 39
説明 38
パッケージの指定 304
プロファイルの 292
プロファイルの例 211

た

対話式インストールプログラム
ほかのインストール方法との比較 34
妥当性検査
custom_probes ファイル 246, 247
custom_probes ファイルの妥当性検査 246
rules ファイル 220, 222, 225, 247, 269
端末タイプの事前設定 59

つ

追加
DVD メディアを使用してインストール
サーバー構成情報を 99
DVD メディアを使用してデータレスク
ライアントを 99
finish スクリプトによりパッケージとパッ
チを 227
finish スクリプトによりファイルを 226
locale.org_dir テーブルエントリ 70
rules ファイルにルールを 206
クラスタ、アップグレード時の 292
サーバー構成情報のインストール 116
ソフトウェアグループ内のパッケー
ジ 304
データレスククライアント 115
追加、ソフトウェアの
Admintool による 512, 520, 521
Solaris Product Registry による 514, 511

Solaris Web Start による 512, 511
pkgadd による 512, 529

て

ディスク構成ファイル
作成 233, 235
説明 215, 233
ディスク容量
計画 37
ソフトウェアグループの要件 39
ディスクレスククライアント
スワップ領域 291
プラットフォーム 290
ディレクトリ
JumpStart 194-196, 198-200, 204, 206,
226, 227, 266
変更 195, 200, 204, 221, 246
ディレクトリの変更
ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (Intel) のイメージ
へ 195
ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (SPARC) のイメー
ジへ 195
デーモン 503
テスト
rules ファイルの妥当性検査 269
プロファイル 215, 219
デフォルト
SI_CONFIG_DIR 変数 226
partitioning 293, 308
インストールされるソフトウェアグルー
プ 292
動的プロファイル名 225
デフォルトルート
事前構成 59
電源管理 59, 71

と

等号(=)、プロファイルフィールドの 224
動的プロファイル 224, 225
トークンリングカードでのブートエラー 501
ドメイン
プローブキーワード 312
ルールキーワード 275, 312

ドメイン名の事前設定 58

な

名前/名前の指定

rules ファイル 206
ソフトウェアグループ 292

名前/割り当て

ホスト名 118

名前の指定

custom_probes ファイル 243
システムプラットフォーム名 122
ホスト名 117

名前の割り当て

rules ファイル 206
システムのモデル名 276, 313
動的プロファイル名 225
ホスト名 275, 312

ね

ネームサーバーの事前設定 58

ネームサービス

事前設定 58

ネットワークインストール

準備 83
説明 83

ネットワークインタフェース 58

ネットワーク上のインストール

カスタム JumpStart インストール 189

ネットワーク番号 277, 313

は

ハードディスク

IDE ドライブの表面検査 505

Solaris 8 LANGUAGES (SPARC) をイン
ストールサーバーへコピーす
る 92, 109

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (SPARC) をイ
ンストールサーバーへコピー
する 95, 98, 108, 113

Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 (SPARC) をイ
ンストールサーバーへコピー
する 108

partitioning 211, 293, 305, 308

rootdisk の値 307

サイズ 92, 95, 108, 113, 274, 279, 291,
312, 313

スワップ空間 191, 211

スワップ領域 29, 291

マウント 296

パス

check スクリプト 221, 246
インストールサーバーの設定 118

パスワード、root の 229, 230

バックスラッシュ、rules ファイル内の 206
パッケージ

chroot により追加 228
finish スクリプトによる追加 227
管理ファイル 223

パッチ 51

chroot により追加 228
finish スクリプトによる追加 227

パッチアナライザ 76

ひ

日付の事前設定 59

表示

tip ライン接続とカスタム JumpStart イン
ストール 251, 255

システム情報 122

プラットフォーム名 122

マウントされたファイルシステム 122

表示解像度の事前設定 59

表面検査、IDE ドライブの 505

ふ

ファイルとファイルシステム

UFS の作成 200

begin スクリプト出力 224

finish スクリプト出力 226

コピー 195, 200, 202, 204, 226

マウントされたファイルシステムの表
示 122

リモートファイルシステムのマウン
ト 296

ローカルファイルシステムの作成 297

ファクトリ JumpStart

ほかのインストール方法との比較 36

ブートサーバー

- サブネット上で DVD メディアを使用して作成 97
- サブネット上に作成 111
- 説明 84
- ネットワークインストールの要件 84
- ブート、システムの
 - 端末とディスプレイを再設定する 122
- 複数行のルール、rules ファイル内のフラッシュ
 - flarcreate コマンド 176
 - flar コマンド 179-181
 - アーカイブセクションの説明 173
 - アーカイブを作成する方法 162
 - インストール 158, 165
 - 階層化されたアーカイブ 159
 - キーワード 174, 175, 282
 - 説明 153
 - ほかのインストール方法との比較 35
 - マスターシステム 154, 156, 162
- プラットフォーム
 - インストールサーバーの設定 117, 118
 - システム属性とプロファイルの一致 249, 254
 - システム属性とプロファイルの照合 209
 - システムのモデル名 276, 313
 - ディスクレスクライアント 290
 - 名前の決定 122
 - プローブキーワード 312
 - ルールキーワード 276, 312
- 不良ブロック 505
- プローブキーワード
 - arch 312
 - disks 312
 - domainname 312
 - hostaddress 312
 - hostname 312
 - installed 312
 - karch 312
 - memsize 312
 - model 313
 - network 313
 - osname 313
 - rootdisk 313
 - totaldisk 313
- プロセッサ
 - プローブキーワード 312
 - ルールキーワード 274, 312
- フロッピーディスク

- JumpStart ディレクトリ 197, 198
- Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) のコピー 202
- フォーマット 200, 203
- フロッピーディスクのフォーマット 200
- プロファイル
 - 検査 216
 - コメント 211
 - 作成 210
 - 試験 75
 - システムの照合 209, 249, 254
 - 説明 210
 - テスト 219
 - 動的プロファイル 224, 225
 - 名前の指定 211
 - 要件 206, 210
 - ルールフィールド 208
 - 例 211, 266, 267
- プロファイルキーワード
 - backup_media 288
 - boot_device 289
 - client_arch 290
 - client_root 291
 - client_swap 291
 - cluster 211
 - dontuse 293, 308
 - fdisk 211, 293
 - filesystem 211, 296, 297
 - geo 299
 - install_type 210, 211, 300
 - isa_bits 301
 - layout_constraint 301
 - locale 303
 - num_clients 304
 - package 304
 - partitioning 211, 293, 305, 308
 - root_device 306
 - system_type 211, 308
 - usedisk 308
 - 大文字と小文字の区別 279
 - クラスタ 292

へ

- 変更、ディレクトリの
 - JumpStart ディレクトリへ 221, 246

ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (Intel) のイメージ
へ 204
ローカルディスクの Solaris 8 SOFTWARE
1 of 2 CD (SPARC) のイメー
ジへ 200

変数

SI_CONFIG_DIR 226
SI_PROFILE 225
SYS_MEMSIZE 217

ほ

ポインティングデバイスの事前設定 59
ホスト
名前 117, 118, 275, 312
ホスト名の事前設定 58
ボリュームマネージャ
コピー 199, 202-204

ま

マイクロプロセッサ
プローブキーワード 312
ルールキーワード 274, 312
マウント
Solaris 8 LANGUAGES (SPARC) 91, 109
Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 (SPARC) 94,
107
Solaris 8 インストールによる 226
begin スクリプトの注意事項 224
マウントされたファイルシステムの表
示 122
リモートファイルシステム 296
マッピング、IDE ドライブの不良ブロック
の 505

め

メモリー
プローブキーワード 312
ルールキーワード 276, 312

も

モニタータイプの事前設定 59
問題の解決 496
一般的なインストールの問題 496, 502
間違ったサーバーからのブート 502

ゆ

ユーザーロケールの値 (表) 485

よ

要件

Solaris Web Start の使用 28, 30
custom_probes ファイル 243
スワップ領域 29
ディスク容量 37
ネットワークインストール 83
プロファイル 206, 210
メモリー 28

り

リモートファイルシステム
マウント 296

る

ルート (/) ファイルシステム
JumpStart で設定される値 307
プロファイルの例 191
ルート環境を finish スクリプトでカスタマイ
ズする 228
ルートスライスの位置 496
ルール
rootdisk 照合ルール 307
構文 206
照合順序 209, 249, 254
妥当性の検査 222, 247
動的プロファイル 224, 225
フィールドの説明 207
複数行のルール 206
例 209
ルールキーワード 273
any 274, 312
arch 274, 312
disksize 274, 312
domainname 275, 312
hostaddress 275, 312
hostname 273, 275, 312
installed 275, 312
karch 276, 312
memsize 276, 312
model 276, 313

network 277, 313
osname 278, 313
probe 278
totaldisk 279, 313

begin スクリプト出力 224
finish スクリプト出力 226
アップグレード 128, 137, 143, 149
インストール 128, 137, 143, 149
ロケールファイル 69
論理積ルールフィールド 207

ろ

ログファイル